

2012 年度文化庁委託事業報告書

東日本大震災において危機的状況が危惧される
方言の実態に関する調査研究事業(福島県)

2013 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室



2012 年度文化庁委託事業報告書

東日本大震災において危機的状況が危惧される
方言の実態に関する調査研究事業(福島県)

2013 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室

《 目 次 》

■事業概要	半沢 康・・・・・・・・・・ 1
■被災された方々および支援者の方言意識	半沢 康・・・・・・・・・・ 5
■福島県在住外国人住民の方言意識	中川祐治・・・・・・・・・・ 15
■「震災を語る方言談話資料」の試み	白岩広行・・・・・・・・・・ 26
■被災地域方言の記録－阿武隈高地・常磐線グロットグラム－	半沢 康・・・・・・・・・・ 50
[付録] 調査票	・・・・・・・・・・ 138

事業概要

半沢 康

東日本大震災は福島県にも甚大な被害をもたらした。地震と津波により、関連死を含め 3,000 人以上の尊い命が失われた。住宅の被害は全壊、半壊を合わせて約 93,000 棟(以上、福島県災害対策本部発表「平成 23 年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報第 871 報より。2013 年 2 月 18 日現在。)。JR 常磐線、国道 6 号線、東北新幹線など、県内の主要な交通網も寸断され、震災直後は多くの県民が物資不足にあえいだ。

さらに震災直後に発生した東京電力の原子力発電所事故によって、双葉郡を中心に多くの県民が避難を強いられ、その困難は現在に至るも継続中である。震災から 2 年が経とうとする中、15 万人以上の方々が県内外で今も不便な避難生活を余儀なくされている¹。

これら地震、津波および原子力災害は、多くの地域コミュニティの存立を危うくし、もともと進行していた方言衰退をさらに加速させかねない。加えて福島県では、小さな子どもへの放射線影響への不安から、子育て世代を中心に県外への人口流出が起きている。事故後 2 年が経ってようやく県外避難は鈍化し、県内への帰還も進みつつあるが、それでもなお 5 万人を超える人々が福島県外で避難生活を送っている。地域の方言を継承していくはずの若い世代の流出は、長期的には福島県方言全体の危機方言化へとつながっていくおそれなしとしない。

我々はこうした状況を踏まえ、津波、地震、原発災害の直接的な影響を受けた浜通りおよび阿武隈高地のみならず、震災の被害が比較的小さかった地域も視野に入れて、福島県方言の保存、継承のために以下に示す基礎的な調査研究を行なった。

1. 方言意識調査

地域の方言に対する人々の評価、態度や震災以降の方言使用実態等を把握することは、被災地域方言を保存、継承するための基礎的な資料として不可欠である。今回の事業では、以下のような方々を対象に方言に関する意識調査を実施した。

(1) 被災された方々

① 県内の仮設住宅または借り上げ住宅で生活されている方々

当初は被災 5 県の間で統一的な自記式質問紙調査票を作成し、計量的なデータ収集を行なうことも検討したが、被災された方々の多くがすでに多数の調査を依頼され、かなりのご負担になっていることを考慮し、インタビューを通じて地元の方言に対する意識を汲み取るという方法をとった。

質問項目などインタビューの基本的なフォーマットについては、青森、岩手、宮城、茨城の各事業者

¹ さらに 2011 年 7 月には、東日本大震災の影響が比較的軽微だった奥会津地方を集中豪雨が襲い、只見川が氾濫。只見町を中心に大きな被害が生じた。水害によって鉄橋が流出した JR 只見線は、会津川口駅-只見駅の間でいまだに復旧の目処が立っていない。2011 年は福島県にとって災厄の連続する困難な年であった。

と合同で検討し、一定の共通性を確保したが、具体的な実施形態等は各県に委ねられた。福島県では後述する「方言談話資料収集」の中で、可能な範囲で方言意識についても尋ねることとした。

②県外の借り上げ住宅等で生活されている方々

福島県外へ避難されている方々についても①と同様に方言に対する意識調査を行った。福島県は、県西南端の檜枝岐村を除いて大局的には各地共通の方言基盤を有しており、県内避難の場合は(地域による共通語化の進度の異なり等は想定されとしても)避難先において方言環境が大きく変わるという事態は生じにくい。一方、県外へ避難された方々は異なる方言との接触を強いられることになるため、県内避難の方々とは異なる方言意識が生じることも考えられる。

福島県方言との差異が大きく、かつメディア等への露出が少ない(避難された方々にとって耳慣れない)方言を話す地域である大分県へ避難された方々を対象とした意識調査を実施した。大分県庁の協力を得て、ごく簡便な自記式調査票を大分県への全避難者へ送付し、あわせてインタビュー調査への協力をお願いした。5名の方が協力を申し出てくださり、そのうち2名の方からお話をうかがうことができた。

③外国人住民の方々

福島県内には当然ながら外国人住民の方々も多数暮らしている。この方々も各地域の主要な構成員であり、各地の文化・方言継承の一翼を担っている。また外国人住民の方々については、被災、避難時の情報提供に関する言語的なハンディキャップの問題も指摘されている。今回の事業ではこうした方々の言語生活、言語意識にも目を向け、その実態を把握するための調査を行った。

調査は①と共通の調査票を用いてインタビュー調査を行った。

(2)被災自治体の職員の方々

行政が方言継承に向けてどのような施策を講じているかについて、いくつかの被災自治体担当者へもインタビュー調査を行った。有形文化財や民俗芸能等については比較的早い時期から保存、救出への取り組みなどが報道されているが、方言の保存、継承については未着手の自治体が多いようである。

被災自治体中、飯舘村、浪江町、富岡町、葛尾村の4町村から協力をいただいた。

(3)支援者の方々

今回の震災では東北地方の広い地域が被災したため、支援に入った医療関係者やボランティアが地域の方言を理解できず、支援活動に支障が生じたという問題が伝えられている。東北大学や国立国語研究所ではこうした問題の解決に向けて被災地の方言理解のためのパンフレット等を作成している。

今回の事業では、福島県内での支援活動に関わった方々を対象に、方言によるコミュニケーションギャップの問題や、上記パンフレットの有用性などについての調査を実施した。

2.県内各地方言の談話資料収集

被災、避難地域の方言の記録、保存を目的として、当該地域の方々の方言談話資料を収集した。県内各地の仮設住宅等を訪問、避難をされている方々に依頼して震災時の様子、避難の状況など今回の経験を自由に語ってもらい、方言自然談話を録音させていただいた。自然談話資料を収集できたのは以下の

自治体である。インフォーマントは自治体からの紹介のほか、適宜仮設住宅を訪問したり、個人的な伝手を介したりして協力をいただいた。避難勧奨地点の存在する伊達市や、自主避難者の多い福島市方言についても収集の対象としている²。

相馬市、南相馬市(小高区)、浪江町(含津島地区)、富岡町、葛尾村、福島市、伊達市

3.被災地方言の既収集データの整理および保存作業

本事業の実施責任者はこれまでに福島県内各地で方言調査を行っている。これまでに方言調査にうかがったことのある被災、避難地域は以下の通りである。

[常磐線グロットグラム調査]

(第1次)³

調査自治体:新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、檜葉町、広野町、いわき市(他に宮城県亘理町、山元町、茨城県北茨城市、高萩市、日立市も調査)

実施年：1995-2000 年

(第2次)

調査自治体:新地町、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町(他に宮城県山元町も調査)

実施年：2010 年

[阿武隈高地グロットグラム調査]

調査自治体:飯舘村、浪江町津島地区、葛尾村、田村市都路町、川内村

実施年：2008-2009 年

[南相馬市小高区調査]⁴

調査自治体:南相馬市小高区

実施年：2006-2009 年

[川俣町山木屋地区調査]⁵

調査自治体:川俣町山木屋地区

実施年：2010 年

これらの調査ではいずれもインフォーマントの方言音声をすべて録音し、テープを保管している。およそ 20 年前に双葉郡各地で行なった調査データなども含まれており、被災地域方言の貴重なデータベースとなりうるものである。

データは未公開のものも多く、また音声データは DAT(一部アナログカセットテープ)に録音されているため、いずれ機器の入手が困難となって再生ができなくなってしまうおそれがある。そこでこれらの

² 県南部のいわき市周辺の自治体の調査は茨城県の事業として実施した。

³ 加藤正信他編 2004『関東・東北境界域言語地図 | 常磐線・磐越東線グロットグラム』科研費報告書

⁴ 半沢康編 2010『福島県南相馬市小高区における方言の実時間調査報告』科研費報告書

⁵ 菅野理恵 2011「福島県達南地域の方言の研究:「方言と共通語」教材の授業での活用を目標にして」『言文』59

方言音声を恒久的に保存するべくデータの電子化作業を行ない、データベースを作成した。

本事業の実施体制は以下の通りである。

責任者

半沢康(福島大学人間発達文化学類・教授)

副責任者

中川祐治(福島大学人間発達文化学類・准教授)

分担者

本多真史(福島大学人間発達文化学類・研究員(プロジェクト))

白岩広行(大阪大学大学院文学研究科・助教)

協力者

小林初夫(福島県南相馬市立上真野小学校・教諭)

被災された方々および支援者の方言意識

半沢 康

「事業概要」で述べたとおり、本事業では被災された方々および支援者の方々を対象に方言に関する意識調査を各種実施した。

ここではその中から(1)②「県外の借り上げ住宅等で生活されている方々」、(2)「被災自治体の職員の方々」、(3)「支援者の方々」を対象とした意識調査の結果を報告する。③「外国籍住民の方々」の調査結果については別稿に譲る。また(1)①「県内の仮設住宅または借り上げ住宅で生活されている方々」の調査結果は方言談話資料収集と同時に行なっているため、今後談話資料の文字化作業を進めたうえで別途報告する。

1 (1)②「県外の借り上げ住宅等で生活されている方々」に対する調査結果

調査は2013年1月から2月にかけて実施した。大分県被災者受入対策室および福祉保健部地域福祉推進室の全面的なバックアップを受け、大分県内へ避難されている方々(調査票配布時点で183名)へ自記式調査票を送付した⁶。2月初旬までに26名の方から回答をいただいております、ここではそのうち、福島県内出身者22名の方の回答について集計結果を提示する。

1.1 避難生活における方言の問題

避難生活の中で方言に関してなんらかの問題が生じたという回答が少数ながら見られた(A01)。具体的には以下のような事例が回答されている。

- ・自分はなるべく標準語を使うようにすることが大変でした。
- ・会社で(福島方言を)他の人にまねされたことがある。
- ・知らない人に話がしづらい。
- ・数字が間違って伝わる(1が7と聞こえてしまう)。
- ・ふつうに話したことが通じない。馬鹿にされた。

他県への避難によって福島方言の使用自体が減少した人の半数がそうした状況をストレスと感じている(A02-2)。

⁶ 調査に際しては福祉保健部地域福祉推進室地域福祉班後藤素子様にごさまざまにご高配を賜った。また株式会社大分放送中川裕之様にもインフォーマント紹介等に関してお力添えをいただいた。あらためて厚く感謝申し上げます。

A01. 避難生活の中で、言葉や方言のことでなにか困ったり、嫌な思いをしたりといったことはありませんでしたか。

	度数	有効%	累積%
あった	4	18	18
なかった	18	82	100
合計	22	100	

A02. 避難生活の中で、ご家族と福島の方をお話する機会は、震災前とくらべてどうなりましたか。

	度数	有効%	累積%
減った	10	50	50
変わらない	10	50	100
増えた	0	0	100
合計	20	100	

A02-2. (A02-1またはA02-2で「01.減った」という方にうかがいます)そのような状況についてどのようにお感じでしょうか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	度数	有効%
さびしい思いがする	3	30
ストレスを感じている	5	50
残念な気がする	4	40
よいことだと思う	1	10
特に感じない	3	30
その他	1	10
	10	

1.2 方言エールへの評価

方言を用いたスローガン、エール等に対しては好意的な意見が多い(B01)。その他の回答として

- ・懐かしさ
- ・福島へ帰りたくなる
- ・福島の方言を聞くと東北のことを思い出す。今がどうなっているのか気になる時がある。

との声があり、方言を通じて望郷の思いを感じている方がいらっしゃる。その一方で

- ・なんとなく恥ずかしい

という意見も見られた。

B01. 震災後、「負けねど！飯舘」「がんばっぺいわき」などのように福島県内各地の方言を使ったかけ声が聞かれました。こうした方言によるかけ声についてはどのようにお感じになりますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	度数	有効%
親しみがもてる	14	64
励まされる	8	36
馬鹿にされた気がした	0	0
特に感じない	5	23
その他	5	23
	22	

1.3 方言への態度

福島方言そのものへの態度も概して好意的である(C01)。若い世代に方言を継承して欲しいとの声も多い(C03)。調査法が異なるため、単純な比較はできないが、仮設住宅等で県内避難の方々にうかがった場合に比して方言継承を望む声が多い。あるいはふるさとを離れ、方言の異なる地域で生活を送っておられることがこうした継承を希望する態度に影響しているとも考えられようか。

C01. 福島の方言に愛着を感じますか。

	度数	有効%	累積%
愛着を感じる	20	100	100
愛着を感じない	0	0	0
どちらともいえない	0	0	0
合計	20	100	

C02. 私たちは、ふるさととのつながりを考える上で「方言」は大変重要なものと考えています。今後、被災地の方言が失われることのないよう、国の機関である文化庁は保存、継承への取組みを支援したいと考えています。こうした取組みについてはどう思いますか。

	度数	有効%	累積%
必要だと思う	18	95	95
必要だとは思わない	0	0	95
分からない	1	5	100
合計	19	100	

C03. ご自分の子どもさんやお孫さんに、福島の方言を受け継いでほしいと思いますか。

	度数	有効%	累積%
受け継いでほしい	14	78	78
受け継いでほしいとは思わない	0	0	78
どちらともいえない	4	22	100
合計	18	100	

1.4 フェイス項目

回答を寄せてくださったのは 30 代以上の方で若年層からの回答はなかった。出身地、震災前の居住地とも警戒区域もしくは計画的避難区域の方が多い。

F01. 年齢と性別を教えてください。

	度数	有効%	累積%
30代	4	18	18
40代	5	23	41
50代	6	27	68
60代以上	5	23	91
不明	2	9	100
合計	22	100	

F01. 年齢と性別を教えてください。

	度数	有効%	累積%
女性	12	55	55
男性	10	45	100
合計	22	100	

F02. 出身地（生まれてから中学卒業までの間にもっとも長く住んだところ）はどちらですか。

	度数	有効%	累積%
いわき市	5	23	23
南相馬市	1	5	27
鹿島町	3	14	41
小高町	1	5	45
広野町	1	5	50
檜葉町	3	14	64
富岡町	2	9	73
双葉町	2	9	82
浪江町	3	14	95
飯舘村	1	5	100
合計	22	100	

F03. 震災前はどちらにお住まいでしたか。

	度数	有効%	累積%
いわき市	3	14	14
南相馬市	1	5	18
鹿島町	3	14	32
広野町	1	5	36
檜葉町	2	9	45
富岡町	3	14	59
大熊町	2	9	68
双葉町	2	9	77
浪江町	2	9	86
飯舘村	2	9	95
大分市	1	5	100
合計	22	100	

2. (2)「被災自治体の職員の方々」の方言に対する意識および自治体の取組み

自治体の文化財等を担当されている職員の調査については、協力くださった自治体の担当者からお話をうかがうことができた。インタビューの観点は「方言保存、継承」「方言による県外避難者への心的支援」「支援者と住民の方々の方言摩擦」「地元方言への態度」「方言エール、スローガンの評価」といったもので、前3項目は主に自治体としての取組み、後2項目は被災自治体の住民としての立場でご意見を伺っている。調査は2012年11月から12月にかけて行なった。

以下インタビューの際の観点に即して、順不同で各自治体の声を紹介する。

2.1 方言保存、継承

[自治体 A]

- ・地元の無形文化財については県の予算等を活用し、継承に取り組んでいる。方言については行っていない。自治体史には方言が記載されているが録音等は行っていない。
- ・住民が避難することで方言という文化の基盤がなくなってしまうという恐れを感じることは特にない。
- ・行政区ごとにまとまって仮設住宅に入っているので避難生活で方言が話せなくなるという懸念もない。

[自治体 B]

- ・方言については教育委員会で冊子を作成している。他に地域や個人で資料を作成しているところもある。
- ・冊子の作成に際して高年層の方々からお話を聴き、その様子を録画している。
- ・辞めた職員もいる中で、避難住民対応のほかに一般業務もあり、とても人手が足りない。方言に関

する住民ニーズがあるのか疑問。方言集を作っても特に活用されない。

- ・方言を完全になくすというのは寂しいので、どこかで残しておくべきとは思いますが、それを感じている人は個人で対応しているし、方言がなくなるということはないような気もする。
- ・方言の問題があることに気づかなかった。祖父母と別々に生活することによって言葉が失われるというのは当然だ。原発事故があったからこそ逆に方言の問題に気づくかもしれない。

[自治体 C]

- ・文化財は半分弱ぐらい運び出している。次年度どうするかは周辺自治体と相談中。無形文化財にも対応している。
- ・方言については自治体史とともに、執筆時の録音テープもすべて持ち出している。昭和 60 年ごろの調査の録音テープが保存されている。
- ・民俗文化財や方言についても、資料として散逸しないようにすることが肝要。「人のつながりというものがあった」という証拠になるものなので、散逸させないことが行政の一つの役割だと思う。
- ・現在録音テープも含めて県の施設のプレハブに保存することになっているが、恒久的に保存するような施設をつくらないと散逸を防ぐことはできない。双葉郡の文化財を集約して保管できるような施設が必要である。

[自治体 D]

- ・文化財保護を担当しながら自問自答している。文化財保護も必要だが個人個人の生活再建のほうが優先度は高いだろうと思う。

2.2 方言に関する避難者支援

[自治体 A]

- ・県外避難者が方言で苦労しているという声も特に届いてはいない。
- ・方言があるから話ができないといったことは多分ない。自分の言っていることが相手にどう伝わっているかという心配はあるだろう。

[自治体 B]

- ・生活支援員が仮設住宅を回ってサポートをしているが、方言に関する声は聞いていない。県外避難者のところには回っていない。
- ・地区ごとに仮設住宅へ避難しているので、仮設も含めて方言に関しての問題はないだろう。
- ・県外避難の方は比較的年齢も若い方が多いので方言で困る方はそういないと思われる。
- ・方言を聞けば懐かしさもあり、ずっと標準語で話されるよりは気持ちも伝わり、安心感もある。方言でなければだめだということはないだろうが。
- ・「方言で話したい」というより「知っている方と顔を見てしゃべりたい」ということだと思う。その中で方言が自然に出てくるということだろう。

[自治体 C]

- ・同じコミュニティにいた人が皆で集まれるという場が今はなくなっているので、避難先になじめない人がいるのは確かだと思う。お葬式に行って身近だった人たちが集まると(不謹慎だが)すごく安心するという声なども聞く。

- ・以前であれば日常だったものが、なかなか今はそのとおりにいかないところが大変である。避難時期や人口規模の関係で仮設の入居も地区ごとにはまとまっていない。

[自治体 D]

- ・交流会担当の部署へ、遠方へ避難した方から「もともとの言葉でしゃべれてよかった」という声があった。
- ・年齢が高いほどずっと地元に住んでいたという方も多いただろうし、ふるさとから切り離されたということをどうフォローしていくかが問題。どこから手をつけていいのかわからないという面もあるが。
- ・去年から交流会事業を行なっている。避難先である程度人数がまとまって集まりを持つ団体へ補助金を出している。

2.3 支援者と住民の方々の方言摩擦

[自治体 A]

- ・行政支援に入った関東の方が、方言の理解に苦しむときがあるらしい。周囲で解説をする。むしろ笑いや雰囲気づくりにつながってよい。
- ・医療支援については方言摩擦の問題なかった。

[自治体 C]

- ・方言摩擦の問題は生じなかったようだ。埼玉の避難所も担当したが、そこでも大丈夫だった。

[自治体 D]

- ・方言よりも発音、なまりの点で若干問題があった。西のほうから応援に来た方が電話していると通じにくいことがあった。遠方からの支援者の問い合わせでも同様の事例があったようだ。
- ・医療に関してはもともと自治体に関わっていた先生が中心だったので問題はなかった。

2.4 地元方言への態度

[自治体 A]

- ・方言は好き。残していきたいし、みんなにも知ってほしいというのもあり、広報のひとこまに方言を活用した経験もある。

[自治体 B]

- ・公民館業務でも方言を使う機会が減ってきた。住民の方がなかなか来られないので、職員同士の会話が多くなってしまっている。
- ・以前と変わってしまうのはストレスではある。対住民として仕事をしていたのに、どこと仕事しているんだろうという感じ。

[自治体 C]

- ・方言は好き。愛着がある。

2.5 方言エール、スローガンの評価

[自治体 A]

- ・自治体の茶封筒にも方言エールを活用している。
- ・あったかみ，なじみがある。
- ・異方言のエールにも違和感はない。

[自治体 C]

- ・異方言のエールは見たことがない。外から応援されているような感じがする。背中を押されるような感じ。

[自治体 D]

- ・いろんな方言があるのは見ていて楽しい。遠方の方言の例は見えていないが，全国からの支援が感じられる。

3. (3)「支援者の方々」の方言意識

東日本大震災の支援に関わった方々の方言意識について，福島県ではボランティア活動に従事した学生を対象として自記式質問紙調査を行った⁷。2012 年 10 月から 12 月にかけて，ボランティア経験のある学生に調査票を配布，回収した⁸。

3.1 支援活動中の会話

被災された方々との会話について，中高年層の方との接触が多い。しかしながら方言によるコミュニケーションギャップを経験した学生は多くはない(A02)。後に示すように，回答学生の 6 割以上が県内出身者であることも影響するものであろう。

A01. これまでの支援活動中，被災・避難された方と会話をする機会はありましたか。

	度数	有効%	累積%
あった	72	94	94
なかった	5	6	100
合計	77	100	

A02. 会話の中で，相手の方の方言が分からなくて困ったり，戸惑ったりしたことはありましたか。

	度数	有効%	累積%
あった	21	27	27
なかった	56	73	100
合計	77	100	

3.2 方言パンフレット等の評価

支援者向けの方言パンフレットについては，一般的な有用性は認めつつも(C01)，実際の支援活動では必ずしも必要性は感じられていないようだ(C02)。学生の出身県によってクロス集計を行なってみると，むしろ福島県以外の出身者で「自分の活動には不要」との回答が多くなる。

⁷ 他に，一般社会人の方にも若干調査を行っている。

⁸ 学生調査に関しては半沢のゼミ生でもある安達隆裕君(福島大学人間発達文化学類 4 年)，白井瑞穂さん(同 3 年)の協力を得た。両名とも自身が支援活動に積極的に関わっている。

C01. 東日本大震災の被災地へ支援に来たボランティアや医療関係者等のために、被災地の方言を簡単に説明した下図のようなパンフレットが作られています。被災地の支援活動を行う上で、こうしたパンフレットは必要なものだと思いますか。

	度数	有効%	累積%
必要だ	47	64	64
必要ではない	8	11	75
どちらともいえない	18	25	100
合計	73	100	

C03. これからも東日本大震災で被災された方々の支援活動が続けていく予定ですか。

	度数	有効%	累積%
続ける予定だ	54	73	73
続ける予定はない	1	1	74
分からない	19	26	100
合計	74	100	

C02. あなた自身の支援活動にとっては、こうした方言のパンフレットは必要だったでしょうか。

	度数	有効%	累積%
必要だった	14	19	19
必要ではなかった	38	53	72
どちらともいえない	20	28	100
合計	72	100	

C03-2. (C03で「01.続ける予定だ」と答えた方にうかがいます) 今後支援活動続けるにあたって、ある程度は被災地域の方言を学んだほうがよいと思いますか。

	度数	有効%	累積%
学んだほうがよい	32	59	59
学ぶ必要はない	14	26	85
分からない	8	15	100
合計	54	100	

3.3 方言への態度

方言に対しては概して好意的であり、方言の保護、継承についても 80%弱の学生が必要性を認識している(D03)。

D01. あなたは福島県の方言が好きですか。

	度数	有効%	累積%
好き	53	72	72
嫌い	2	3	74
どちらともいえない	19	26	100
合計	74	100	

D02. (福島県以外出身の方にうかがいます) あなたは自分の地元の方言が好きですか。

	度数	有効%	累積%
好き	18	75	75
嫌い	1	4	79
どちらともいえない	5	21	100
合計	24	100	

D03. 津波被害や原発避難のために地域コミュニティが消滅し、その地域の方言も同時に消えてしまうのではないかと懸念があります。こうした被災地の方言を保護し、継承していくべきだという意見をどう思いますか。

	度数	有効%	累積%
保護, 継承すべきだ	57	77	77
保護, 継承する必要はない	3	4	81
どちらともいえない	14	19	100
合計	74	100	

3.4 フェイス項目

対象としたのは主に福島県内の大学、短大、専門学校の学生である。70%弱が福島県内の出身者であった。

F01. 現在通っている大学・短期大学・専門学校名と学部・学類・学科などの名称を教えてください。

	度数	有効%
福島大学	12	16
郡山女子大学	2	3
いわき明星大学	18	23
桜の聖母学院短大	16	21
福島介護福祉専門学校	11	14
郡山健康科学専門学校	13	17
立命館大学	4	5
未記入	1	1
合計	77	100

F02. 学年と性別を教えてください。

	度数	有効%
1年生	21	27
2年生	26	34
3年生	26	34
4年生	3	4
未記入	1	1
合計	77	100

F02. 学年と性別を教えてください。

	度数	有効%
女性	58	75
男性	17	22
未記入	2	3
合計	77	100

F03. 出身地(生まれてから高校卒業までの間にもっとも長く住んだところ)はどちらですか。市町村名まで教えてください。

	度数	有効%
未記入	1	1
青森県	2	3
岩手県	4	5
宮城県	4	5
秋田県	4	5
山形県	2	3
福島県	51	66
栃木県	1	1
群馬県	1	1
新潟県	1	1
長野県	1	1
静岡県	1	1
滋賀県	1	1
大阪府	2	3
徳島県	1	1
合計	77	100

福島県在住外国人住民の方言意識

中川 祐治

1 福島県の国際化の現状

福島県の外国人登録者数は、2011年12月末時点で9,544人を数える⁹。2011年3月11日に発生した東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故等の影響により、外国人登録者数は前年に比べ1,545人の減少となっている。しかし、減少の傾向は震災以前の時点から既に始まっており、2008年末の12,870人をピークに毎年千人前後の減少が続いている。また、県人口に対する外国人登録者数の割合は0.48%であり、全国平均の1.63%を大きく下回り、いわゆる外国人散在地域であるといえる。

また、国際結婚に目を転じると、夫外国人・妻日本人の割合が11.6%であるのに対して、夫日本人・妻外国人の割合が88.4%と極めて高く、いわゆる外国人花嫁が多いという地域の特徴を有する。このことは、性別年齢別構成にもあらわれており、20～40代女性が非常に多くなっている。また、在留資格の面からみても、「永住者(34%)」と「日本人の配偶者等(16%)」の両方で半数を占めることから、日本人男性と結婚し、定住から永住へという流れを認めることができよう。反対に、「特別永住者(11%)」「留学(4%)」「研修(2%)」「興行(1%)」といった、地域によっては顕著な特徴をみせる在留資格者の割合は少ないのが福島県の特徴である。

2 調査の方法

以上のような現状をふまえ、今回は外国人住民(必ずしも現在、外国籍であることを問わない。帰化した人を含む)のうち、いわゆる外国人花嫁といわれる女性を対象に、特に方言意識を中心に聞き取り調査を行った。聞き取りは対面式のインタビュー形式で行い、半構造的面接法を用いた(項目については別紙を参照)。調査期間は2012年10月から2013年2月まで、調査対象者は以下の5名である。

- A : 40代女性・二本松市在住・中国出身
- B : 30代女性・福島市在住(浪江町より避難)・中国出身
- C : 50代女性・福島市在住・ブラジル出身
- D : 40代女性・福島市在住・フィリピン出身
- E : 40代女性・福島市在住・韓国出身

インタビューは録音を行い、逐語起こしを行った上で、言いよどみ(フィラー)や沈黙等を除き、会話の内容面を中心に談話例として抽出した。

3 調査の概要

以上のような調査にもとづき収集した談話例について、ここでは、内容(テーマ、トピック)ごとに談話例を整理し掲げる。総じて、外国人住民は、共通語を使いたいという意識がつよく、方言に対してマ

⁹ 福島県生活環境部国際課(2012)『福島県の国際化の現状』による。以下のデータも同じ。

イナスイメージを持っていることが多い。ここでは、象徴的な事例として、AさんとBさんの談話例を中心に掲げることとする。

3.1 方言一般に対する意識

【談話例1】(*は調査者。以下同じ)

*：中国でご家族の方と話すときと、例えば中国の同級生とか学校で話すときって言葉づかいって変えるんですか。方言というか、もともとの。あんまり変えないですか。

A：変えないです。

*：こちらで中国の方と、全然出身地が他の中国の人とかと話すときは、できるだけ北京語に近い、共通語に近いふうに話そうとかがあっていうのはありますか。

A：私、実家に帰っても普通に標準語で、うちのほうのなまりではあまりでてない。学校でもう先生に矯正されて、大体はなまってない。でも、よその県の人、省の人から聞くと、あっ、やっぱり東北ってわかるけども。

*：矯正って学校で矯正？

A：学校で直されるんですよ。中国語でピンインの勉強しますね。で、第一声、二声、三声、四声で、その音のとおりで発音しますから、で、うちの地域では三声が多いから。で、学校で…。

*：小学校で結構厳しくやるんですか。

A：そうです。

*：じゃあ、みんな大体小学生ぐらいで直っちゃうというか、矯正する…。

A：直る人と直らない人の、もう勉強はまあ、その辺に置いてるっていう子もいるじゃないですか。

*：ああ、そうか。じゃあ、直らない人はずっと直らない。

A：そうです。

*：なるほど。じゃあ、ある年齢より上の方は、小学校でそういう教育を受けてないから、ずっとなまだったまま。

A：そうですね。今からすると、70代ぐらいの人、うちの親ぐらいの年代の人かな。かなりなまっています。

*：若い人はもうほとんどきれいな共通語に近い音が出せる。

A：はい。

*：出せない人もいるけど、それは、どうでしたか。小学校のときはあまりわからないでしょうけど、そういう矯正されることとかというのは嫌だとか、きれいなほうをしゃべりたいとかがあって。

A：まあ、普通にそれ勉強だと思って、あまり違和感を感じなかったんですね。

*：今にして振り返ってみたらどうですか。いいことだなと思いますか。

A：今なら、うん、いいことだとは思いますが。だって、昔、その地域内にいるとあまり関係ないかもしれないけど、あと、昔のままだと関係ないと思いますが、今、インターネットとかやりますよね、パソコンとかって。発音が正しくないと字が出てこないから、日本語と一緒に。

【談話例 2】

＊：なるほど。お子さんって結構方言，覚えてますか。

B：いや，私がもう覚えなくてって，私からも言うので，言わないんです。

＊：じゃあ，ご主人さんは，Bさんと話すときは話さないし，お子さんとご主人さんが話すときというのは…。

B：うちの多分4人全部そういうのは言わないです。

＊：そうですか。

B：だから，ばあちゃんがよく，なんかこう来て，こう，方言とかで普通にしゃべるんですけど，だからうちの旦那が，もう子どもの前でそんな話さないで，とかって言って。

＊：じゃあ，家族の方針で，もう決めてるという感じですかね。

B：うん，なんか。なんか自然にそんなふうになってるんですよね。

3.2 福島方言に対する意識

【談話例 3】

＊：普段，東北方言とか福島の方言に対してどんなイメージ持っていますか。

A：田舎くさい。

＊：田舎くさい。それ，最初から思っていましたか，来たときから。

A：最初はもうわからなくて。

＊：わからないですよ。

A：だんだんと日本語分かってきてからそう思いますね。だって，もうかなり日本語話せるようになってからも，だって学校で習うというところ，「行く」って，「行きます」とかって言って，急にある日，お義母さんが「行くべ」っていうことを言って，初めて聞いたとき，「行くべ」って，「行くべ」って何だ，行くのか行かないのかって，その「べ」がわからなかったんですよ。行くのか行かなかったのかわからなくて，でも，お母さん，「行くべ」と同時に動くじゃない。ああ，じゃあ，行くんだと思って。

＊：「行くよ」ぐらいならなって。

A：そうです。やっとわかったのに，突然，「行くべした」って，何だよと思っちゃって。

＊：なるほど。

A：それ，すごく困る。急に変わるし。

＊：より上級の。

A：そう。

＊：その田舎くさいというのは，どこらあたりからそう思いましたんですか。どこらあたりからというのは変ですけど。

A：それもどこらあたりというのがわからなくて，ある日，突然，何だ，この人たち，田舎くさいと思っちゃうんですね。

＊：へえ。大阪の言葉とか九州の言葉とかと比べても田舎くさいという感じですか。

A：そうですね。あと，多分，一番違和感感じたのが，違和感感じたというか，不愉快な思いしたんで

すよ。

＊：不愉快な？

A：うん。中国に行ったときに、飛行機に乗って、なんかあの日のスチュワーデスさんが、中国の飛行機会社だから日本語話せなくて、隣に日本のおじさんが座ってたんですよ。そのおじさんが、スチュワーデスさんが言ったことわからなくて、どんな弁当頼むか、何飲み物飲むかわからなかったんで、こっちもこっちも困ってて、通訳して。で、終わったでしょう。用が済んでからおじさんから何言われたと思う？

＊：わからない。

A：福島から来たでしょうって言われたんです。それがすごいショックだったんですよ。

【談話例 4】

＊：福島方言、好きか嫌いというので。

A：好き、嫌いっていうのが、どっちかという嫌い。

＊：嫌い？

A：うん。

＊：あまり聞きたくもない？

A：そこまでじゃないけど、ただね、どうして嫌いかっていうと、自分が絶対影響されますね。標準語で話しても、そのイントネーションで、なまりで東北からってわかって。

＊：ああ、さっきのあの福島の方ですか。

A：それ、福島から出た後の不愉快な思いが嫌だから嫌いっていうかな。別に発音が嫌いだとか、話し方嫌いだとかじゃなくて…。

＊：それが影響される。

＊：自分がそれ、影響受けてから、自分が不愉快な思いする。

【談話例 5】

＊：さっきの話ですけど、福島の浪江の方言というのは好きですか、それとも嫌いですか、それとも好きとか嫌いじゃないですか。

B：嫌いでもないですね。

＊：愛着は感じますか。

B：はい。

＊：ちょっと話すのが自分で恥ずかしいと。

B：はい、ちょっと言えないんですけど。

＊：お子さんに浪江の方言を覚えて、そのまま子どもの子どもとかというふうにつないでいてほしいとかという気持ちはありますか。

B：そういう気持ちはあまりないです。多分、自然に覚えれば別に構わないですけど、でも、子どもたちもわかってるんですよ、言ってることは。ばあちゃんがいつも言ってるから。でも、言えない、言わないだけで。でも、そこまでこう、浪江の言葉、ずっと自分の先祖代々とか続いていてねとか

て、そこまではしないかもしれないですね。

3.3 方言使用とアイデンティティ

【談話例 6】

A：一歩うち出たらば、気をつけて話してるんですけども、お母さんとお話するときにはなるべくでてる、わからないのはしょうがないけど、わかる方言だったら方言で話してる。なんか親しみが感じる。

＊：ああ、そうですか。

A：うん。まだこうやってあらたまってしゃべると親しくないっていうか。

＊：へえ。じゃあ、むしろお母さんとかと話すときは積極的に使ってるんですか。

A：使ってますね。

＊：へえ。じゃあ、意外と使い分けはできる？

A：まあ、気を使わないときぽろっと出てくる、出てきますよ。

＊：それは練習したというよりは、やっぱりお母さんとか…。

A：自然に覚えたものだけで、別に特に覚えなきゃならないとかっていう気持ちじゃなくて、自然にお母さんとお話ししながら身についたものをだけお母さんに対してはそういう返し方でって感じですね。

【談話例 7】

＊：方言はどうですか。ふるさとのつながりとかというのの一つ。

A：ふるさとと…。

＊：大切だと思いますか。方言というのでみんながつながるというの、言葉って…。

A：大切っては思っていないんです。

＊：思わない？

A：だんだんとね、なくなるんだったらなくなってもいいって思うんです。

＊：それはハルピンも同じ考えですか。あそこの東北部の方言というのをいつまでも残したいとか。

A：別に残さなくてもいいと思う。その国、その国、一つの言葉にまとめられるんだったらそれが一番ベストじゃないですか。

＊：ああ。あんまりそこの人たちのまとまりの象徴みたいので言葉とか方言とかという、アイデンティティのためにとかというの。

A：そんなもん必要ですか。私の感覚ではもう別にいいっていう感じ。

＊：懐かしいとかはないですか、帰ったときに。ハルピンの言葉を聞いて、懐かしいな。

A：懐かしい…、あんまり言葉って懐かしいって思わないですね。物が見たりとか人見たりとか、うん、思ったりするけど、言葉聞いたら、うん。私って冷たいなとかって。

＊：いや、わからない。そうですか。でも、結構合理的な考え方ですよ。

A：だな。例えば、うん、ずっと会ってない人に会ったら懐かしいとか、建物とかって、そんな感情はわいてきますね。言葉ってあまり感じなかったんですね。

＊：へえ。ああ、この言葉を聞いて久しぶり、懐かしいなとかというの…。

A：ない。

＊：じゃあ、そんなに愛着とかというのないんですね。

A：ないですね。やっぱりある人はあるんだ。

＊：ある人はあるのかな。

A：わからない。私、冷たいかな。

＊：じゃあ、二本松市の今の福島方言もそんなに愛着はないですか。

A：うん、あまりね。なければないで便利と思ってるんです。

＊：みんなが共通語を話してくれたほうが便利だなんて。

A：そう思います。

【談話例 8】

＊：これまで、方言に関して普段、日常的に使っているということはありませんか、意識して。

B：私は方言とかはあんまり使わないですね。

＊：全然使わない？

B：はい。

＊：そうですか。そうでしたか。あまり普段から使っている意識というのがない？

B：ただ、でも、聞いてるとわかるんですけど、でも、自分からなんか言おうとはしてないし。

＊：聞いたらわかりますか。

B：わかりますね。

＊：それはどこで覚えたというか。

B：なんか日本に来たばかりのとき、津島だったんですよ。津島って、すごい方言とかいっぱい使ってるんですよ。ばあちゃんたちが結構、方言とか使うんですよ。でも、うちのだんなが、なんか、ばあちゃんの話は覚えちゃだめだよとかって言われて、それを覚えちゃうとなんか辞書とかで調べると出てこなかったりとかすると困るから、だから、もう自分で辞書見て、あとテレビとか、そういう標準語だけ覚えてねとかって言われて、そんなふうになったんですけど。

＊：じゃあ、ご主人さんはあまり方言は使わないですか。

B：私とはあんまり使わないんですよ。

＊：だんなさんと話すときは使わない。

B：はい。ほかのご家族と話すときは普通にこう話すんですけど、私とだけはなるべく、なんかこう標準語で言うようにしてて。

【談話例 9】

B：よくおじいちゃん、おばちゃんとか、お茶飲みに来てるんですけど、なんかこう、すごくなんか方言で話して、「なんだべ」とかっていう、なんかそういうような感じで。

＊：そういうときはもう全然わからないものなんですか、何となくわかる？

B：うん、わかる、何となく。今は全然わかるんですけど。

＊：ああ、わかる？

B：わかります、はい。

＊：結構はげしい方言の話でもわかる？

B：結構、はい。でも、すんごく不思議なんですよ、どこからその方言が出てきたのかって。

＊：へえ。でも、話せないものなんですか、自分で。

B：でも、なんか恥ずかしくて言えないですよ。

＊：ああ、恥ずかしくて言えない。しゃべろうと思ったら。

B：うん、しゃべろうと思ったら多分言えると思うんですけど、ちょっとふざけたりなんかすると言え
るんですけど、でも、こう、普通の話の中で、なんかちょっと恥ずかしくて言えないんですよ。

＊：恥ずかしい？

B：はい。何ていうのかな、なんかすごく田舎弁みたいな、そういう気持ちなのかな。

3.4 震災と方言

【談話例 10】

＊：じゃあ、特に本当に震災の関係で言葉で困ったとかというのはないですか。

A：なかったと…。

＊：方言とか。

A：うん、震災ではなかったんですね。

＊：方言にかかわらず、日本語でもこれが通じなかったから困ったとか、例えば、原発とか放射能とか
というのも、普段ほとんどそれまでは全く、私もそういうの使うような言葉じゃ…。

A：でも、結局うちは漢字の国だったから、もう字見て大体、あっ、こういうことだっちはわかったけ
ど、結局、わからないのが、放射能で出てきたいろんな元素、名前が。

＊：ああ、シーベルトとか。

A：そうそう。それがもう全部片仮名でしょう。片仮名が弱くて、なかなか覚えられなくて、急に新し
いことがどーんといっぱい出てきたじゃないですか。もう何が何だか訳わからなくなったのはそっち
のほうですね。

＊：私なんか全然、セシウムとか、今まで使ったこともないし、聞いたこともないね。

A：ですよ。その測る単位も急に変わったりもするじゃん、テレビで報道したから。

＊：そうですね。

A：え、何でこれ、大きいのか小さいのかわからなくなって、そっちのほうに困ってたんです。

【談話例 11】

＊：その避難所に一緒にいる方と話すときというのは、方言で話すわけですか、それともそのときの言
葉は…。

B：でも、向こう、なんか避難したとき、結構こう浪江のちょっとお年寄りの方が結構いたんですよ。
でも、その方はみんなこう方言で話してるんですけど、でも、私が聞くとき方言で聞いて、返すとき
はこう普通に。

＊：じゃあ、聞くのはわかるわけですか。

B：大丈夫です。

＊：じゃあ、特に困ったということはないですか。避難所の生活とかで方言で困ったとか。

B：困ったことはないですね。

＊：言葉で困ったということはないですか。

B：はい。

＊：で、Bさんが標準語で話しても、相手の方はわかるんですか、お年寄りの方。

B：わかります、はい。

＊：わかるんですね。じゃあ、そういう形で、聞くのは方言で聞いて、話すのは標準語という感じだったんですね。

B：自分で方言、言えないんですね、何だか。

【談話例 12】

＊：さっきちょっと方言の話もですけれども、お祭りもそうなんですけど、ふるさととか地域を結ぶという意味でこういうお祭りとかというのはありますけど、方言というのがやっぱりこうありますかね、地域を結ぶとか。

B：でも、なんか、何ていうのかな、これ、今みんな今避難してばらばらじゃないですか。それってどこかにあって、ああ、私も浪江だって、たまにこう浪江の話ってすると、なんかすごくなんか落ち着いたりとかするんじゃないかなって思うんですよ。

＊：Bさんもありますか、同じ浪江の人と、方言話さないんですけど。

B：方言じゃなくても、なんか浪江の人だ、同じ浪江の人だっていうだけでも、すんごくなんかこう、何ていうのかな、すごくお互いに頑張ろうねとかって、その話にもなったりとかするし、なんか懐かしいって、そういう、前いた子どもたちの下の子のなんか、震災前は2年生だったんですけど、下の子が、1回、猪苗代のほうに集まったんですよ。でも、集まって、本当にみんなばらばらで、1年半ぶりに会ったんですよ。だからみんな、会った瞬間にみんな泣くんですよ。何で泣くのかって、わかんないんですけど、すんごくなんかこう、久しぶりで懐かしいとか、そういうのでみんな泣いてるんですよ、もう、そのとき。だからもう同じ浪江だとかって、その気持ちだけでもすごくこう助かるんじゃないかなと思うんですよ。あと、その、自分がいつも話してた言葉、今までは他のところにいて、ちょっと我慢してたんですけど、浪江の方言で2人で話したりとかすると、なんかすごく楽になったりとかはするんじゃないかなと思うんですよ。私も最初こう日本に来て、日本語あんまりわかんなかったんじゃないですか。で、それで、たまになんかこう、同じ中国の人と話して、中国語で話しすると、ああ、すごく楽になったって、今までのストレスがぱっとなくなったって、別にストレスっていうか、どんなストレスとかっていうとわかんないんですけど、ただ、ただなんかこう、自分が言いたいこと言えなくて、そういう我慢とかっていうのもあるんですよ。私とその言葉を聞いたんですけど、意味はわかってるんですけど、その言葉に対して返す言葉を自分で言えないのがすんごくストレスになったりとかはするんですよ。だから、それで同じ中国人として、なんか行ったり来たりする会はあって、それですごく助かったんですよ、私は、もうストレス解消になったりとかして。

＊：やっぱりちょっと遠慮するというのはあるのかもしれないですね。

B：そうですね。

＊：浪江から、それこそ荒井に移ったとして。

B：はい。例えば福島はまだちょっといいかもしれないけど、例えば浪江から東京のほうに行ったとかというと、多分、まだ今もいろんなあるんじゃないですか。なんかこう、向こうの放射能がついてるとかって、なんかいじめ問題とかってあるんじゃないですか。そういう面を考えたりとかすると、なんか浪江の田舎弁をちょっと我慢する人も多いと思うんですよね。その中でなんかみんな、今もたまにあるんですけど、どこでみんなで会いましょうとかって、そういうの、イベントとかあるんですよ。例えば東京だったらどこでみんな浪江の人、集まろうとかって、そういうイベントあって、仲間、浪江の人たちでみんな集まって、方言でしゃべったりとかすると、すごくなんかストレス解消になるんじゃないかなって思うんですよね。

3.5 方言を使ったエールについて

【談話例 13】

＊：こんなのが、これ、見たことありますよね、「がんばっぺ福島」みたいな。

A：あるある。

＊：こういう、今もうどこにでも貼ってますよね。

A：はい。

＊：こういうスローガンみたいな、エールみたいなのお店とかいろんな所にあるんですけど、こういうのって見ててどんな気持ちになりますか。

A：別にいいじゃない？あんまり違和感を感じない。

＊：親しみは感じますか。

A：感じる。

＊：どちらでもない？

A：やっぱり親しみ感じる。

＊：方言でやったほうがいいと？

A：そうですね。こんなものが、例えばね、東京にあったらおかしいかもしれないけど、福島にこんなスローガン掛けられて、全然普通って思う。

＊：ああ、むしろいいかなって感じですかね。

A：はい。

＊：石巻とかですけどね。こういう共通語のやつもあるんですよ。「がんばろう」みたいな、「がんばっぺ」じゃなくて「がんばろう」みたいな。

A：逆に、あっちのほうがいいって感じします、私は。

＊：共通語よりはあっちのほうが。

A：ですね。

【談話例 14】

＊：こういうのってご覧になったことはありますか。よく町とかに書いてある，方言で応援するって。

B：はい。

＊：「がんばっぺ福島」とかというの。

B：はい。

＊：こういうものってご覧になってどうですか。なんかこう，親しみがあるとか。

B：はい，そういうの，すごく感じますね。

＊：はあ。これは特に恥ずかしいとかというのはいないですか。

B：恥ずかしくはないです，そういうのって。

＊：これは別にそんなに，もっとこういうのって親しみが，元気が出る感じですか。

B：はい。

＊：これ，共通語のやつもあるのって，ご存じですか。共通語のやつもあるんですよ。

B：へえ。

＊：いろんな県があるんですけどね。こういうのとかは共通語ですかね。この「がんばろう」みたいになると。

B：はい。

＊：どちらがいいとかってありますか。「がんばっぺ福島」と，この「がんばろう」…。

B：なんか自分は福島にずっと住んでたから，なんか「がんばっぺ」のほうがすんごくなんか，何ていうのかな，他人じゃないような気がするんですよ。

＊：ほう。じゃあ，むしろがんばろうって，これは，いつもは共通語のほうを B さんはお好きなんだけども，この応援するやつは方言のほうが。

B：はい。こっちのほうが私は，「がんばっぺ」とかが好きかもしれないですね。なんかこう，他人じゃなくて，本当に仲間みたいな，そういうのを感じちゃうんですよ。

4 まとめ

一般的に，外国人住民は共通語志向がつよく，方言に対してマイナスイメージを持っていることが多い。そのことは，上掲の実際の談話例からもうかがい知ることができる。それは，外国語として日本語を後天的に習得し，日常的にコミュニケーション上の障害を抱えていることに起因するのであろう。

その一方で，福島県住民として長く地域コミュニティの中で暮らしているうちに，地域，生活の場としての福島県に対して愛情を抱くようになっていくことが分かる。皮肉なことに，そのことは東日本大震災という未曾有の災害によって意識化されている。中でも B さんは，福島第一原子力発電所の事故による避難地域となった浪江町に居住しており，津波と原発事故によりコミュニティが分断され，人々のつながりも分断された。B さんは，自身が中国出身者として言葉によるストレスを感じた経験を子どもに重ね合わせ，「自分がいつも話してた言葉，今までは他のところでいて，ちょっと我慢してたんですけど，浪江の方言で 2 人で話したりとかすると，なんかすごく楽になったりとかはするんじゃないかなと思うんですよ」と語る。

今回の大震災を通して，外国人，日本人を問わず，自分たちの言葉(方言)という，あまりに当たり前

で空気のような存在が損なわれるということの意味の大きさを突きつけられた。そして、否応なくその重みを意識せざるをえない状況となった。このことは、長い時間をかけて私たちが考え続けていかなければならない大きな課題であり、これを解決することが地域コミュニティの復興のためにも必要不可欠である。

「震災を語る方言談話資料」の試み¹⁰

白岩 広行

1 はじめに

本発表は、完成された研究を提示するものではなく、発表者の考えている「試み」をパイロット的な段階で提示し、広く意見を仰ぐことを目的とする。以下、この試みの目的、方法、現段階で得られたものを示し、発表で訴えたいことをまとめる。ポスター発表を通じていただいた意見をもとに、今後の方針を考えることにしたい。

2 目的

この試みは、震災を話題にした方言談話資料の収集を目的とする(具体的には4節で挙げるような資料)。このような談話資料は以下の2点で価値を持つと考える。

(1)言語資料としての価値：その地域の方言の言語的特徴を見る資料としての価値

(2)震災記録という価値：震災被害について話す「生の声」を語り口のままとどめた記録としての価値
以下、この2点について説明する。

(1)言語資料として

東北地方の方言は急速に標準語化が進み、特に高年層の方言は消滅の危機に瀕している。これら高年層方言の記述、あるいは世代ごとの変化の記述はひとつの大きな課題だが、記述にあたって重要な談話資料は、多くの地域でまだ十分な整備がなされておらず、収集の余地が大いに残されている。例えば、記述言語学においては7時間程度の談話資料の整備が目標とされることが多いようだが、それだけの談話資料が整備された地点は少ない。「談話資料がもっとたくさん欲しい」という問題意識は、方言記述をおこなう研究者なら、誰しも抱くところではないだろうか。とりわけ高年層の「昔ながらの方言」は次第に失われつつあり、談話資料を整備するための時間的猶予はかぎられていることを自覚する必要がある。また、中～若年層方言についても、豊富な談話資料があれば、記述の大きな助けになることは言うまでもない。

(2)震災の記録として

先の震災から1年あまりが経過した。この間、震災の記録として、個人の体験談が様々な形で収集され、次々と出版されている。例えば、赤坂憲雄編(2012)『鎮魂と再生 東日本大震災・東北からの声 100』(藤原書店)、金菱清編(2012)『3・11 慟哭の記録 71人が体感した大津波・原発・巨大地震』(新曜社)、とうしんろく(東北大学震災体験記録プロジェクト)編(2012)『聞き書き震災体験 東北大学90人が語る3・11』(新泉社)、武田悦江(2012)『福島県民23人の声 3.11大震災と原発を乗り越えて』(歴史春秋社)

¹⁰本稿は、日本方言研究会第94回研究発表会(2012年5月18日、於千葉大学)におけるポスター発表の資料をもとにしている。最初の5頁は発表原稿集に記載の内容、続いて会場で掲示したポスターの内容、最後に会場で配布した談話資料と談話収集の際のインフォーマントの承諾書の例を示す。ただし、書式は報告書全体の方針にあわせている。

などの書籍が、今年に入って立て続けに刊行されている。

これらは、震災を経験した人々の「声」や「証言」をまとめたもので、震災時に何が起こったか、あるいは、現在どんな被害が続いているかを知るための貴重な手がかりとなっている。今後、震災被害を後世に伝えるためにも、重要な資料になると思われる。しかし、これらの記録は、編著者らの手が加わった「聞き書き」や各人の「手記」という形をとっている。つまり、ある程度書きことば的に編集しなおされたものであり、体験談として読みやすくまとまってはいるものの、一人一人の語りをそのまま文字に起こしたものではない。

また、語りを記録するという観点では、オーラルヒストリーとしての記録がありうる。管見のかぎり、今回の震災についてまとめられたものはないが、阪神大震災については「公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」が震災を語るオーラルヒストリーデータの収集に取り組み、その一部を『オーラルヒストリーの記録に基づく災害時対応の教訓の活用化報告書』(2007 年度報告書、同法人発行)として公開している。このようなオーラルヒストリーとしての記録は、話者の語りをほぼ忠実に文字化したものであり、前掲の「聞き書き」や「手記」にくらべ、より「生の声」に近い資料といえそうである。ただし、多くの場合、取材側のインタビュアーは話者にとって「研究機関から来た誰か＝他人」であり、「インタビュアー／インタビュイー」という決まった構造の中で会話が展開されることになる。

これらの取り組みがあることをふまえたうえで、方言研究者が震災記録という面で貢献できることはないか考えたい。

方言研究者がかねてから収集を心がけている「談話資料」とは、多くの場合近しい者どうしによるもので、「普段どおりのうちとけた談話」を録音し、そのまま文字に起こしたものである。語りをそのまま文字化するという点では「聞き書き」や「手記」より実際の語りに近く、近しい人どうしの自然な語らいを目指すという点ではオーラルヒストリーのような構造化されたインタビューよりも日常の語りに近い。読みやすさという点では「聞き書き」や「手記」に及ばず、聞きたいことをコントロールするという点ではオーラルヒストリー的な手法に及ばないが、より日常に近い語りを生のまま伝えるという点では、方言の談話資料も震災の記録として価値を持ちうるのではないだろうか。例えば、発表者がパイロット的に採集した談話を 4 節に挙げるが、談話をそのまま文字に起こしているぶん、震災(原発)被害についての、ある種の生々しさが表れているように思われる。このような記録は、「自然談話」であることを目指す方言研究の手法によってこそ引き出せるのではないかと考える。

発表者は「語りを記録する」という研究の分野には明るくなく、不勉強との誹りをまぬがれえないが、より日常に近い「生の声」を切り取るというのは、方言研究者の目指してきたところである。震災を話題にした談話資料の収集は、「方言研究者ができること」のひとつではないだろうか。

以上、2 つの点からこの試みの目的について述べた。「震災を語る方言談話資料」は、一面では言語資料として、もう一面では「生の声」そのままの震災記録として、方言研究分野の内外で価値を持ちうると思う。もっとも、発表者は震災記録に関する諸々の取り組みを十分に把握しているわけではない。関連諸分野の取り組みについて情報があればぜひお教えいただきたいし、この目的意識そのものの是非についても、発表を通して多方面からご意見をいただきたい。

3 方法

「震災を話題にする」というテーマを設け、それ以外は通常の談話収録の手法にしたがって録音するのが適切と考える。話題については、例えば、以下のようなリストを事前に渡せば、関連した話を引き出しやすくなる。

会話の話題リスト

次のようなことを話題にして、普段どおりにおしゃべりしてください。

- 地震が起きたとき、どこで何をしていたか
 - 地震が起きたあと、最初に何をしたか
 - 地震が起きたあとの数日間で、困ったことは何か
 - 家族や友達とどのように連絡をとったか
 - 今はどんなことに困っているか
- ……などなど

また、収録の対象は、特別に甚大な被害を受けた人々にかぎる必要はないと考える。そのような被災者のなかには「まだ何も語りたくない」「思い出したくない」という人も多いであろうし、すでに報道等によって被害の実態が広く知られている。一方、見過ごされがちだが、特に深刻とされないような体験談も、震災を多面的に記録するうえでは必要である。例えば、2節で挙げたとうしんろく編(2012)は東北大学関係者の体験談を集めたものだが、沿岸部にくらべれば被害の少ない東北大学にあっても、様々な混乱があったことが読み取れる。聞きやすい相手から聞いてゆくというのもひとつの方法だろう。

このような考えから、発表者は、まずは自身の家族や友人など話を聞きやすい相手から談話の収集を始めたいと考えている。地域としては、自らの出身地であり、方言記述の対象にもしている福島県県北地域を中心に考えている。

4 現段階で得られたもの

この取り組みは、談話資料という一次データを収集することが目的であるため、「分析」や「結論」は、そもそも存在しない。代わりに、現段階で得られたデータの一部を以下のとおり示す。話者はいずれも発表者自身の家族であり、福島県県北地域で生育している(紙数の都合上、細かな成育歴は省く)。

B：発表者の父方の祖母(1929年生・農家：福島県伊達市生え抜き)

Y：発表者の父(1951年生・銀行員：18歳まで伊達市で生育、その後福島県内転々)

R：発表者(1982年生・大学助教：18歳まで主に福島市で生育、その後大阪府)

【原発被害であんぽ柿が干せない話】

R：アンポダノ コノヘンワ モー ホサナイ？

《あんぽ柿とか、この辺では、もう干さない？》

B：アンポワ ダレモー (Y：ダサンニンダ) ダサンニガッタンダ。 ダレモ ムカネー。 ミナー トッテハー…

《あんぽ柿は、誰も(Y：出せないんだ)出せなかったんだ。誰も【皮を】むかない。みんな、とって、

もう…》

Y：ステルシカ ナインダヨナ。

《捨てるしかないんだよな。》

B：ウン。 シタサ オドシッタ。 アドー ドコサカ カタヅケタ ヒト アッカ ナンダカ。

《うん。下に落としていた。あと、どこかに片づけた人がいるかどうか。》

【B の出荷した農作物に東京電力から賠償金が出た話】

B：トーデンデ 「ゼニ ダシタ」 ツツー ツーチダ。 コイツ。 コレナ。

《東電で「金を出した」という通知だ。こいつ。これな。》

R：ナンボ ケラッチャノ？

《いくらもらったの？》

B：コイズー サンビャグジュエエンダナ。

《こいつは、310 円だな。》

【福島の特産物が売れない話】

Y：シテ アノー ミセニ ＊＊＊＊＊＊ユーノモ ハゴデ センエンナンテ スゴク ヤスクテ

(R：ウン) カワネンダ。(R：ウン) ＊＊＊

《そして、あの一、店に＊＊＊＊＊というのも、箱で1000 円なんて、すごく安くて(R：うん)買わないんだ。(R：うん)＊＊＊＊。》

B：ホレ フグシマケンノガナツツート カワネンダ。

《ほら、福島県のものっていうと買わないんだ。》

(中略)

Y：マエワ ニセンハッピークエン＊＊ サンゼンゴヒャクエン＊＊ ヤズ スグ ナグナッチャッ
タンダ＊＊ ＊＊＊ ウレネンダ。

《前は2800 円＊＊，3500 円＊＊やつ、すぐなくなっちゃったんだ。＊＊＊＊＊売れないんだ。》

(2012 年1 月2 日，B の自宅にて収録)

現段階では、上のような家族内での談話を約10 分×2 本で計20 分ほど文字化しているが、例えば格助詞のサ(例：東京 {ニ／サ} 行く)，準体表現のガナ(例：もっと大きい {ノ／ガナ} が欲しい)などは一定数の使用が見られる。十分な量が整えば、そのような種々の文法項目について相応の記述ができるであろう。また、音質によるが、子音有声化や中舌母音的特徴など、音声面の分析にも役立てうる。

そのような言語資料としての価値のほか、震災の記録としても、上記の語りの内容は「生の声」そのものの資料という価値を持つのではないかと考える。

5 発表でうったえたいこと

「はじめに」であらかじめ述べたように、この「試み」は、まだ構想を経てパイロット的な取り組み

を始めたばかりの段階にある。今回のポスター発表では、現段階で得られたものを提示しながら、この試みの意義について広く意見を求め、今後の方針を考えるとともに、方言研究者が震災記録の面でどう貢献できるか話を交わしたい。また、方言研究分野の内外における同様の取り組みについて、もし情報があればご教示いただきたい。

くわえて、もし共感していただける研究者がいれば、力をお貸しいただきたいと考える。発表者一人で集められるのは福島県県北地方の談話がせいぜいだが、より多くの力が集まれば、広く震災の影響を受けた地域の談話が収集でき、言語資料としても、震災の記録としても、大きな価値を持つのではないかと考える。

「震災を語る方言談話資料」の試み

白岩広行 (大阪大学)

なぜ方言を記述するか？

例1) 上昇イントネーションの命令 (福島方言)

「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市) → 「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市) → 「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市)

ほら、飲め、

ほら、飲め、

よかつたら、飲め、
嫌だつたら残してもいいけどな。

下降調イントネーション：聞き手への配慮なし
上昇調イントネーション：聞き手に押しつけない配慮

例2) 形容詞の～テイル (福島方言)

「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市) → 「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市) → 「お前さん、早く帰れ」 (福島県いわき市)

おとなしい

おとなしくしている

形容詞の～テイル＝一時的な状態を表す

広行は焦まれつき「おとなしい」／「おとなしくしている」。

今日は先生がいるから「おとなしい」／「おとなしくしている」。

一時的なこと！

今はお金も家もなくしているけど、
そのうちいいこともあんだから
しばらくがんばれ、

押しつけない励まし！

方言がわかれば、
福島の人たちが
よりよくなる！

方言記述に何が必要か？

言語記述の3点セット……

辞書

すでに充実している！
「なまめい」や「なまめい」など、
「なまめい」や「なまめい」など、

文法書

白岩が少しずつ書きます！

談話資料
(会話例)

もっとたくさん集めたいなあ

言語資料としての
談話資料の重要性！

「震災を語る方言談話資料」 ……というアイデア！

地震のことなどを話題に
いつもどおりに話しているところを
録音させてください。

震災はどう記録されている？

マスコミの記録……

- 記事としてインパクトのある事例に偏りがち
- スタッフによる編集が入る
- 原発事故発生時に福島には来なかった(怒！)

マスコミの恣意性に大きく左右される

種々の「聞き書き」「手記」……

松田 隆子「震災2012」聞き書き 東京大学出版会 2012年3月
「震災2012」聞き書き 東京大学出版会 2012年3月

聞き書き:取材者が話の内容をまとめたもの

手記:本人が体験を書きとめたもの

すごく意味のある内容！

だが……語りのままではない(書きことば)

オーラルヒストリーとしての記録……

「オーラルヒストリー」聞き書き 東京大学出版会 2012年3月
「オーラルヒストリー」聞き書き 東京大学出版会 2012年3月

オーラルヒストリー:

口述された内容を取材者が文字化して記録

やはり意味のある内容！

だが……取材者はあくまで「外の人」になりがち

方言研究者としての発想……

親しい人間どうしの自然な談話を

語り口のまま文字化すれば

別の角度からの記録にならないか？

① 言語資料として / ② 震災記録として
2面的な価値を持つのでは！？

どうやって記録を作る？

対象)ごくごく一般の人々

……特別ひどい被害を受けた「被災者」以外も

なるべく自然な談話として語る
(自然談話のリアル)

話題)話題表を作ってみる

- 地震のとき何をしていたか
- どこに避難したか …… などなど地震の話
- 昨日は何をして過ごしたか
- 今日の晩ごはんは？ …… 最近の日常の話

……いろんな日常の話が混じってもいいと思う

家族でこんな談話がとれました！

→ 別ポスター参照

みなさんはいかが？

談話【01】

【収録場所】OBの自宅(茶の間)

【収録日時】2012年1月2日 13:50-13:55

【談話参加者】

OB：1929年福島県保原町(現伊達市)生まれ。女性

(居住歴)0-81歳(現在)：保原町

OY：1951年福島県保原町生まれ。男性。

(居住歴)0-18歳：保原町，18-25歳：郡山市，25-28歳：保原町，28-36歳：福島市，
36-38歳：保原町，38-43歳：郡山市，43-45歳：白河市，45-48歳：福島市，
48-53歳：富岡町，53-56歳：相馬市，56-60歳(現在)：郡山市

OR：1982年福島県保原町生まれ。男性。

(居住歴)0-5歳：福島市，5-7歳：保原町，7-12歳：郡山市，12-14歳：白河市，
14-18歳：福島市，18-29歳(現在)：大阪府豊中市

OT：1985年福島県保原町生まれ。男性。

(居住歴)0-2歳：福島市，2-4歳：保原町，4-9歳：郡山市，9-11歳：白河市，
11-18歳：福島市，18-23歳：東京都世田谷区，23-26歳(現在)：東京都豊島区

【談話参加者どうしの関係】

ORとOTは兄弟。OYはその父親。OBはOYの母でOR・OTから見て父方の祖母にあたる。

【文字化記号】

() あいづちなど，重ねて発せられた発話

* 聞き取り不能な箇所

【 】 文脈などの補足

談話の書き起こし	標準語訳
OR：アンボダノ コノヘンワ モー ホサナイ？	OR：あんぼ柿とか，この辺は，もう干さないの？
OB：アンボワ ダレモー (OY：ダサンニンダ) ダサンニガッタナダ。 ダレモ ムカネー。 ミ ナー トッテハー…	OB：あんぼ柿は誰も(OY：出せないんだ)出せな かった。誰も【柿の皮を】剥かない。みんな，【柿 を】取って，もう…
OY：ステルシカ ナインダヨナ。	OY：捨てるしかないんだよな。
OB：ウン。 シタサ オドシッタ。 アドー ド コサカ カタヅケタ ヒト アッカ ナンダ カ。 「人名(親戚)」アンチャンラ ゼニ モラ ッタガ ナンダガナー。	OB：うん。下に落としてた。あと，どこかに片付 けたひとがあるかどうか。「人名(親戚)」兄さん たち，お金をもらったかどうかかなー。
OY：カギ ムガンニクテ アンボガキノ カギ ムグンデナクッテ アノー キー	OY：柿を剥けなくて，あんぼ柿の柿を剥くんじゃ なくって，あの一，木
OT：ウン。	OT：うん。

<p>OB：トーデンデー バイショーチン ナンボー ハラッタガナー。</p> <p>OY：キノ カワ…</p> <p>OR：マダ デナインデショ？</p> <p>OB：ン？</p> <p>OR：マダ デナインデショ？</p> <p>OY：デナインダハー。</p> <p>OB：デタカ ナンダカ。 オラワ モラウ ホー デネーガラ ワガンネンダ。</p> <p>OY：** マーダ デネーンジャネーガ。 バイ ショーキン セーキュー ヤッテル ウジノ サンヨンパーセントシカ マダ ハラッテネッ テ ユッタベ。(OB：フーン) (OT：ウン) キ ノ カワ ムイデンダ。 アノー カギノ キ ノ。</p> <p>OB：ライネン ダサレルヨーニッテ。</p> <p>OY：キノ カワ ムイデ ステデー ソシテ ホ ーシャセン スコシデモ オドシテ ヤンネー ド。 ライネンマデ**。</p> <p>OB：「人名(親戚)」アンチャンラ タイヘンダー。 *** トッテ ミナ トル** ネガッタベ ナー。 ウランニンダガラ。 ミナー ヒトッ ツモ ナラセデ オガネー。 トリー… トン ネード ライネン ナンネーガンナ。 コレ *** イジバンクライ タガインダ コレ ***。 ****。 *****。</p> <p>OR：ドナクライ チガウノ？</p> <p>OB：ン？</p> <p>OR：「地名(今いる集落)」トー ソノ…</p> <p>OB：ンー ホーシャノーガ？ (OR：ウン) コレ ココサ カガッテツツオ。 コレ。 コレ コ ノ イロワ レーテンゴーガラ イチテンレー ダ*。(OY：*****)コレ コイズワ サ ンテンゴダモノ。 コノ コノ イロワハー (OT：ウン) サンテンゴ。 オラホワ レーテ ンゴーガラ イチテンレー。</p>	<p>OB：東電で賠償金をいくら払ったかなー。</p> <p>OY：木の皮…</p> <p>OR：まだ出ないんでしょ？</p> <p>OB：ん？</p> <p>OR：まだ出ないんでしょ？</p> <p>OY：出ないんだ、もう。</p> <p>OB：出たかどうか。私はもらうほうじゃない【す でに農業はリタイアしている】から、わからな いんだ。</p> <p>OY：**まだ出ないんじゃないか。賠償金，請求 しているうちの3，4パーセントしか，まだ払っ てないっていったろ。(OB：ふーん)(OT：うん) 木の皮を剥いてるんだ。あの一，柿の木。</p> <p>OB：来年出せる【出荷できる】ようにって。</p> <p>OY：木の皮を剥いて捨てて，そして放射線を少し でも落としてやらないと。来年まで**。</p> <p>OB：「人名(親戚)」兄さんたちは大変だ。***と って，みんなとる**なかっただろうなー。売 れないんだから。みんな，ひとつも【実を】な らせておかない。取り…取らないと。来年，【実 が】ならないからな。これ，***【放射線量 が】一番くらいに高いんだ。これ***。 ** *****。</p> <p>OR：どのくらい違うの？</p> <p>OB：ん？</p> <p>OR：「地名(今いる集落)」と，その一…</p> <p>OB：んー，放射能か？(OR：うん)これ，ここに書 かれてるぞ。これ。【色つきの放射線量地図を出 して】これ，この色は0.5から1.0【μ Sv/h】だ *。これ，こいつは3.5だもの。この，この色は， もう，3.5。うちは0.5から1.0。</p>
--	--

<p>OY: アド オンナジ バシヨデモ タドエバ コ ノ 「地名(今いる集落)」デモ 【雑音で聞き取 れず】 シバノ ウエダドガ アド アマミズ ノ タマツトゴトガナー (OT: ウン) ソーユ ー トゴ タガインダ。 ウジノ ナカダッテ ー ニガイト イッカイデワ チガウンダシ。 ** チガウ。 テンジョーノ アダリト シ タノ ホー。 オレ イッカイ ホーシャセン ハガル ヤツ モツテキテ ウチン ナカ ハ カッタнда**</p> <p>OR: ドコデ モツテ… ドコカラ チョータツシ テキタノ?</p> <p>OY: 「会社名(勤めている会社)」ニ アンダ (OR: フーン)** * * * * *</p> <p>OB: オラエサ ササギ ダシタガンノ ゼニ ア ノー 「ハイッタ」ッテ ツーチ チタンダゲ ンチョモ ハイッタカ ナンダガ ミネー ンダ。 ツーチョー。 ミナデー イジマンチカ ク {笑い} ホントワ ハイッテンダガ ナン ダガ。</p> <p>OY: ツーチガ キタラ ハイッテ* * * * *</p> <p>OB: ウン。{間} ササゲモ カネ モラッタндаゲ ンチョモ フクロサ イッチェ ダシタンダ。 チャッコイ フグロ。</p> <p>OR: ン? ササゲ ツクッテモラッテンノ? ダ レガニ。</p> <p>OB: ウウン。 ホンネ。 オレ ツグッタндаヨ。</p> <p>OR: ワガデ ツクッタノ?</p> <p>OB: ウン ホシテ ノーチョーサ ダシタンダ。 ノーチョー ホゴダベ? ホンジャガラ チガ イカラ。 コレ コイツガ コレ 「ハイッタ」 ッツー ツ ツーチ。 ホントニ ハイッタン ダガ ナンダガ。</p> <p>OR: デ ソノ ササゲダノサー (OB: ウン) ツ クッタ ヤズワー ケンサダノ スンダ ヤッ パシ。</p>	<p>OY: あと、同じ場所でも、例えばこの「地名(今い る集落)」でも、【雑音で聞き取れず】芝の上だと か、あと、雨水の溜まる所とかな、そうい うところは【放射線量が】高いんだ。家の中だ って二階と一階では違うんだし。**違う。天 井のあたりと下のほう。俺、一回放射線を測る やつを持って来て家の中を測ったんだ**</p> <p>OR: どこで持って… どこから【機械を】調達し てきたの?</p> <p>OY: 「会社名(勤めている会社)」にあるんだ。(OR: ふーん)** * * * * *</p> <p>OB: 私の家にささげ【豆の一種】を出した【出荷 した】ぶんのお金が、あの一、「【口座に】入っ た」って通知が来たんだけど、入ったかどう だか【私は】見ていないんだ。通帳を。全部で1 万【円】近く。{笑い} 本当は入ってるんだかど うだか。</p> <p>OY: 通知が来たら入って**</p> <p>OB: うん。{間} ささげもお金【賠償金】をもらっ たんだけど。袋に入れて出したんだ。小さい 袋。</p> <p>OR: ン? ささげを作ってもらってるの? 誰かに。 【OBは農業をリタイアして耕作を親類に頼ん でいるので、その主旨の質問】</p> <p>OB: ううん。そうじゃない。私が作ったんだよ。</p> <p>OR: 自分で作ったの?</p> <p>OB: うん。そして、農協に出したんだ。農協はそ こでしょ? そうだから、近いから【農協が近い ので、庭でとれた野菜を持って行ったというこ と】。これ、こいつが、これ、「入った」ってい う通知。本当に入ったんだかどうか。</p> <p>OR: で、そのささげとかのさ、(OB: うん)作った やつは検査とかするんだ、やっぱり。</p>
--	--

OB：ケンサ？	OB：検査？
OR：ケンサ。　ホーシャノーノ。	OR：検査。放射能の。
OY：***　ケンサスنداナ　イマ。　ソシテ ケンサシタ　ヤズー　アノー　イロイロ　アノ ー　タヨリ　クンダ。	OY：***検査するんだな、今は。そして、検査 したやつ、あの一、いろいろ、あの一、お便り が来るんだ。
OR：ウン。	OR：うん。
OY：*****	OY：*****
OB：トーデンド　「ゼニ　ダシタ」　ツツー　ツ チダ。　コイツ　コレナ。	OB：【紙を出して】東電で「お金を出した」ってい う通知だ。こいつ、これな。
OR：ナンボ　ケラッチャノ？	OR：いくらもらったの【直訳すると「くれたた の」】？
OB：コイズー　サンビャグジューエنداナ。	OB：こいつは310円だな。
OR：サンビャグジューエン？	OR：310円？
OT：ナニ？　ソレ。	OT：何？それは。
OB：アド　ホレ　コッチワ　コッチワ　ホンデモ ...	OB：あと、ほら、こっちは、こっちは、それでも ...
OT：ナニ？　バイショーキン？	OT：何？賠償金？
OB：ナンカイデモ。	OB：何回でも。
OR：バイショーキンダ。	OR：賠償金だ。
OY：***　***　ササギ　ソノ　ツグッタ ヤサイ...	OY：*****ささげ、その、作った野 菜...
OB：コレ　コイズワ　ニセンゴヒャグナナジュ... コレ。　***　コレナ。　コレー　「ジュ ニガツ　ニジューイジニジニ　ハイッタ」　ツツ ー　ンダゲンチョモ　ホントン　ハイッタンダベ ガナー。	OB：【他の紙を出して】これ、こいつは2570...こ れ。***、これな。これ、「12月21日に入っ た」っていうんだけど、本当にあったのかな。
OT：ア　ヤッパ　バイショーデショ？	OT：あ、やっぱり、賠償でしょ？
OY：バイショージャナイゾ。　コレ。　コレワ　ノ ー　ノーキョ...　ア　ア　ソング...　バイショ ーキンカ。	OY：賠償じゃないぞ。これ。これは農協...あ、あ、 損害...賠償金か。
OB：ンダ。　アド　コ　コレ　コイズ　コイズモ。	OB：そうだ。あと、これ、こいつ、こいつも。
OY：***　*****　バイショーキンダナ。	OY：*****賠償金だな。
OT：ン　スゴイジャン。	OT：ん、すごいじゃん。
OR：ン？	OR：ん？
OB：コイズモダ。	OB：こいつもだ。
OY：アド　ソノウジ　ハジマンエン　***** *	OY：あと、そのうち8万円*****

<p>OB:***** アイズナー。オラエデワ タ ッタ シ… ハジマンエンダ。(OT:**) ア レ コドモ アル ジワ ヨンジューマンダ ヒトリナー。(OY:コドモ フタリモー ** *) ヒヤグマンノ ウエ モラウ イエ アン ダ ナンボモ。(OY:コドモ サンニン イッ ト {笑い}) ホレ コイズワ ヨンセン ナ ンボダ コレ。</p> <p>OT:コ コレモ モラッタノ?</p> <p>OR:ナンボ ダシタガナニ ニセンダノ ヨンセ ンナノ?</p> <p>OB:エートー ヒヤグログジューグラムノー (OY:*** *****) ハイッタンダベナ ー) (OT:ウン) ナンボ ダシタベナー。 コ イズノ カネー ニマンエンチカグ モラッタ ンダ。 ノーキョーカラ。 コレ スグ ** * コイズ。</p> <p>OY:【声が重なって聞き取れない】***ダベナ ー。</p> <p>OT:ウン。</p> <p>OY:*** *****)</p> <p>OR:ニマンエンチガグッテ ユーノワ ソノ ネ ダンデショ?</p> <p>OB:ウン。 ネダンデー ノーチョーカラワ ホ ノ カネ モラッタノ。</p> <p>OR:ソレワー ササゲノ ネダンデー</p> <p>OB:ウン ササゲノ ネダン。</p> <p>OR:ソレノ…</p> <p>OB:アド * コイズガー ササゲガ ヤスグ ナッタノガ バイショースルツツワゲナンダ ベ。 コレ トーデンデ コイズ ダスノ。 * ** ヤスガッタツツワゲデ。(OR:ニマンエン ノ…) ** 「マニアウクレー モラッタナ ー」ド オモッタツケガ コイズ キタカラ タマゲタンダ。 ホントン ハイッタンダガ ナンダガ ツーチョー ミネード ワガンネ。</p> <p>OY:** *** *****) ***。</p>	<p>OB:*****あいつな。私の家ではたった 8 万円だ。(OT:**)あれ、子どもがある家は 40 万だ、1 人【1 人あたり】な【伊達市民に一律で 支払われる賠償金の話】。(OY:子どもが 2 人 も***)100 万以上もらう家があるんだ、いく らも。(OY:子どもが 3 人いると {笑い})ほら、 こいつは 4 千いくらだ、これ。</p> <p>OT:これももらったの?</p> <p>OR:いくら出した【出荷した】分に 2000【円】と か 4000【円】なの?</p> <p>OB:えーと、160 グラムのを、(OY:***** *****入ったんだよな)(OT:うん)いくら出し たかな。こいつの金は 20000 円近くもらったん だ、農協から。これ、すぐ***こいつ。</p> <p>OY:【声が重なって聞き取れない】***だよな。</p> <p>OT:うん。</p> <p>OY:*****</p> <p>OR:20000 円近くっていうのは、その値段でしょ?</p> <p>OB:うん。値段で、農協からはそのお金をもらっ たの。</p> <p>OR:それはささげの値段で。</p> <p>OB:うん。ささげの値段。</p> <p>OR:その…</p> <p>OB:あと、*, こいつが、ささげが安くなったの が、賠償するっていうわけなんだろう。これ、 東電でこいつを出すの。***, 安かったって いうわけで。(OR:20000 円の…)**「間に合う 【十分な】くらい【代金を】もらったな」と思 ったら、こいつが来たからたまげたんだ。本当 に入ったんだかどうか、通帳を見ないとわか らない。</p>
--	---

OB:「シマツグ」 ツツーガラ シマツググンダ コレ。	OY: ** **
OY: ツーチャー ハイッたらバ ****。	OB:「しまっておけ」って言うからしまっておく だ、これ。
OT: ドングライ ヤスク ナッタノ?	OY: 通帳, 入ったらば, ****。
OB: ン? ナ オ… ヤスグ ナッタト オレ オモワネーダゲンチョモ コイズ キタカ ラ。	OT: どのくらい安くなったの?
OY: モドモドー ナー ツクッタ ノーサンブズ ナンテ ユーノワ マイトシ ソントキニヨッ テ タカグ ナツタリ ヤスグ ナツタリ ス ッカラ ****	OB: ン? 安くなったとは, 私は思わないんだけど も, こいつが来たから。
OB: モモナンテ モー 「モラッタ」ツツッタナ。 アレ 「人名」クンラ モラッタンデネーノ? モモ ヤスイガッタガラ。	OY: もともと, なー, 作った農産物なんていうの は, 毎年, そのときによって, 高くなったり安 くなったりするから****
OY: モモワ ヤスイ***	OB: 桃なんて, もう, 「もらった」って言ったな。 あれ, 「人名」君たちはもらったんじゃないの? 桃は安かったから。
OB: ウント ヤスガッタツケガラ。	OY: 桃は安い***
OY: モモワ ヤスガッタナ。	OB: うんと安かったそうだから。
OB: ナンドモ ****	OY: 桃は安かったな。
OR: モモナンテ ヒトニ オグルガナダガラ ソ レワ…	OB: 何度も****
OY: ** ウレネーモンナー。	OR: 桃なんて人に贈るものだから, それは…
OR: ウレネ。	OY: **, 売れないもんな。
OY: シテ アノー ミセニ ****ユーノ モ ハゴデ センエンナンテ スゴク ヤスク テ (OR: ウン) カワネンダ。 (OR: ウン) * **	OR: 売れない。
OB: ホレ フグシマケンノガナツツート カワネ ンダ。	OY: そして, あの一, 店に****いうのも, 箱で 1000 円なんて, すごく安くて(OR: うん)買 わないんだ。 (OR: うん)***
OY: マエワ…	OB: ほら, 福島県のものっていうと, 買わない だ。
OB: ヤマガタアダリノワ タガインダベ。 ** *	OY: 前は…
OY: マエワ ニセンハッピークエン** サンゼ ンゴヒャクエン** ヤズ スグ ナグナッチ ヤッタンダ** *** ウレネンダ。	OB: 山形あたりのは高いんだろ。***
OB: ホンジャガラ ホイズ バイショーシタンダ トーデンデ。	OY: 前は, 2800 円**3500 円**ものが, すぐ 【売れて】なくなっちゃったんだ**。*** 売れないんだ。
	OB: それだから, そいつを賠償したんだ, 東電で。

談話【02】

【収録場所】 談話参加者らの自宅(茶の間)

【収録日時】 2012 年 1 月 2 日 10:00-10:20

【談話参加者】

OK：1953 年福島県保原町(現伊達市)生まれ。女性。

(居住歴)0-26 歳：保原町，25-34 歳：福島市，34-36 歳：保原町，36-41 歳：郡山市，

41-43 歳：白河市，43-58 歳(現在)：福島市

OR：談話 01 参照

OY：談話 01 参照

【談話参加者どうしの関係】 参加者は家族どうし。OK と OY は夫婦。その息子が OR にあたる。

【文字化記号】 談話 01 参照

談話の書き起こし	標準語訳
OK：ヤッパリ コレ ミズカ ナンカ ハイッテンダヨネ。 オモイモン。	【OY が薬局の初売りで高価なティッシュを買ってきたので盛り上がっている】 OK：やっぱり，これ，水か何か入ってるんだよね。重いもん。【ティッシュが上等でしっとりして重いので水分が入っていると思っている】
OY：ン ソレー ヒトツ ヒヤグー… ニヒヤグエンクライ スンダ。	OY：ん，それ，ひとつ 100…200 円くらいするんだ。
OK：ナンカ (OR：イーノ？ コレ アゲデモ) コーカナ カンジ スンモンナ。	OK：なんか(OR：いいの？これ開けても)高価な感じがするものな。
OR：ウン。	OR：うん。
OY：ソレー ヤッキョグーッテ ユーカ ソノヒトン トゴ イッテ キーダラバ ***	OY：それ，薬局っていうか，その人のところに行って聞いたらば***
OR：ウン	OR：うん。
OK：ア ミズ ハイッテルワゲデワナインダ。ン？ ア デモ イグラガ チガウヨナ。 シットリカンガ。 スイブンジャナクテ。	OK：あ，水が入ってるわけではないんだ。ん？あ，でも，いくらか違うよな。しっとり感か。水分じゃなくて。
OR：スイブンガ アルワゲジャナインジャナイ？	OR：水分があるわけじゃないんじゃない？
OK：スイブンデワナイノ。 デモ ジューリョー アッピシタネー。	OK：水分ではないの。でも，重量があるじゃない。
OY：「カイモノスレバ コレ アゲラレマスカラ」 ナンテ ユーカラ {笑い} デ カッテ レジニ イッタラバ アノー ソノ ヒト マダキタンダ。 カゲヨッテキテ レジン トゴ	OY：「買い物すれば，これをあげられますから」なんて言うから，{笑い} で，買ってレジに行ったらば，あの一，その人がまた来たんだ。駆け寄って来て，レジのところに来て(OK：んー)あ

<p>キテー (OK: ンー) アノー クスリー ヤッ テル ヒト シテ コレ モッテキタンダ ア ノー…</p> <p>OK: ナンボイジョー カウト?</p> <p>OY: サンゼンエンイジョーナンダナ。 アドデ キーダラ。</p> <p>OK: イヤ スナナンカ カッテオケンダ。</p> <p>OY: ア スナ カッテクンノ ワスレチッタ。 {笑い}</p> <p>OK: バーカ。</p> <p>OY: コレバッカリデ。 スナ カッテクレバ ヨ カッタナ。</p> <p>OK: スナデモ ナンデモ (OR: ウン) ガソリン デモ ナンデモ マエワ ホラ ナグナルマデ カマワナカッター シテタノ。 (OR: ウン) イ マワハー モー ジシン コワイガラ (OR: ウ ン) クルマヨ ヨッツ メモリ アル ウジノ ヒトッツ メモリ スギダラハー スグハ ガ ソリン イレルヨーニ シテンノ。</p> <p>【中略】</p> <p>OK: デモ ネゴズナー エサワ カイダグナイベ ー。 エサワ ヤスウリシテットギ ヤスイド ギ カッタホーガ ****ヨー。 ネコズナ トー クッキー**** **** ア イッタゲダッテ サンゼンエンニワ ナンネガ ー。 (OY: ****)ネゴズナモ イ ッパイ カッテオギタグ ナイガラヨー ウジ ン ナガ ジシンデ オモミ アンマリ クワ エタク ナイカラ… **** ニゲデグ ドギ ネゴズナモ ショッテガネッカダベー。 (OR: {笑い}) {笑い} ソーユーノ カンガ エ カンガエデワ イルンダ。 ヤッパリ ウ ンコドサー タベモノッテ ユーノワナー ニ ンゲンノ ナガデ イジバン カラダ ヨゴレ ルヨリモ… {間} エサド ミズド ウンコド イ ルナ。</p>	<p>の一、薬をやってる人が、そして、これを持っ て来たんだ。あの一…</p> <p>OK: いくら以上買うと?</p> <p>OY: 3000 円以上だな。あとで聞いたら。</p> <p>OK: いや、砂なんか買って【買い置きして】おけ るんだ。</p> <p>OY: あ、砂を買って来るの忘れちゃった。{笑い}</p> <p>OK: ばーか。</p> <p>OY: これ【ティッシュのこと】ばっかりで。砂を 買ってくればよかったな。</p> <p>OK: 砂でも何でも(OR: うん)ガソリンでも何でも、 前は、ほら、なくなるまで構わなかったりして たの。(OR: うん)今はもう、もう、地震が怖い から(OR: うん)車よ、4 つ目盛りがあるうちの、 1 つ目盛りを過ぎたらもう、すぐもう、ガソリン を入れるようにしてるの。</p> <p>【中略】</p> <p>OK: でも、猫砂、餌は買いたくないでしょ。餌は 安売りしてるとき、安いときに買ったほうが* ***よー。猫砂とクッキー****あれ だけだって、3000 円にはならないか。(OY: * ** ****)猫砂もいっぱい買っておきたく はないからよ。家の中が、地震で重みをあんま り加えたくないから…****逃げていく とき、猫砂も背負っていかないとでしょ?(OR: {笑い}) {笑い} そういうのを考えてはいるん だ。やっぱり、うんことさ、食べ物っていうの はな、人間のなかで一番、体が汚れるよりも… {間} 餌と水とうんこと、要るな。</p>
--	--

約束します

福島のことば・文化に関する研究を発展させるため、また、震災・原発被害について話す生の声をより多くの人に知ってもらうため、論文および録音資料として、お話の内容は公開する予定でいます。ただし、あなたの個人情報まで広めてしまわないよう、以下のことをお約束します。

- ①個人名および、個人を特定できるような情報については、文字起こししたとき伏せ字にし、音声データについてはピー音をかぶせるなどして消去し、個人が特定されないようにします。
- ②あなたのお名前は、アルファベットによる仮名とします。
- ③年齢や性別、これまでどこに住んでいたか(居住歴)といった情報は、方言について考えるための大事な材料になります。年齢・性別・居住歴については、論文や資料に掲載を許してください。

【文字起こしの例】

A さん 1923 年生まれ・男性

居住歴ー0-18 歳：保原町 18-22 歳：兵役で海外 22 歳-現在：保原町

B さん 1931 年生まれ・女性

居住歴ー0-22 歳：梁川町 22-30 歳：東京都荒川区 22 歳-現在：保原町

A：オラホモ ダイブ ユレタッタンダ。(私の家もだいぶ揺れたんだ。)

B：〇〇(A の名前)サン ジェーワ カワラモ ブットンチマッタモンナ。

(〇〇(A の名前)さんの家は瓦もぶっ飛んじゃったもんね。)

A：△△(A の息子)ナンカ ユレデ アブネード オモッテ ソドサ デダツケガ、
ウエガラ カワラ オジデキテヨー アダマサ ブツカットゴダッタ。

(△△(A の息子)なんか、揺れて危ないと思って外に出たら、上から瓦が落ちてきて、
頭にぶつかる場所だった。)

以上のことをお約束します。

年 月 日

上記の約束に納得していただけたら、承諾のしるしとして、以下にご一筆願います。

上記の条件で、データが使用されることを了承します。

年 月 日

談話資料

前掲『震災を語る方言談話資料』の試み」は、2012年5月18日に千葉大学でおこなわれた日本方言研究会第94回研究発表会でのポスター発表の内容をまとめたものである。発表後、今年度の文化庁事業の取り組みとして、筆者は伊達市保原町において約90分の談話を収録した。また、琉球大学大学院生田代竜也氏(伊達市月舘町出身)の協力により伊達市月舘町において約50分の談話を得ている。そのほか、福島大学のメンバーが仮設住宅を回って原発避難区域の方々の談話を随時収集している。ポスター発表時、筆者は「より多くの力が集まれば、広く震災の影響を受けた地域の談話が収集でき、言語資料としても、震災の記録としても、大きな価値を持つのではないかと考える。」とうったえたが、福島県に関わる方言研究者が力を合わせ、談話を収集する取り組みの第一歩になったと考える。今年度収集した談話は、今後文字化して整備し、方言研究および震災記録の資料として公開したいと考えている。

また、文化庁事業開始時点で録音済みであった談話資料の一部について、業者への委託により文字化をおこなった(伊達市保原町での採録談話約80分、福島市での採録談話約180分)。以下、業者に委託して文字化した資料の一部を掲載する。現在は一次的な文字化を済ませた段階であり、今後、筆者を含めた各研究者によるチェックや書式の整備を経たうえで全データの公開をおこないたいと考えている。

【文字化の規則について】

1. 原則として、「漢字仮名交じり」で表記する。漢字・仮名・記号は「全角」、英数字は「半角」とする。
 - ア．数字は原則、アラビア数字を使用するが、熟語や慣用表現などは漢数字を使用する。
 - イ．長音表記の際、フィラー、特に意味のないあいづち、感嘆を表す語、文節末・文末の母音伸ばし等には長音符「ー」を使用する。
 - ウ．福島方言に特徴的な終助詞・間投助詞の「ハー」は、係助詞(とりたて)の「は」と区別するためにカタカナで表記する。
例)それはハー、早めにやっちまうべハー。
2. 会話参加者の記号はアルファベットで示す。各話者の記号は別に示す。
3. 会話参加者のターンごとに、すべて改行する。ただし、あいづちはカッコ内に入れ、相手の発話に埋め込む。ただし、「独立した発話ターン」か「あいづち」かの判断に厳密な基準は設けていない。
4. 読みが2とおりにある字、福島方言に特徴的な発音は、「日^{につ}本^{ぽん}」「7^{しち}」「若^わい」のように、ふりがなをふる。
5. プライバシーにかかわる固有名詞は〇〇と伏字にする。
6. 文字化記号はすべて「全角」とし、以下の記号を用いる。

《 》	福島方言に対応する標準日本語訳は必要に応じて《 》に入れて示す。
。	発話文末には「。」をつける。ただし、文末と判断するための厳密な基準は設けていない。
,	読みやすさを考慮して適宜「,」をつける。
?	疑問文の文末には「?」をつける。疑問の終助詞がない場合や上昇調イントネーションを伴わない発話でも疑問の機能を持っていればつける。
…	語尾が言いよどんでいる場合や、言いよどみから発話を始める場合には「…」をつける。
*	音声聞き取り不能であった部分や意味が不明な部分は「*」で示す。
()	あいづちは、発話者の発話中に()でくくって入れる。その際、あいづちを入れた話者記号を入れる。
「 」	ほかの人の発話の引用、本や映画の題名等、視覚上、区別したほうがわかりやすいと思われるものは「 」でくくって示す。
【 】	文脈を理解するうえで必要な情報がある場合には【 】でくくって示す。
{ }	笑いや咳など、非言語音は{ }でくくり、{笑い}{咳}のように示す。

談話例【01】(伊達市保原町)

【収録場所】伊達市保原町 OB の自宅(茶の間)

【収録日時】2012 年 4 月 30 日

【談話参加者】

OB : 1929 年福島県保原町(現伊達市)生まれ。女性

(居住歴)0-81 歳(現在) : 保原町

OY : 1951 年福島県保原町生まれ。男性。

(居住歴)0-18 歳 : 保原町, 18-25 歳 : 郡山市, 25-28 歳 : 保原町, 28-36 歳 : 福島市,

36-38 歳 : 保原町, 38-43 歳 : 郡山市, 43-45 歳 : 白河市, 45-48 歳 : 福島市,

48-53 歳 : 富岡町, 53-56 歳 : 相馬市, 56-60 歳(現在) : 郡山市

OR : 1982 年福島県保原町生まれ。男性。

(居住歴)0-5 歳 : 福島市, 5-7 歳 : 保原町, 7-12 歳 : 郡山市, 12-14 歳 : 白河市,

14-18 歳 : 福島市, 18-29 歳(現在) : 大阪府豊中市

【談話参加者どうしの関係】

OY は OR の父親。OB は OY の母で OR から見て父方の祖母にあたる。

【OB がタケノコをお裾分けしようと知人に電話をしている様子。電話先の知人の声を聞いている間は {間} として示す】

OB : 「ああ、もしもし。〇〇【人名 A】ちゃんがい？ {間} いやいや。あんだえ《あなたの家》でたけのこ食うがい？ かねがい《食べないかい》 {間} ああ、ほうがい。うん。 {間} ほんじゃ、あれだな。 {間} ああ。 {間} ああ。 {間} ああ、今年、【放射線量を】測ってもらった人あんの？ ふうん。なんであれ、皮あんのに【放射線量が】あんだべなあ。たまげっちまな、たげのごはな。 {間} 菜っ葉なんてはいくてな《よくてね》。不思議なんだな。ほんじは《それでは》、わがった、ほんじゃない《それじゃあね》。はい」

【電話終わり】

OB : かねんだど《食べないんだと》。去年は食ったんだげんちもな《けれどもな》。去年は食ったんだ、〇〇【人名 A】ちゃん家で。セシウム高いんだど。なんともしよねな《しょうがないな》。〇〇【人名 B】あんちゃ、持ってきたんだげんちょ《けれども》、****持ってがねが《持っていないか》？ ほんじゃ。俺もかねがハ《食べないかな、もう》。俺は食ったってもいいんだよな、年寄りなんだがら。だげんちょ、****はだめだんな。誰ももらう人ねえが、ほんじゃな。困ったな。去年は食ったんだげんちょも《けれども》。

OY : 去年は測ってねえ。今のほうがよっぽど低がった。

OB：じゃ、持ってがねが、ほれな。なんでたげのご【放射線量が】あんだべな。皮かぶっててな。

OR：あんまし……，若いうちは食べないほうがいいがな。

OB：〇〇【人名 A】ちゃんえ《家》でも息子いつかんな。40代の息子。

OY：吸収すんだがらな。栄養吸収すつとぎに放射線も一緒に吸収しっちゃうんだべ。それだけ生きが
いいっていうがな，たげのごもな。

OR：将来，子どもできたときのこと考えだりすつと。

OB：なんであれ，皮かぶってて放射能あんだべな。菜っ葉なんてはいいんだがんな《いいんだからな》。

OY：下から吸い込むんだがら。

OB：ああ，下がら？

OY：だべ，栄養。

OB：ほんじゃがらが《だからか》。

OY：放射線，土の中に今入ってっかんな。どごの家でも。

OB：〇〇【人名 B】あんちゃら，たげのごくっち歩ったって《タケノコをあげて回ったって》，誰にも
喜ばんな《喜ばれないな》。「〇〇【人名 C】あんちゃさ置いできたんだ」なんていだっけ。お
らえさ《我が家に》4本。

OY：気にしない人は気にしない。

OB：誰ももらう人ねえな，これな，ほんじゃな。

OY：気にしない人は全然気にしない人だっているし。うんと気にする人もいるし，人によって違う。

OB：子どもなんてあるうち，余計あれだべ。

OY：子どもの学校の保護者会だどが，みんなそれでハ，考え違えでな，けんかになっちゃうんだな。「外
で遊ばせろ」というのと，「外は放射線あつから外に出したら困る」とか，「中で遊ばせねっかな
んね《遊ばせないとならない》」どが，あの，「窓開けてだめだ」どが，「開けてもっと暑いどごろ
で我慢していないで窓開げだほうがいい」とか，そういう人の考えみんなばらばらだがら。

OB：かねでハ《食べないで，もう》，なげだつても《捨てるでも》いいんだハ。たげのご。もらわねっけ
《もらわなかった》と思えばな。かねがハ《食べないか，もう》。

OR：ばあちゃんは……

OY：俺だつて別に心配すつことね《することない》。

OR：ばあちゃんとかお父さんぐらいだつたら。

OB：去年よりは^{ひぐ}低いがど思ったら，^{こどし}今年，^{はが}測ってもらった人あんだな。

OY：毒キノコなんて食って，すぐ，あの，食中毒起こしたり死んちゃったりするのど全然違うんだ。

20, 30 年後にがんになる確率が 0.5%高くなっかどうかわががんねくれの《くらいの》。

OR：でも、それでも、例えば、この結婚して子ども生まれたときに障害があったりしたら、「おまえ、福島生まれだがらだべ」っていわれんだがら。

OB：かね《食べない》，たげのごは、かねたって《食べなくたって》生きでられんだがらな。……とんだことになったな。どうせかねたって《食べなくたって》生きでられっから、たげのごかねたってな《食べなくたってな》。

OR：いや、本当、そんなの気にするほどのあれじゃないんだげど。

OB：ほいづばり《そいつだけ》食ってんでねえんだがらな。だげんちょ《だけれども》，かねたっても《食べなくても》いいんだ。

OY：外国でなんか、このくらいの放射線のどごでずっと生きてんだがら。

OB：生きでる？

OY：んだって、あっちの南米とかなんかは、このくれえの放射線のどごで暮らしてる。

OB：南米ではほだに《そんなに》あんの？

OY：そういうどごろもあんだって、世界には、あちこち。^{にっぽん}日本がらそっちに行って暮らしてる人いるんだがら。

OR：【OB を神社に車で送る話】ばあちゃん、〇〇神社で降ろすような形で行ったほうがいいがな？

OY：うん。

OB：下がら^{ちゅうしゅう}吸 収 すっから《するから》わり《悪い》のがな。

OR：うん。もう上がらは降ってこねえがら。

OB：こいつ、ほだ、皮かぶってんだもんなあ。

OY：上にはねえもの。雨も降ったんだし。

OR：外出るときマスクとかする必要も、もうないし。

OB：薄ぐなったんだ、だいぶ。

OY：地面にハ、あれだ、****。

OR：砂ぼこりだとがそういうのが多いとご行ったらだめだげど。ばあちゃんも、あれ、マスクだのしたの？

OB：うん、したったけど、しねハ《しない、もう》。あと、冬寒いがらしったった《していた》。買い物さなんて行くどぎに。

OR：それは寒いからでしょう。

OB：寒いがら。

談話例【02】福島市内

【収録場所】福島市内 OK の自宅

【収録日時】2012 年 3 月 27 日

【談話参加者】

OK：1953 年福島県保原町(現伊達市)生まれ。女性。

(居住歴)0-26 歳：保原町，25-34 歳：福島市，34-36 歳：保原町，36-41 歳：郡山市，
41-43 歳：白河市，43-58 歳(現在)：福島市

FM：1943 年福島県福島市生まれ。女性。

(居住歴)0-15 歳：福島市，15-26 歳：宮城県松島町，26-44 歳：宮城県仙台市，
44 歳-68 歳(現在)：福島市

【談話参加者どうしの関係】友人どうし。

OK：地震の影響でね。地震じゃない，原発があんのか，福島は。

FM：そう，福島はね，一番だんね《だもんね》。

OK：〇〇【FM の名前】さん，地震のとき何しったの？

FM：私？ ちょうど，何してたんだろう。テレビかなにかちょっと見てたのね。

OK：ああ，じゃ，うちにいたのね。

FM：うん。そして，いつもの地震だと思ってたのよ。だから，そんなには。だって，最初はそんなには，最初からガタガタガタってなんなかったから。(OK：そうそう)だから，ああ，またすぐ収まるなあと思ってたの。そうしたら，いつまでも，いつまでもでしょう。ほして，だんだん，だんだんひどくなってくるんだもん。そして，今度，外に出たの。

OK：あれ，地響きみたいになってきたよね。(FM：うん，下のほうがらね)突き上げてね。

FM：でも，でも，そんなに私は変わんないと思ってたのよ。けども人が，けどもね，うちはさ，何にもなかったんだよ。

OK：ああ，倒れなかったの？

FM：うん。倒れもしなければ，何にもなかったの。

OK：すごいね。

FM：あの，【昭和】53 年だか 54 年に，宮城県沖地震あったでしょう？ あのときのほうがひどかった。たんす倒れて，蛍光灯落ちたりなんだりして，だから，もう，それわかってから，もう，たんすでもなんでも，こう挟んでおいたの。だから何にも……

OK：ちゃんとしてたのね。

FM：うん。何にもなかったの。だから、「ああっ」と思ってたんだけど。ほしたら、すごかったでしょう、あの津波もなにも。

OK：ほんとだよね。

FM：でも、こうやってみるとさ、中通りって、寒い暑いのあるけども……

OK：今までなんにもなかったからね。

FM：ねえ。でも、あれだよね、浜通りの人、気の毒だよね。

OK：だから、もう、1年過ぎても、テレビであの地震のときの、こう流れるでしょう、画面から、見たくないの、もう。

FM：私も嫌だ。

OK：嫌なの。男の人は意外と平気なのがもしれないけど、見たくないよね。

FM：うん。もう、テレビ見てもチャンネル変えちゃうのね、私も。いやあと思うな。

OK：浜の人なんかもっと被害ね、実際受けてんだからね、もっと嫌だろうね。

FM：大変だろうね。

OK：私、窓から、やっぱりすぐ外に出なかったのね。ちょうどここに、前の人の駐車場で、車とまってるから、もう、車がばんばん動いたんだもんねえ。

FM：ああ、そうなの？

OK：うん。こう、なんていうの、上に持ち上がるっていうか、揺れるっていうか。ぐーん、ぐーん、ぐーんて、すごかったよ。ただ、みんなここの道路に出てきて、両サイド、そうずっと、みんな、もう。で、そのあとは後ろの〇〇【店舗名】さんの〇〇【店舗名】にみんなでこの辺の人が集まって入ったの。

FM：ああ、そう。

OK：うん。うちだって、一番上の瓦、ぐし【瓦ぶきの要になる「ぐし瓦」のこと】？　ぐしの部分、飛んだの。

FM：結構あるよね、屋根ね。

OK：ある。だって、向こうの流れ、道挟んでそっち側^{かわ}は全部、ほとんど瓦、本瓦、全部落ちたから。まだ上げてない人いるんだよ、この辺に。

FM：結構、だって、なんていうの、青い……

OK：そうそう。ビニールシートね。

FM：ビニールシートやってるもんね。

OK：うん。だから、1年たったって、まだ瓦上げられない人いるんだよね。

FM：あれはどういうことなの？

OK：だって、うちで電話申し込んだのは、瓦落ちた次の日の朝、もう申し込んだのね。でも、うち【申し込み順が】何番目だったかな。何番目だったろう。で、斜め向かいのその人は、2、3日後頼んだのかな。そしたらもう百何番目だかだった。

FM：あ、なに、それも申し込まないとだめなの？

OK：うん。だから、みんな一斉にやったから、うん、だから遅かったよ、すごく。うちは結構早かったのね。次の日の朝早くやったから。

FM：ああ、そうなんだ。

OK：でも、瓦も、1枚のぐしだけだから、ただ。みんな、道路に出てたでしょう。うちは高いでしょう？
そもそもが、家の土台そのものが高いから、結構振られて落ちてきたのね。だから、逃げてきた人の頭のぎりぎり脇くらいに落ちたの。私、そのほうが怖くって。

FM：そうだよな。

OK：そして、その木の下に行ったの。ほら、木の陰だとなにか落ちてきてもワンクッションになるから、だから、その木の裏にいたのね。私は大丈夫だったんだけど、木のそっち^{かわ}側にいた人が、木を通り越して瓦が飛んでったの。お孫ちゃんと2人でいたの。

FM：いやあ、そしてわかんなかったんでしょ？

OK：当たなくて、私、よかった。私がそこに移動しないと、私が言ったの、「危ないからこっち^{かわ}側に来たほういいよ」って。私、「危ないから木の下に来な^ゆ」って言いたかったの。木の下に来たほういいよって。そしたら、いや、「〇〇【OKの名前】さん、木の下だってすごい近くだから危ない」ってね。でもかなり揺れてたから、どばっと下には落ちないんだよね。

FM：あら、そうだね。飛んでくもんね。

OK：うん。あと、木は、なんていうの、ワンクッション、枝がいっぱい張ってるから、ワンクッションなるから、私は木の枝のこう反対側に体こう寄せていたのね。でも、その人はそこはよくないよって行って、離れたところにいたの。私は、「こっちに来な」って言ったんだ**、自分らがそこに行ったんだけど、結局、私がここに来なって言ったからね、道路***だから危ないと思ったの。

FM：そうだよな。

OK：うん。したら、その移動した場所に落ちたの。それも、1メートルも離れてないんだよ。何十センチ。

FM：わあ、よかったね。

被災地域方言の記録

ー阿武隈高地・常磐線グロットグラムー

半沢 康

「事業概要」にも述べたとおり、福島大学では福島県阿武隈高地および浜通りの常磐線沿線各地において、震災前の2008年から2010年にかけて方言調査を実施している。

被災、避難地域の方言を記録する試みの一環として、これらの調査データを整理し、以下にグロットグラム図集として掲載する。グロットグラム図とは調査結果を●や□などの記号で表し、地点と年齢のクロス表に配置したものがある。調査地域中の方言の地域差と年齢差を手がかりとして、言語変化や伝播の様子をとらえることができる。

各調査の概要は以下の通り。

1.阿武隈高地グロットグラム調査

[調査対象地点]

調査対象としたのは、阿武隈高地に位置する福島県相馬郡飯舘村、双葉郡浪江町津島、双葉郡葛尾村、田村市都路町(旧田村郡都路村)、双葉郡川内村、石川郡平田村、石川郡古殿町、東白川郡鮫川村の8地点(他に水郡線沿線の2地点の調査も同時に行なったが、今回の報告には加えない)。後掲の調査地点図に、福島県内の被災、避難状況とあわせて位置関係を示してある。

[インフォーマント]

各地点とも高年層(70代)、中年層(50代)、壮年層(40、30代)、若年層(20代)の4世代のインフォーマントにお会いして調査を行った。インフォーマントはいずれも以下の公民館よりご紹介いただいた。

[協力機関]

2008年：飯舘村公民館、浪江町津島公民館、葛尾村公民館、田村市都路公民館、川内村公民館

2009年：平田村中央公民館、古殿町公民館、鮫川村公民館

[調査時期]

2008年8月6日(水)～8月7日(木)、2009年8月6日(木)～8月7日(金)

[調査参加者](所属は調査当時のもの)

半沢康(福島大学)、本多真史(日大東北高校)、遠藤理恵(山木屋中学校)、井上夏美(若松第二中学校)、小島康紀(広瀬小学校)、岡野陽、田沼真弓、平野亜矢子、藤原沙帆里、吉田光希、紺野祥子、鶴巻華子、安齋千秋、五十嵐文香、菅野奈緒子、菊田知代、佐藤亜実、服部綾、早坂のぞみ(以上福島大学学生)

2.常磐線グロットグラム調査

[調査対象地点]

調査対象としたのは、宮城県山元町から福島県大熊町までの、常磐線各駅周辺の地域である。阿武隈高地グロットグラム調査地点と同様、県内の常磐線の位置を調査地点図に示す。

宮城県亘理町以北、福島県富岡町以南の地域については、2011年に調査を継続する予定であったが、東日本大震災発災によって不可能となってしまった。

[インフォーマント]

阿武隈高地調査と同様、各地点とも高年層(70代)、中年層(50代)、壮年層(40, 30代)、若年層(20代)の4世代のインフォーマントを下記公民館等よりご紹介いただいて実施した。

[協力機関]

山元町中央公民館、山元町坂元公民館、新地町公民館、相馬市日立木公民館、南相馬市鹿島区生涯学習センター、南相馬市原町生涯学習センター、南相馬市太田生涯学習センター、浪江町中央公民館、双葉町中央公民館、大熊町文化センター

[調査時期]

2010年8月6日(金)～8月7日(土)

[調査参加者](所属は調査当時のもの)

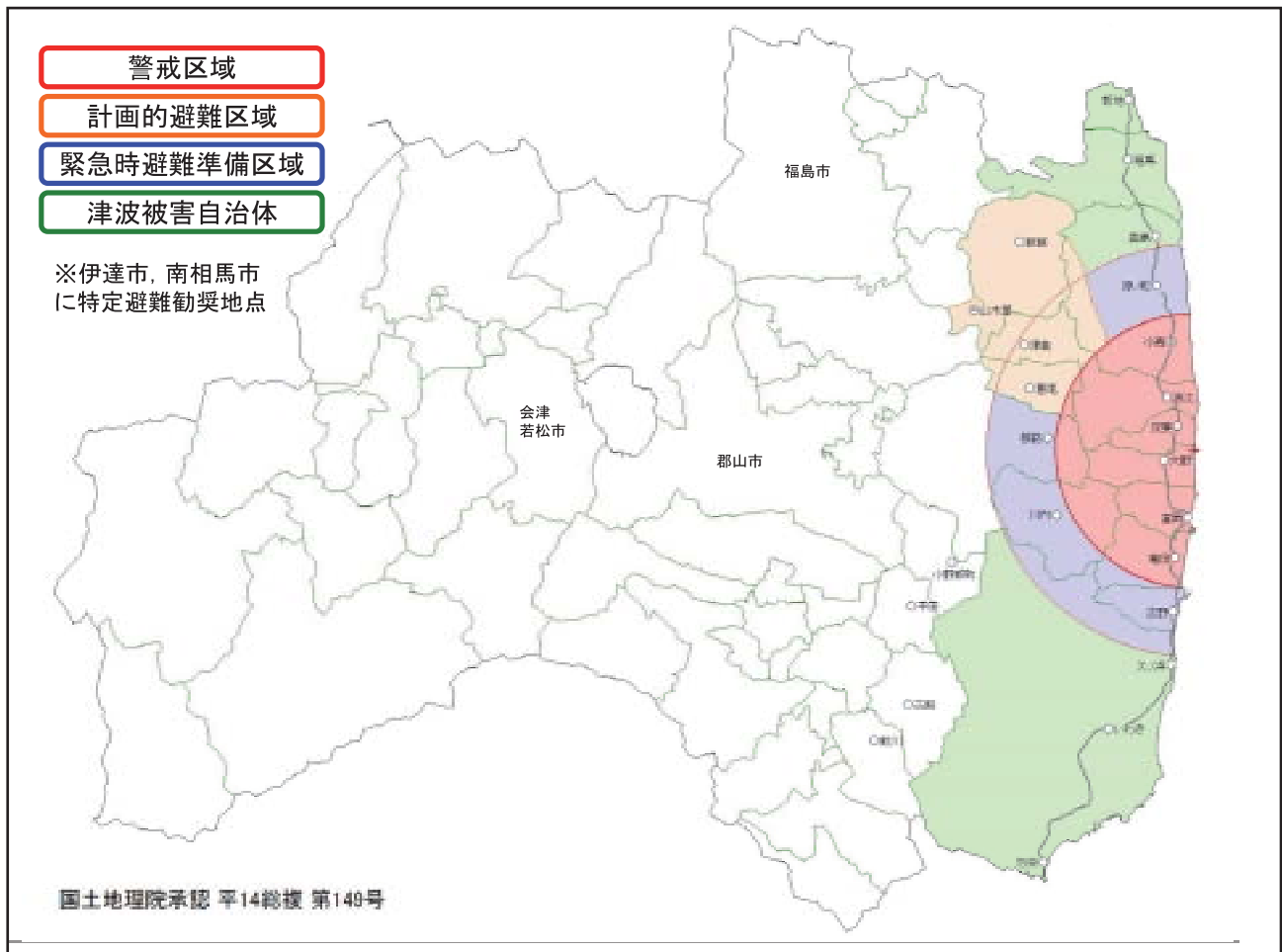
半沢康(福島大学)、小林初夫(上真野小学校)、武田拓(仙台高等専門学校)、本多真史(日大東北高校)、安齋千秋、五十嵐文香、菊田知代、佐藤亜実、早坂のぞみ、小林真利子、澤田友美、保苅杏奈、相澤幸恵、安藤知美、加藤政孝、佐々木裕也、鈴木さき、高野裕里、向谷地玲佳、小松健太(以上福島大学学生)

以下に掲載するグロットグラムは縦軸に調査地点を、横軸に世代を配置している。阿武隈高地グロットグラムは対象とした地区名を、常磐線グロットグラムは常磐線駅名をそれぞれ表示する。作業用番号としてそれぞれAB(ABukuma)+2桁、JB(JoBan)+3桁の地点コードを振っている。

上段に話者の生年、下段に話者の満年齢(2012年12月現在)を示している。記号化されたインフォーマントの回答は、各地点の行の、インフォーマントの年齢に対応する箇所配置してある。未調査、不適回答については原則としてNRなどの略号は用いずに空白で示す。

阿武隈高地グロットグラムをページ上部に、常磐線グロットグラムをページ下部に配置する。同一の項目は同じページに並べ、記号も共通に与えてある。

十分なデータクリーニングが済んでいないため、結果は「速報データ」として公表する。紙幅の関係で今回掲載できない項目も多く、急ぎデータの検討を行って、別途あらためて全項目の結果を報告することとしたい。



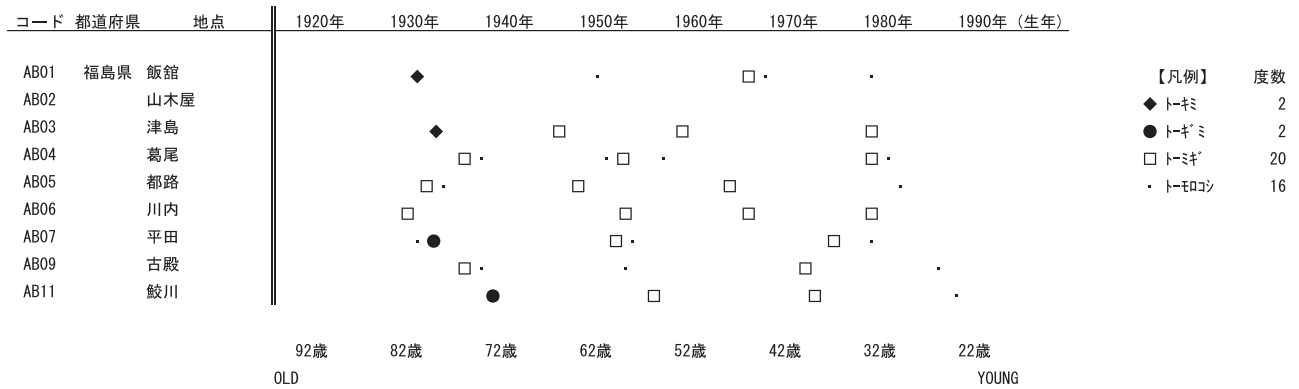
調査地点図(避難地域情報等は東日本大震災直後のもの)

《 阿武隈高地グロットグラム・常磐線グロットグラム 目次 》

項目名	ページ	項目名	ページ	項目名	ページ
玉蜀黍	54	今川焼き	81	カタス	108
里芋	55	ずんだ餅	82	カッターイ	109
おたまじゃくし	56	見よう	83	カッターイ(意味)	110
かなへび	57	飲もう	84	オダツ	111
トカゲとの区別	58	言った(だろう)	85	イキナリ(程度性)	112
まむし	59	(言った)だろう	86	イキナリ(意外性)	113
おなもみ	60	(寒かった)だろう	87	グーパ	114
めんこ	61	そうだ(ろう)	88	ウラオモテ	115
お手玉	62	(そう)だろう	89	ノーサイ	116
手ぬぐい	63	けれども	90	ノームサイ	117
肩車	64	来ることができない	91	カンカチ	118
唾	65	知らない	92	イタマシー	119
眉毛	66	取りたい	93	イズイ	120
額	67	見たい	94	ジャス	121
鳩尾	68	飲みたい	95	タダクリ	122
あざができる	69	犬に(追いかけられた)	96	アルッテ	123
ものもらい	70	(犬に)追いかけられた	97	デー	124
泥はね	71	連れて	98	ハー(帰れ)	125
氷柱	72	見ていた	99	(帰れ)ハー	126
仲間はずれ	73	忘れていた	100	(帰れ)ワ	127
怠け者	74	騙されていた	101	公民館サ行く	128
おもしろい	75	頼んでおいた	102	家サいる	129
やる	76	読んでしまった	103	ここサある	130
よそう	77	くれた	104	駅前サある	131
明々後日	78	くれない	105	取ッシャ	132
明々後日の翌日	79	くれ	106	千円ガナ	133
葬式	80	インガミル	107	いたッケ	134
				ダッケ(一人称)	135
				ダッケ(三人称)	136

■ 101. 玉蜀黍

【写真】ゆでたり焼いたりして食べるものです。

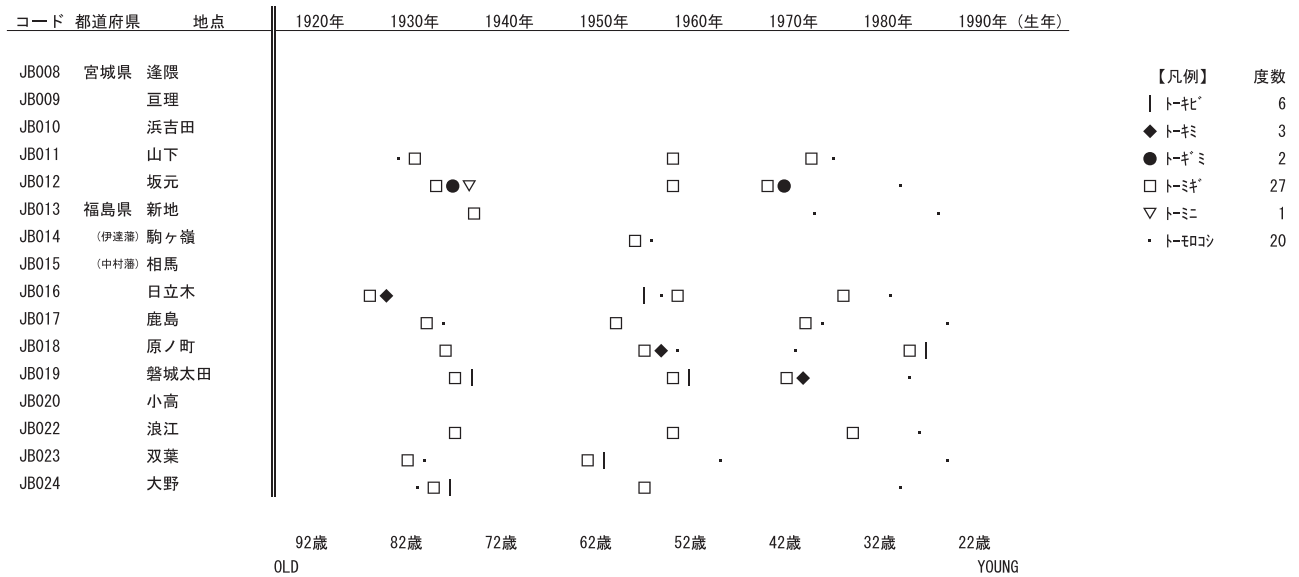


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 104. 玉蜀黍

【写真】ゆでたり焼いたりして食べるものです。

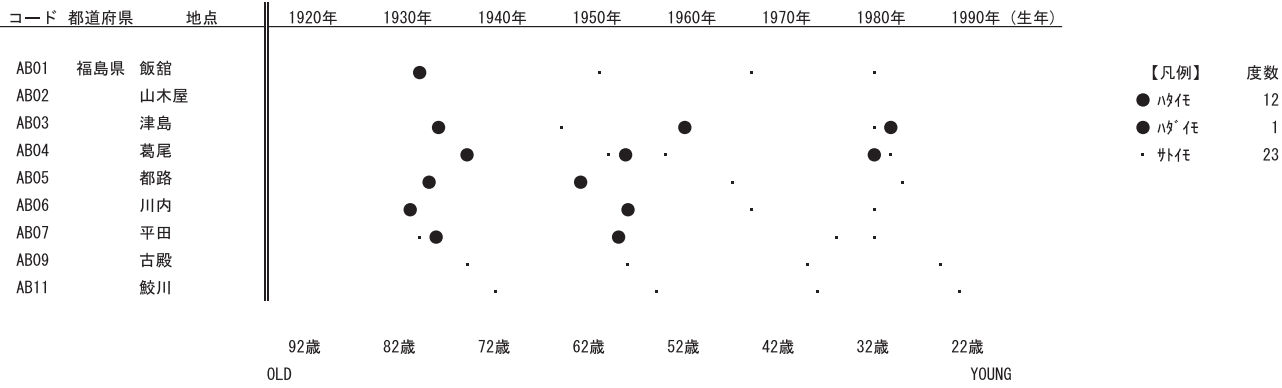


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 102. 里芋

【写真】茶色の毛が生えていて、煮るとぬるぬるする芋です。

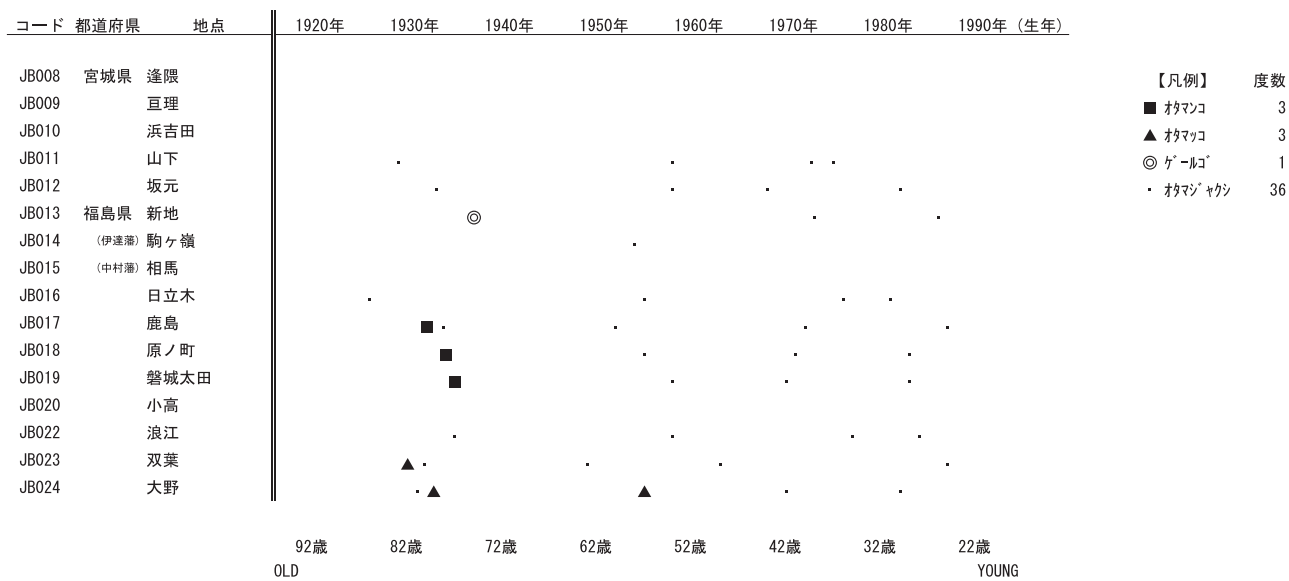


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 101. おたまじゃくし

【写真】水たまりや池にこんな生き物はなんと言いますか？

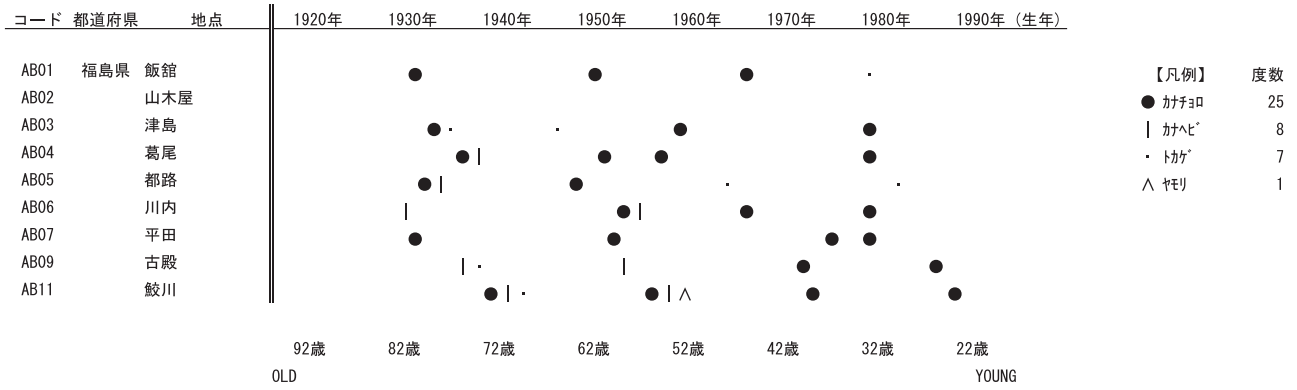


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 103. かなへび

【写真】草むらや日なたを走ります。少し小さくて土色。水には入りません。これはなんと言いますか？

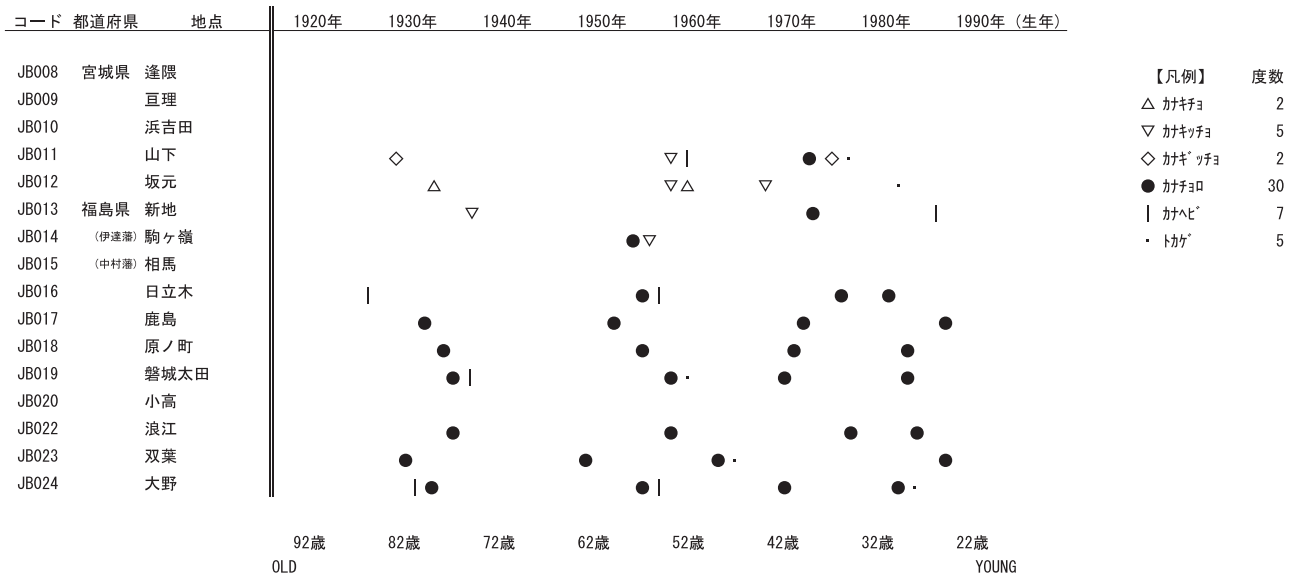


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 102. かなへび

【写真】草むらや日なたを走ります。少し小さくて土色。水には入りません。これはなんと言いますか？

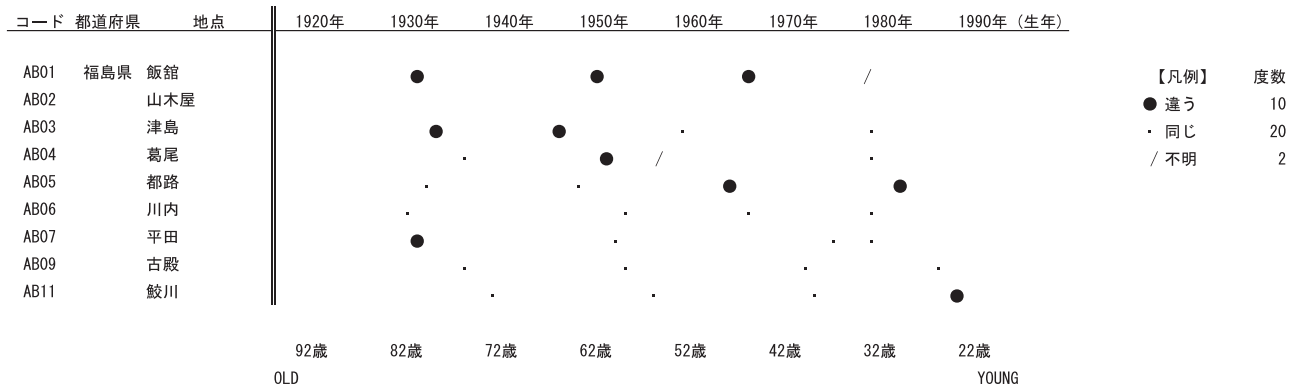


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 103-2. トカゲとの区別

【写真】こちらの生き物(トカゲの写真を示す)も同じ名前ですか。それとも別の呼び方をしますか。

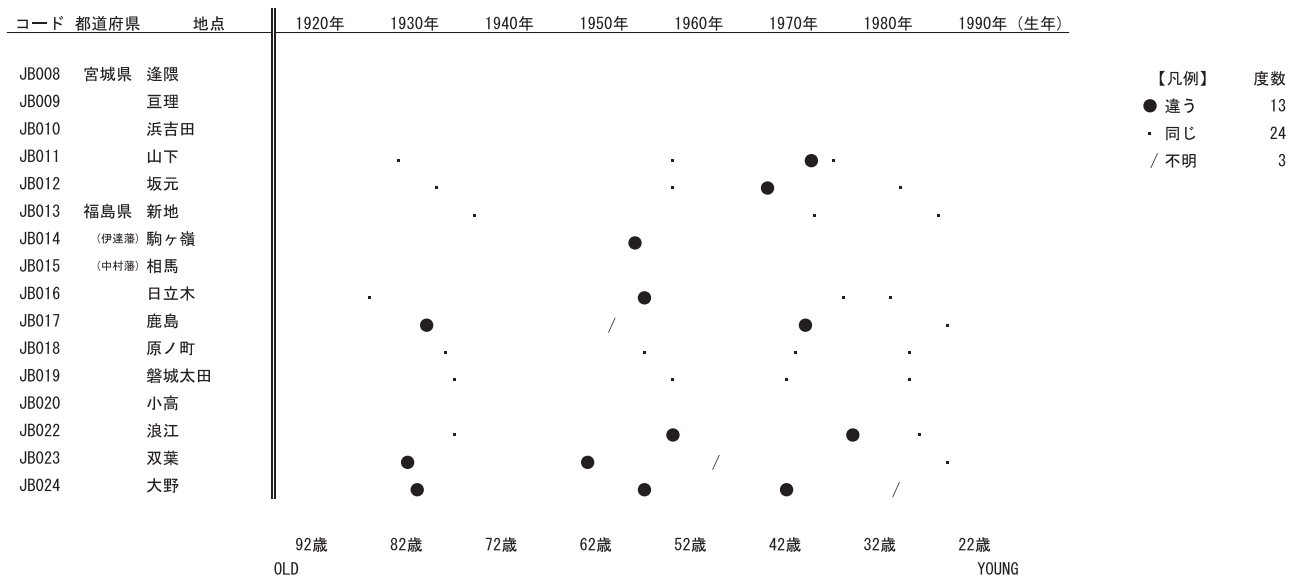


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 102-2. トカゲとの区別

【写真】こちらの生き物(トカゲの写真を示す)も同じ名前ですか。それとも別の呼び方をしますか。

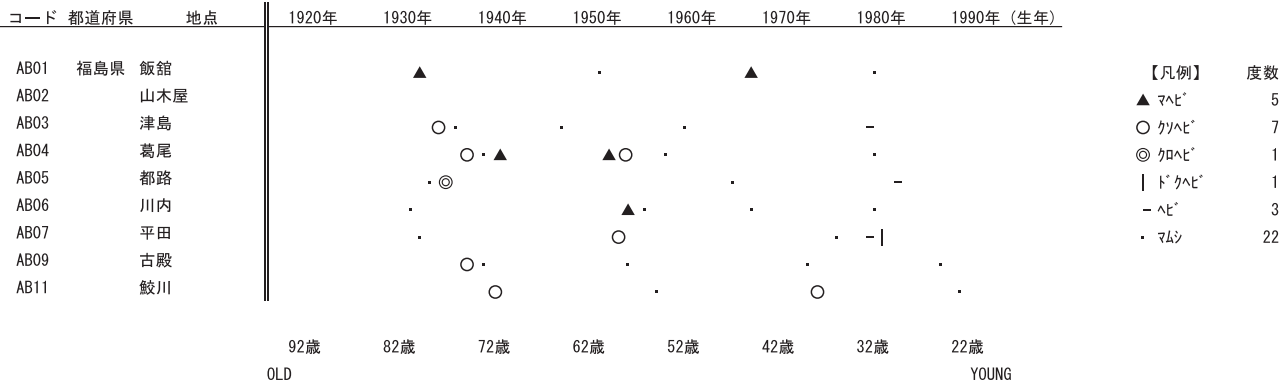


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 104. まむし

【写真】毒を持っている蛇ですが、何と言いますか。色は茶色で黒い銭形の紋があります。

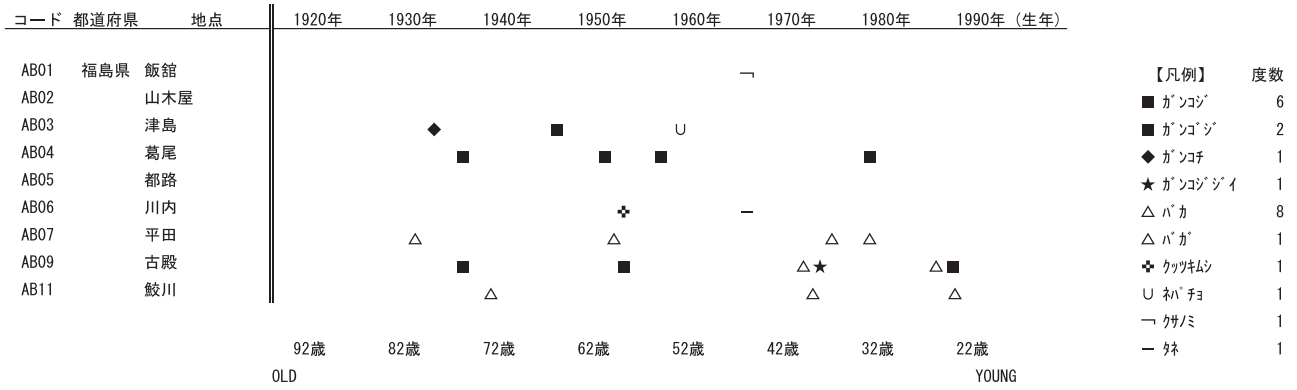


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 105. おなもみ

【写真】草むらに入るとこのような草の実が服にくっついてくるがありますが、これはなんと言いますか？

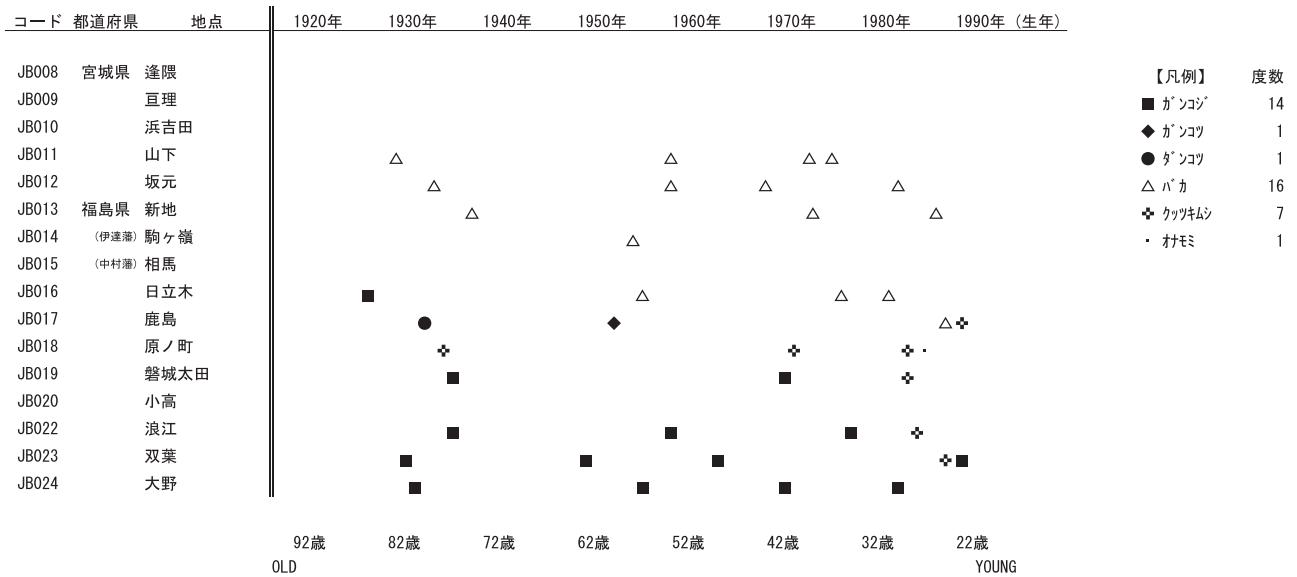


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 103. おなもみ

【写真】草むらに入るとこのような草の実が服にくっついてくるがありますが、これはなんと言いますか？

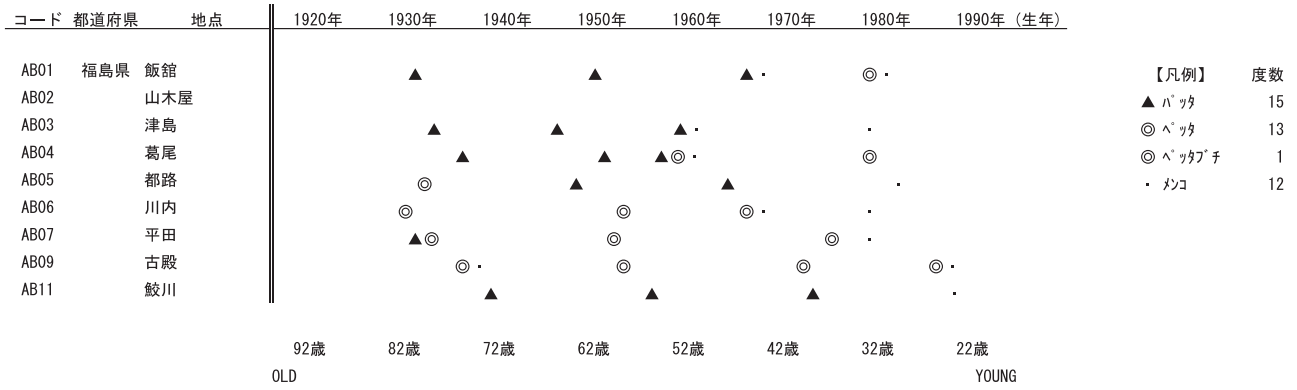


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 106. めんこ

【写真】丸い厚紙の上に絵の描いてあるもので、こういう遊びに使うもののはなんと云いますか？

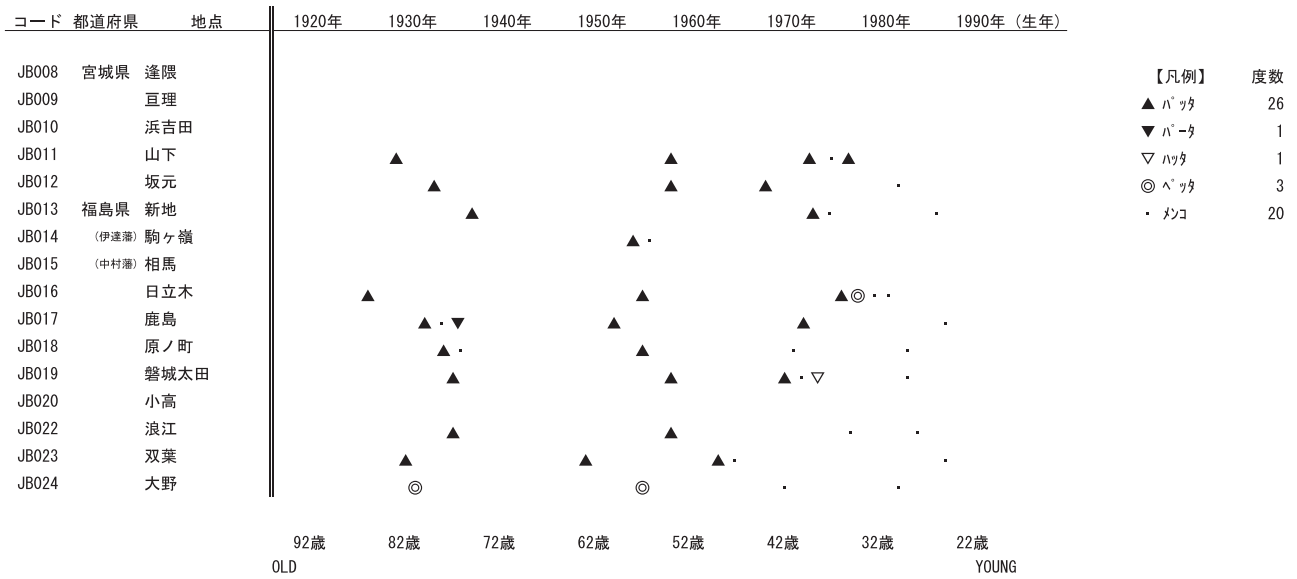


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 105. めんこ

【写真】丸い厚紙の上に絵の描いてあるもので、こういう遊びに使うもののはなんと云いますか？

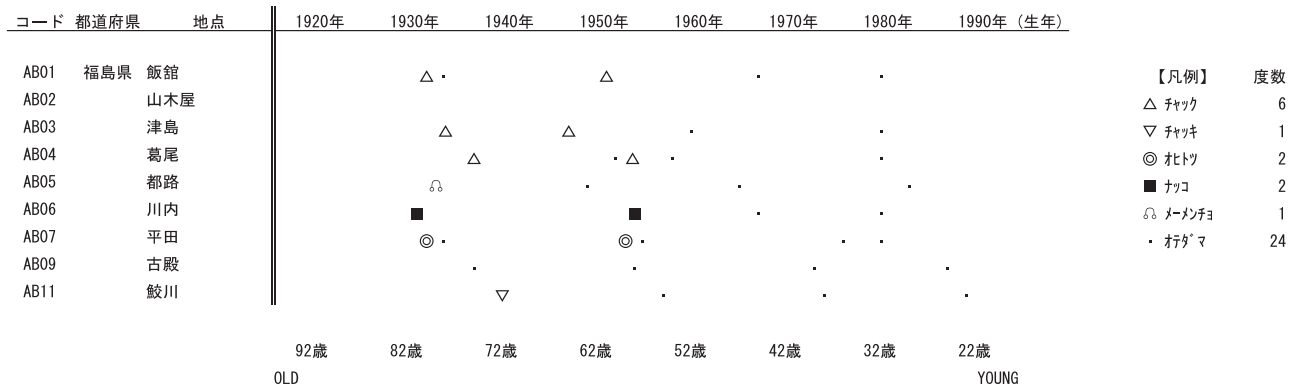


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 107. お手玉

【写真】女の子のこういう遊びで使う小さな袋のことを何と言いますか。



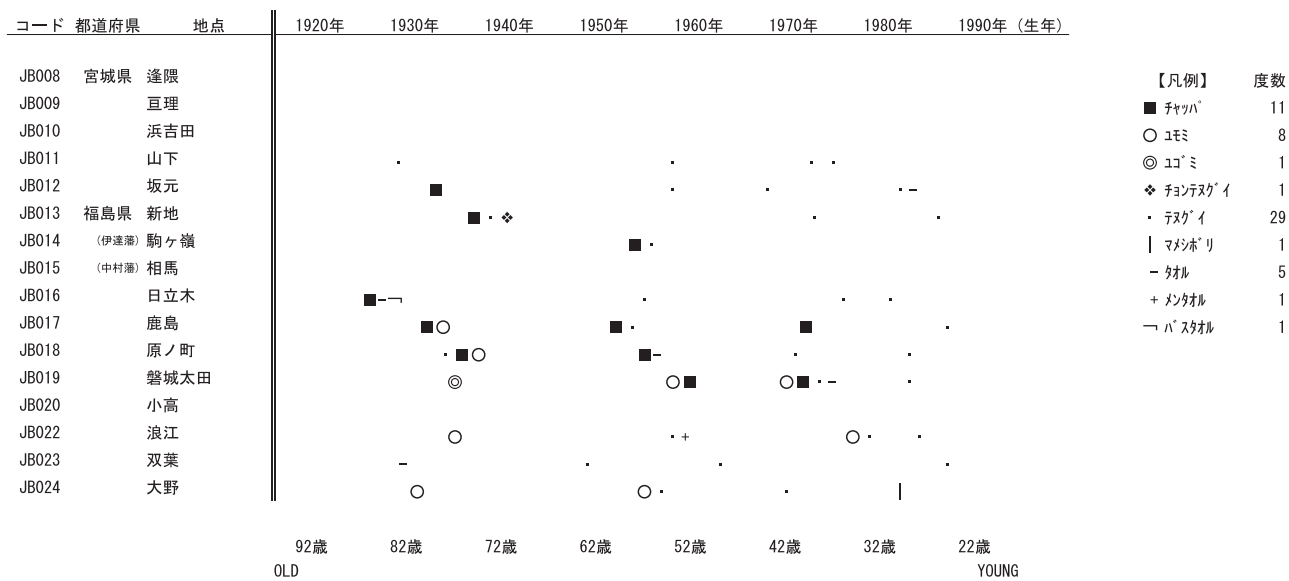
【凡例】	度数
△ チャック	6
▽ チャッキ	1
◎ オヒツ	2
■ ナッコ	2
㊦ メーメンチョ	1
・ 杉ダマ	24

阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 106. 手ぬぐい

【写真】お風呂で使う手ぬぐいのことをなんと言いますか？

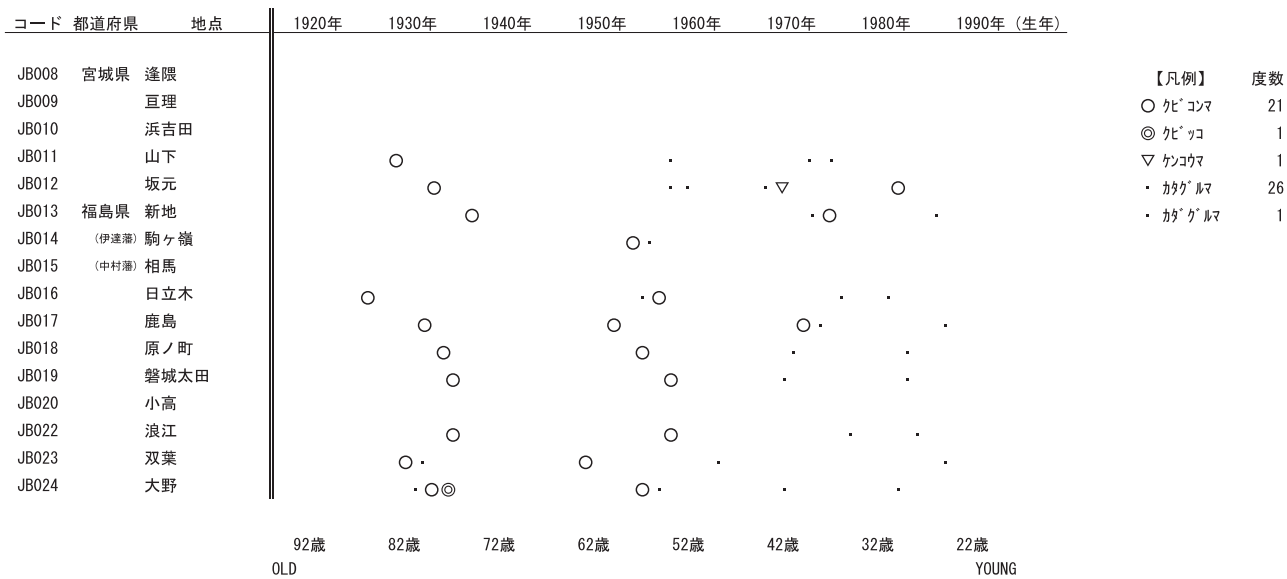


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 112. 肩車

【絵】子供を首にまたがせて、肩に乗せることをなんと言いますか？

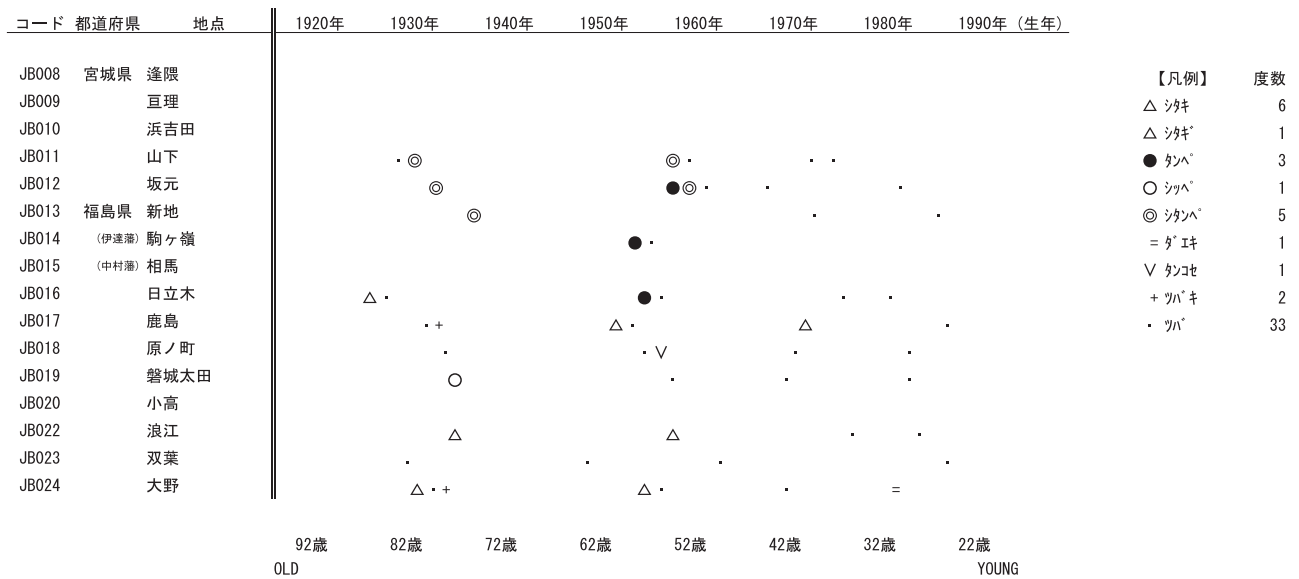


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 108. 唾

口からべっぺっと出るものです。切手を貼る時にペロツとなめたりすることがありますが、そのときつける水のようなものをなんと言いますか？

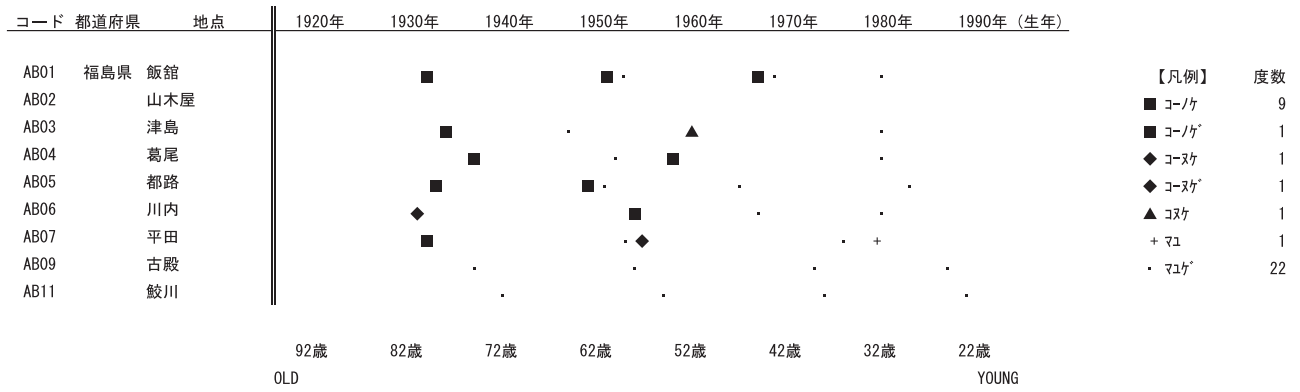


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 108. 眉毛

【実物】人間の体の部分ですが、ここ(眉毛を指す)はなんと言いますか？

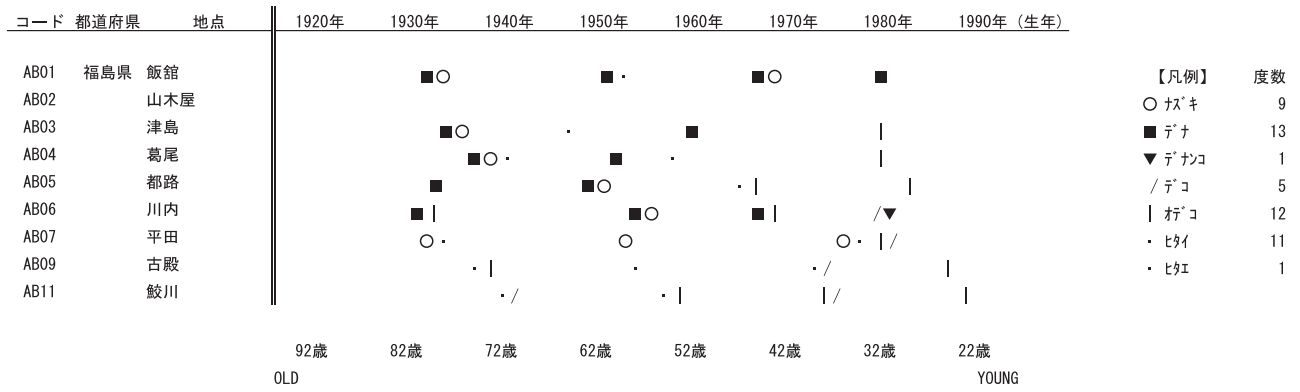


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 109. 額

【実物】ではここ(額を指す)はどうでしょうか？

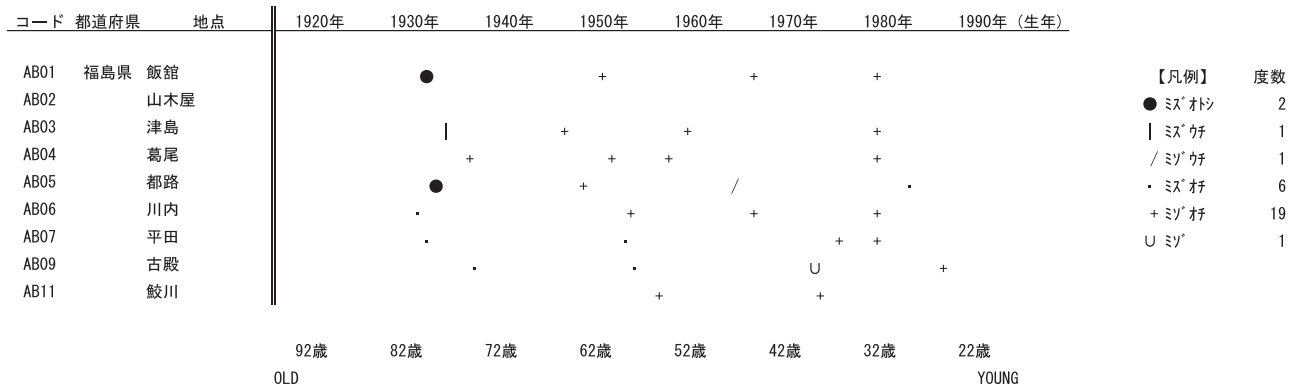


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 111. 鳩尾

【実物】ここ(鳩尾を指す)はどうですか？

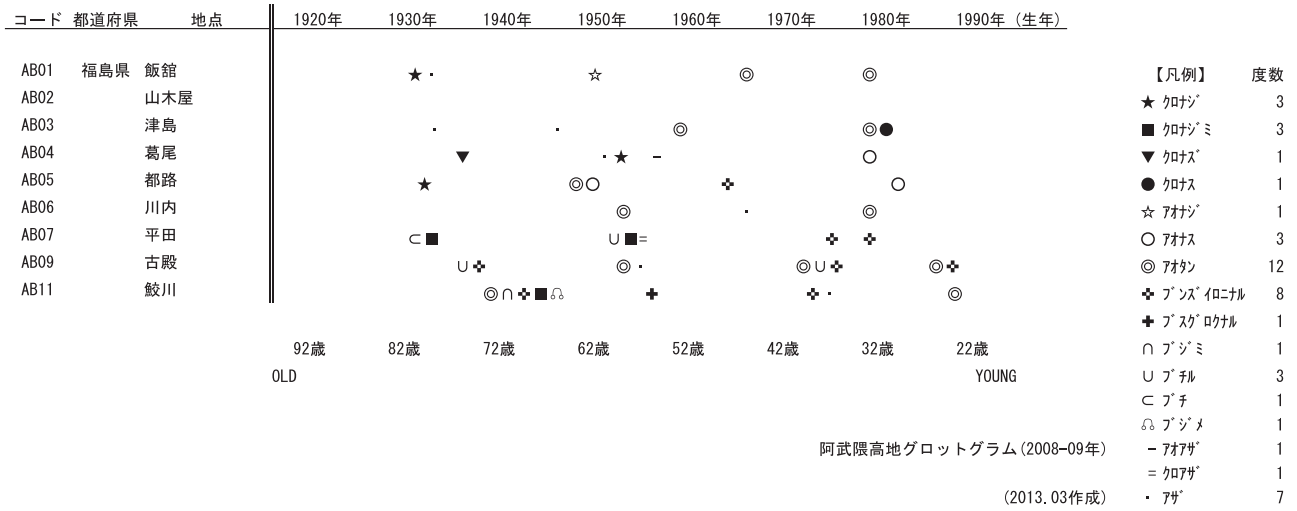


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

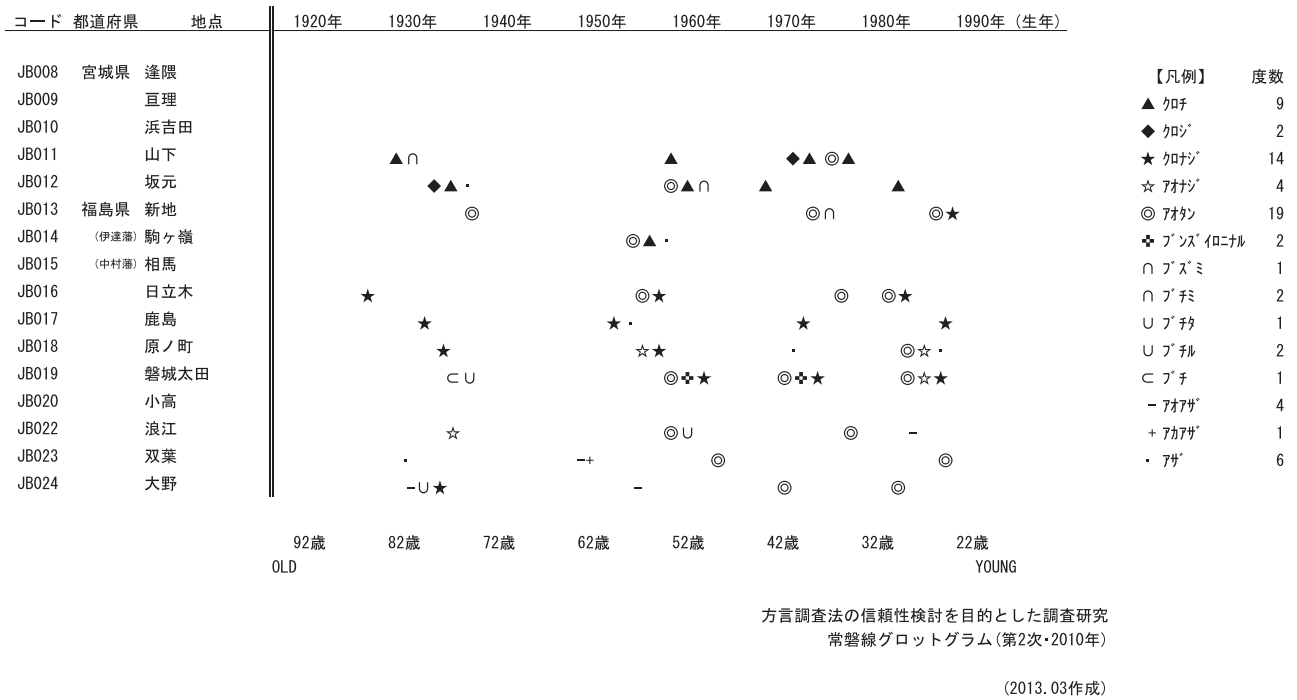
■ 113. あざができる

足をぶつつけたりすると、そのあとが青黒くなって、二三日消えないことがあります。そういうものを「何ができた」とか「どうなった」と言いますか？



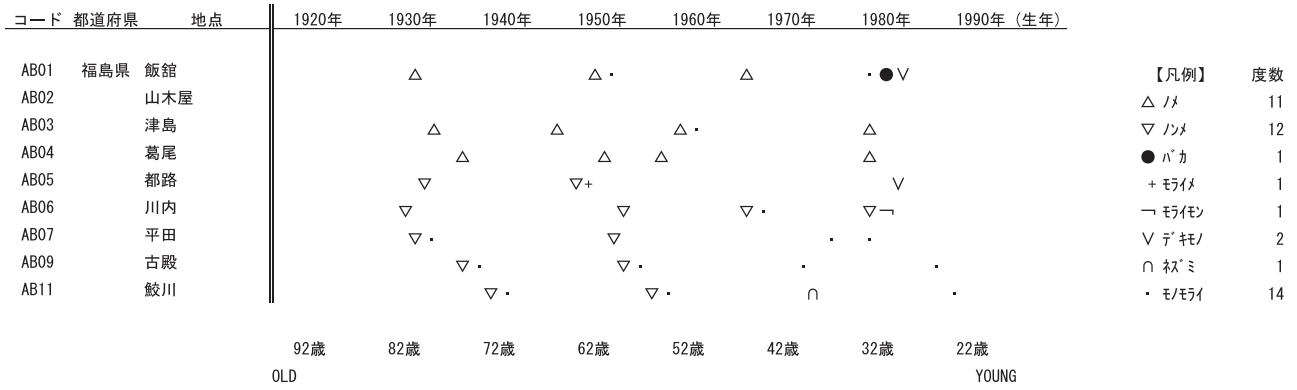
■ 107. あざができる

足をぶつつけたりすると、そのあとが青黒くなって、二三日消えないことがあります。そういうものを「何ができた」とか「どうなった」と言いますか？



■ 114. ものもらい

まぶたのへりにぶつっとできる小さなできもののことです。赤く腫れてむずがゆくなります。

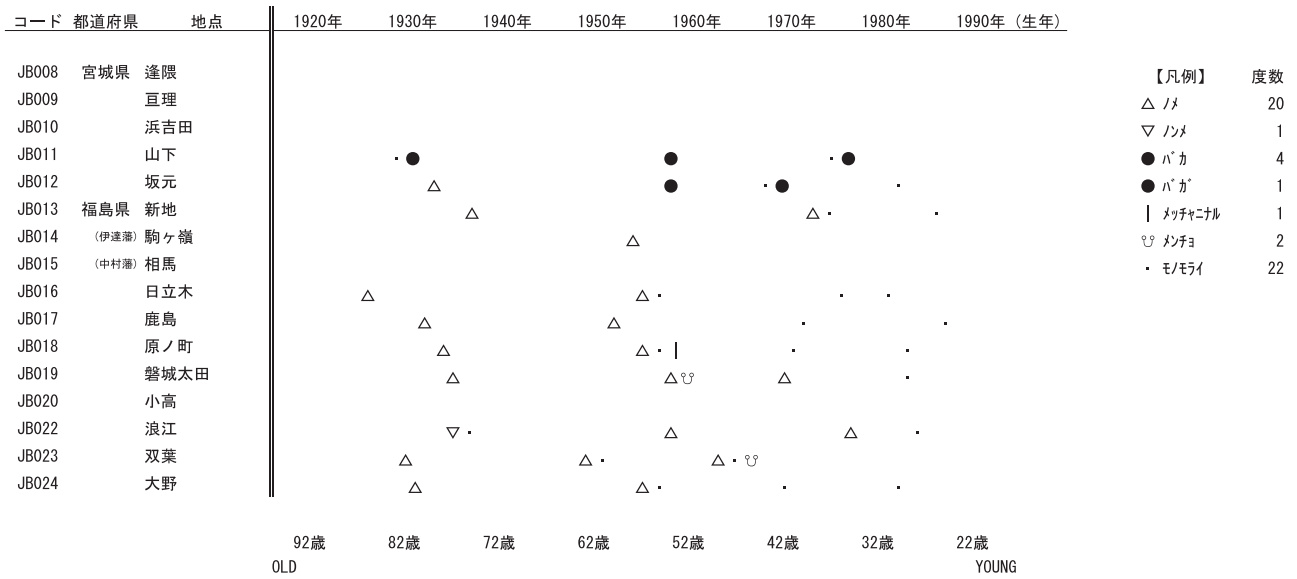


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 109. ものもらい

まぶたのへりにぶつっとできる小さなできもののことです。赤く腫れてむずがゆくなります。

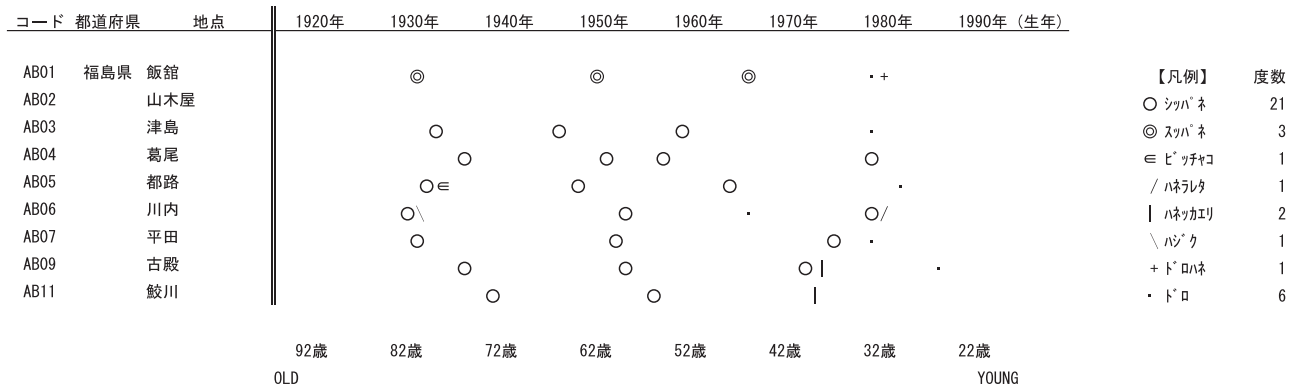


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 115. 泥はね

雨の中を歩くと着物やズボンのすそに泥をはねあげることがあります。この泥はなんと言いますか？

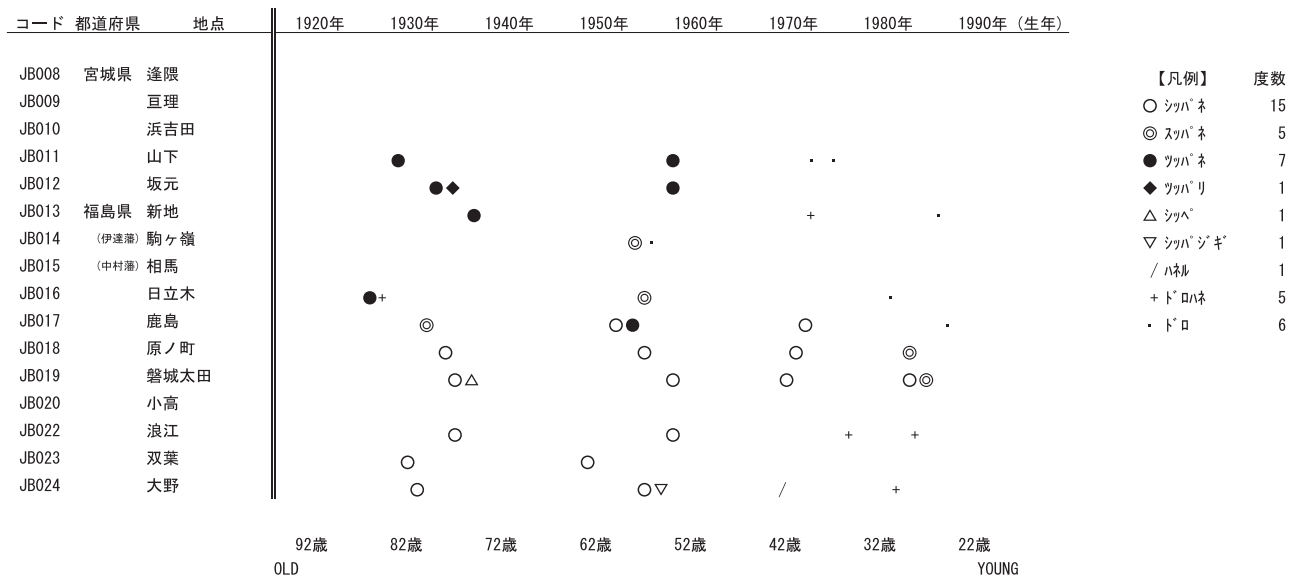


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 110. 泥はね

雨の中を歩くと着物やズボンのすそに泥をはねあげることがあります。この泥はなんと言いますか？

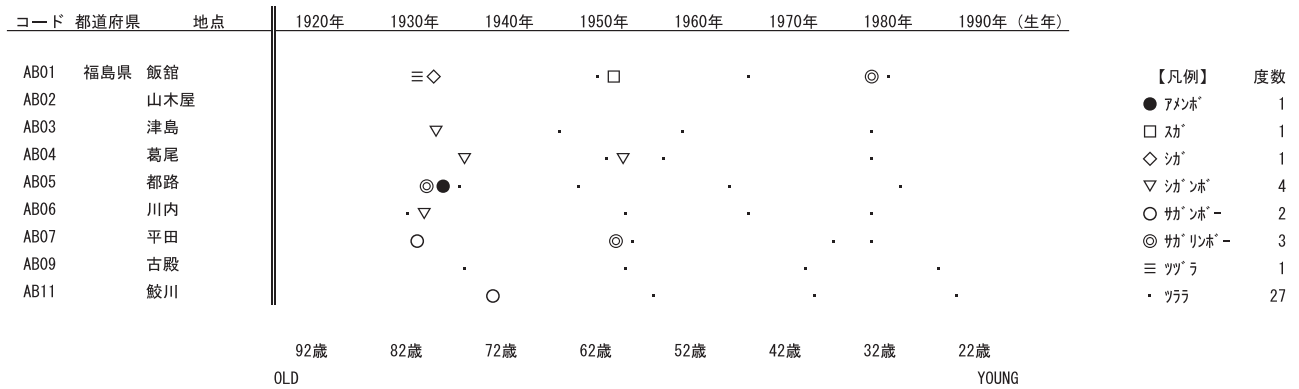


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 116. 氷柱

【写真】冬、寒い朝などに軒先に氷の棒下がりますね。あれはなんと言いますか？

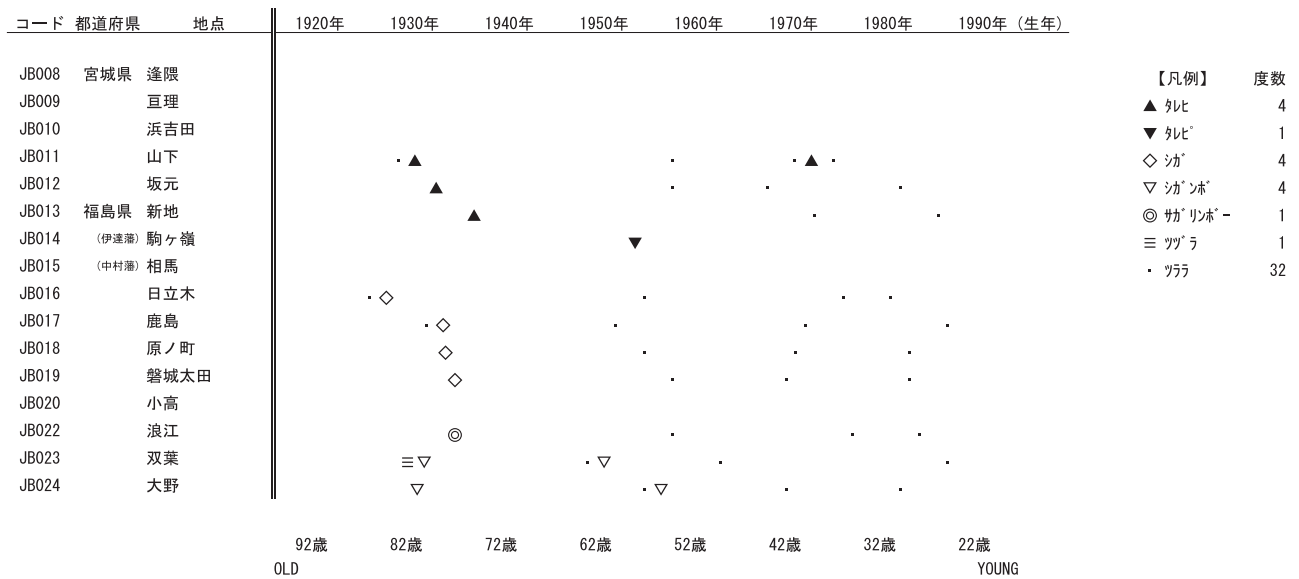


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 111. 氷柱

【写真】冬、寒い朝などに軒先に氷の棒下がりますね。あれはなんと言いますか？

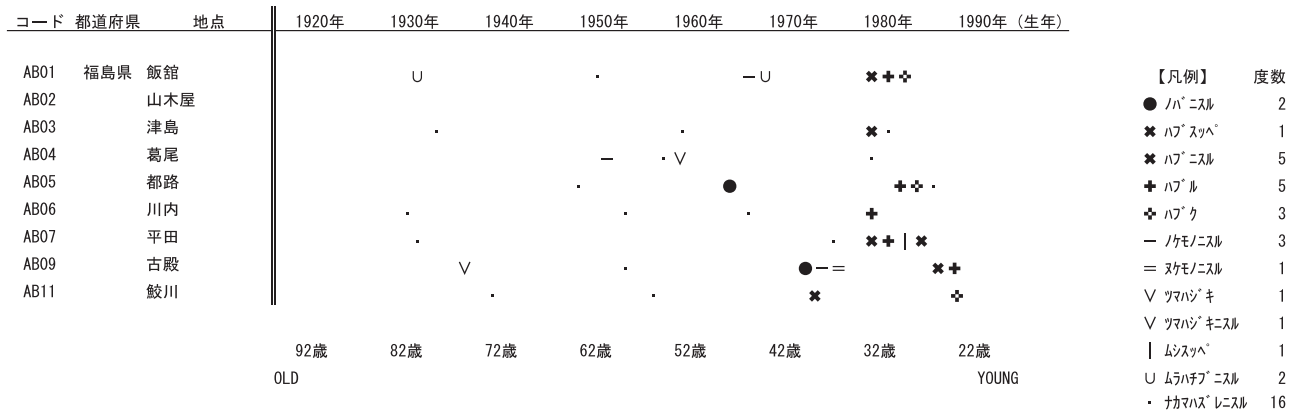


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 118. 仲間はずれ

「仲間はずれ」にするということはどう言いますか？

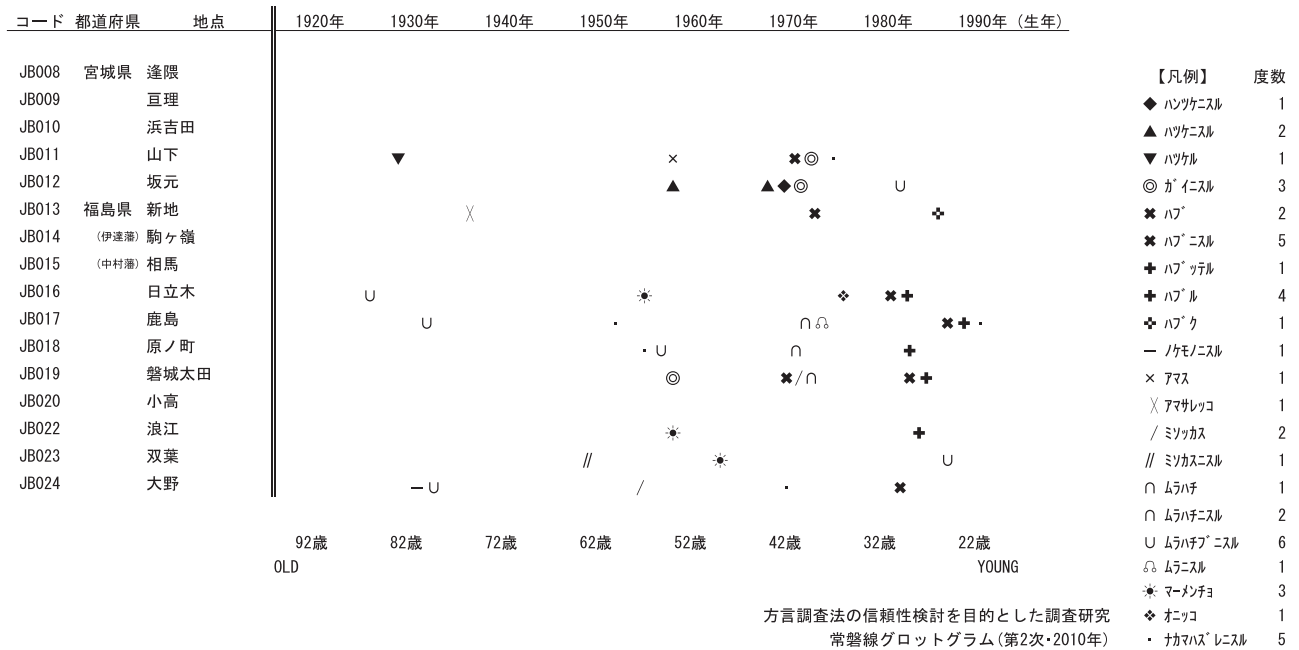


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 114. 仲間はずれ

「仲間はずれ」にするということはどう言いますか？

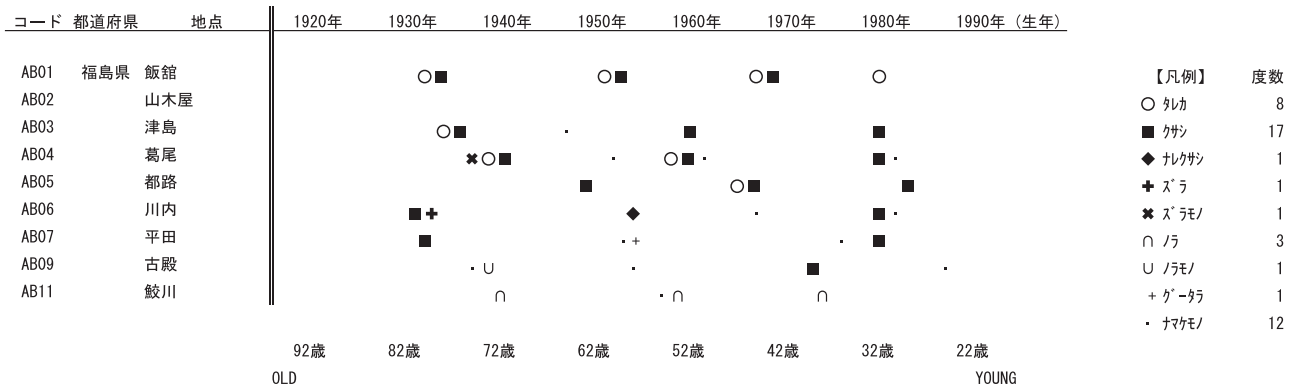


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 119. 怠け者

仕事をしがらない「怠け者」のことをどう言いますか？

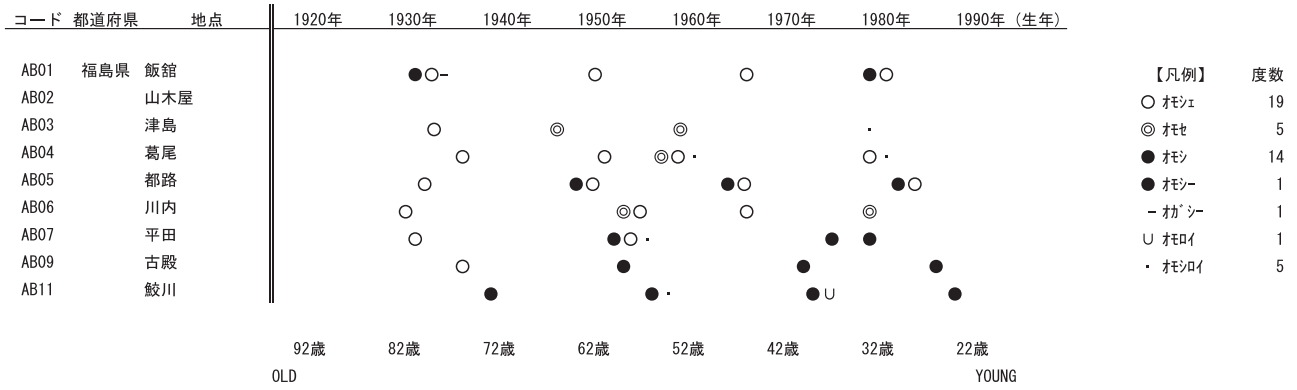


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 121. おもしろい

「面白い」ということをなんと言いますか？

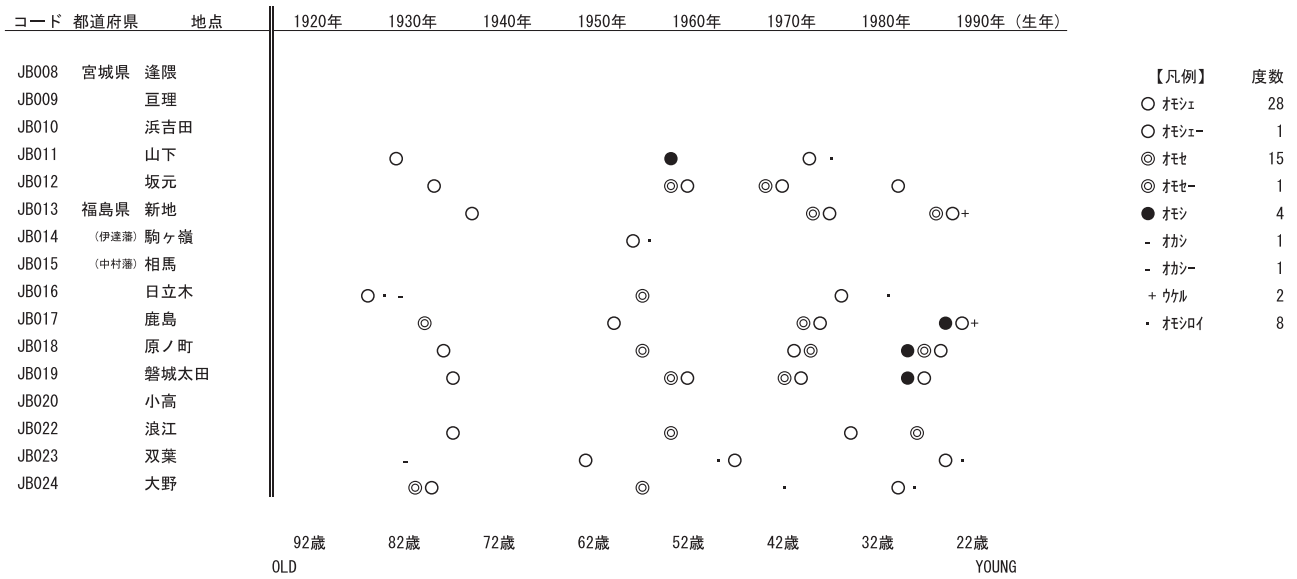


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 115. おもしろい

「面白い」ということをなんと言いますか？

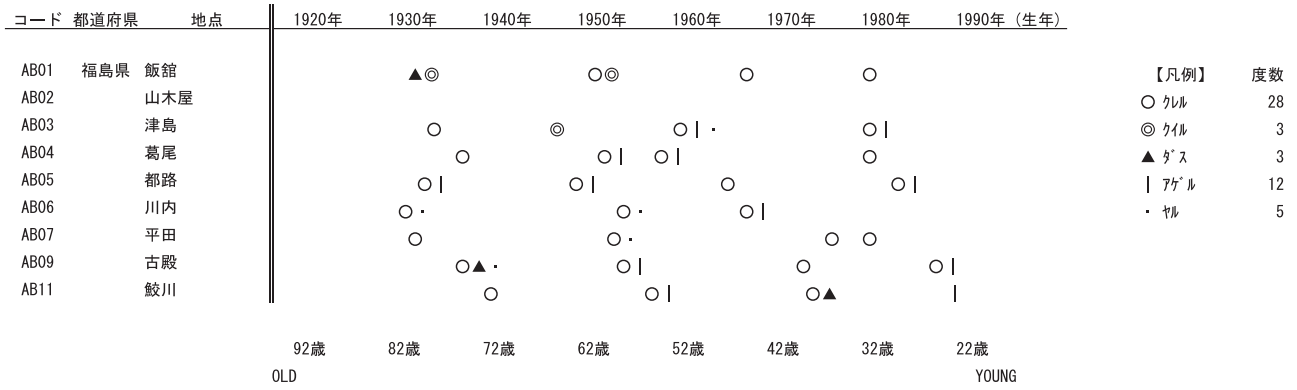


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 122. やる

人にものを与えるということです。例えば子供に「小遣いをどうする」と言いますか？

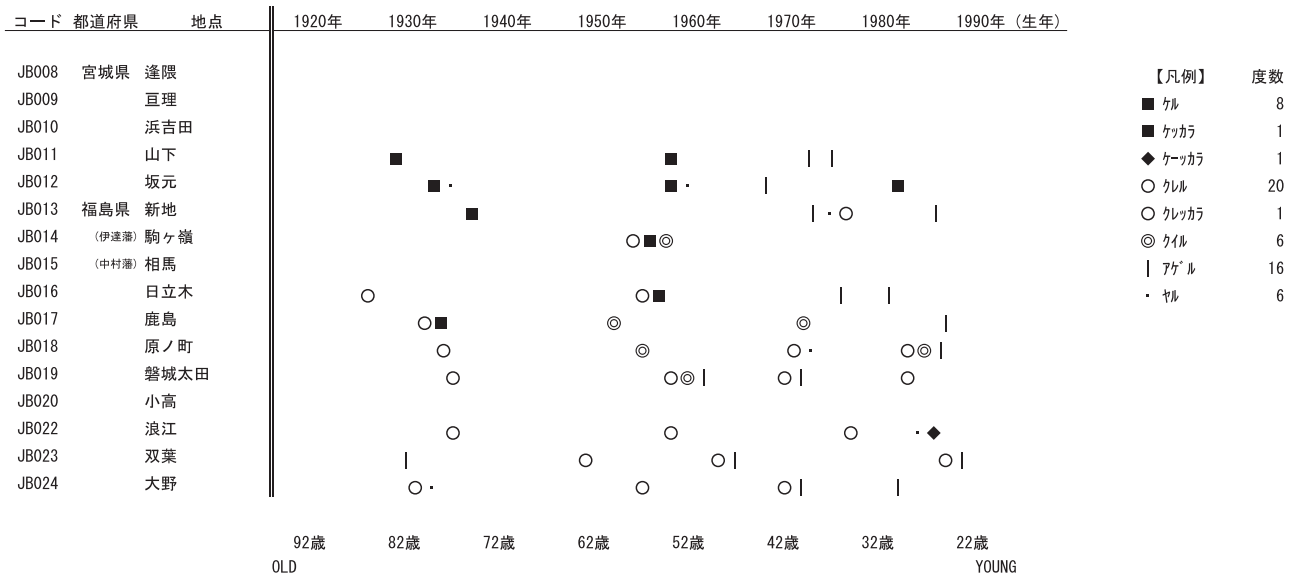


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 116. やる

人にものを与えるということです。例えば子供に「小遣いをどうする」と言いますか？

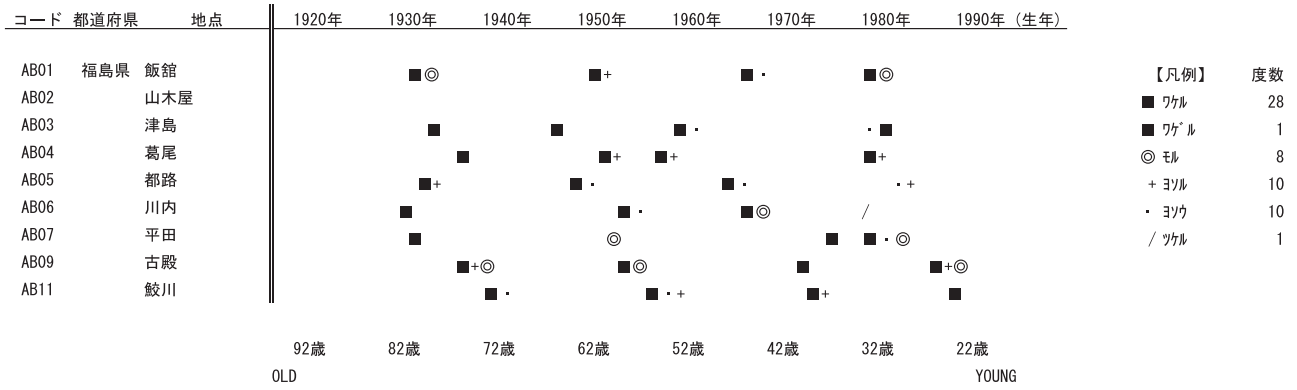


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 123. よそう

茶碗にご飯をどうすると言いますか？

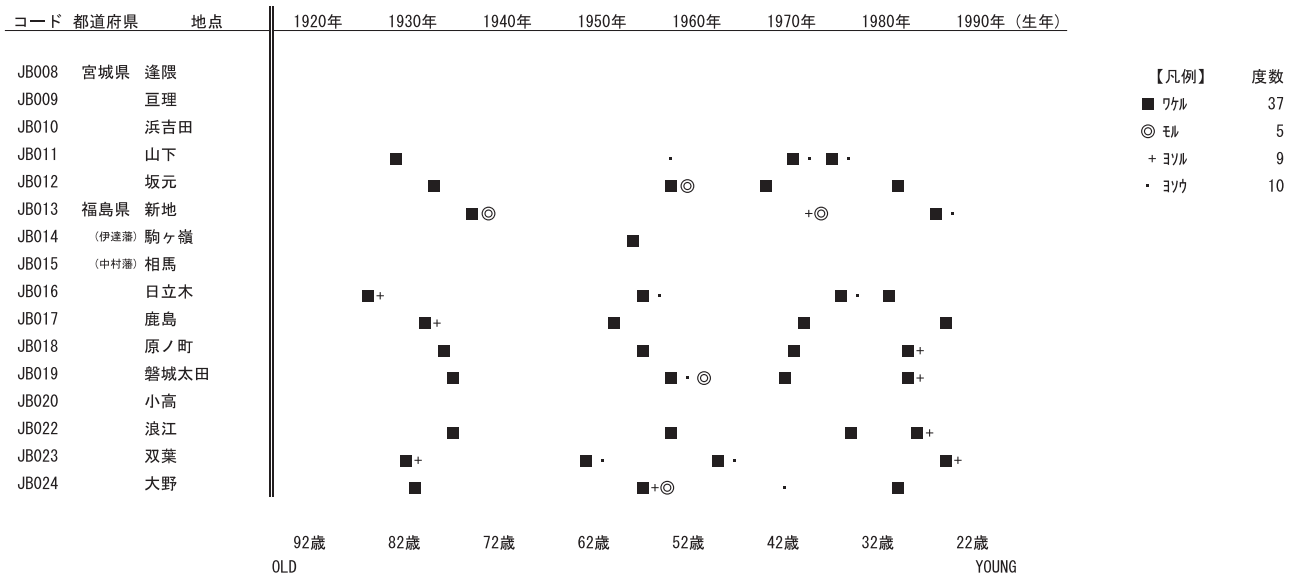


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 117. よそう

茶碗にご飯をどうすると言いますか？

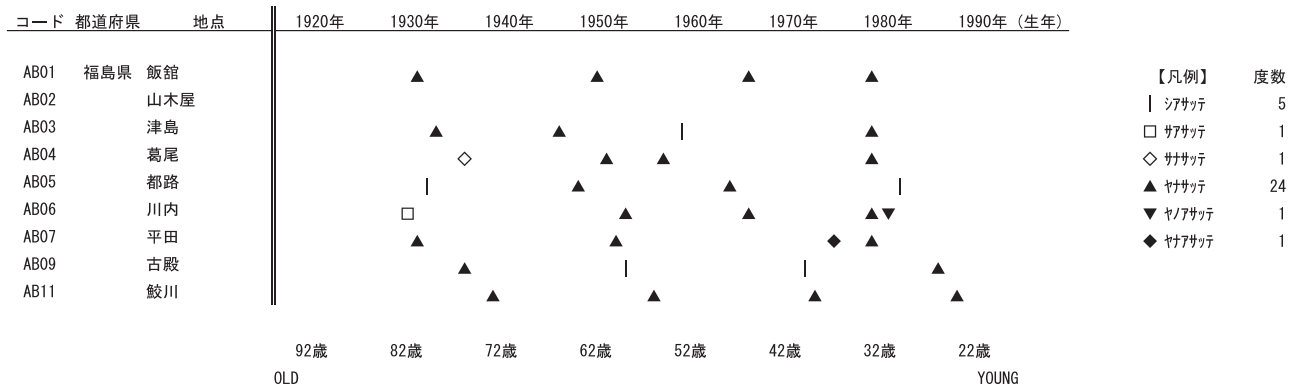


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 124. 明々後日

日付の言い方です。今日、明日、あさって。ではその次の日の言い方はどうですか？

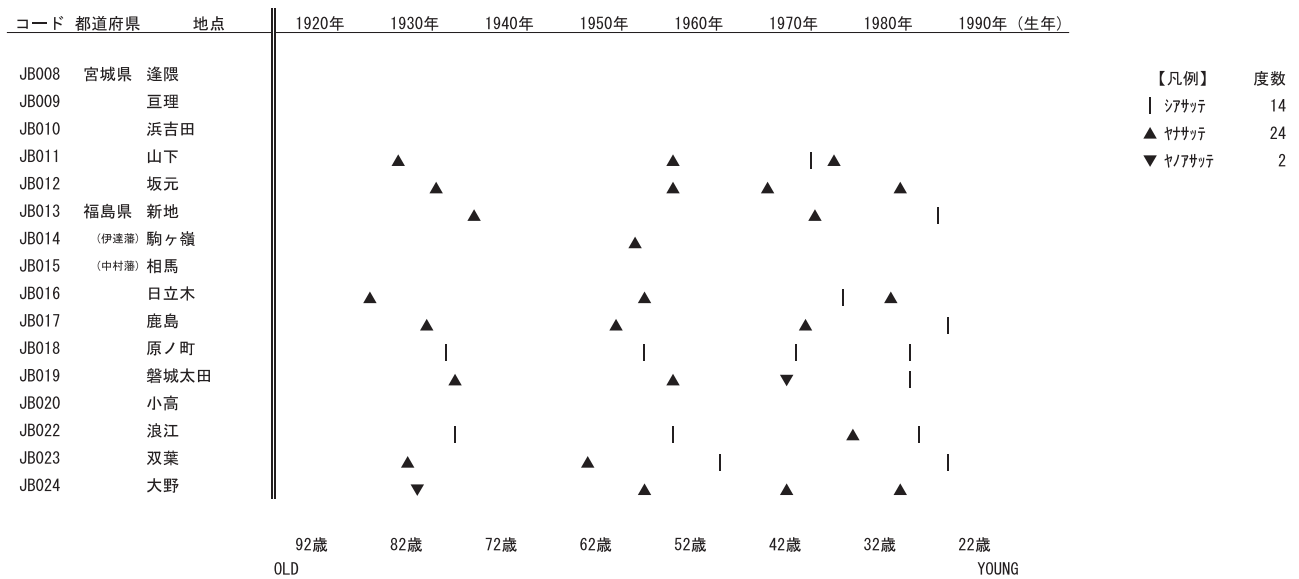


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 118. 明々後日

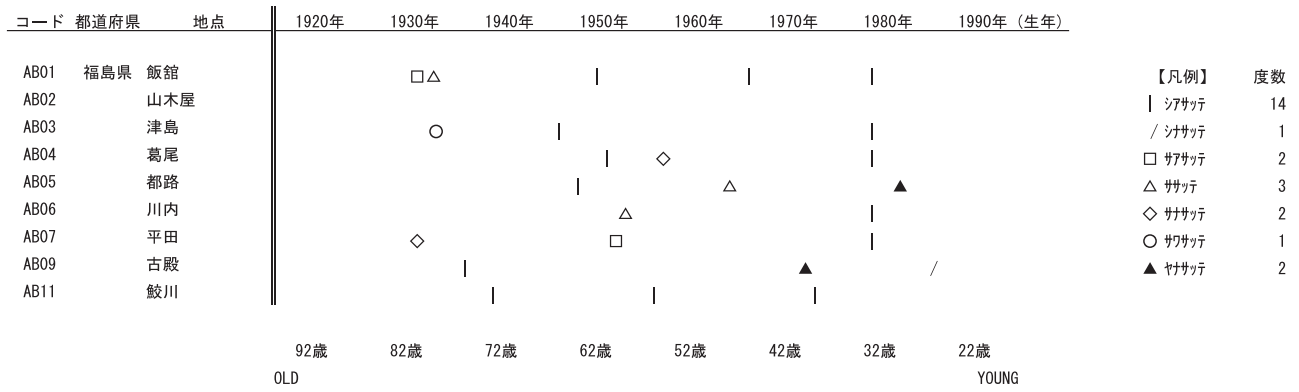
日付の言い方です。今日、明日、あさって。ではその次の日の言い方はどうですか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

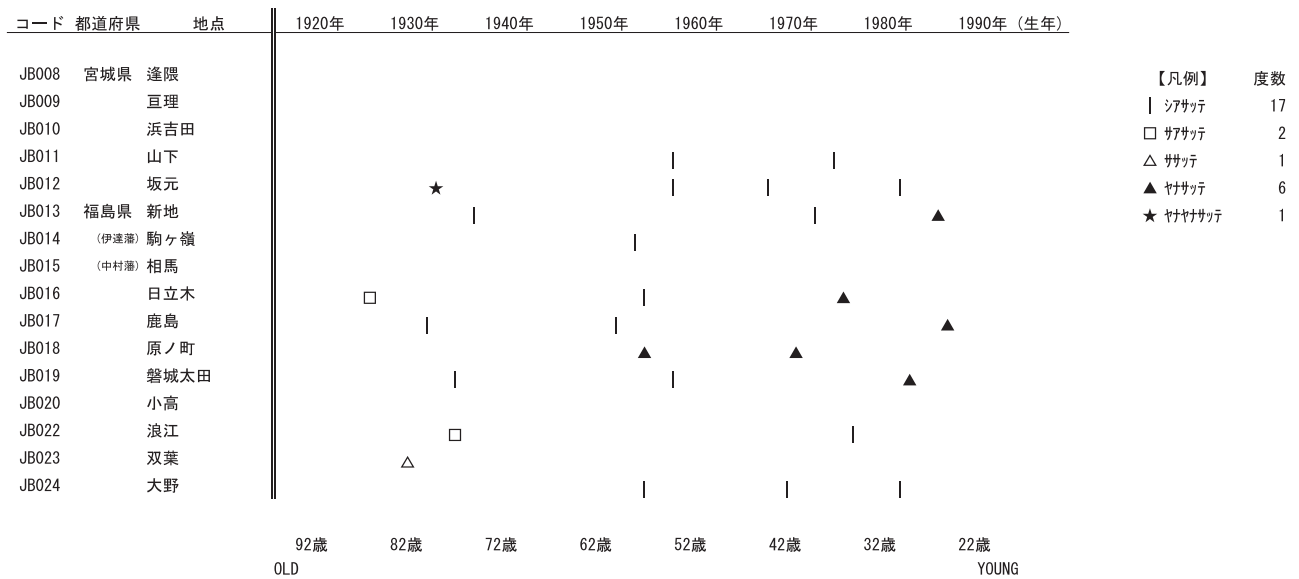
■ 125. 明々後日の翌日 では、さらにその次の日はどうでしょうか？



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 119. 明々後日の翌日 では、さらにその次の日はどうでしょうか？

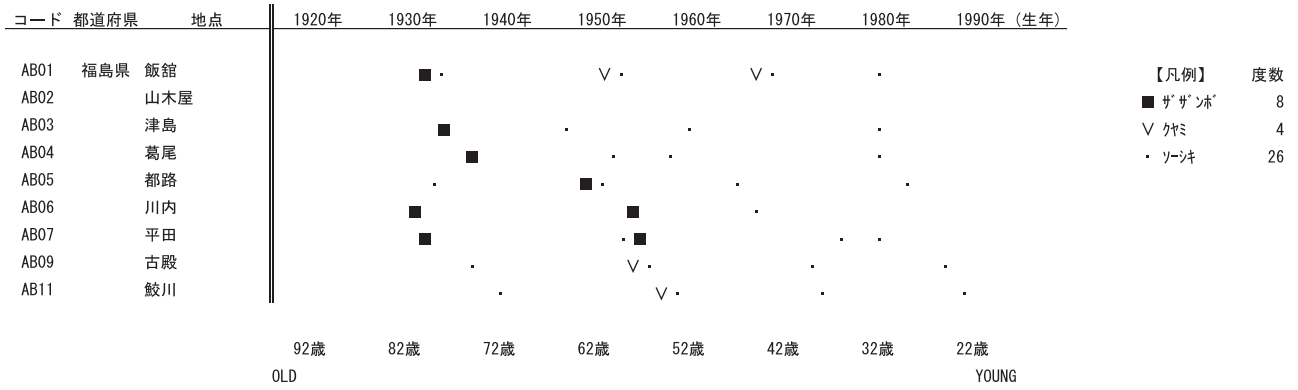


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 126. 葬式

人が死んだときに行う儀式のことはなんと言いますか？

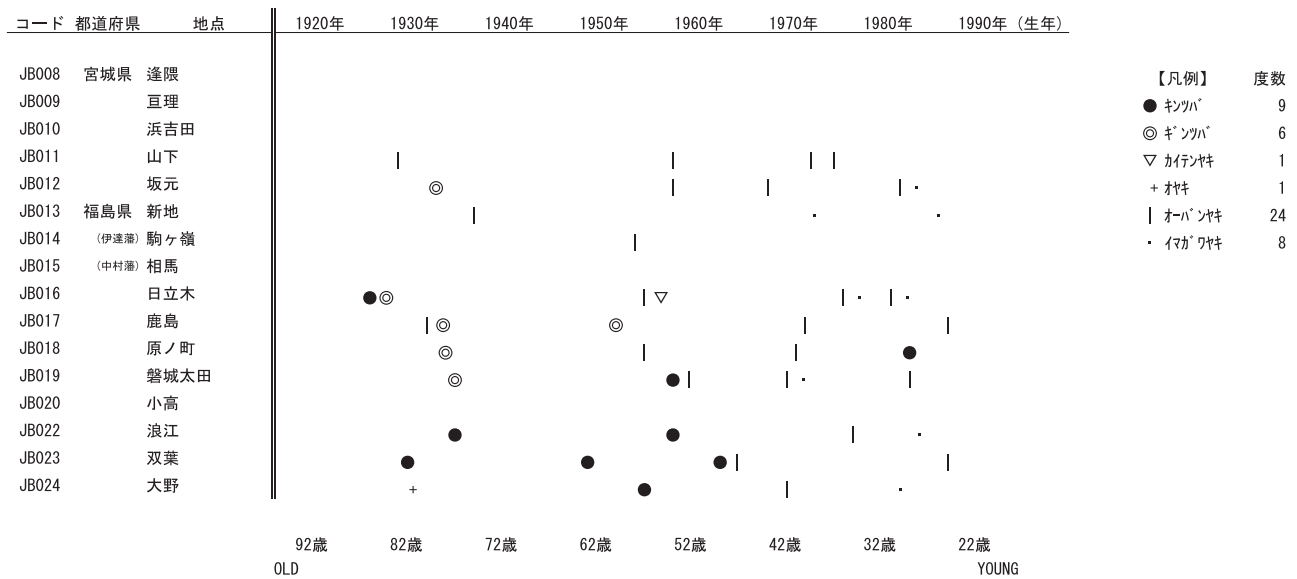


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 120. 今川焼き

【写真】このようなお菓子のことをなんと呼びますか？中に餡が入っていて丸く焼いたお菓子です。

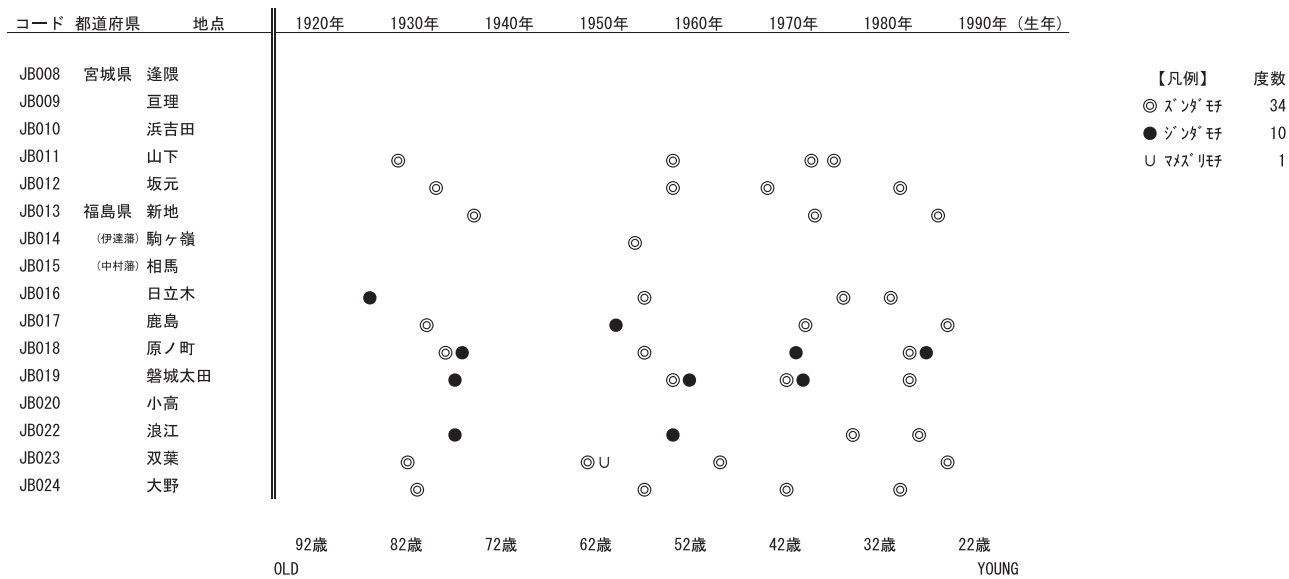


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 121. ずんだ餅

【写真】ではこのような菓子はいかがでしょう。豆をすりつぶしてお餅にからめたお菓子です。

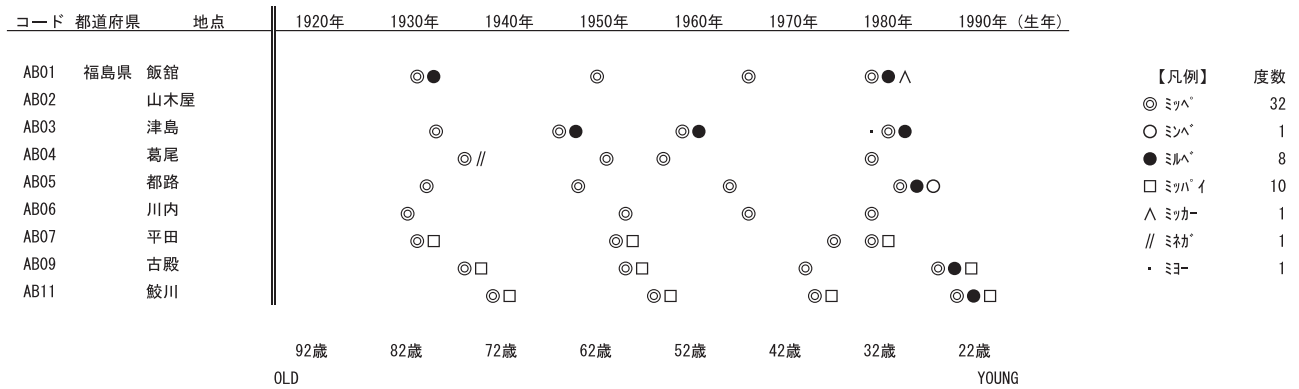


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 201. 見よう

「一緒にテレビを見ようよ」と誘うときの「見よう」の部分はどう言いますか？

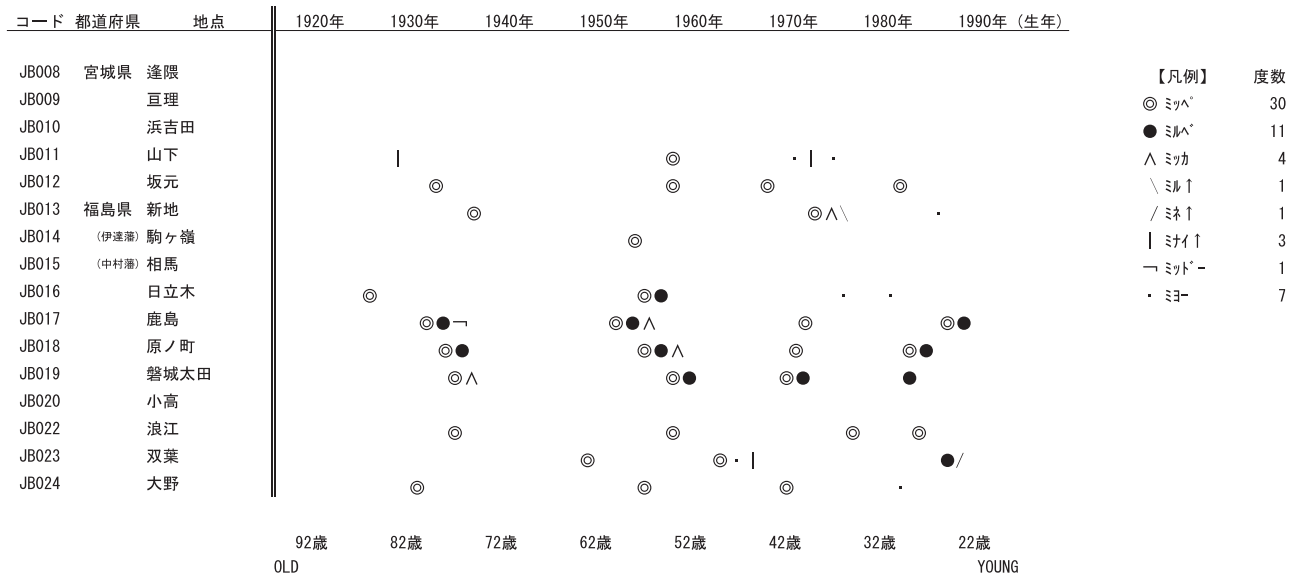


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 201. 見よう

「一緒にテレビを見ようよ」と誘うときの「見よう」の部分はどう言いますか？

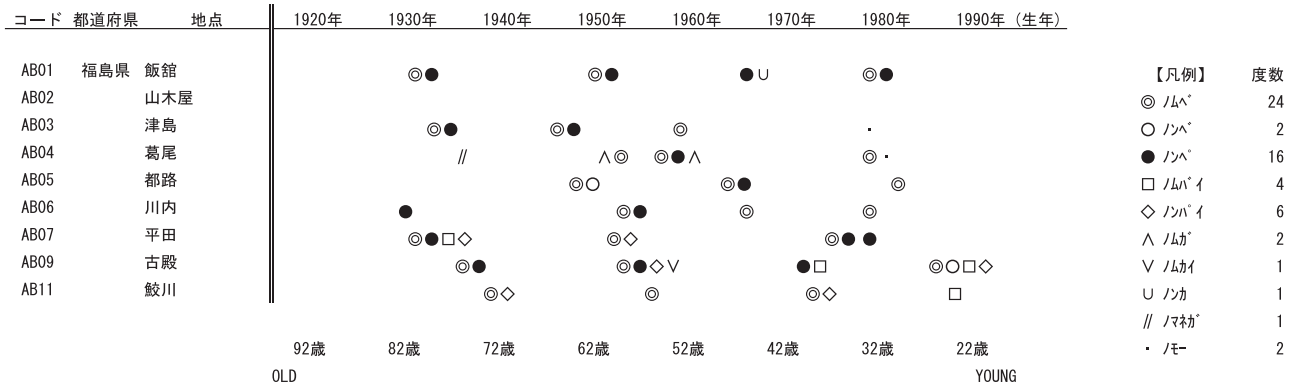


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 202. 飲もう

「一緒にお酒飲もう」と誘うときの「飲もう」の部分はどう言いますか？

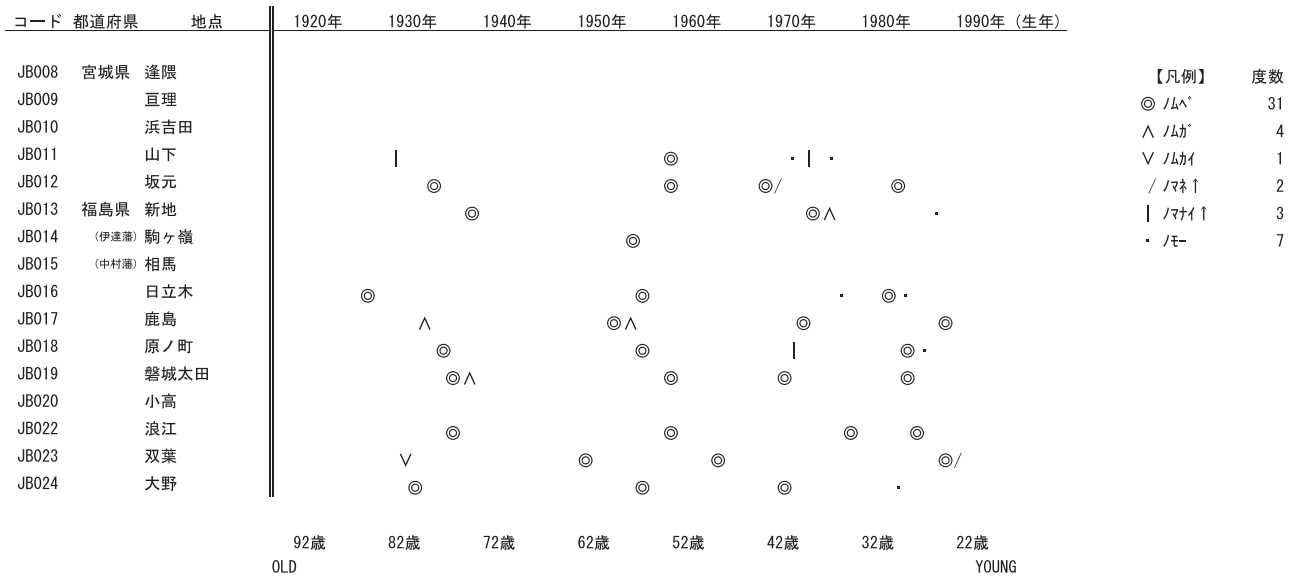


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 202. 飲もう

「一緒にお酒飲もう」と誘うときの「飲もう」の部分はどう言いますか？

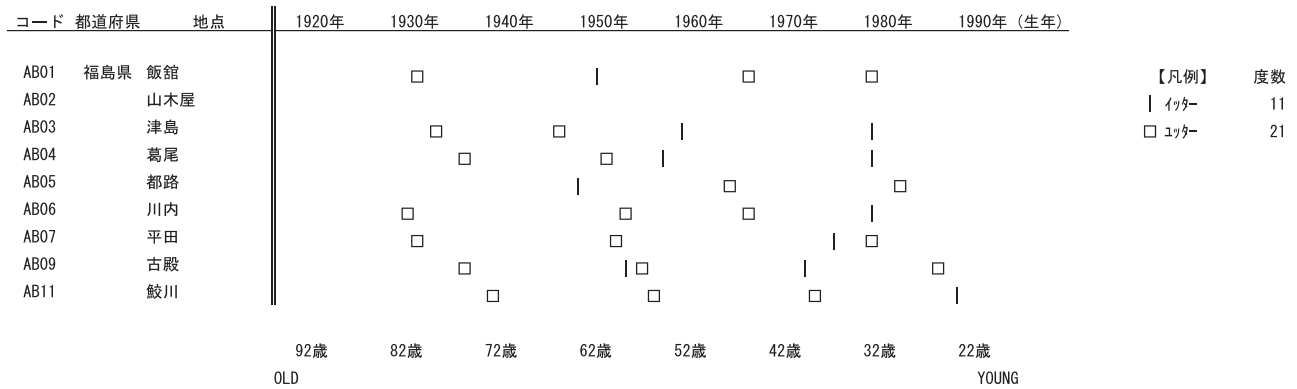


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 203. 言った(だろう)

相手が忘れているのを思い出させようとして「あなた昨日そう言ったじゃないですか・言ったでしょう」と言うときの「言ったでしょう」の部分はどう言いますか？

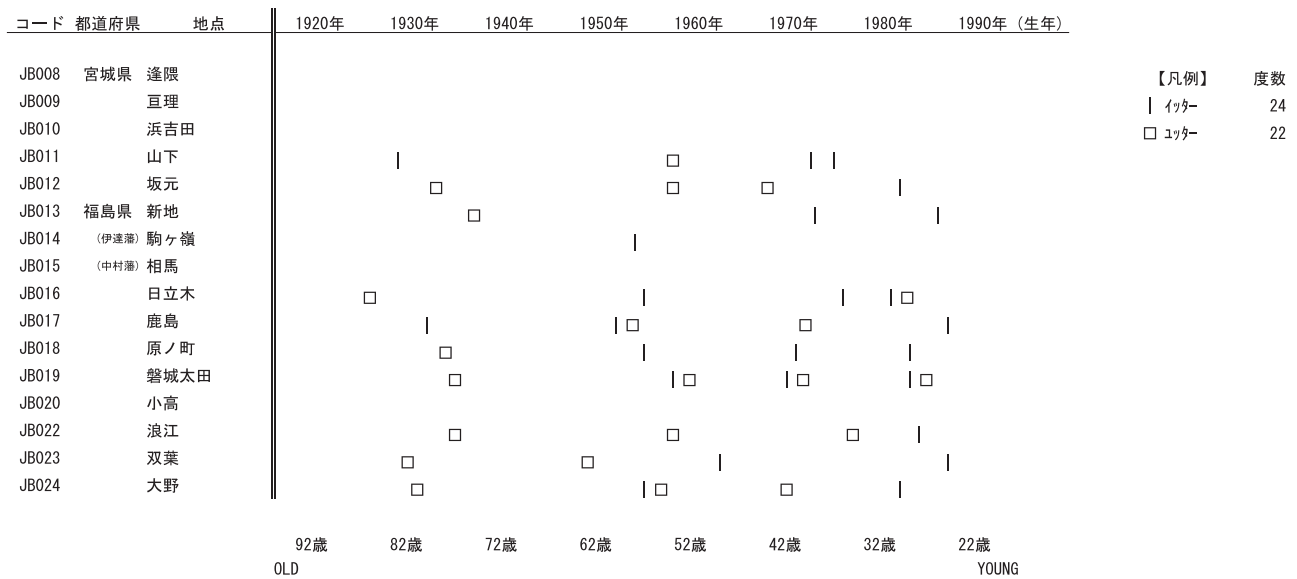


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 203. 言った(だろう)

相手が忘れているのを思い出させようとして「あなた昨日そう言ったじゃないですか・言ったでしょう」と言うときの「言ったでしょう」の部分はどう言いますか？

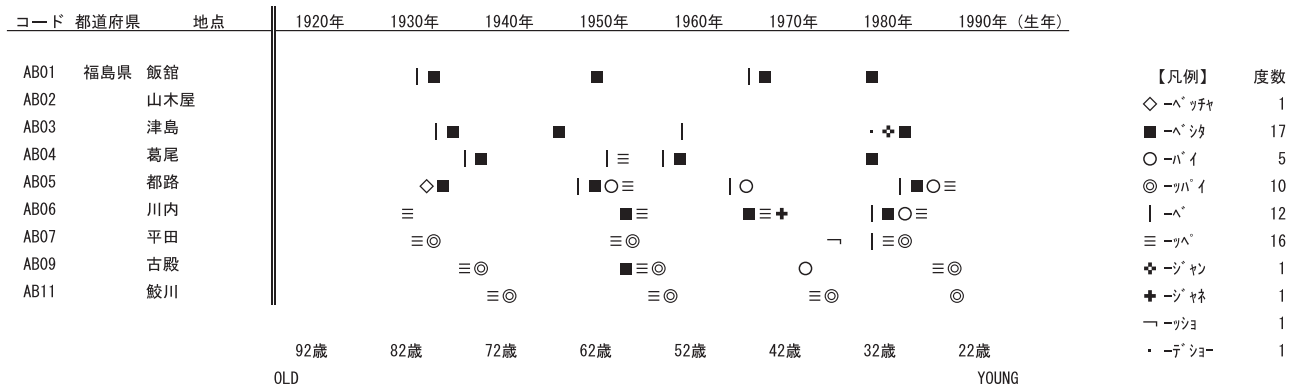


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 203. (言った) だろう

相手が忘れているのを思い出させようとして「あなた昨日そう言ったじゃないですか・言っただしょう」と言うときの「言っただしょう」の部分はどう言いますか？

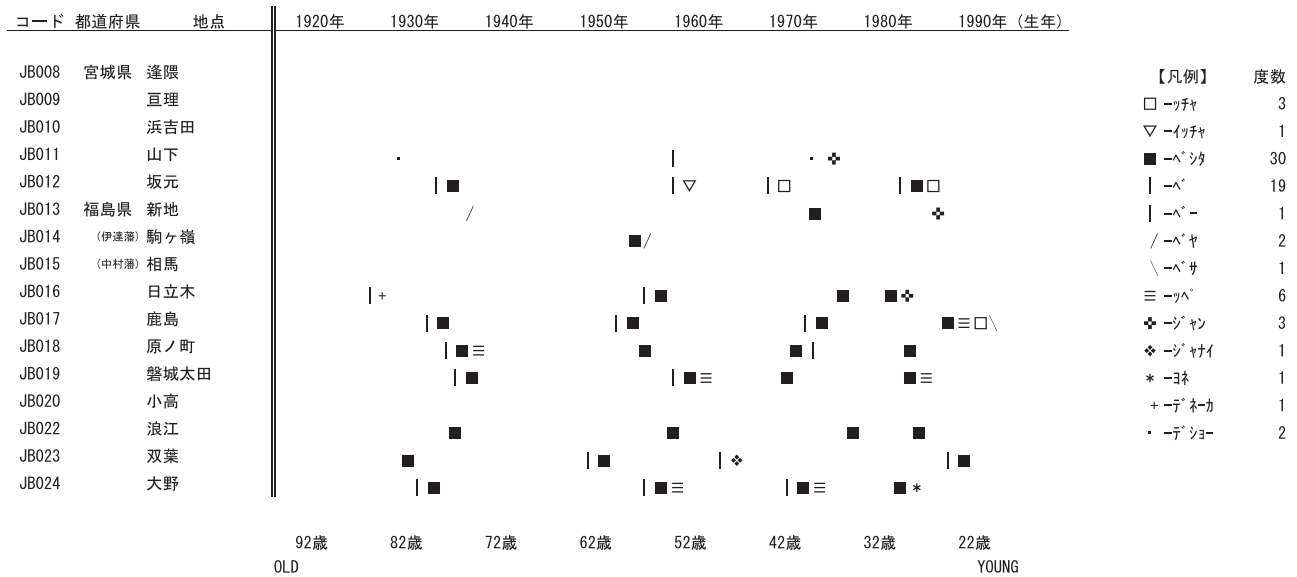


阿武隈高地グロットグラム (2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 203. (言った) だろう

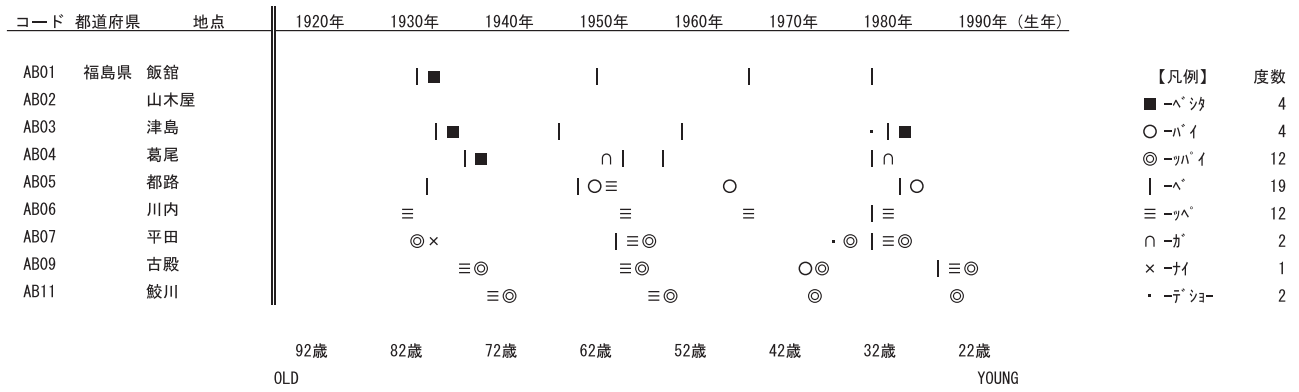
相手が忘れているのを思い出させようとして「あなた昨日そう言ったじゃないですか・言っただしょう」と言うときの「言っただしょう」の部分はどう言いますか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム (第2次・2010年)

(2013. 03作成)

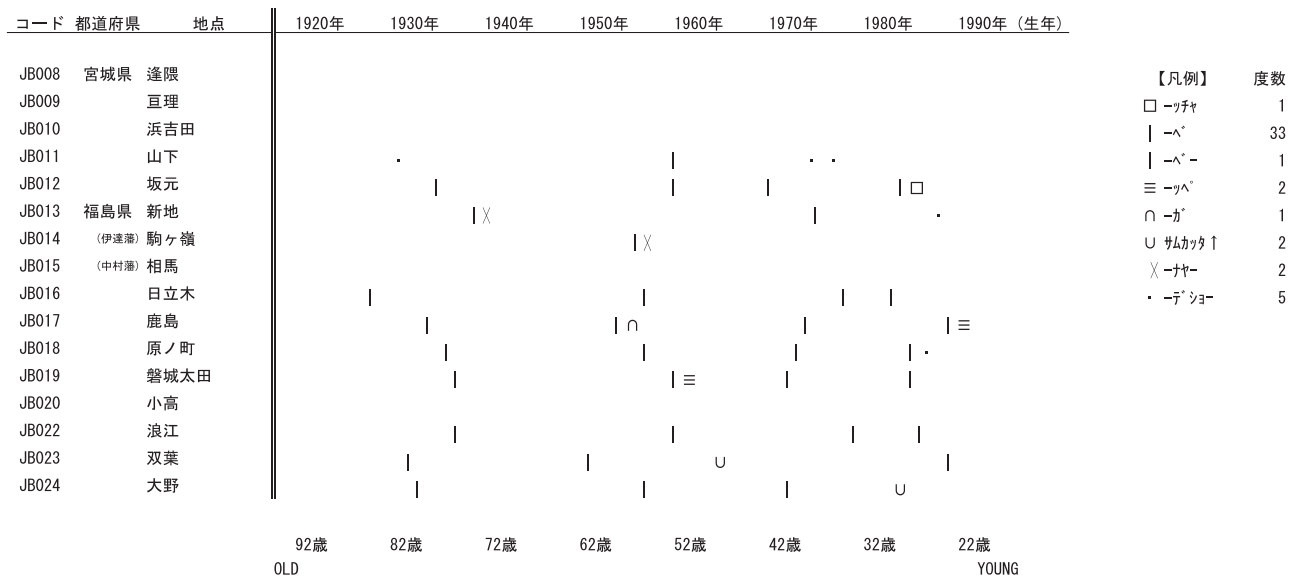
■ 204. (寒かった) だろう 冬、外から帰ってきた家族に「外はさぞ寒かったでしょう」と聞くときの「寒かったでしょう」の部分はどう言いますか？



阿武隈高地グロットグラム (2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 204. (寒かった) だろう 冬、外から帰ってきた家族に「外はさぞ寒かったでしょう」と聞くときの「寒かったでしょう」の部分はどう言いますか？

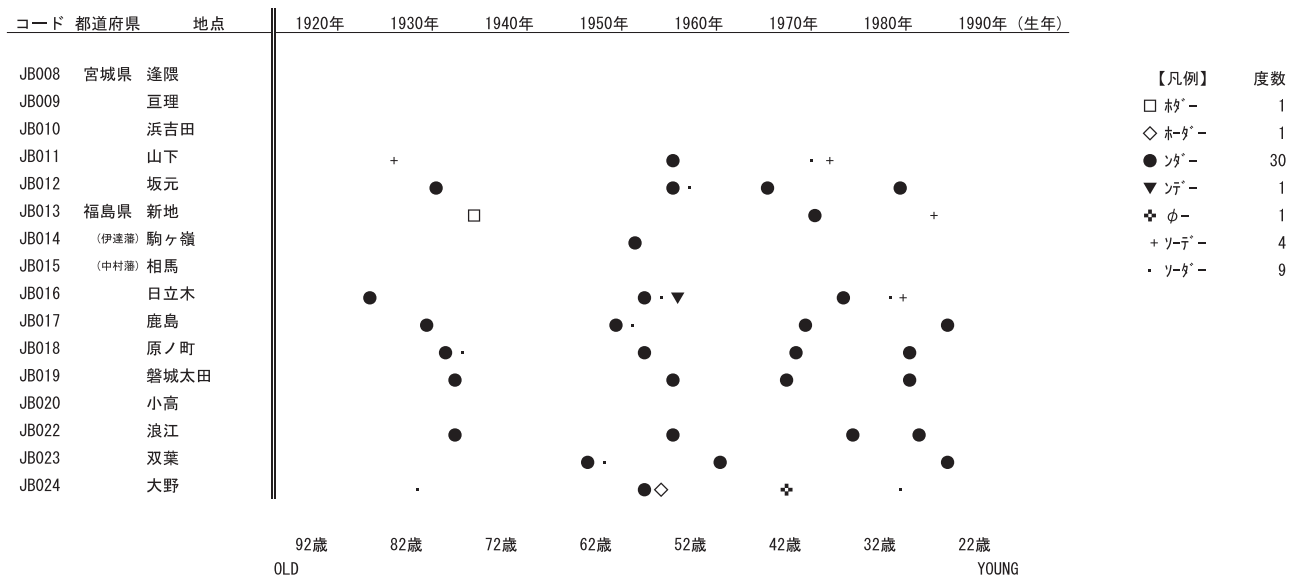


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム (第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 205. そうだ(ろう)

「(家族・親しい人に同意を求めるように)そうでしょう」と言うときの「そうでしょう」の部分はどう言いますか？

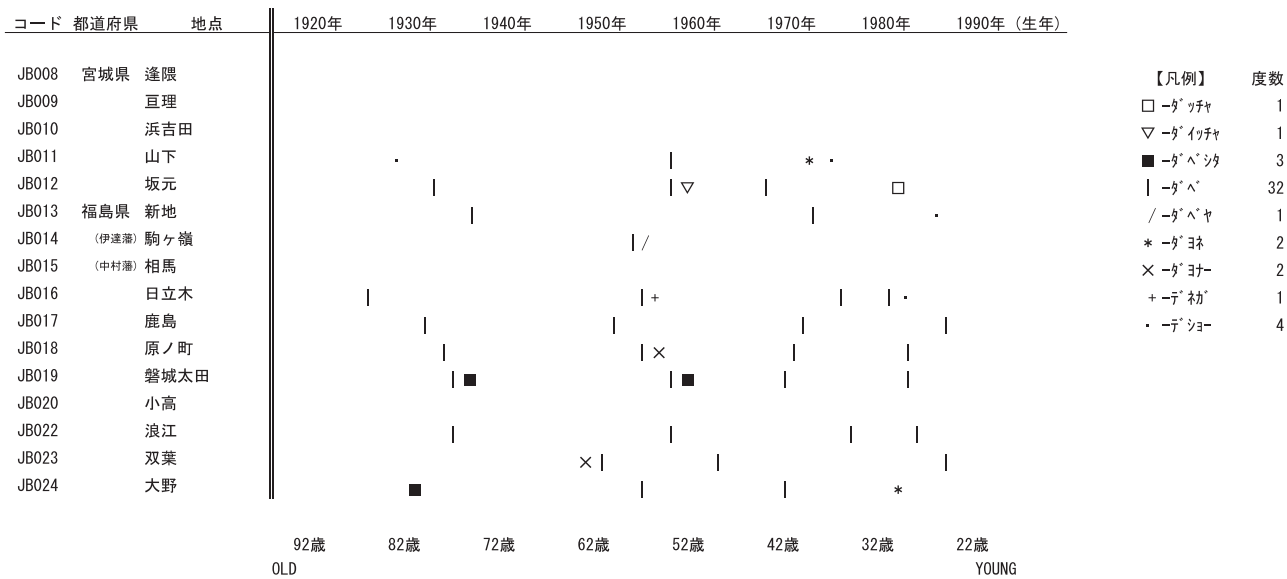


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 205. (そう) だろう

「(家族・親しい人に同意を求めるように) そうですね」と言うときの「そうですね」の部分はどう言いますか？

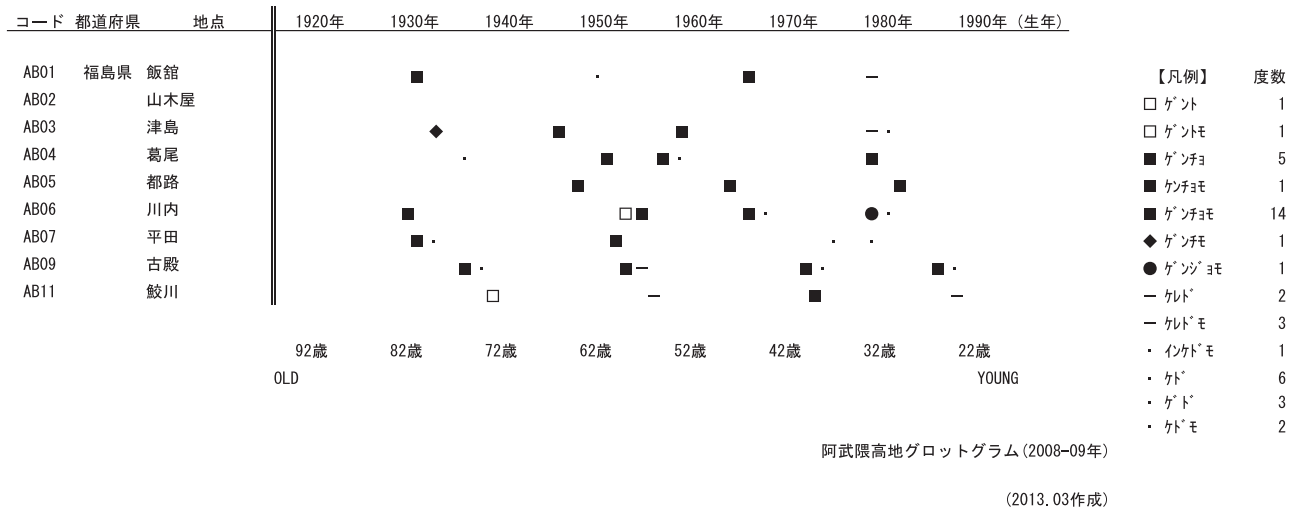


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

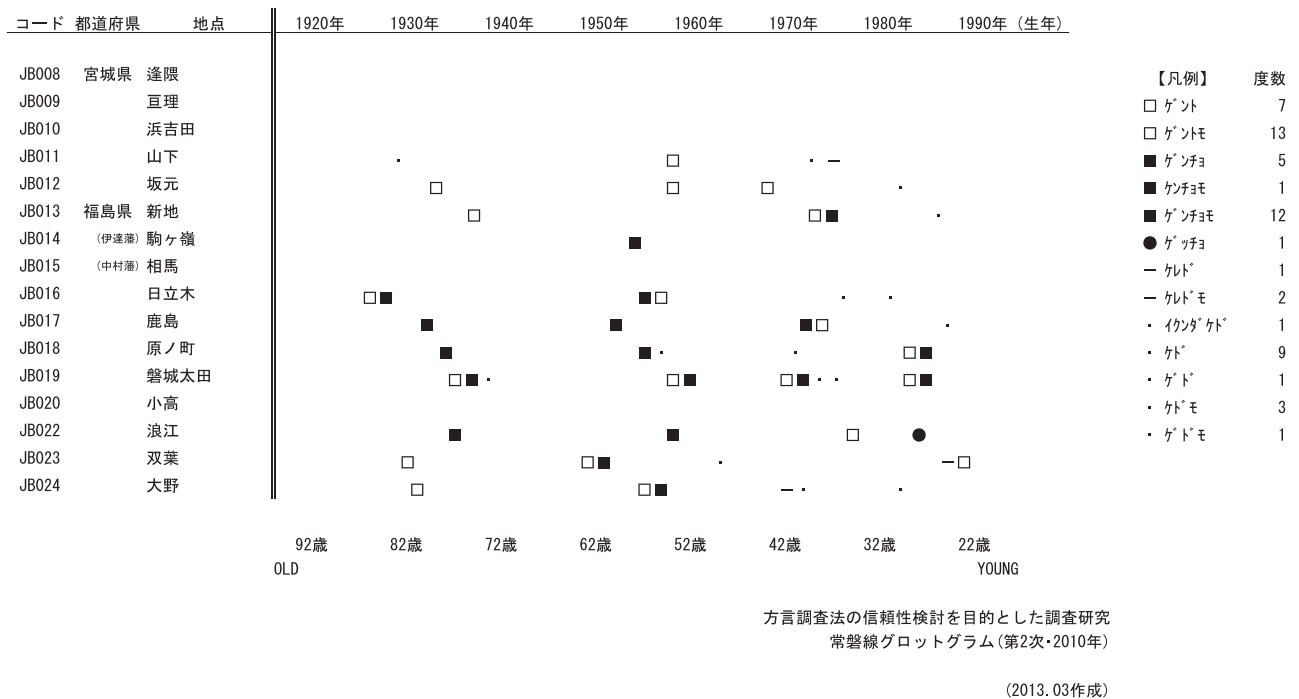
■ 206. けれども

友達に「行くけれども遅れる」と言うときの「けれども」の部分はどう言いますか？

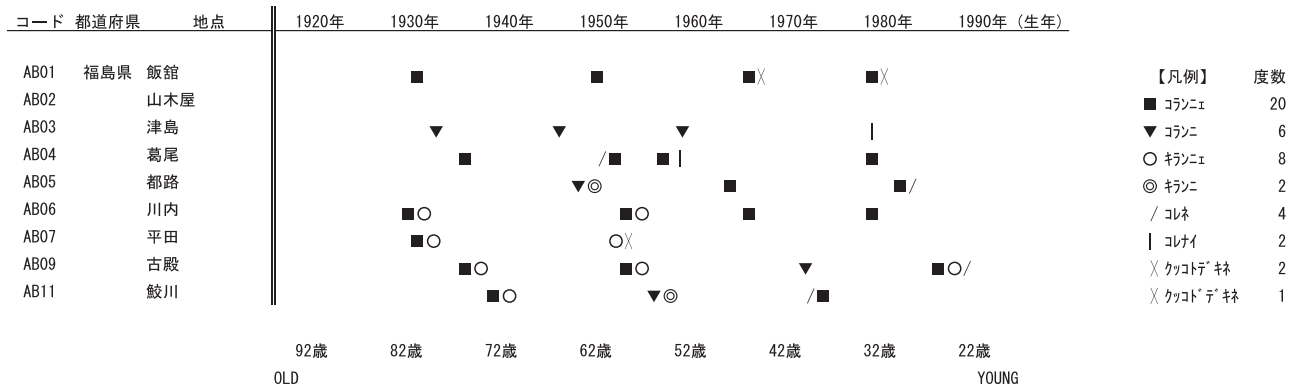


■ 206. けれども

友達に「行くけれども遅れる」と言うときの「けれども」の部分はどう言いますか？



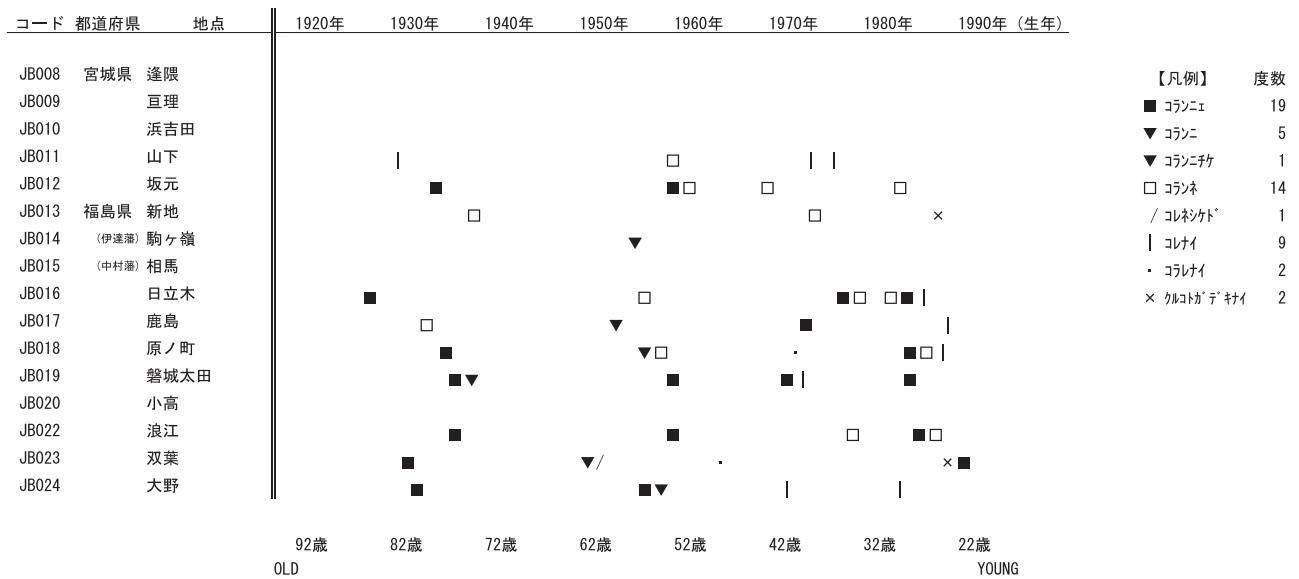
■ 209. 来ることができない 「〇〇さんは忙しくて来ることができないって」と言うときの「来ることができない」の部分はどう言いますか？



阿武隈高地グロットグラム (2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 207. 来ることができない 「〇〇さんは忙しくて来ることができないって」と言うときの「来ることができない」の部分はどう言いますか？

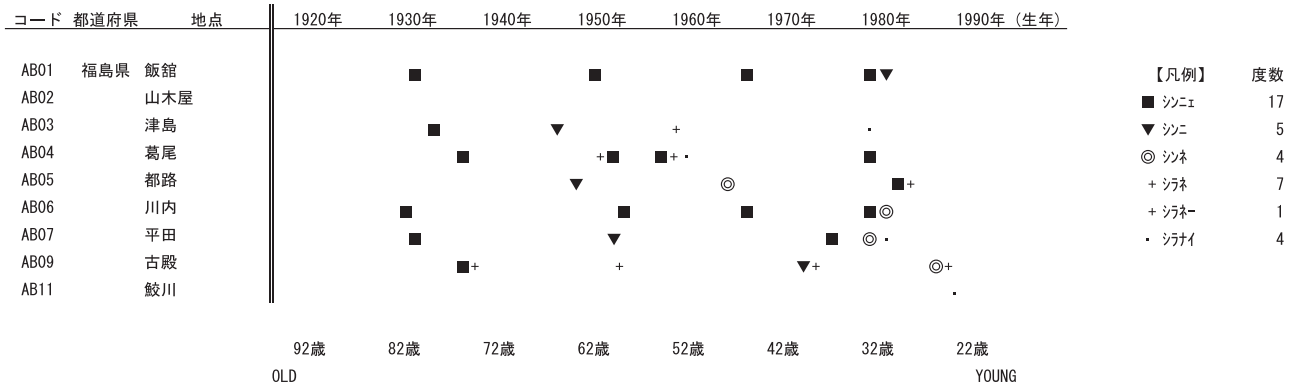


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム (第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 210. 知らない

「私はその話は知らない」と言うときの「知らない」の部分はどう言いますか？

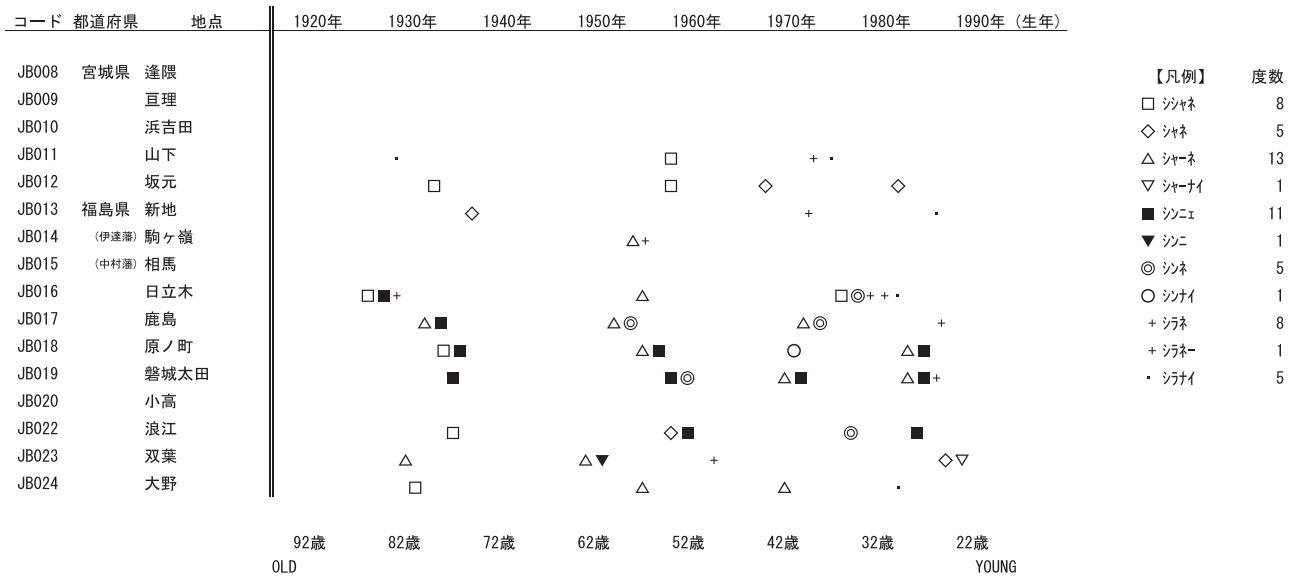


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 208. 知らない

「私はその話は知らない」と言うときの「知らない」の部分はどう言いますか？

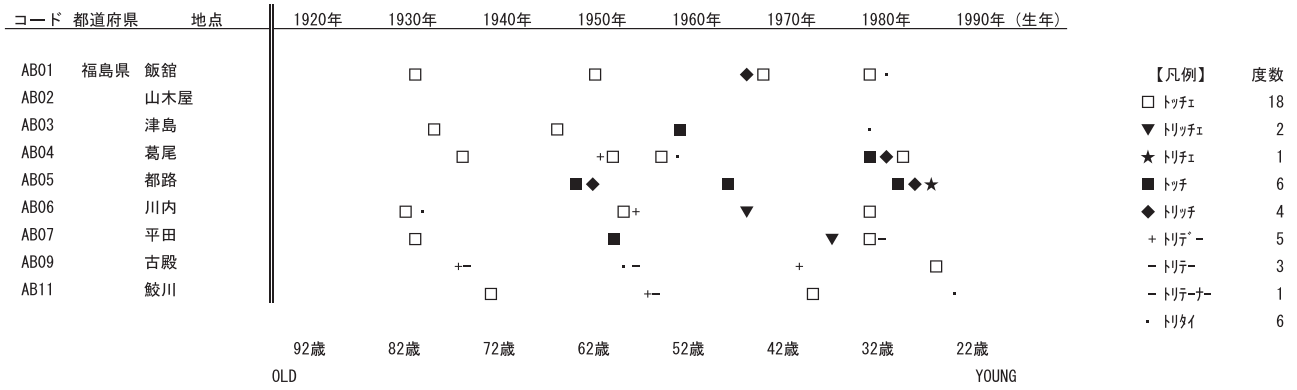


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 211. 取りたい

「免許取りたいなあ」と言うときの「取りたい」の部分はどう言いますか？

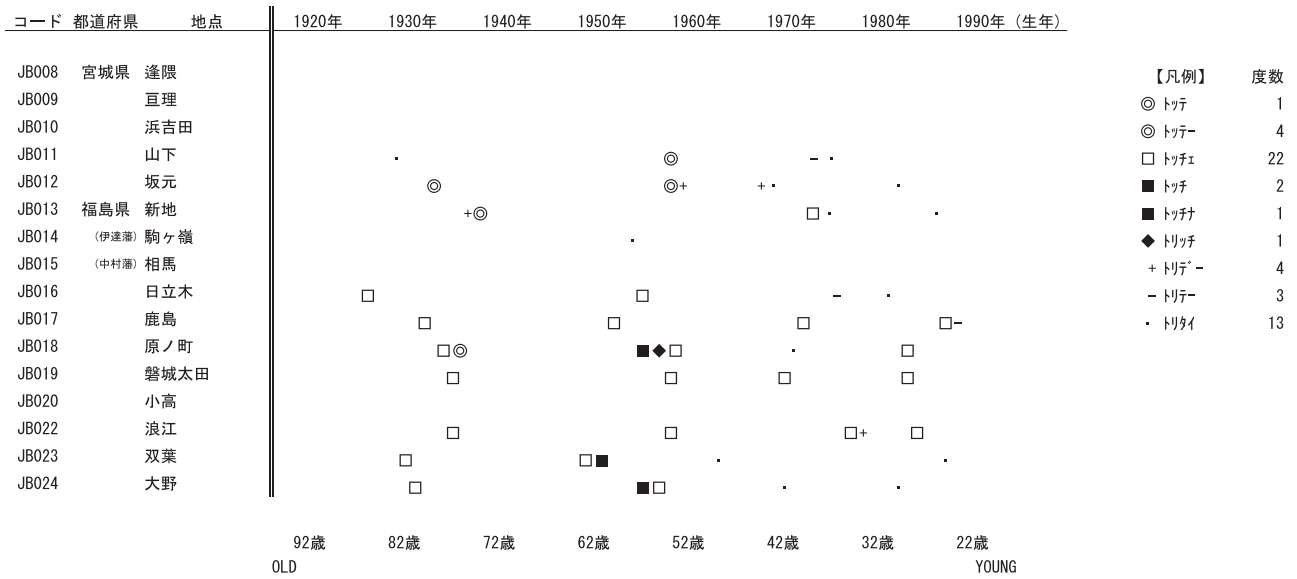


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 209. 取りたい

「免許取りたいなあ」と言うときの「取りたい」の部分はどう言いますか？

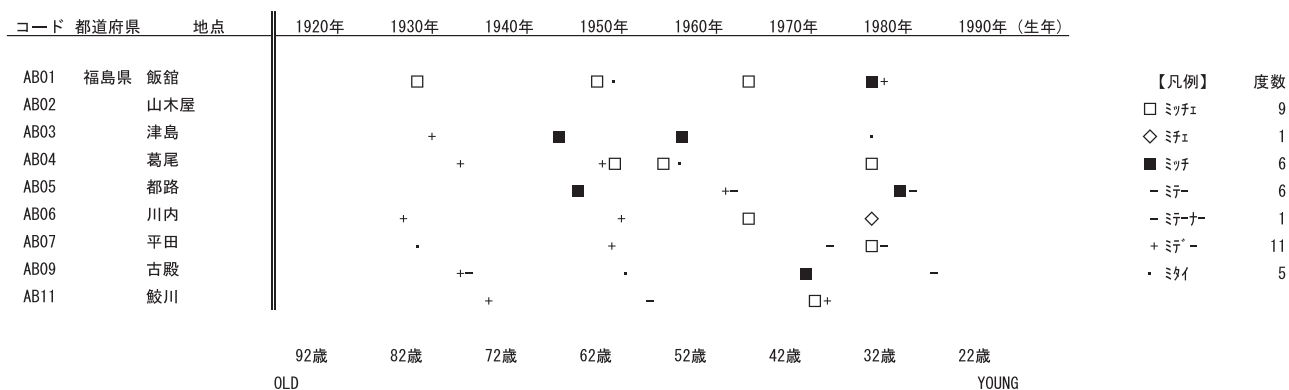


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 212. 見たい

「あの映画見たいなあ」と言うときの「見たい」の部分はどう言いますか？

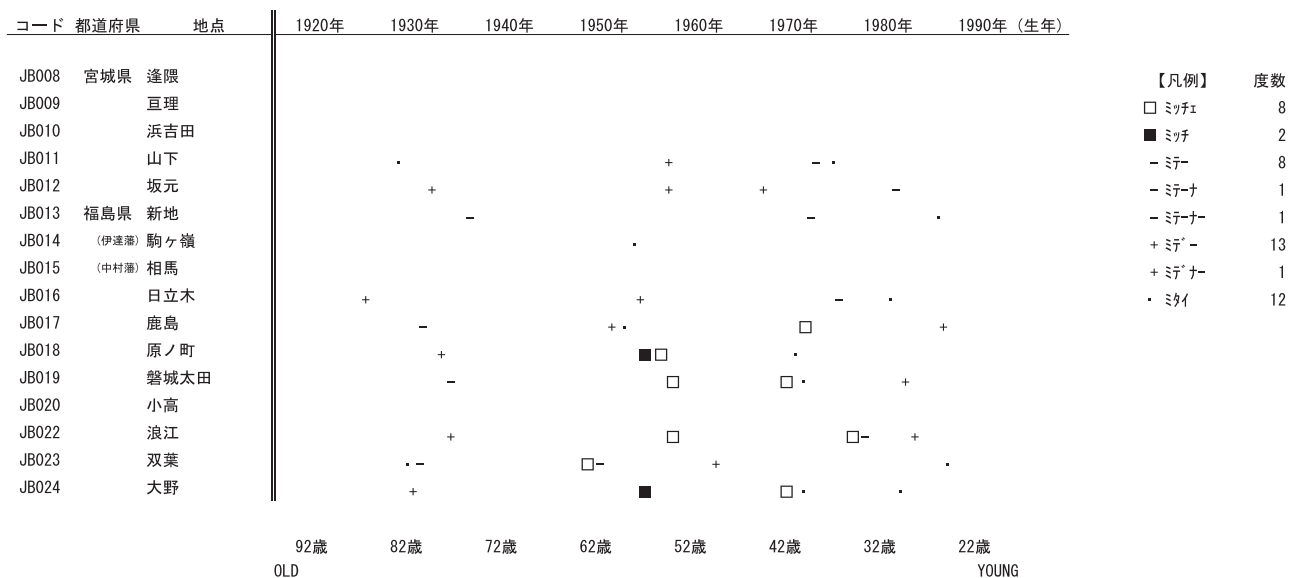


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 210. 見たい

「あの映画見たいなあ」と言うときの「見たい」の部分はどう言いますか？

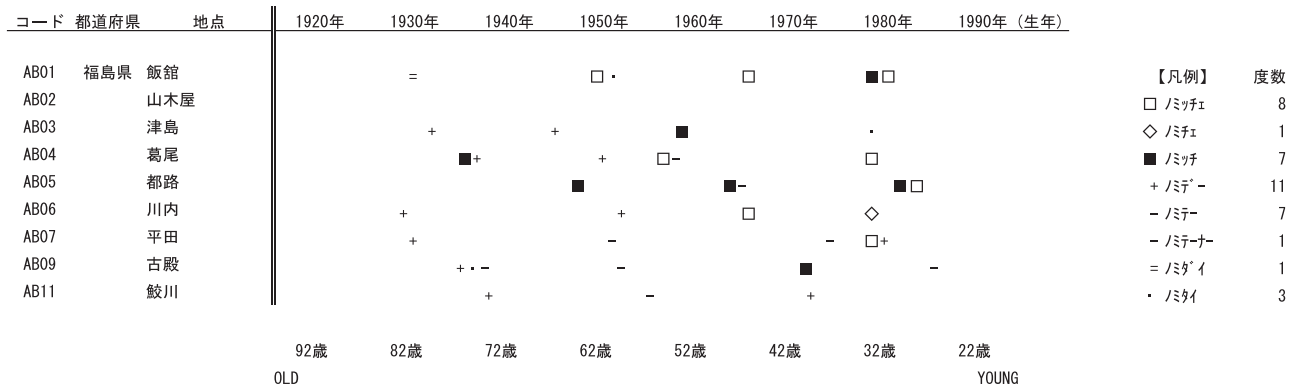


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 213. 飲みたい

「お酒飲みたいなあ」だったらどうでしょう。

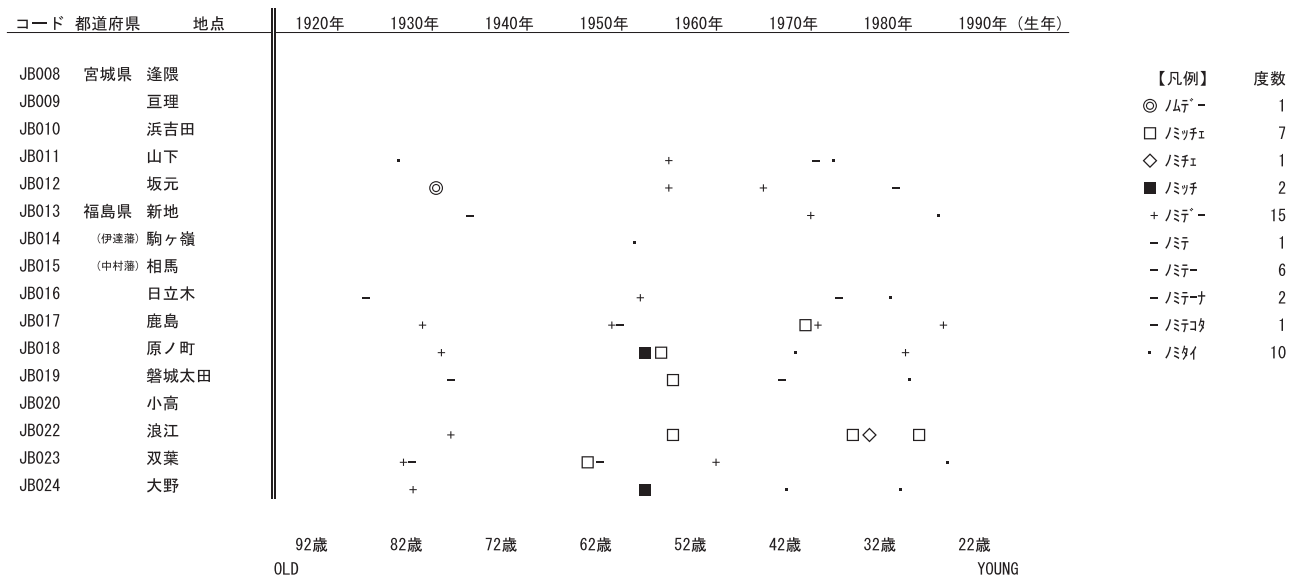


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 211. 飲みたい

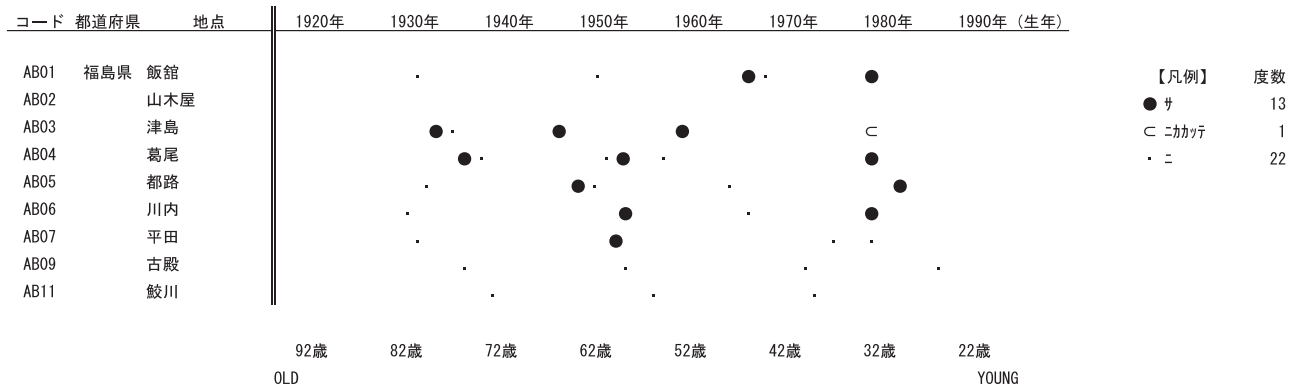
「お酒飲みたいなあ」だったらどうでしょう。



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

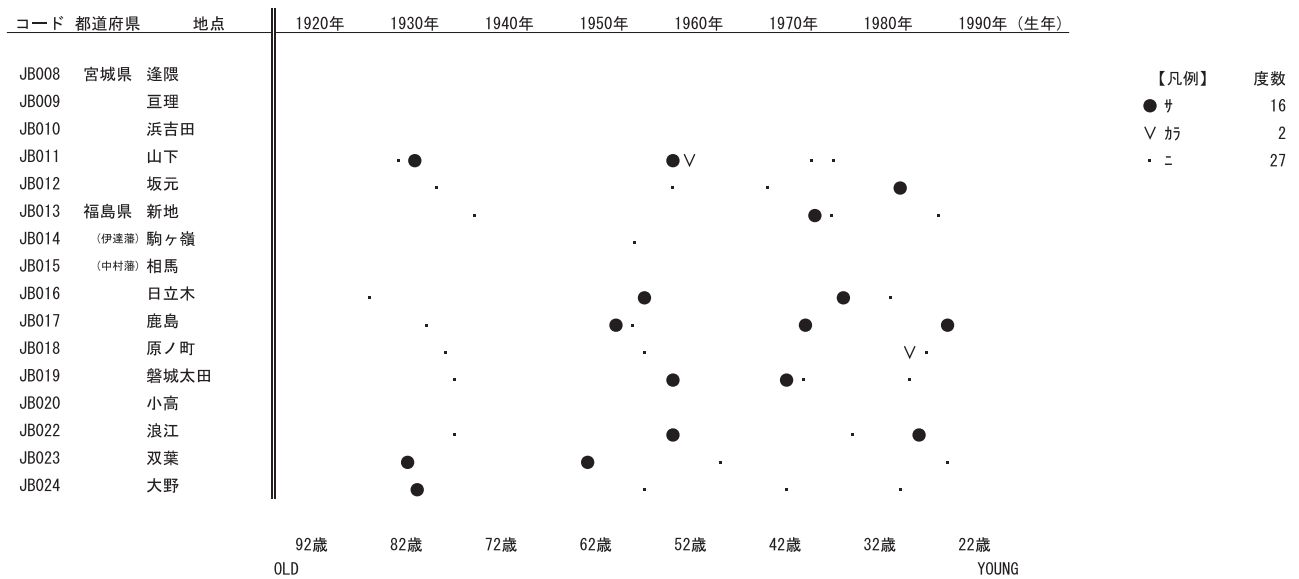
■ 214. 犬に（追いかけられた）「犬に追いかけられた」と言うときの「犬に」の部分はどのように言いますか？



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

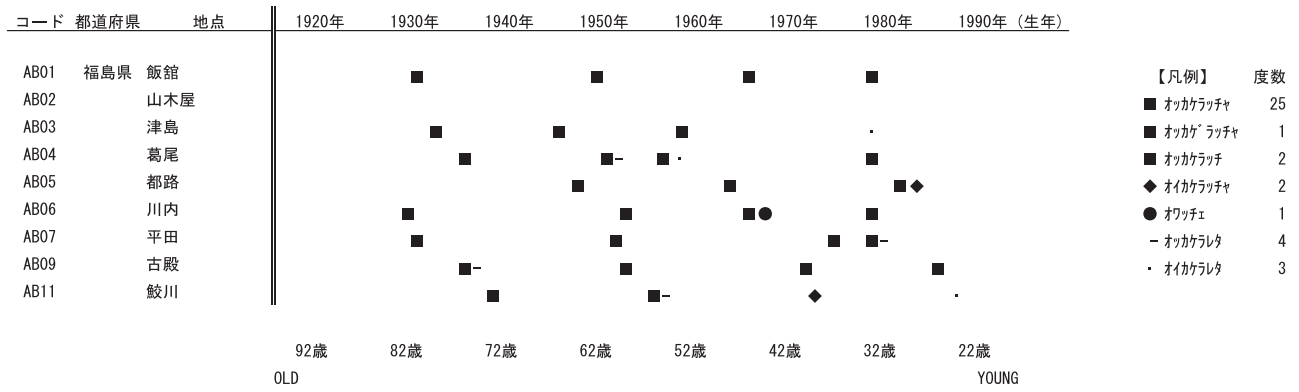
■ 212. 犬に（追いかけられた）「犬に追いかけられた」と言うときの「犬に」の部分はどのように言いますか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

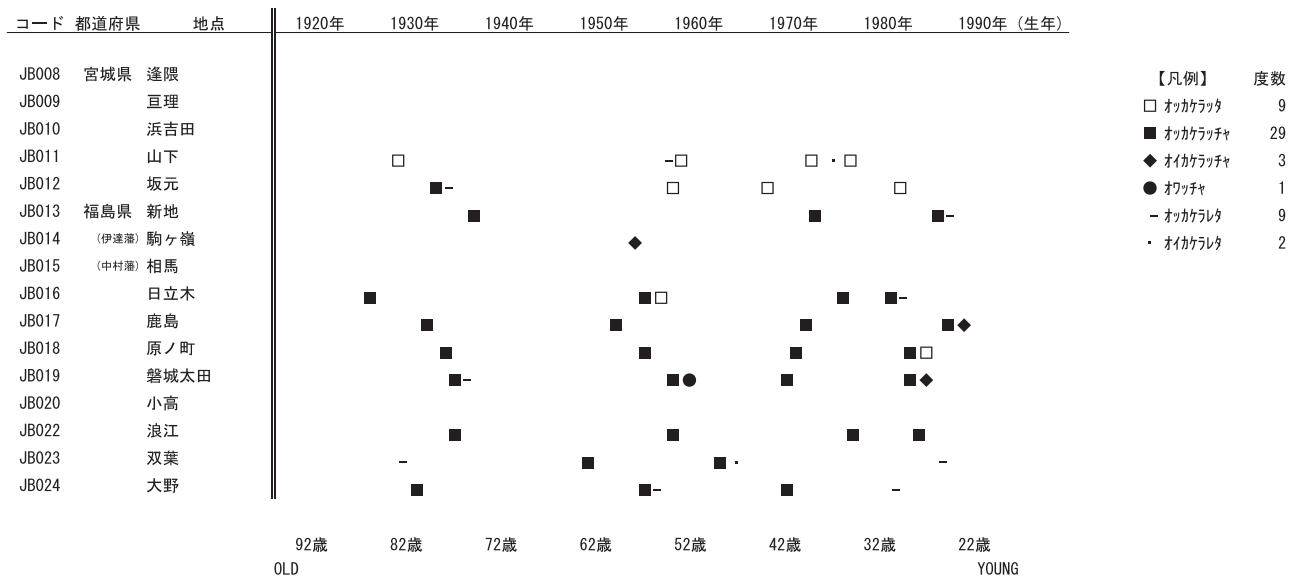
■ 215. (犬に) 追いかけられた「追いかけられた」の部分はどうでしょうか。



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 213. (犬に) 追いかけられた「追いかけられた」の部分はどうでしょうか。

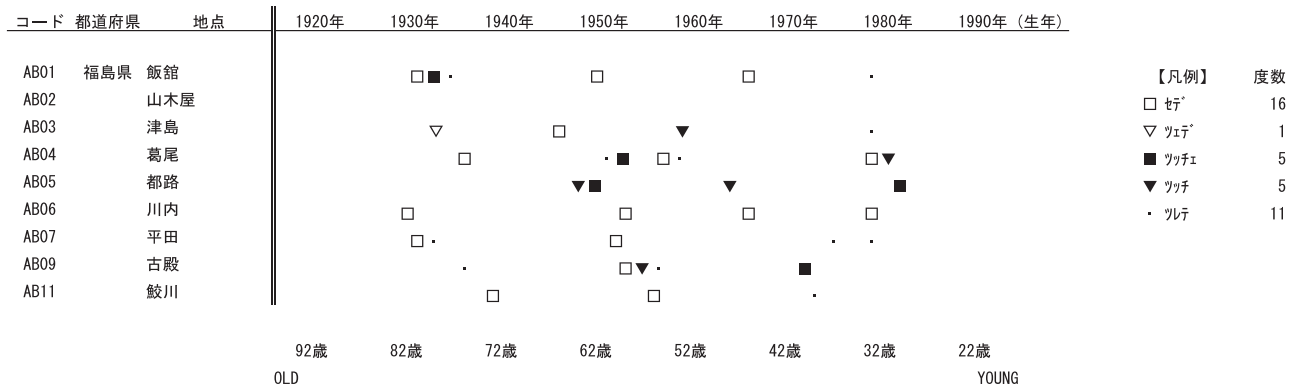


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 217. 連れて

「一緒に連れて行け」の「連れて」の部分はどう言いますか？

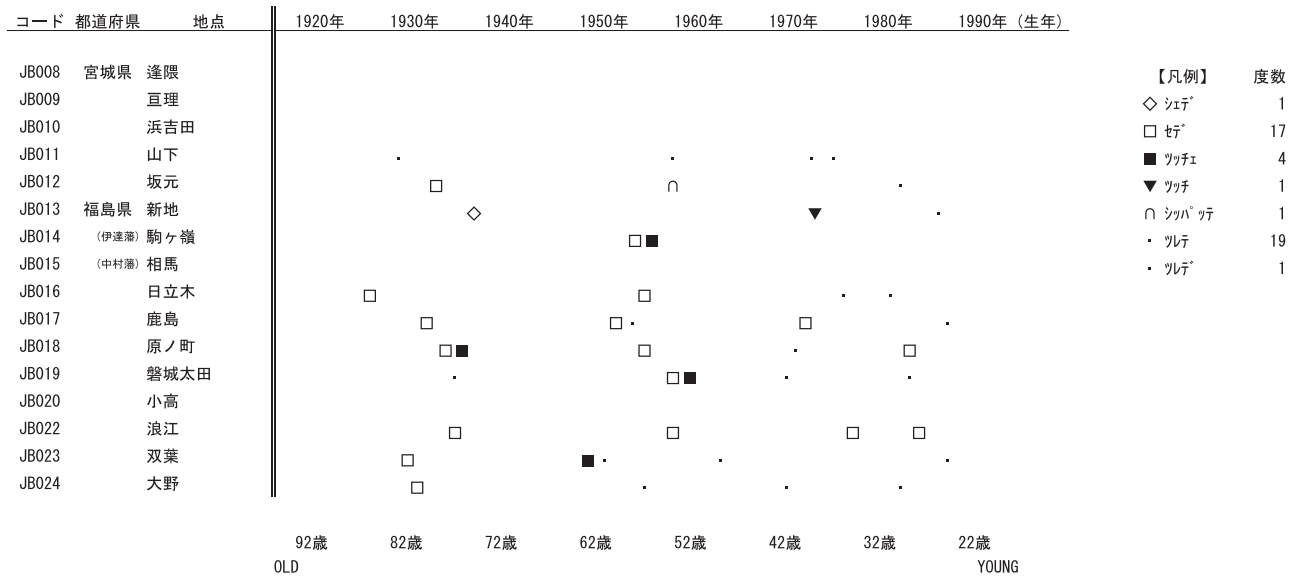


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 214. 連れて

「一緒に連れて行け」の「連れて」の部分はどう言いますか？

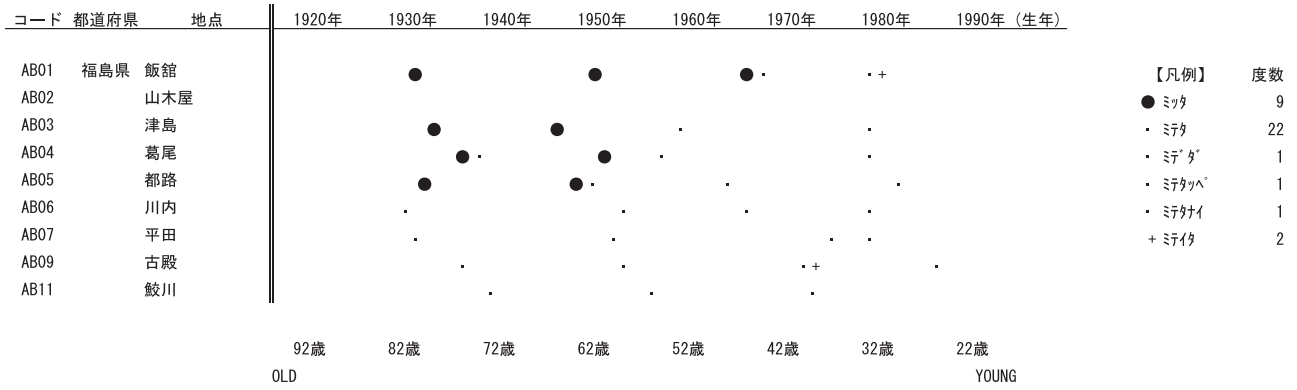


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 218. 見ていた

昨日の今頃はテレビを見ていたなあと言うときの「見ていた」の部分はどう言いますか？

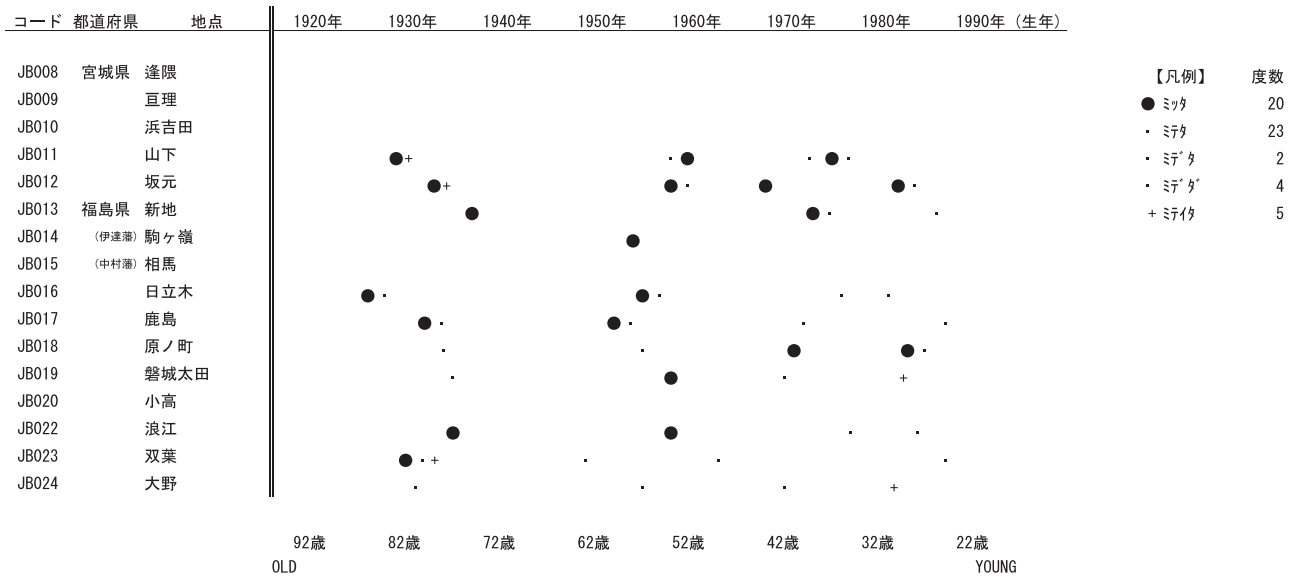


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 215. 見ていた

昨日の今頃はテレビを見ていたなあと言うときの「見ていた」の部分はどう言いますか？

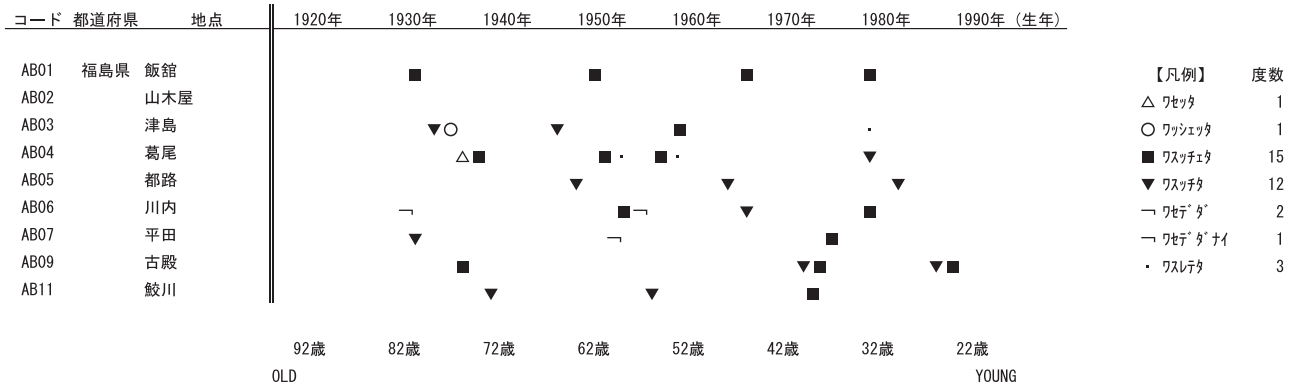


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 219. 忘れていた

「あつ。忘れていた」と思い出して言うときの「忘れていた」は何と言いますか？

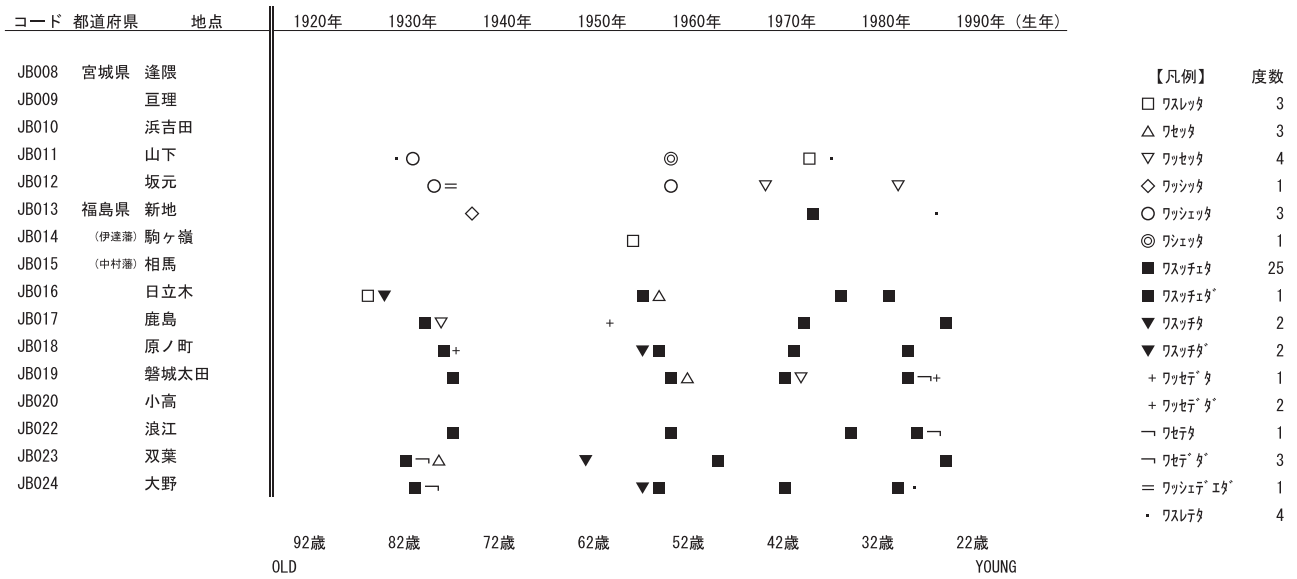


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 216. 忘れていた

「あつ。忘れていた」と思い出して言うときの「忘れていた」は何と言いますか？

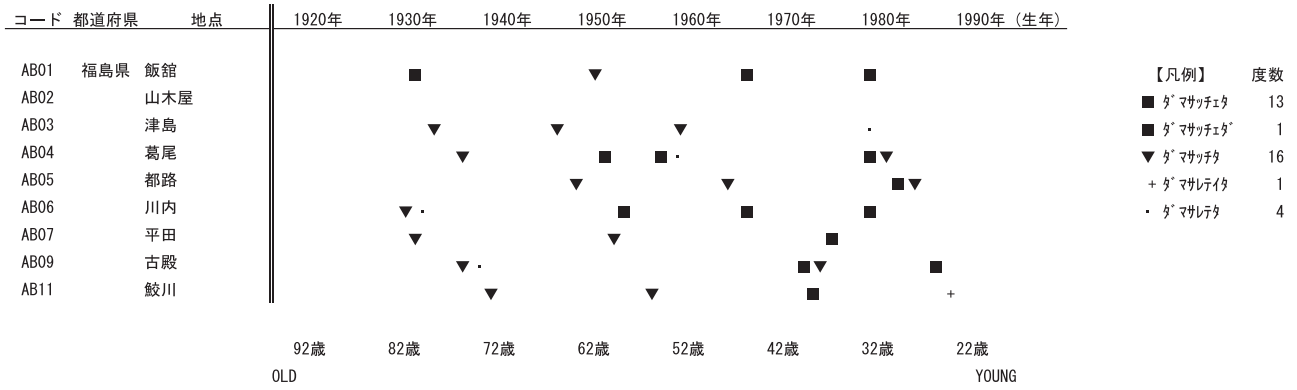


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 220. 騙されていた

「あの人にずっと騙されていた」と言うときの「騙されていた」はどう言いますか？

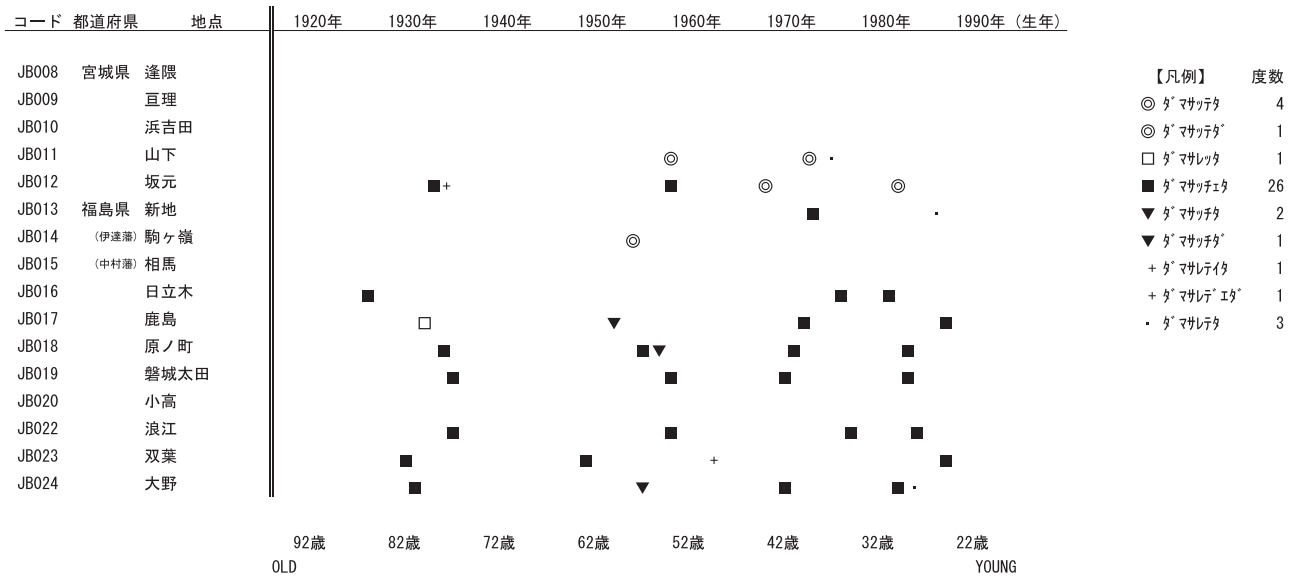


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 217. 騙されていた

「あの人にずっと騙されていた」と言うときの「騙されていた」はどう言いますか？

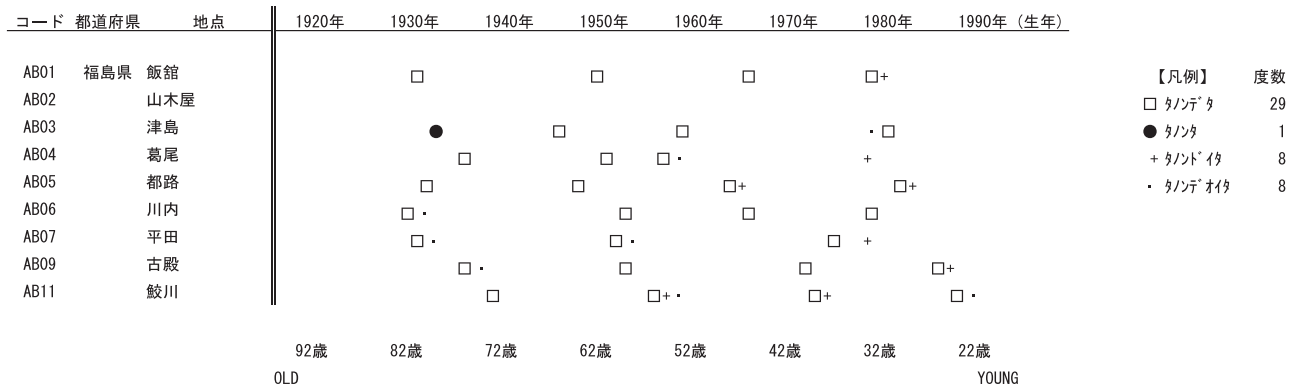


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 221. 頼んでおいた

「この仕事はあの人に頼んでおいたよ」と言うときの「頼んでおいた」はどう言いますか？

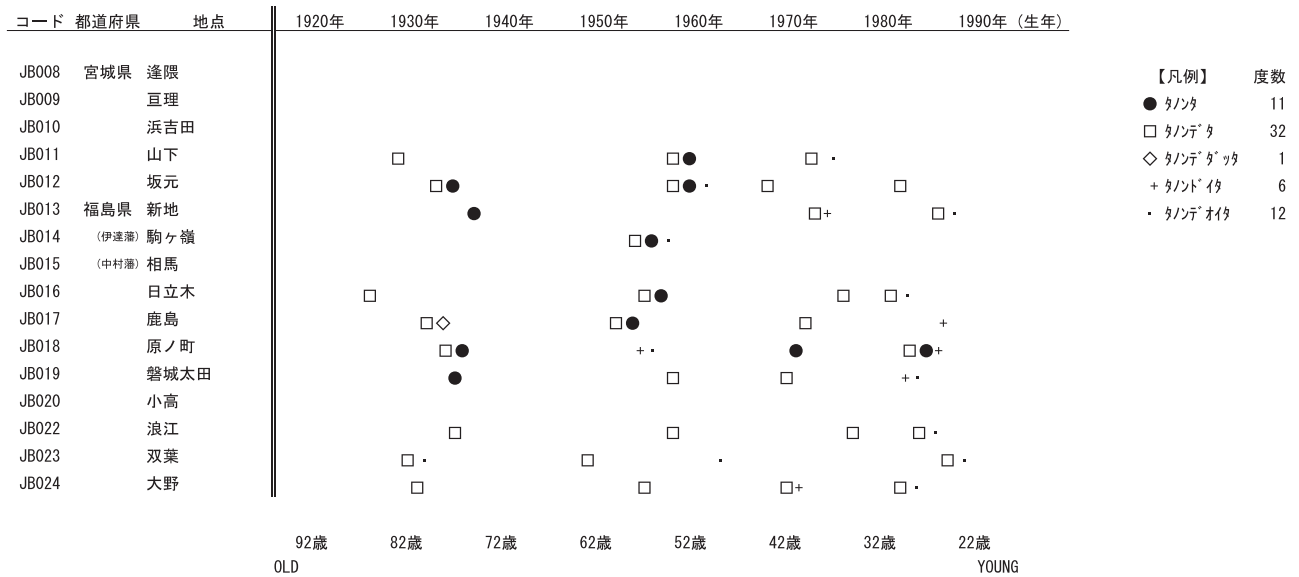


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 218. 頼んでおいた

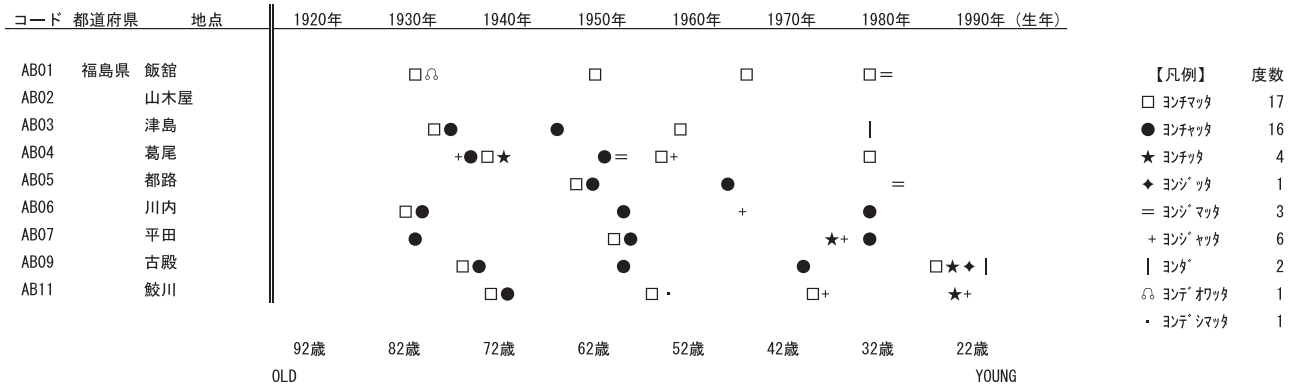
「この仕事はあの人に頼んでおいたよ」と言うときの「頼んでおいた」はどう言いますか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

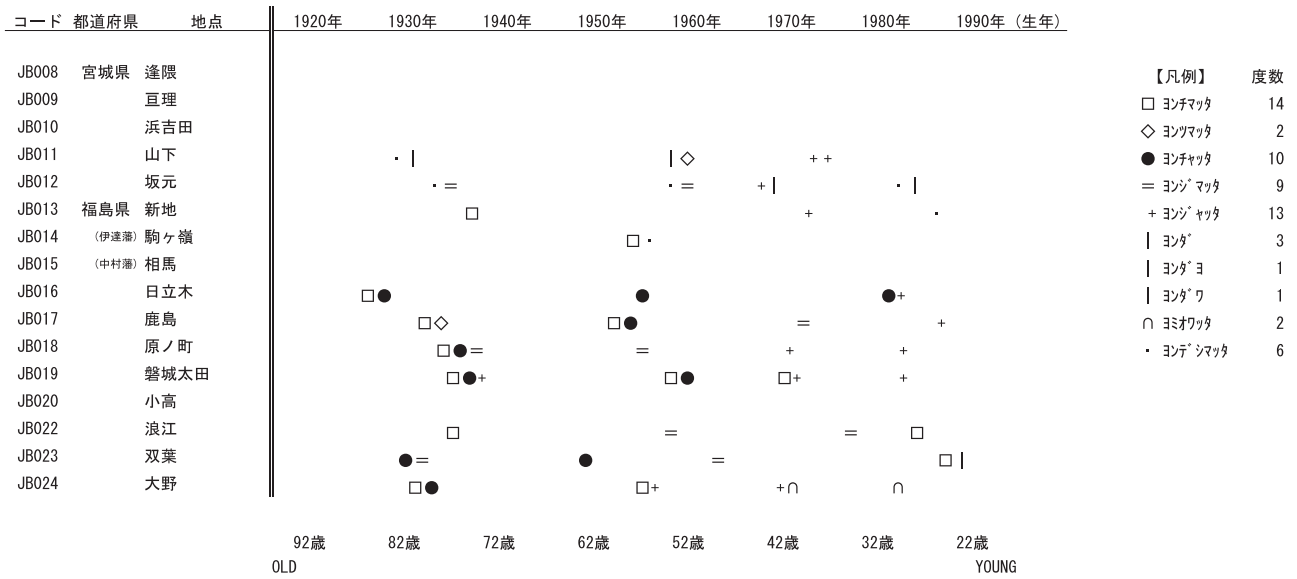
■ 222. 読んでしまった 「この本はもう読んでしまった」と言うときの「読んでしまった」の部分はどう言いますか？



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 219. 読んでしまった 「この本はもう読んでしまった」と言うときの「読んでしまった」の部分はどう言いますか？

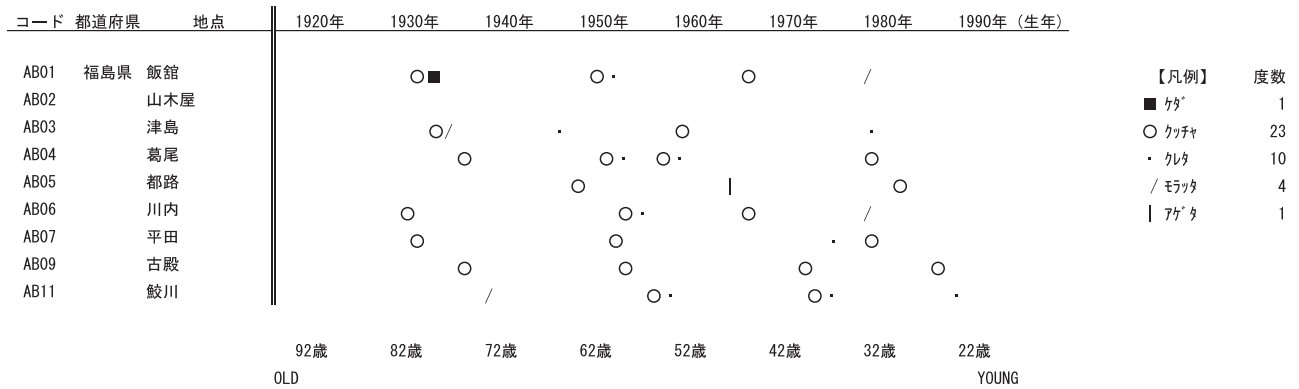


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 223. くれた

「親がお金をくれた」と言うときの「くれた」の部分はどうですか？

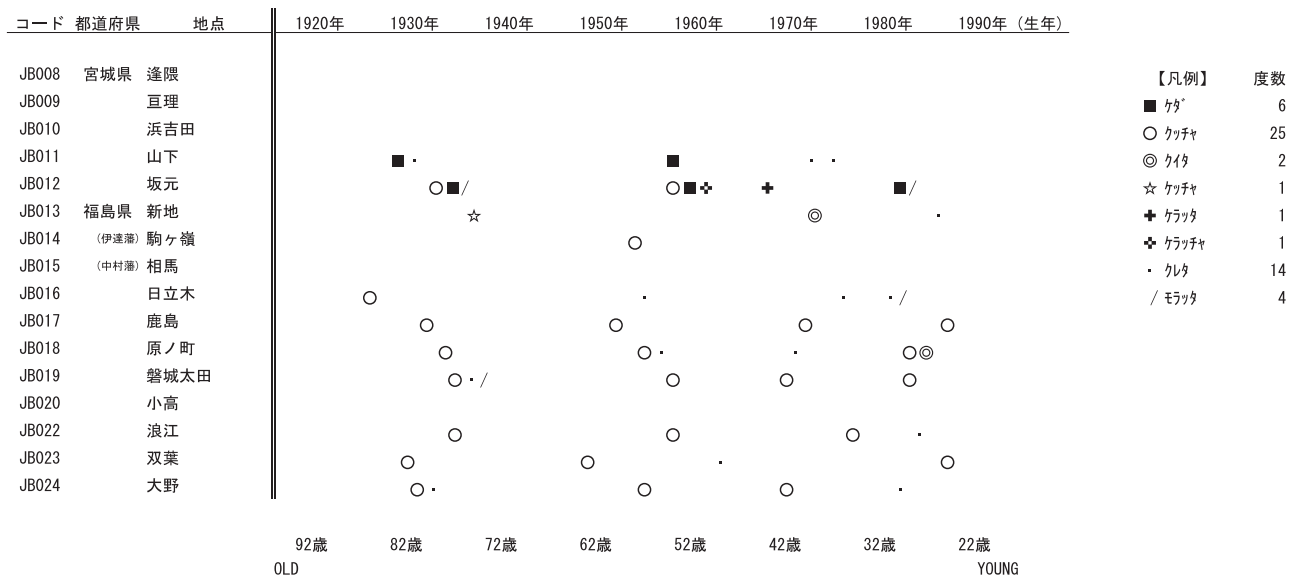


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 220. くれた

「親がお金をくれた」と言うときの「くれた」の部分はどうですか？

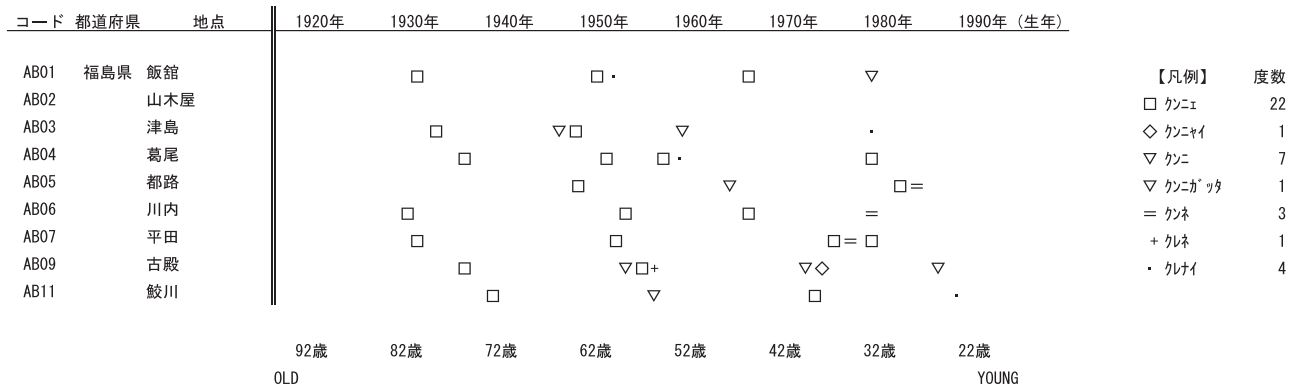


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 224. くれない

では「お金をくれない」だったらどうですか？

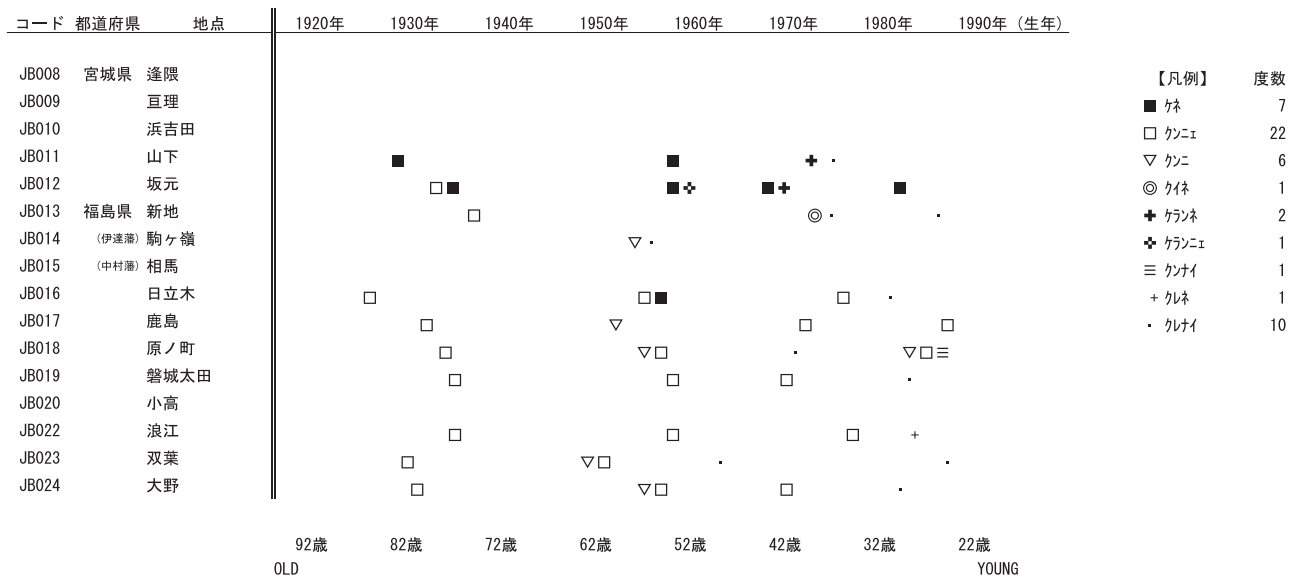


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 221. くれない

では「お金をくれない」だったらどうですか？

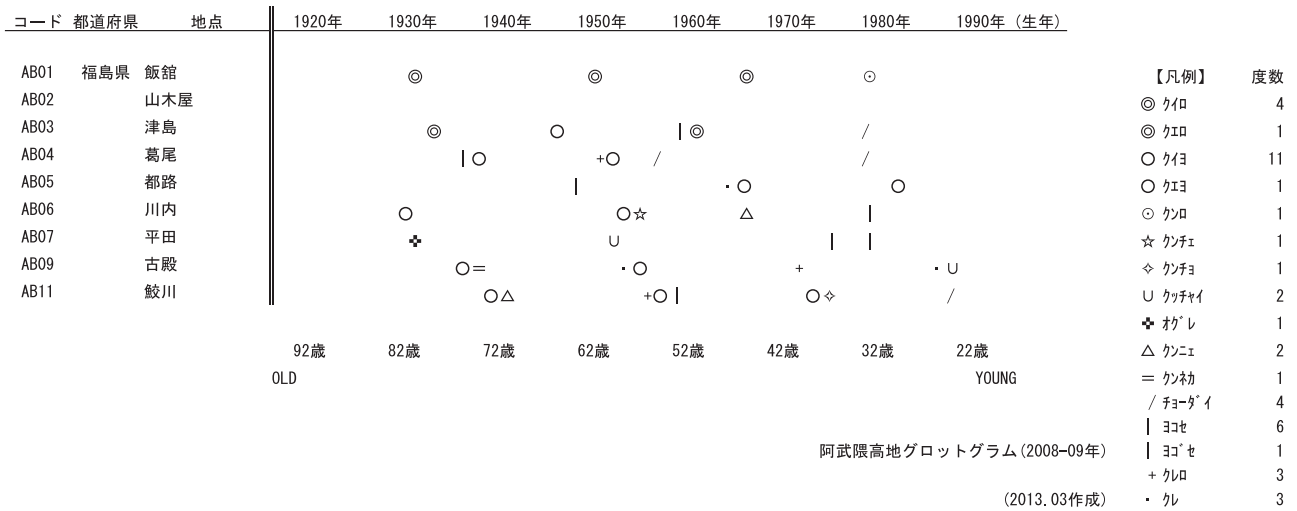


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

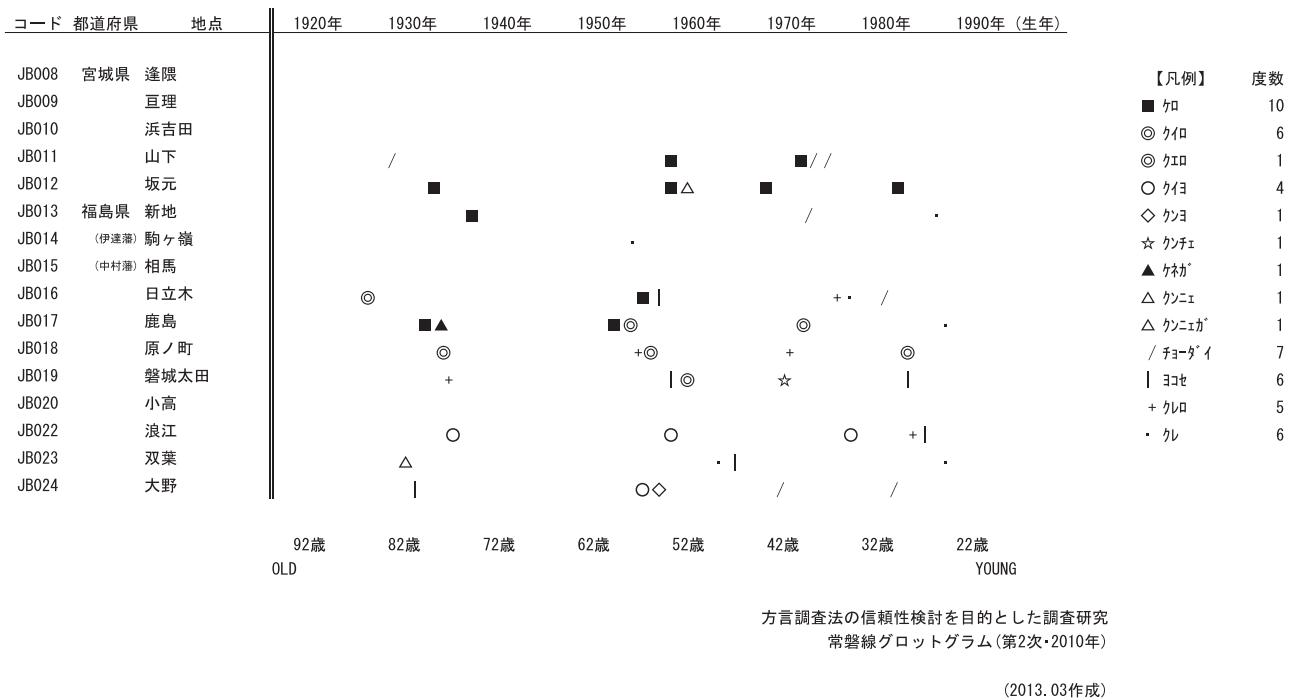
■ 225. くれ

目下の人に対して「俺(私)にくれ」と言うときの「くれ」はどうでしょう？



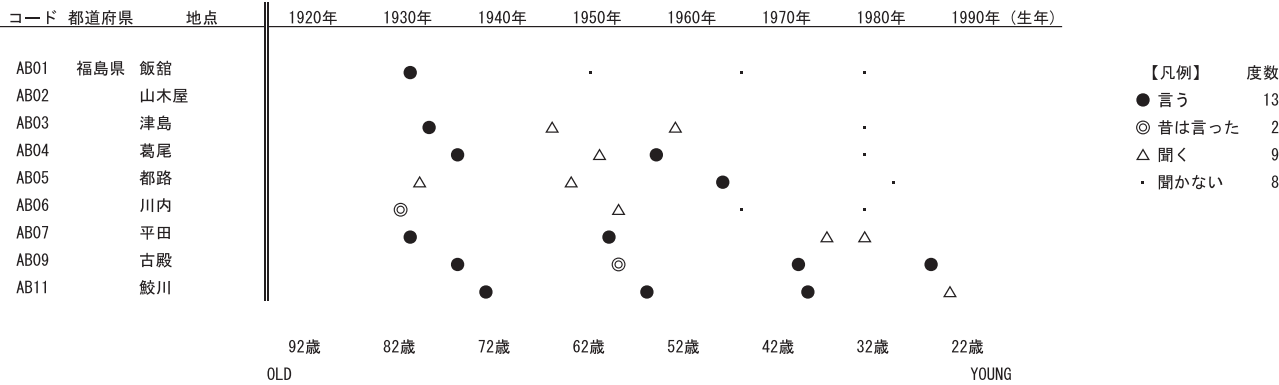
■ 222. くれ

目下の人に対して「俺(私)にくれ」と言うときの「くれ」はどうでしょう？



■ 128. インガミル

「ひどい目にあった」ということを「インガミル」とか「エンガミタ」のように言いますか？

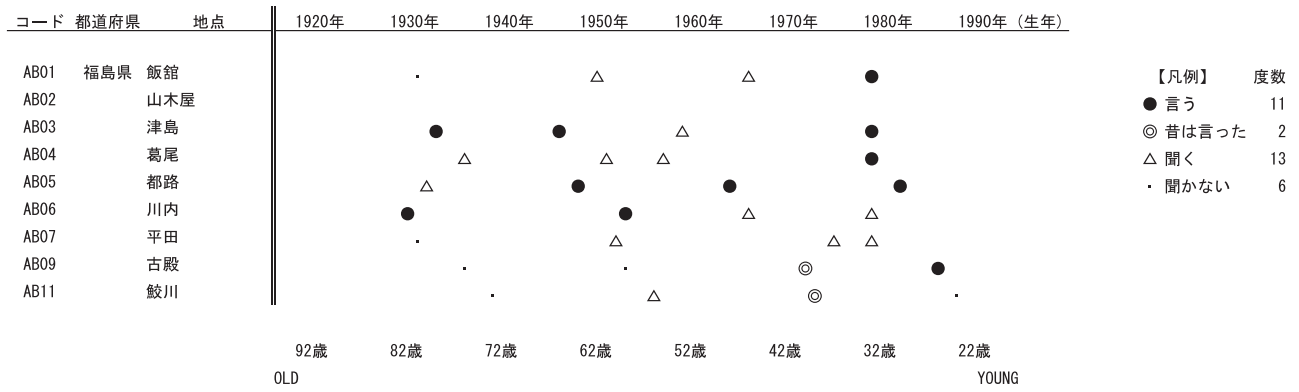


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 129. カタス

「片付ける」ことを「カタス」と言いますか？

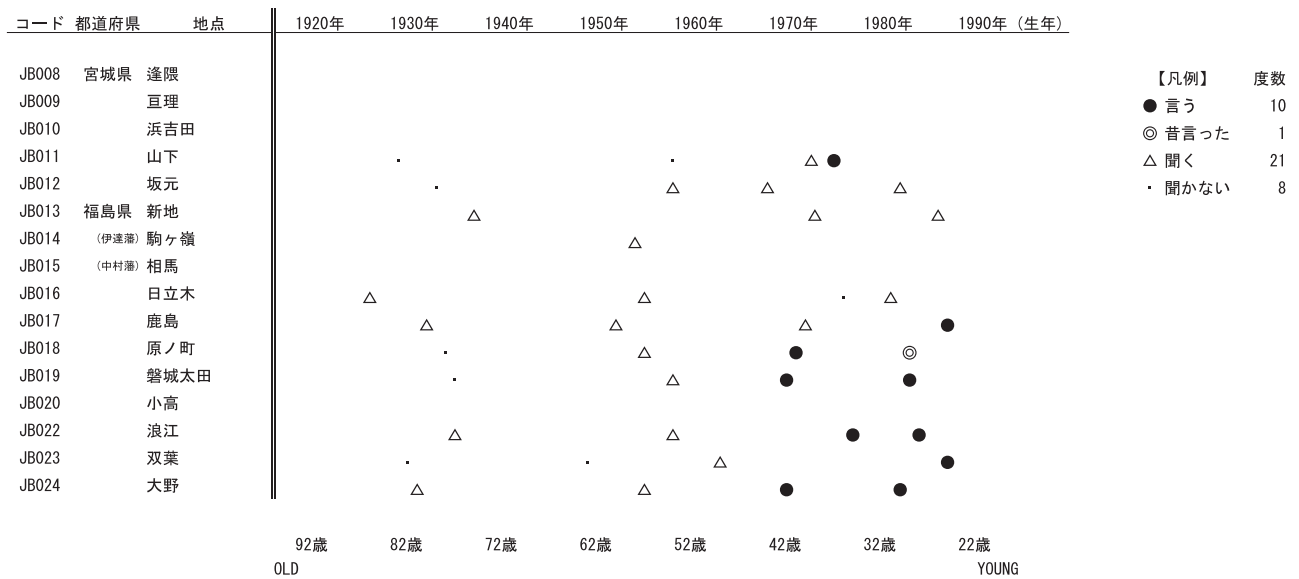


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 123. カタス

「片付ける」ことを「カタス」と言いますか？

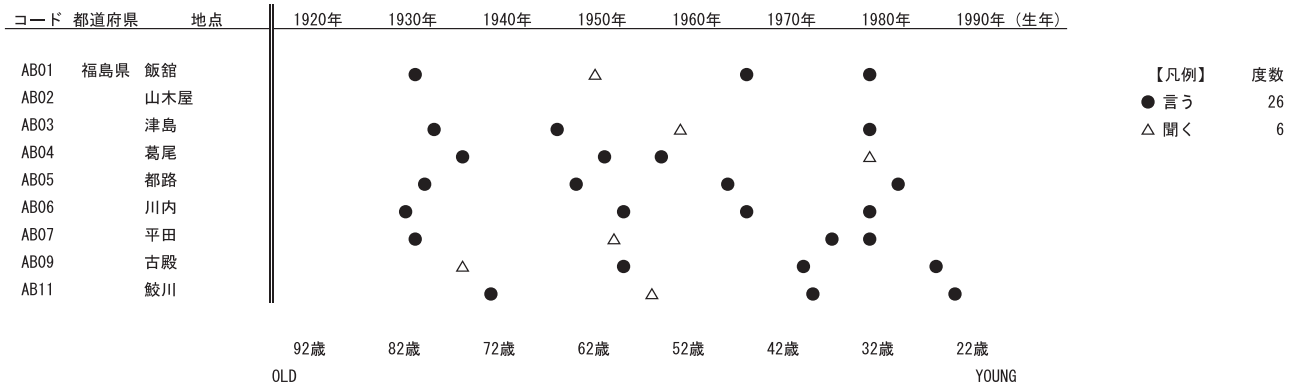


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 130. カッターイ

「カッターイ」という言葉を使いますか？

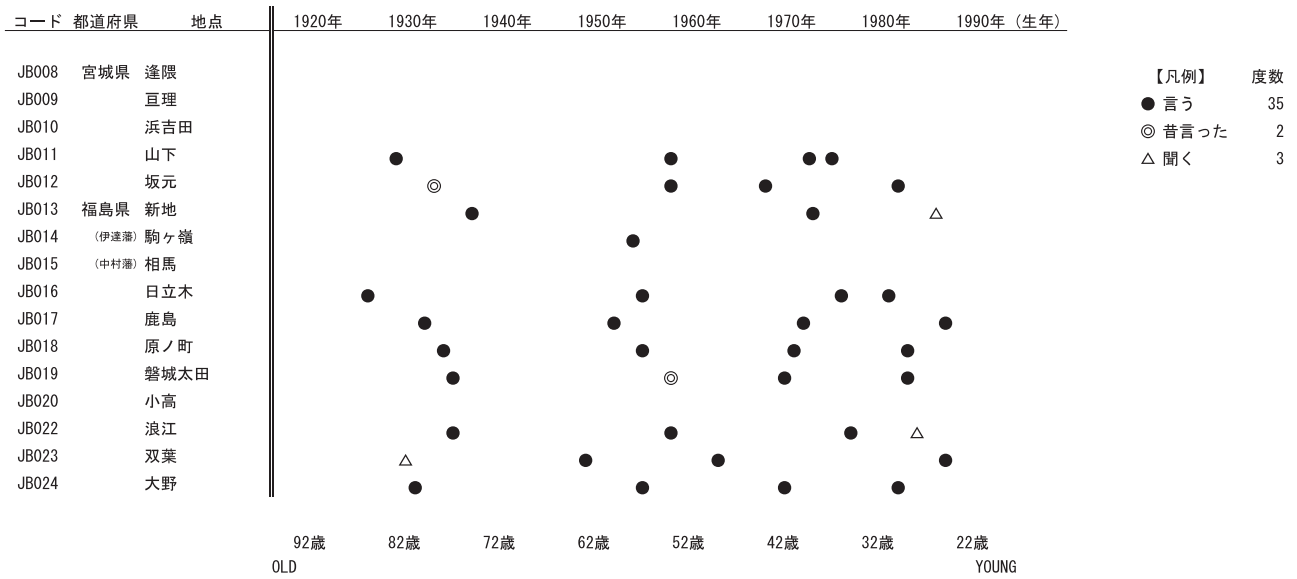


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 126. カッターイ

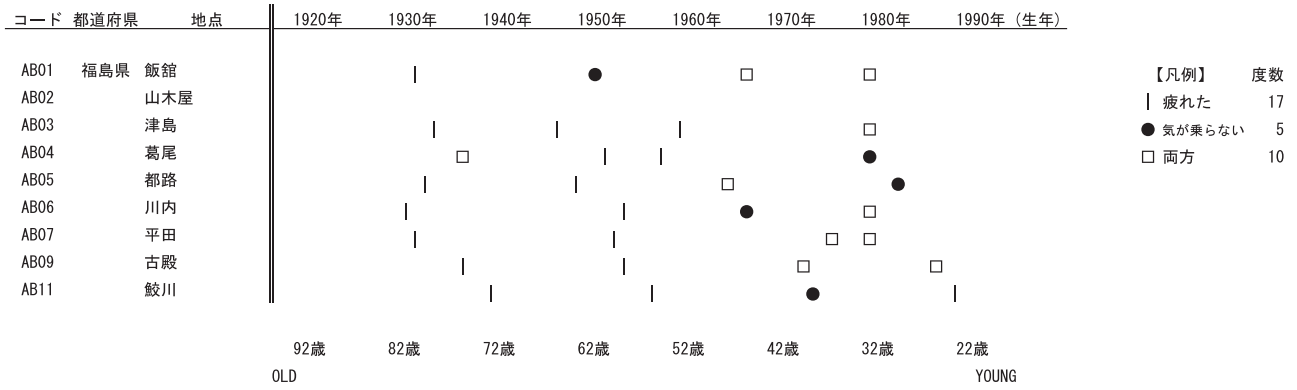
「カッターイ」という言葉を使いますか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

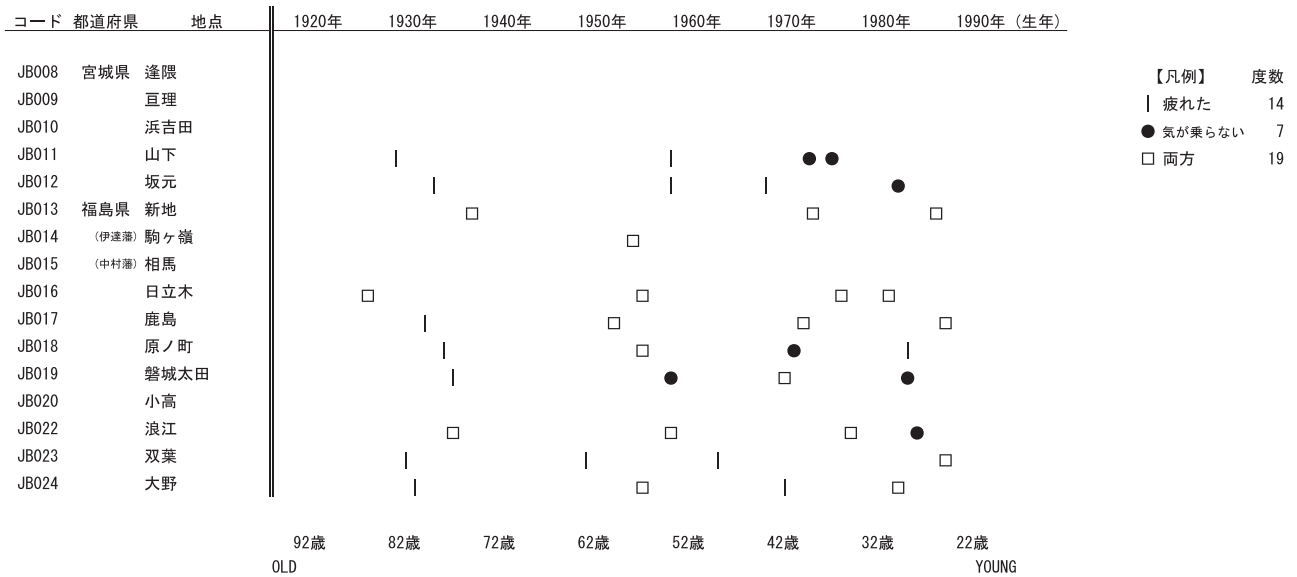
■ 130-2. カツタルイ（意味） 「カツタルイ」というのは「疲れた・だるい」ということでしょうか。それとも「やる気が起きない・気が乗らない」という意味でしょうか？



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 126-2. カツタルイ（意味） 「カツタルイ」というのは「疲れた・だるい」ということでしょうか。それとも「やる気が起きない・気が乗らない」という意味でしょうか？

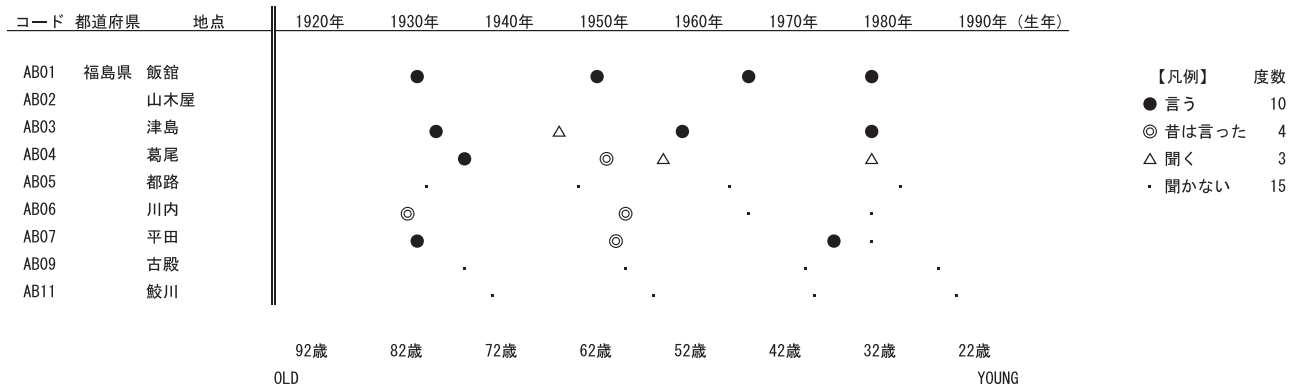


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 133. オダツ

子供が調子にのってはいしゃいであることを「オダツ、オダッテル」と言いますか？

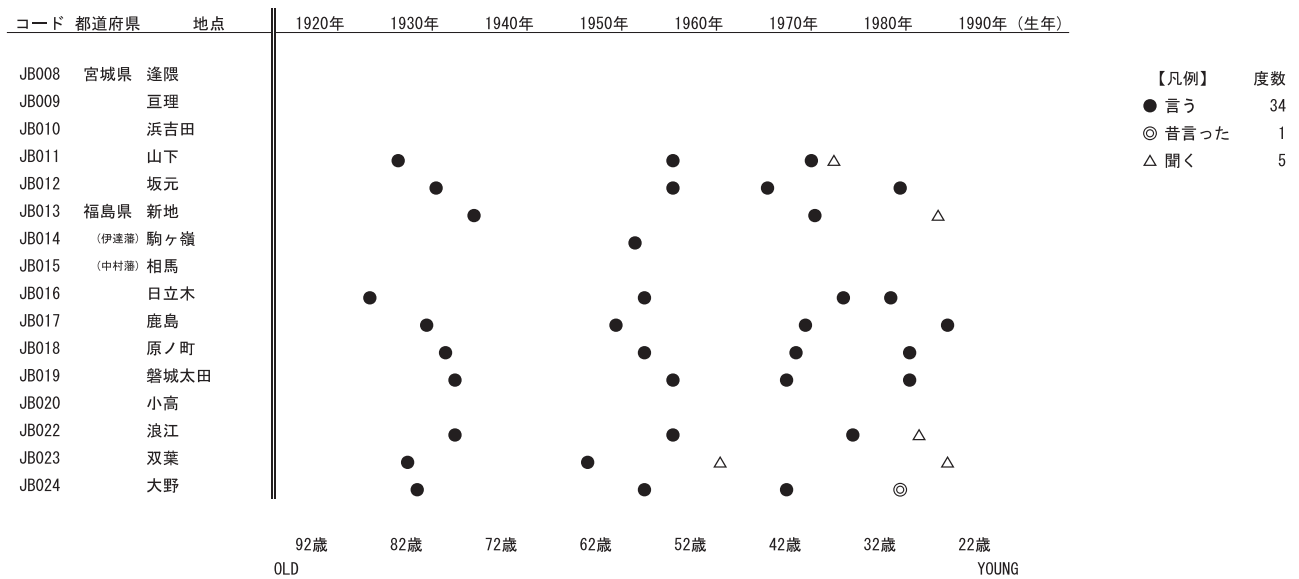


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 124. オダツ

子供が調子にのってはいしゃいであることを「オダツ、オダッテル」と言いますか？

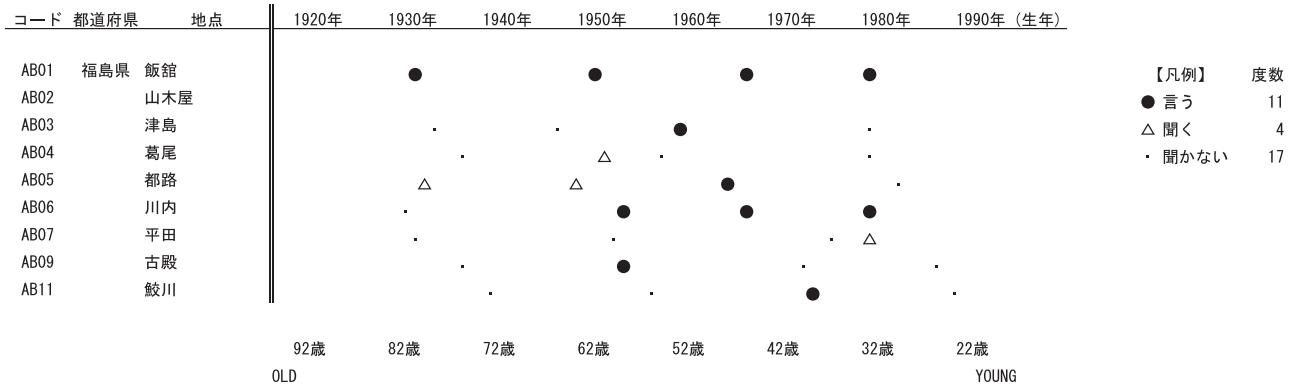


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 134. イキナリ

「非常に暑いなあ」のことを「イキナリ暑いなあ」と言いますか？

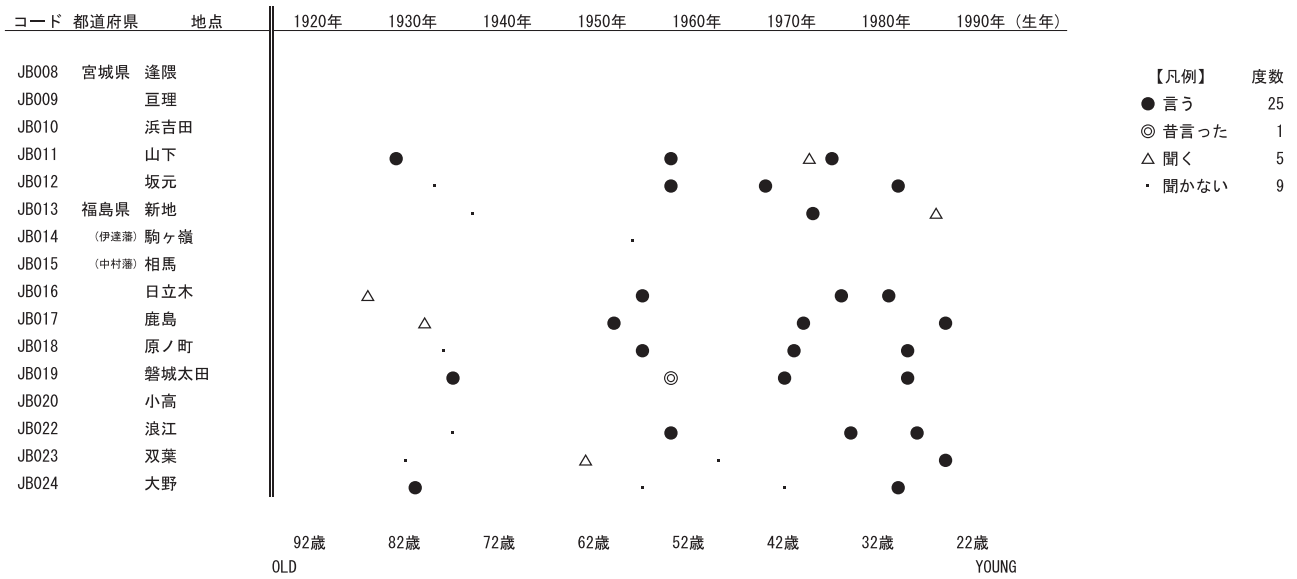


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 127. イキナリ(程度性)

「非常に暑いなあ」のことを「イキナリ暑いなあ」と言いますか？

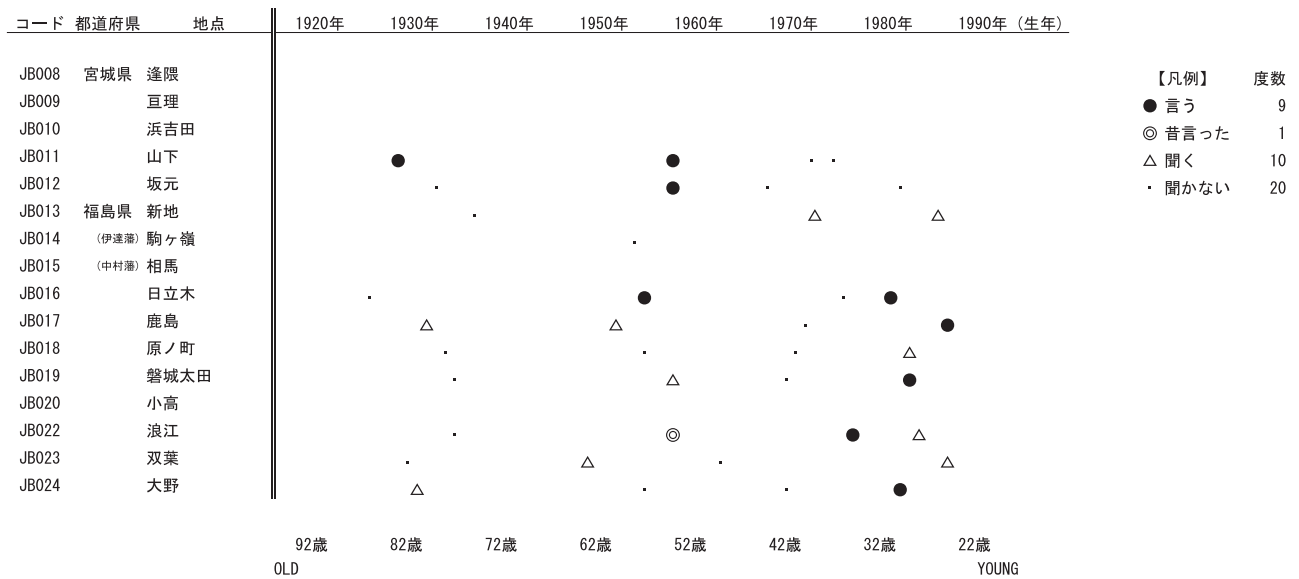


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 128. イキナリ（意外性）

では、はじめて食べたお菓子がとてもおいしかった場合に「イキナリおいしい（うまい）」と言うのはどうでしょうか？

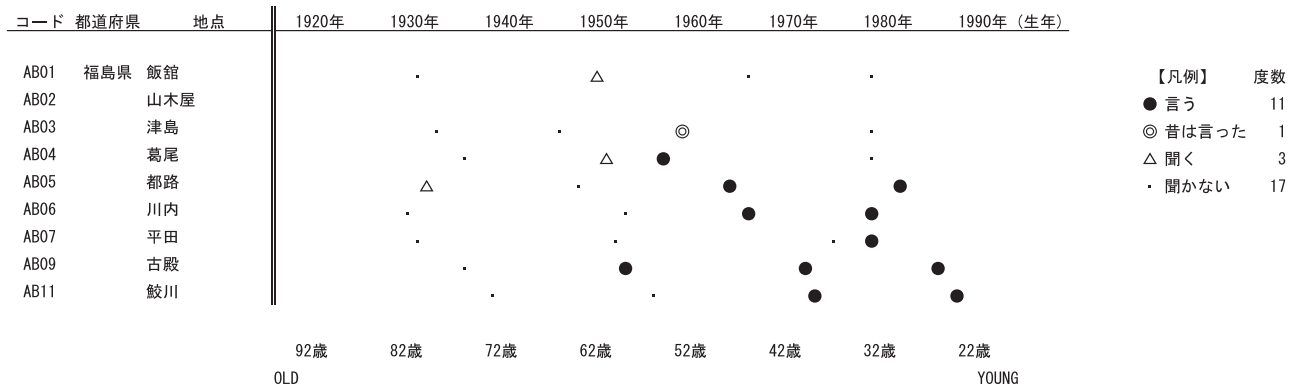


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム（第2次・2010年）

（2013. 03作成）

■ 135. グーバ

野球などでチーム分けをするときに「グーバー」とか「ウラオモテ」とかしましたか？

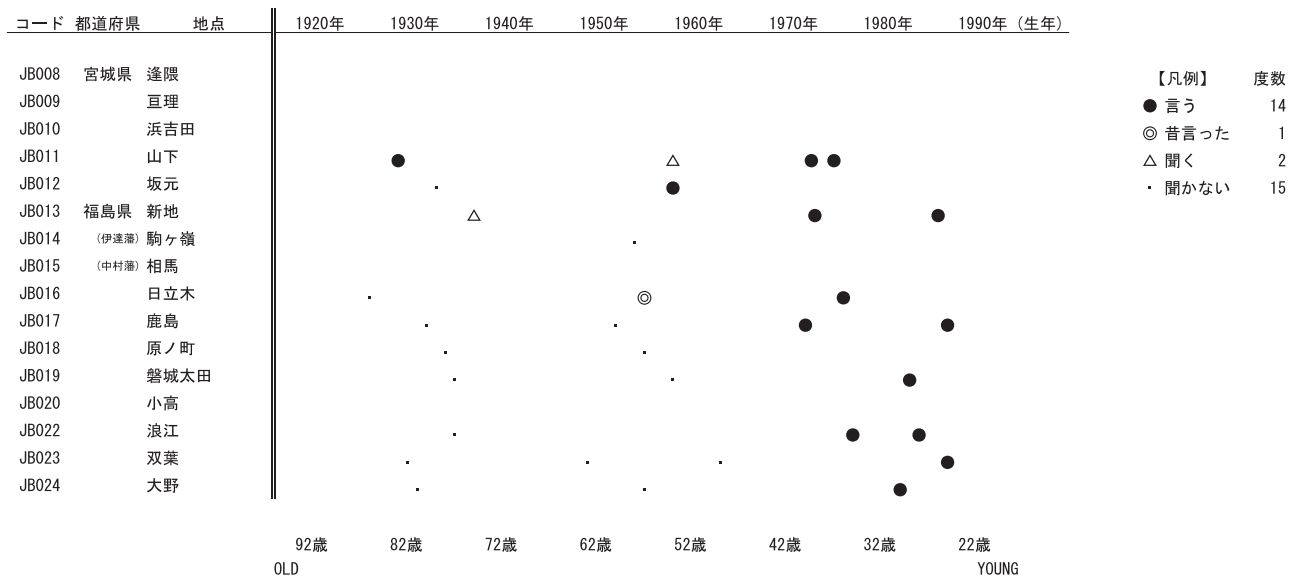


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 129. グーバ

野球などでチーム分けをするときに「グーバー」とか「ウラオモテ」とかしましたか？

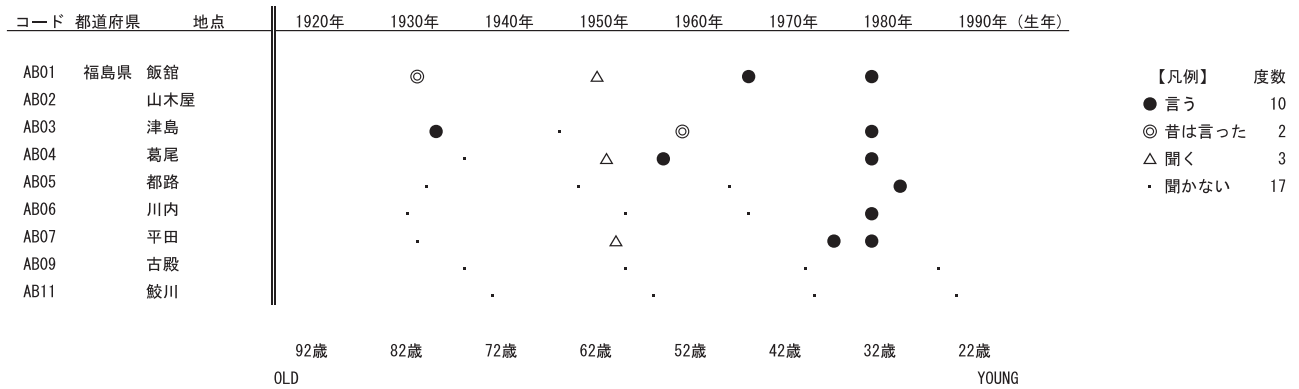


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 135. ウラオモテ

野球などでチーム分けをするときに「グーバー」とか「ウラオモテ」とかしましたか？

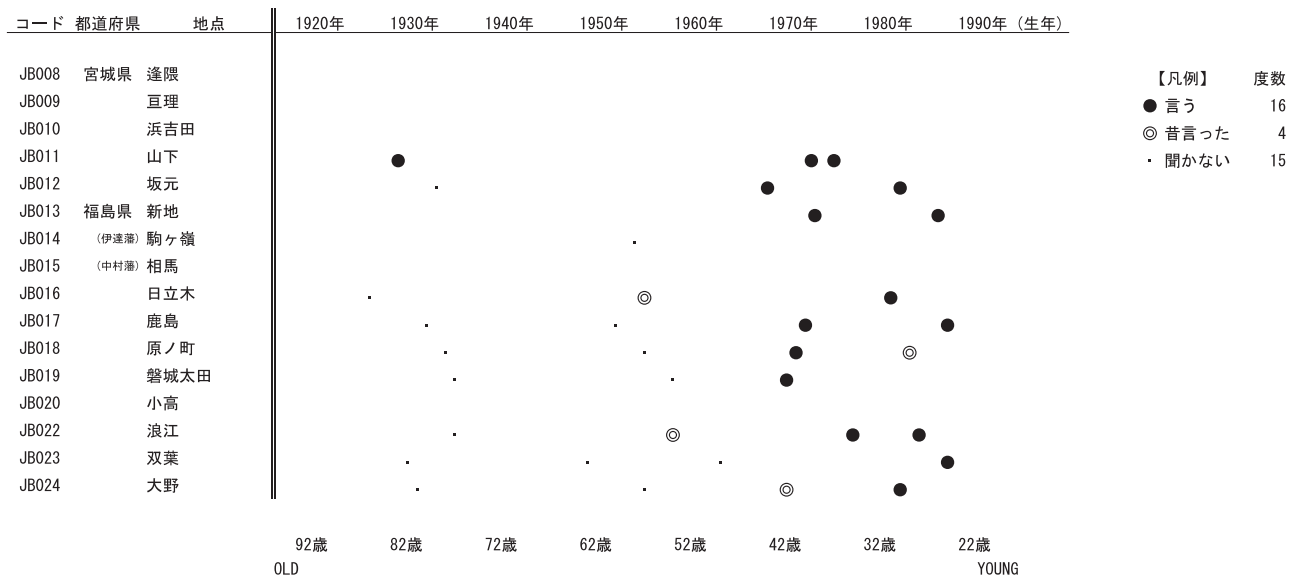


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 129. ウラオモテ

野球などでチーム分けをするときに「グーバー」とか「ウラオモテ」とかしましたか？

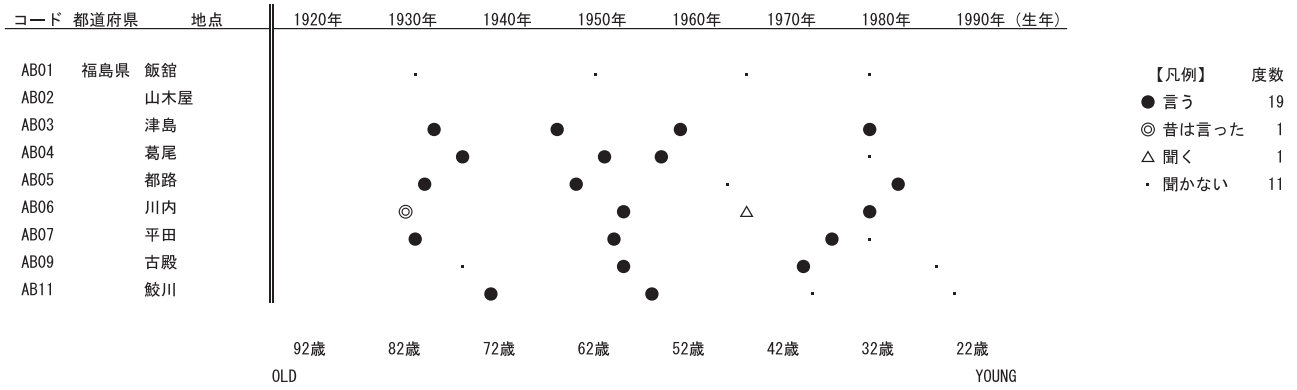


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 136. ノーサイ

トランプのページワンという遊びで、最後の一枚を出すときに「ノーサイ」とか「ノームサイ」とか言いませんか？

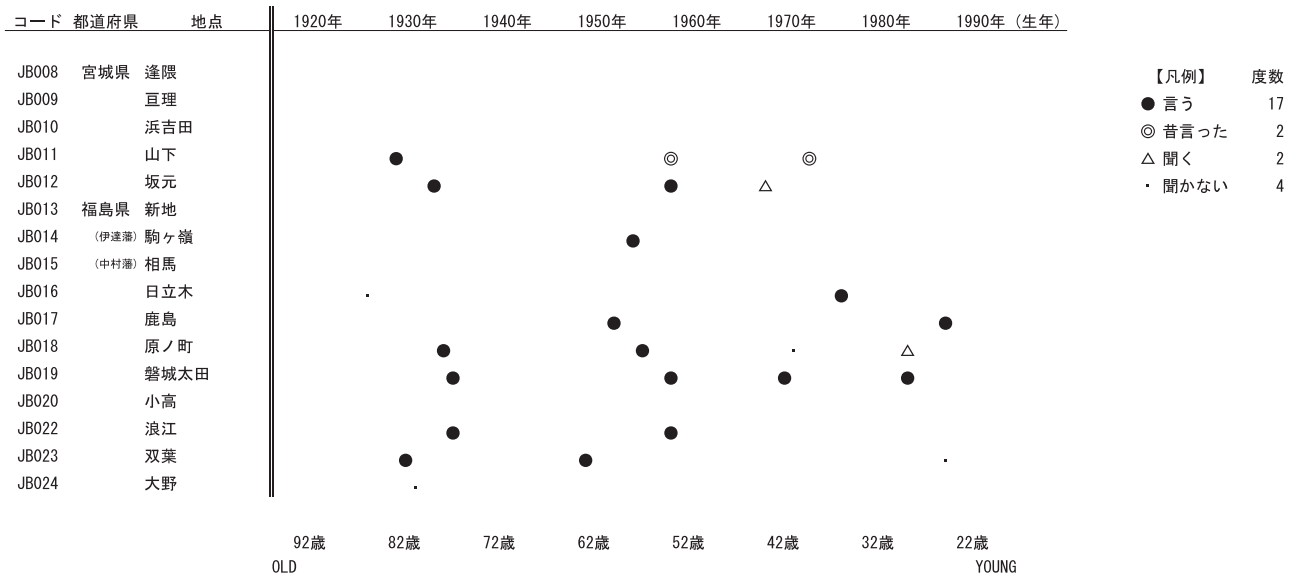


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 130. ノーサイ

トランプのページワンという遊びで、最後の一枚を出すときに「ノーサイ」とか「ノームサイ」とか言いませんか？

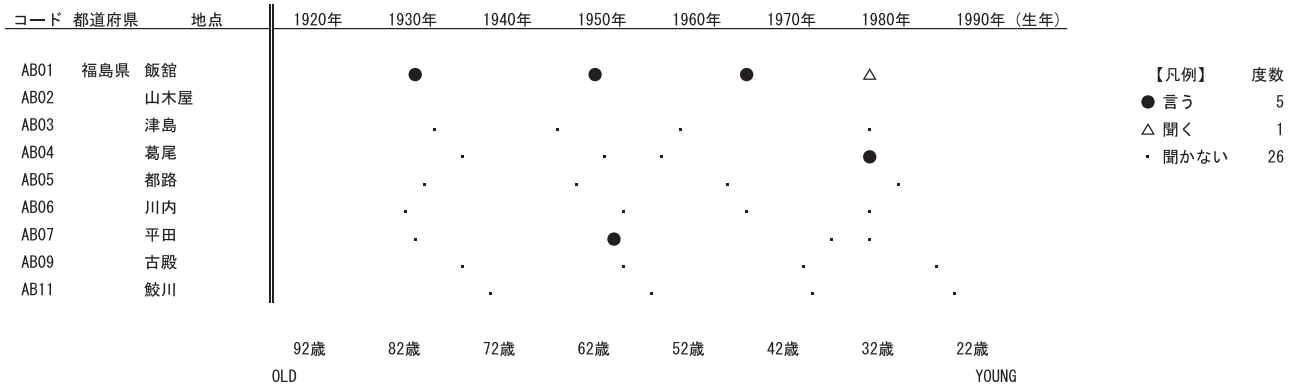


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 136. ノームサイ

トランプのページワンという遊びで、最後の一枚を出すときに「ノーサイ」とか「ノームサイ」とか言いませんか？

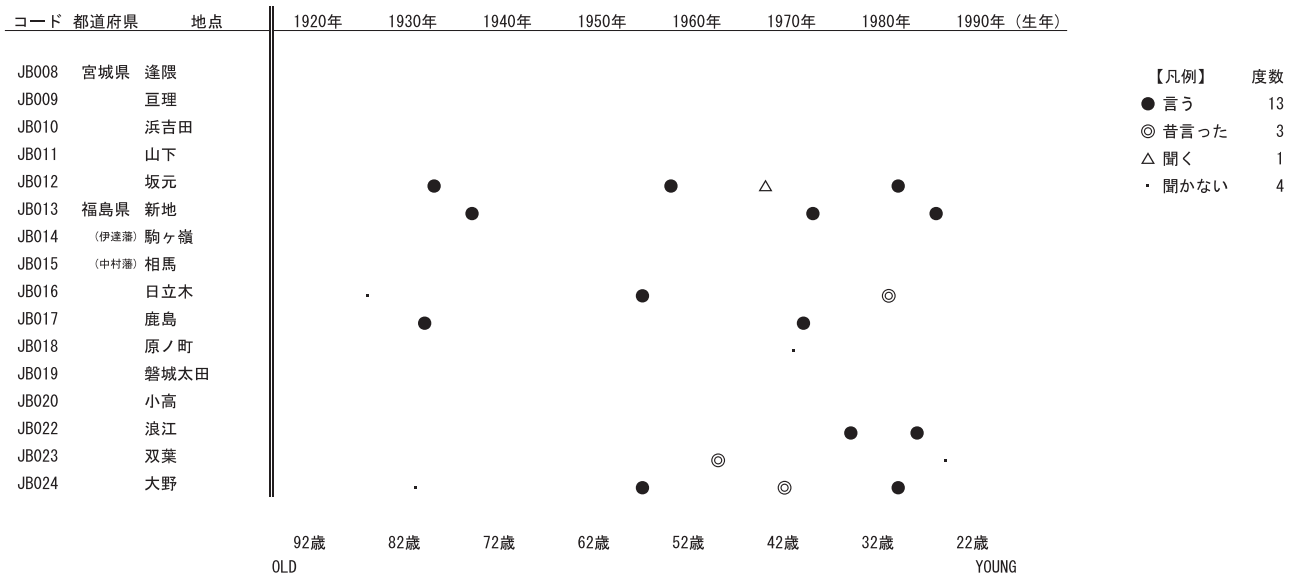


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 130. ノームサイ

トランプのページワンという遊びで、最後の一枚を出すときに「ノーサイ」とか「ノームサイ」とか言いませんか？

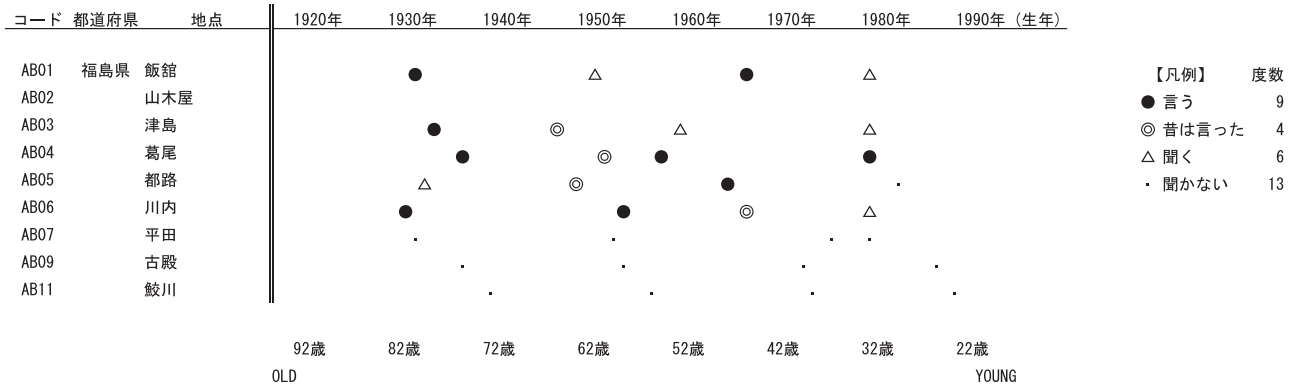


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 139. カンカチ

やけどのことを「カンカチ」と言いますか？

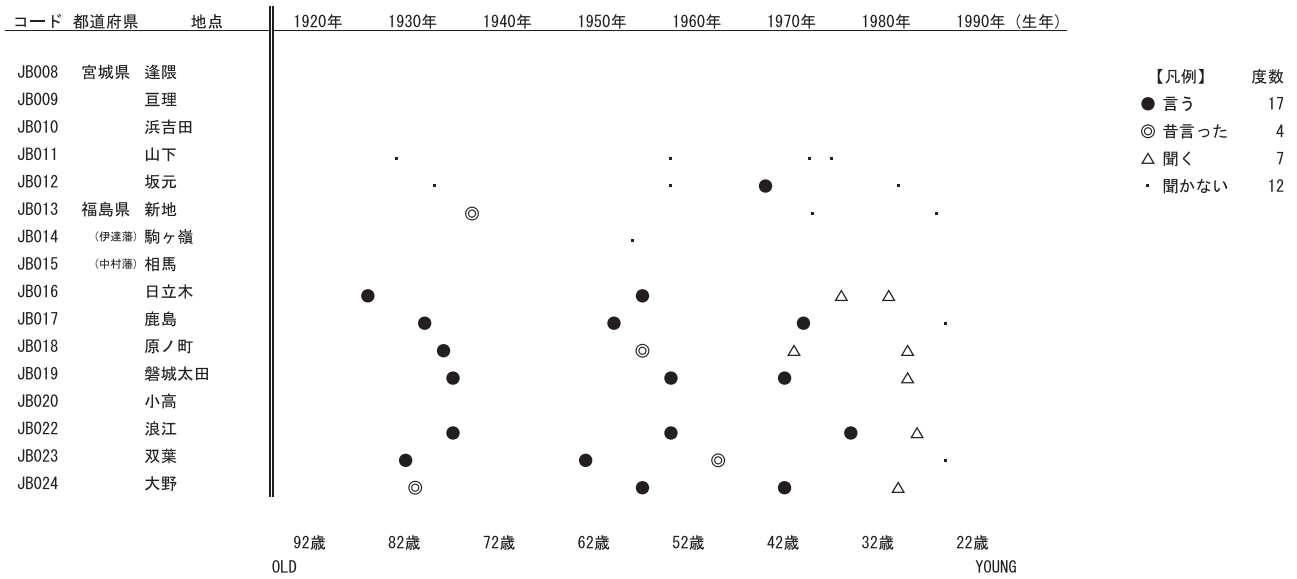


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 132. カンカチ

やけどのことを「カンカチ」と言いますか？

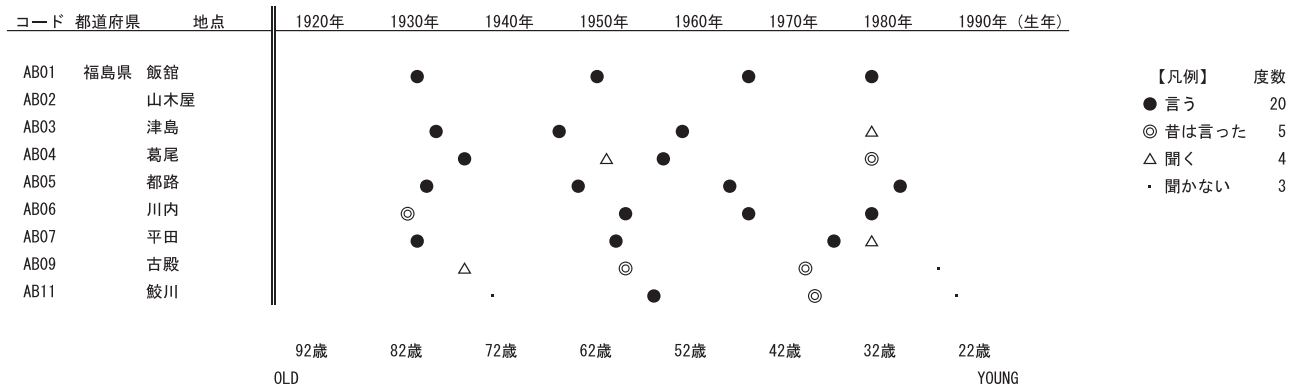


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 140. イタマシー

もったいないということを「イタマシー」と言いますか？

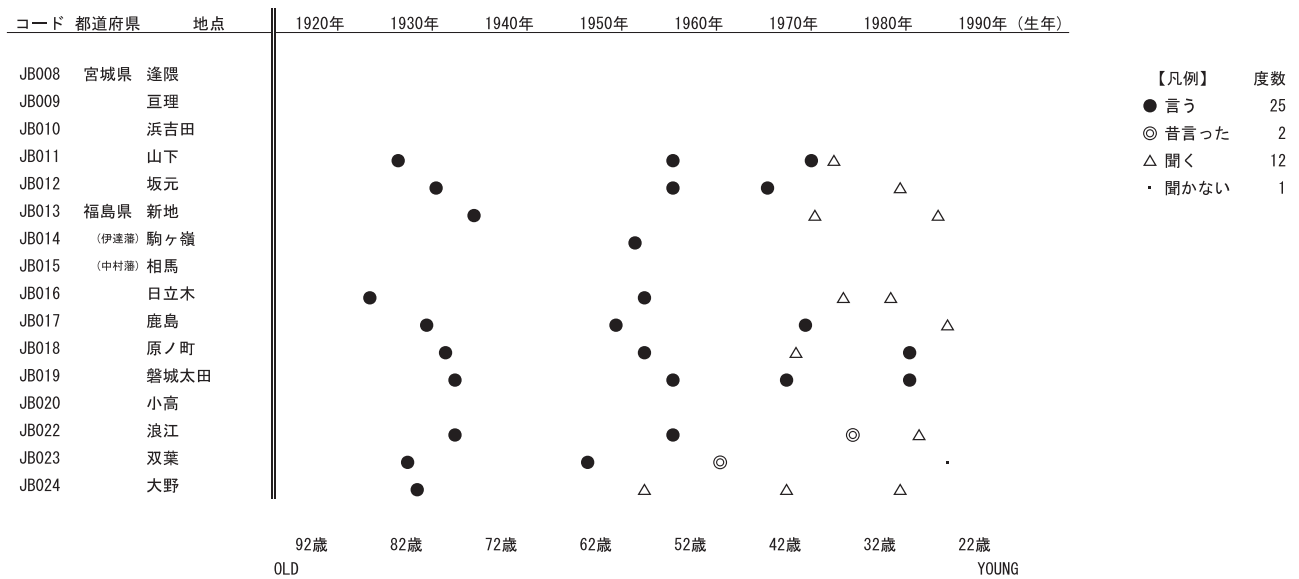


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 135. イタマシー

もったいないということを「イタマシー」と言いますか？

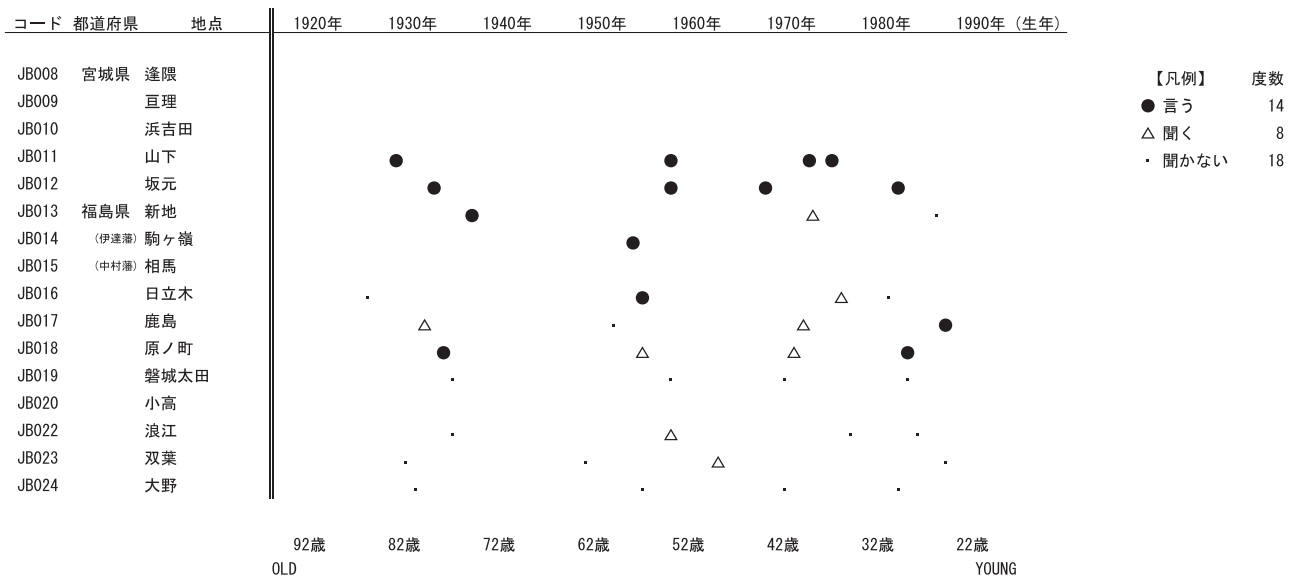


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 125. イズイ

服のサイズが合わなくて、なんとなく気になることを「イズイ」と言いますか？

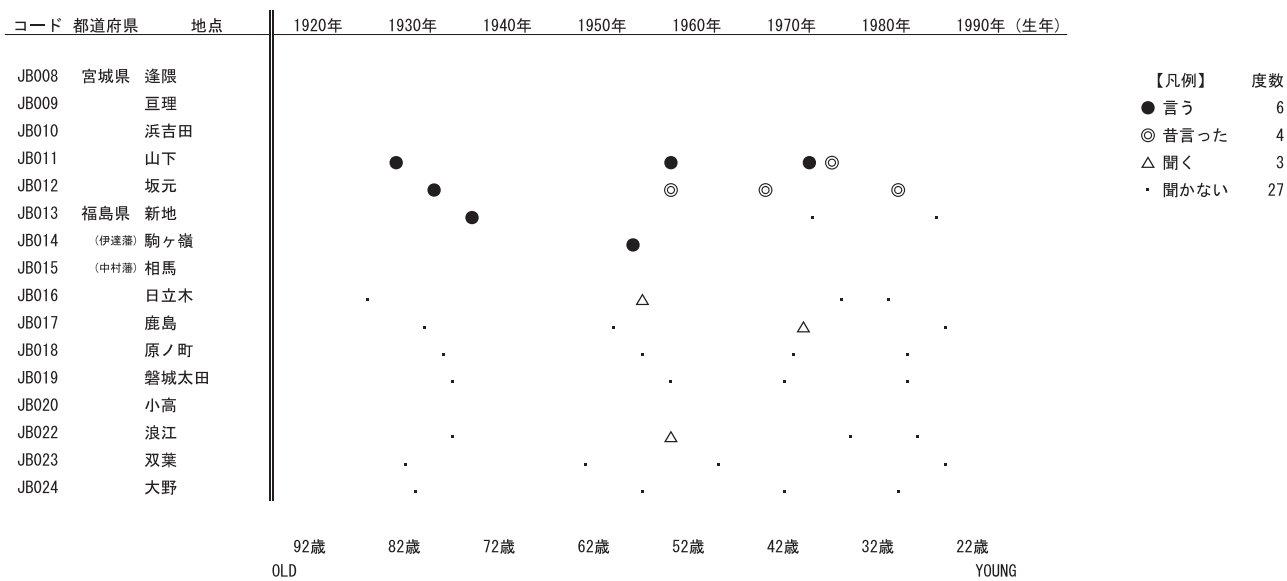


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 133. ジャス

運動着のことを「ジャス」と言いますか？

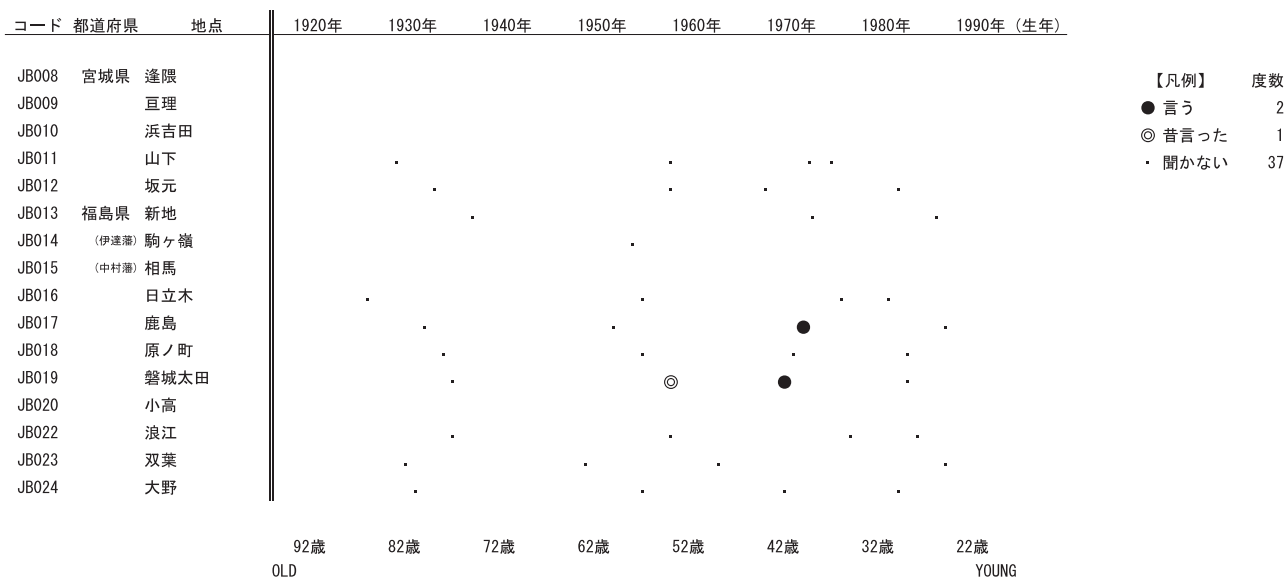


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 134. タダクリ

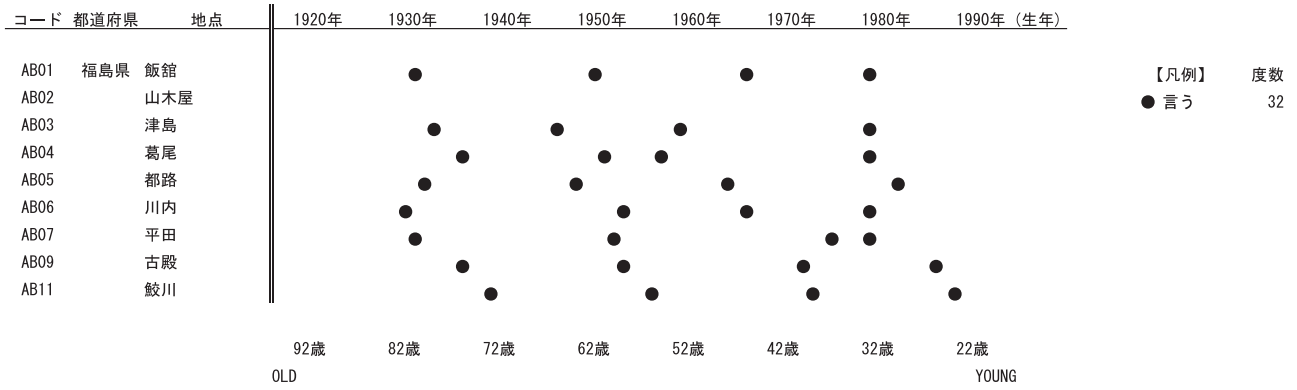
「いい加減に・適当に」ということを「タダクリ」とか「タダクレ」と言いますか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

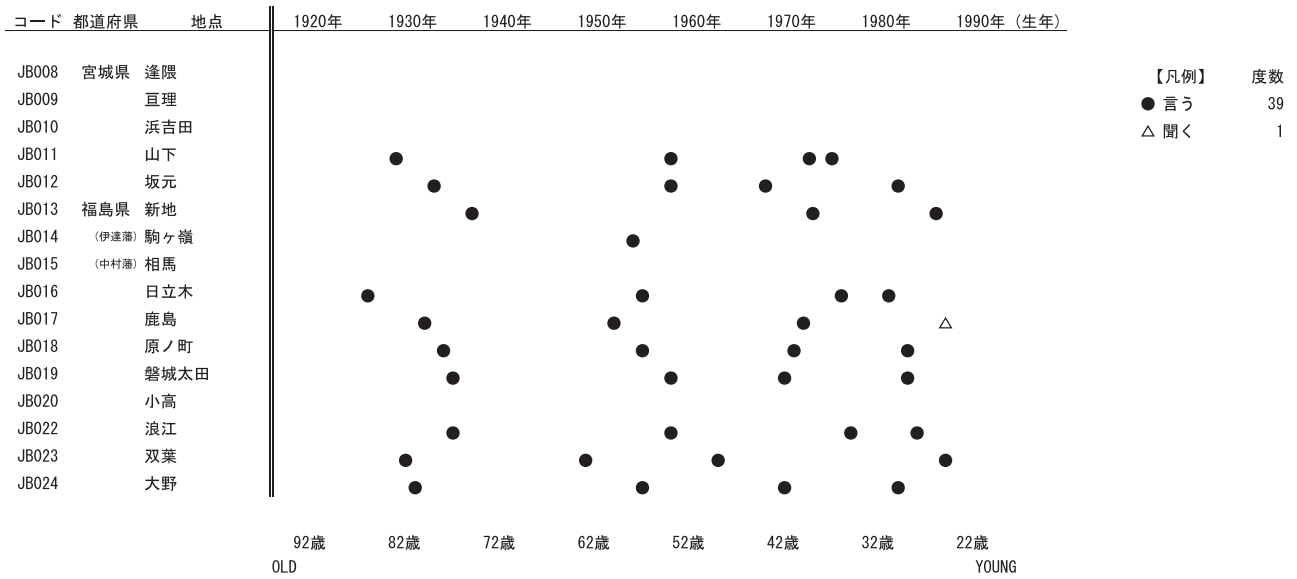
■ 227. アルッテ行く 隣まで乗物に乗らないでとことこと「アルッテ行く」と言いますか？



阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 223. アルッテ行く 隣まで乗物に乗らないでとことこと「アルッテ行く」と言いますか？

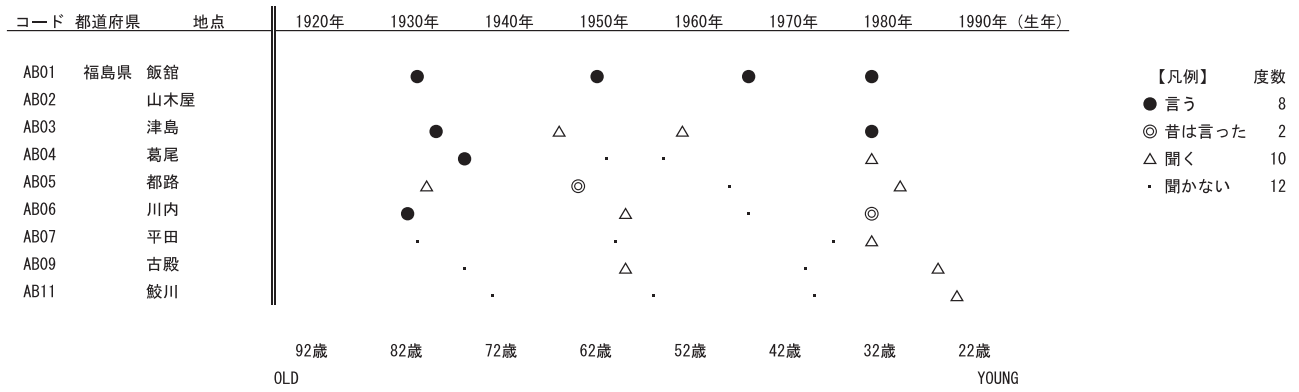


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 229. デー

「やめろよ」とか「○○なんだよ」と相手に強く言うときに「やめろデー」とか「○○なんだズー」のように「デー」とか「ズー」と言うことはありませんか？

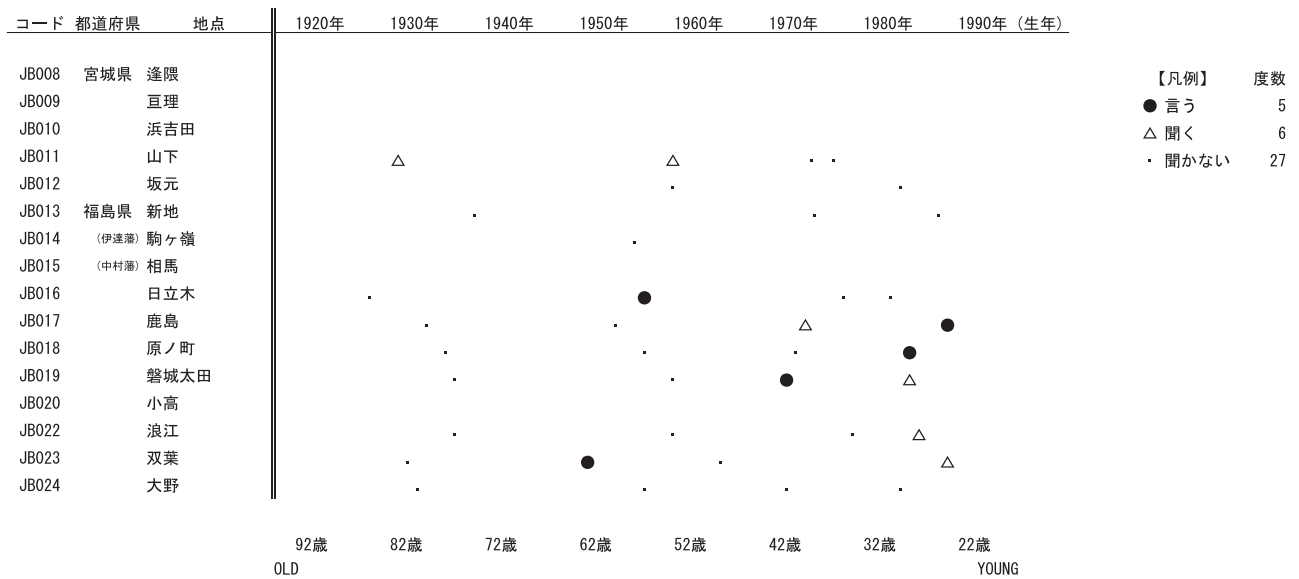


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 224. デー

「やめろよ」とか「○○なんだよ」と相手に強く言うときに「やめろデー」とか「○○なんだズー」のように「デー」とか「ズー」と言うことはありませんか？

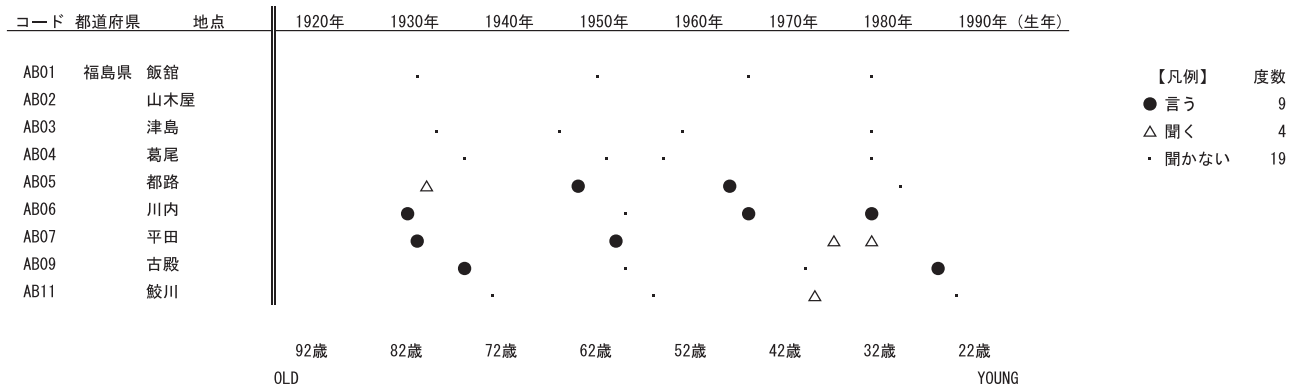


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 230. ハー(帰れ)

親しい人に「もう帰れ」と言うときに「帰れハー」とか「帰れワ」とか言いませんか？

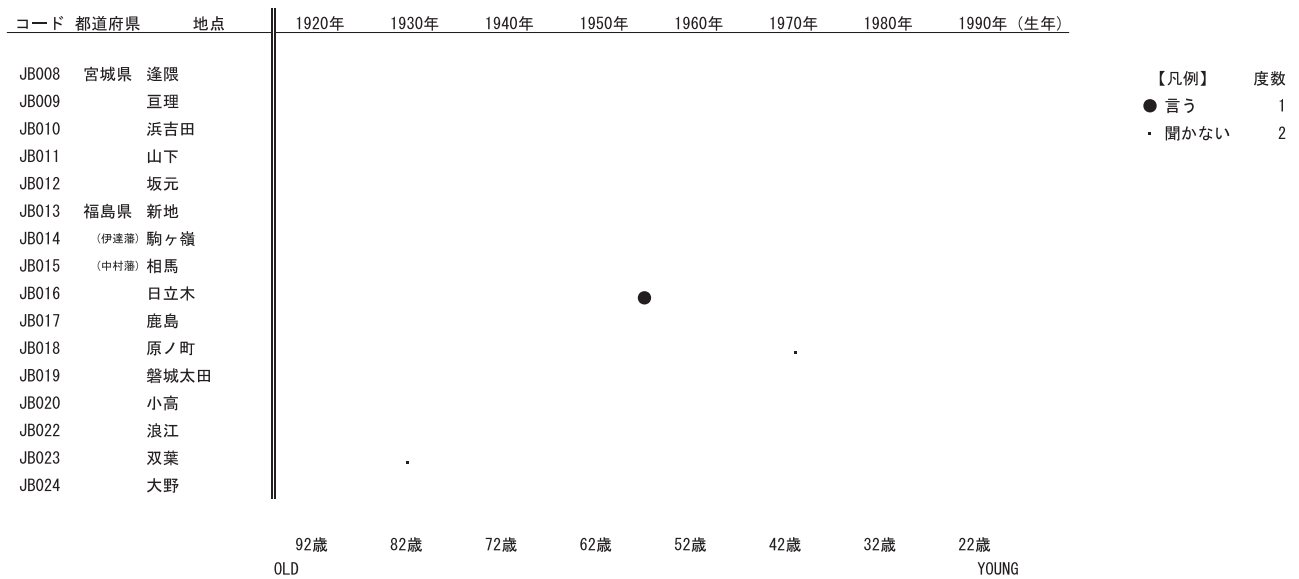


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 225. ハー(帰れ)

親しい人に「もう帰れ」と言うときに「帰れハー」とか「帰れワ」とか言いませんか？

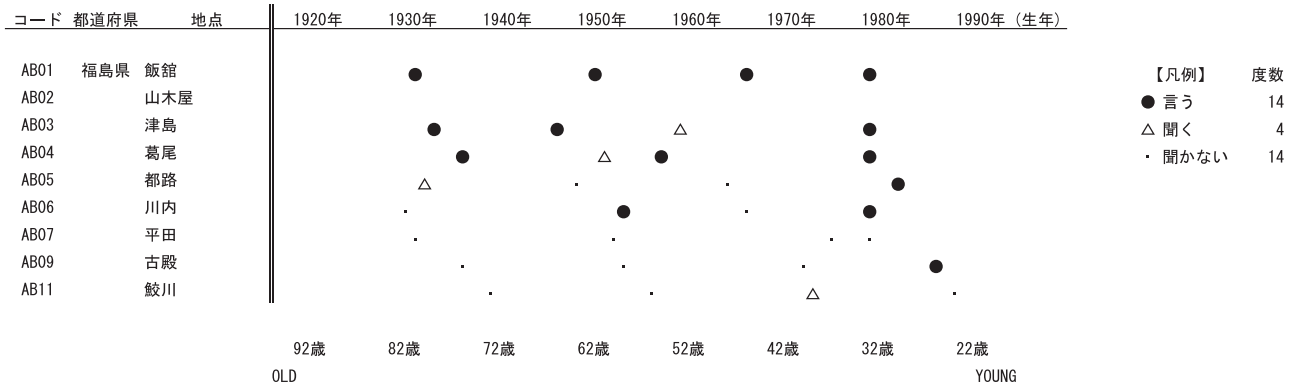


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
 常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 230. (帰れ)ハー

親しい人に「もう帰れ」と言うときに「帰れハー」とか「帰れワ」とか言いませんか？

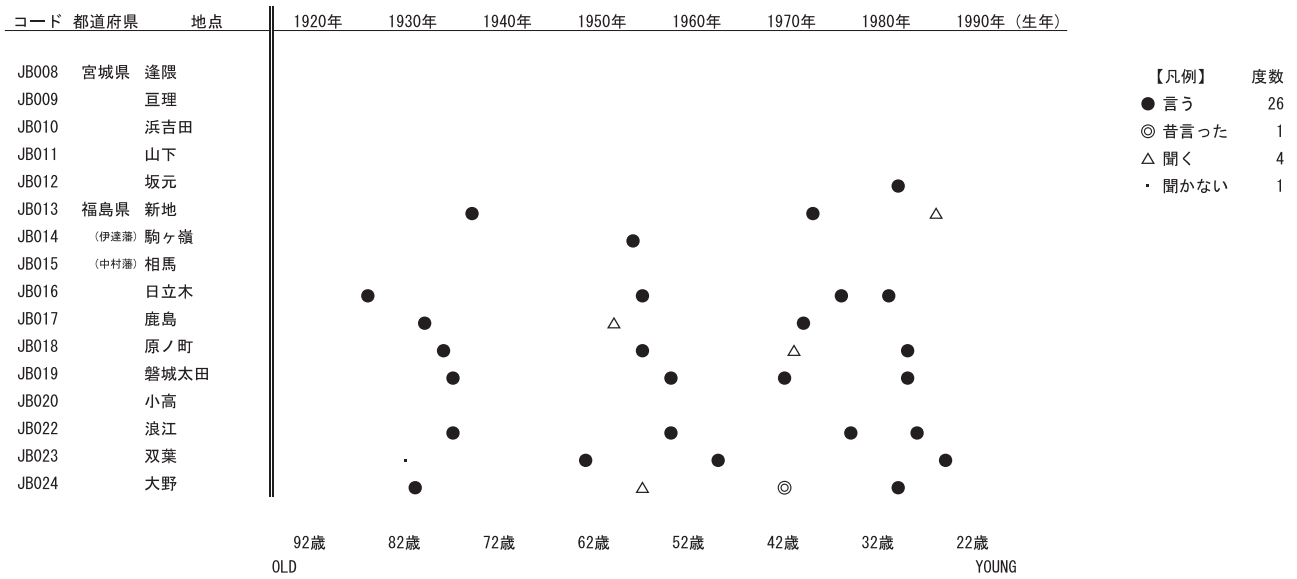


阿武隈高地グロットグラム (2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 225. (帰れ)ハー

親しい人に「もう帰れ」と言うときに「帰れハー」とか「帰れワ」とか言いませんか？

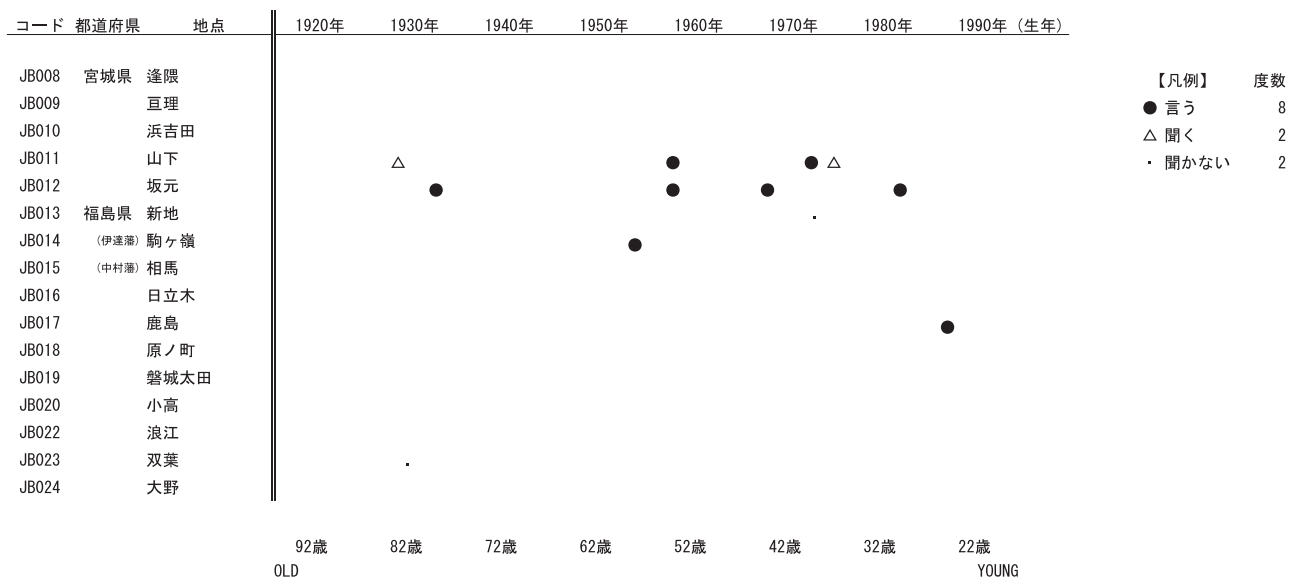


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム (第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 225. (帰れ)ワ

親しい人に「もう帰れ」と言うときに「帰れハー」とか「帰れワ」とか言いませんか？

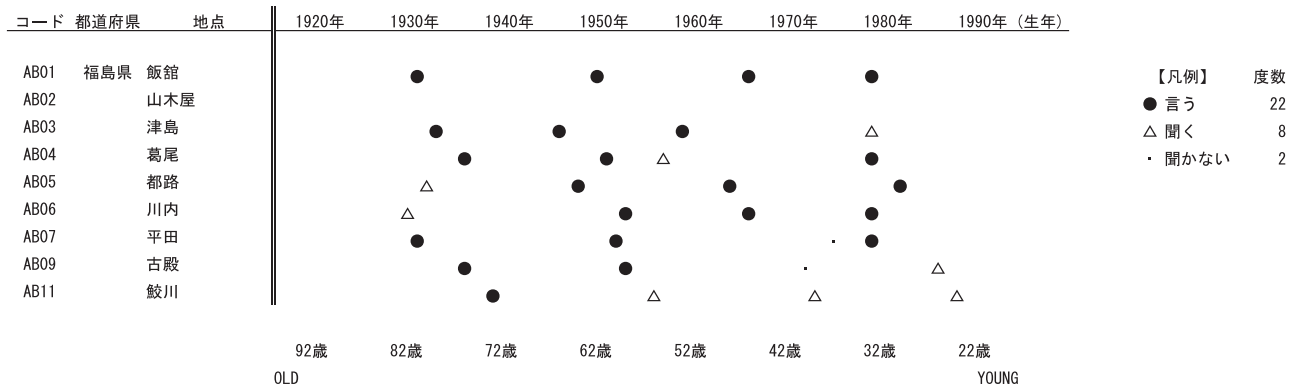


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 231. 公民館サ行く

「公民館へ行ってくるから」と言うときの「公民館へ」の部分を「公民館サ行く」のようには言いませんか？

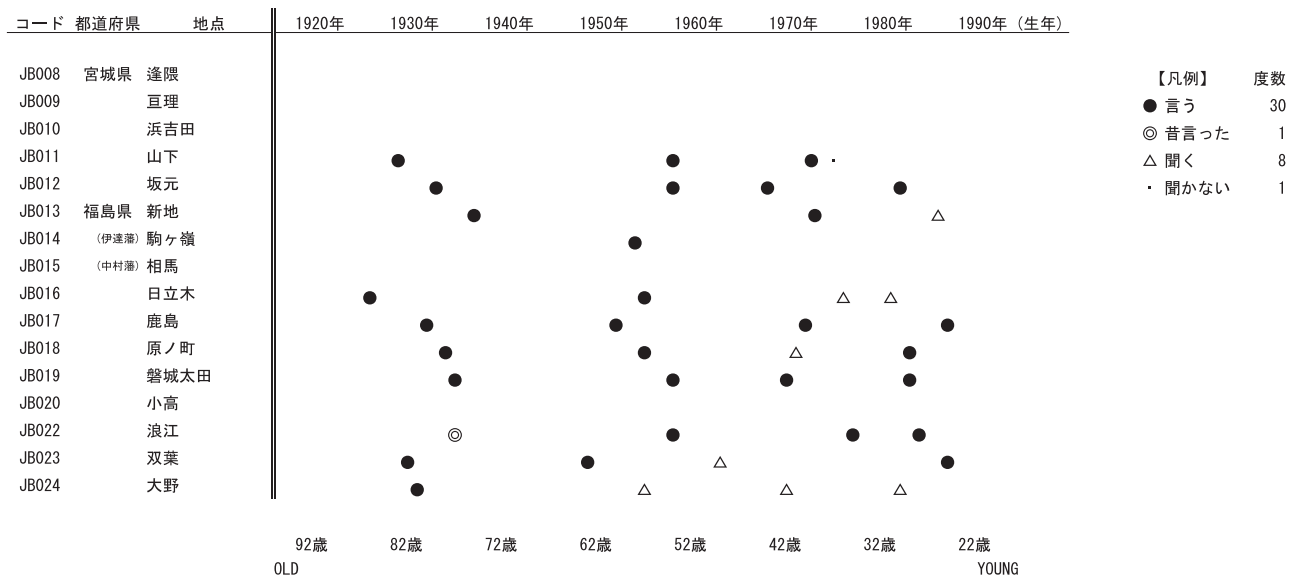


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 226. 公民館サ行く

「公民館へ行ってくるから」と言うときの「公民館へ」の部分を「公民館サ行く」のようには言いませんか？

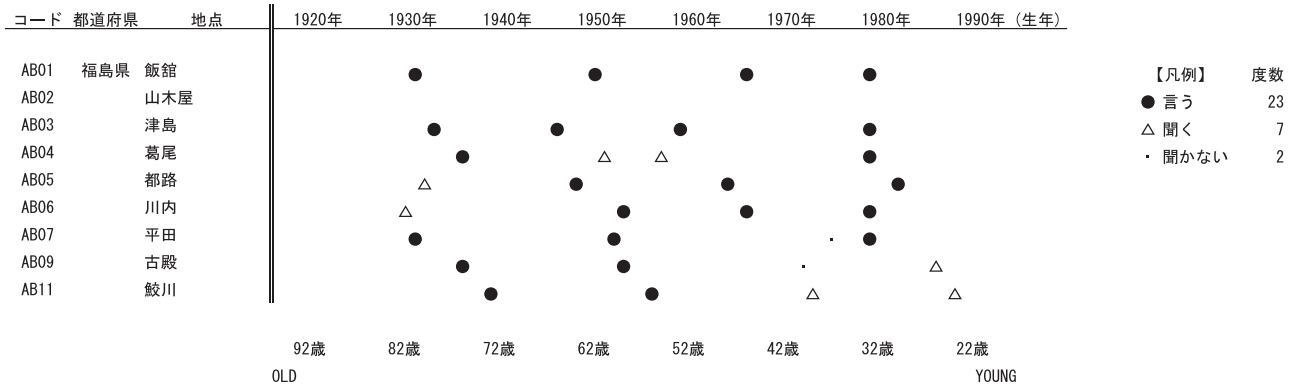


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 232. 家サいる

「明日は家にいるよ」と言うときの「家に」の部分「家サいる」と言いますか？

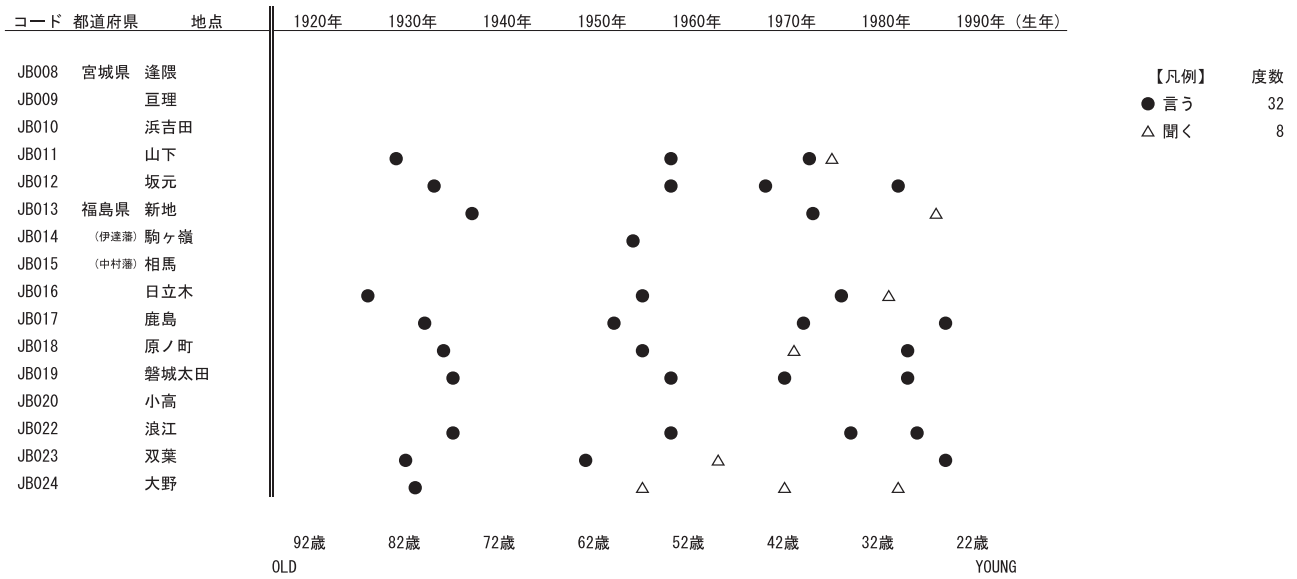


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 227. 家サいる

「明日は家にいるよ」と言うときの「家に」の部分「家サいる」と言いますか？

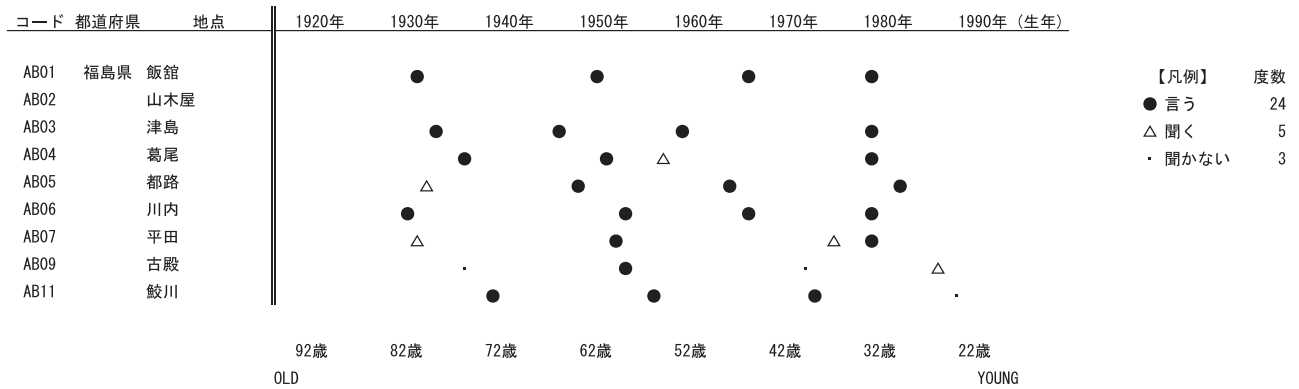


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 233. ここサある

「鉛筆はここにあるよ」と言うときの「ここに」の部分で「ここサある」と言いますか？

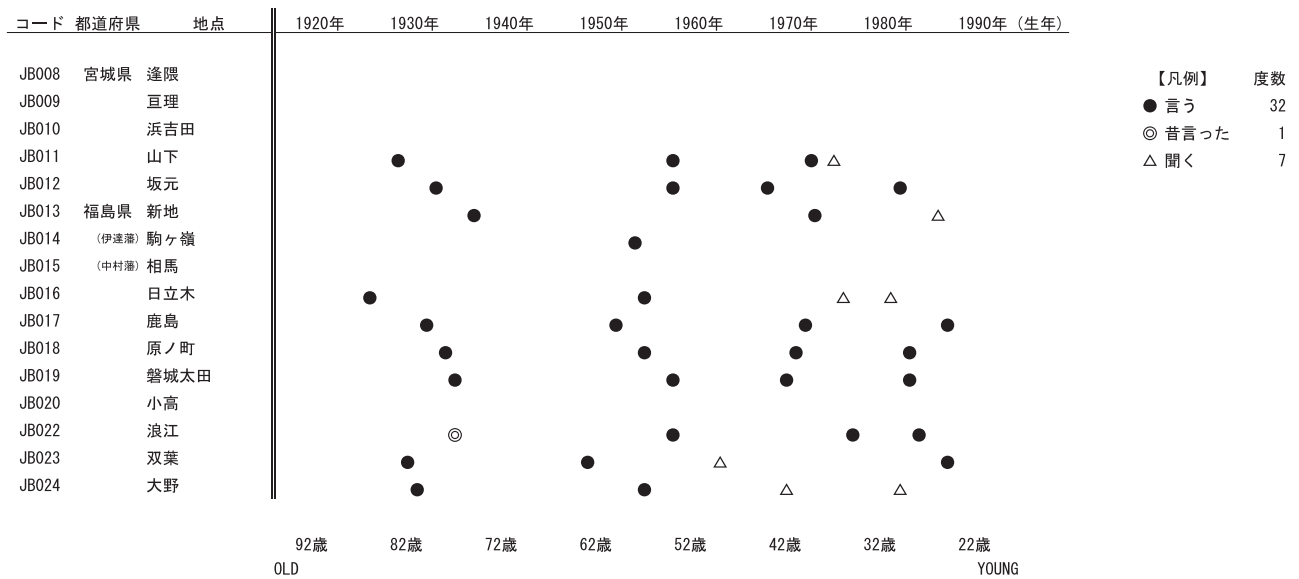


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013.03作成)

■ 228. ここサある

「鉛筆はここにあるよ」と言うときの「ここに」の部分で「ここサある」と言いますか？

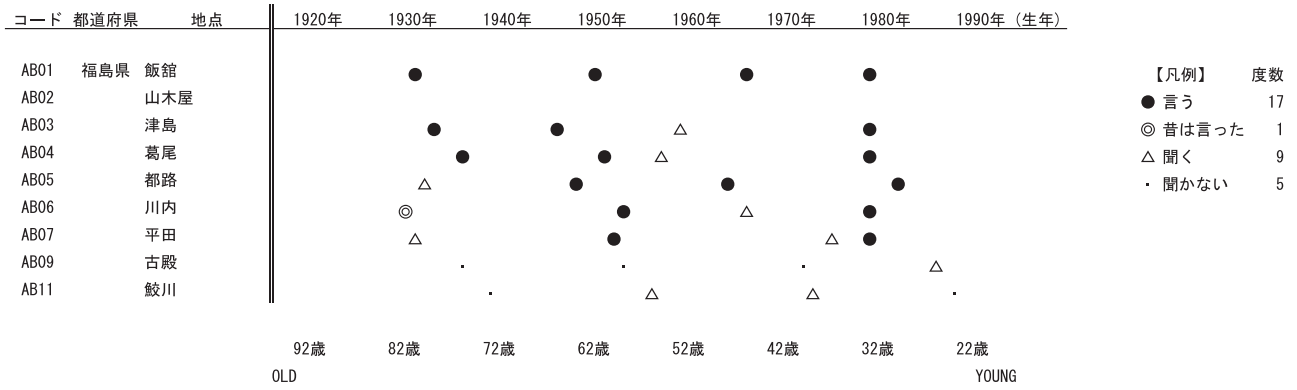


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013.03作成)

■ 234. 駅前サある

「デパート(役場, 郵便局)は駅前にある」と言うときの「駅前に」の部分「駅前サある」と言いますか？

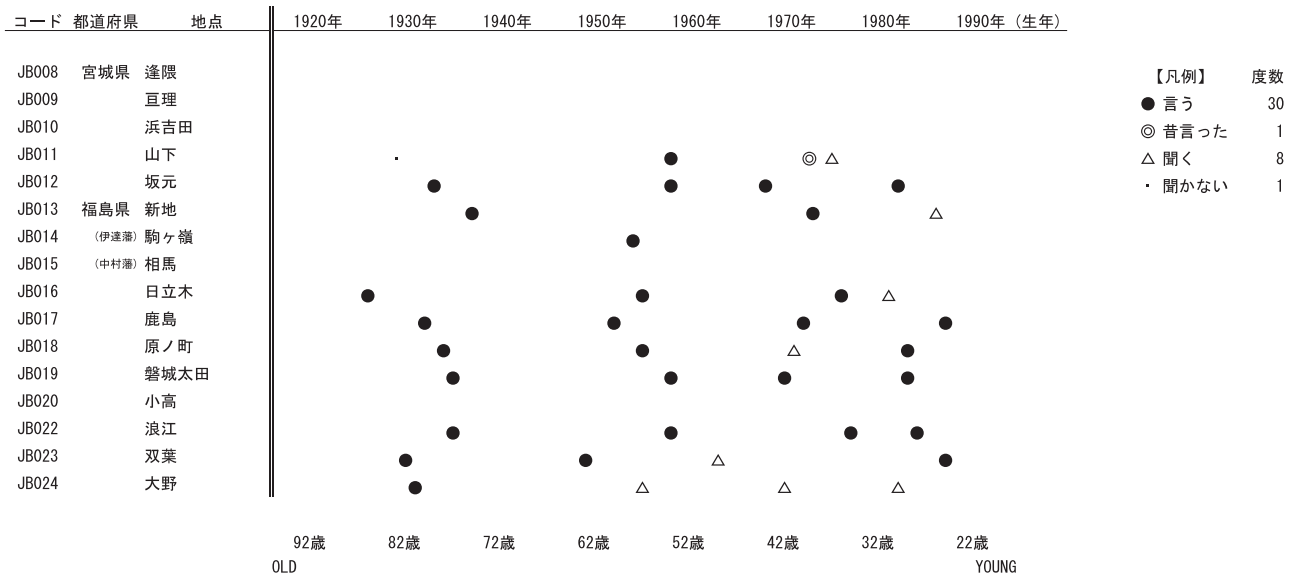


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 229. 駅前サある

「デパート(役場, 郵便局)は駅前にある」と言うときの「駅前に」の部分「駅前サある」と言いますか？

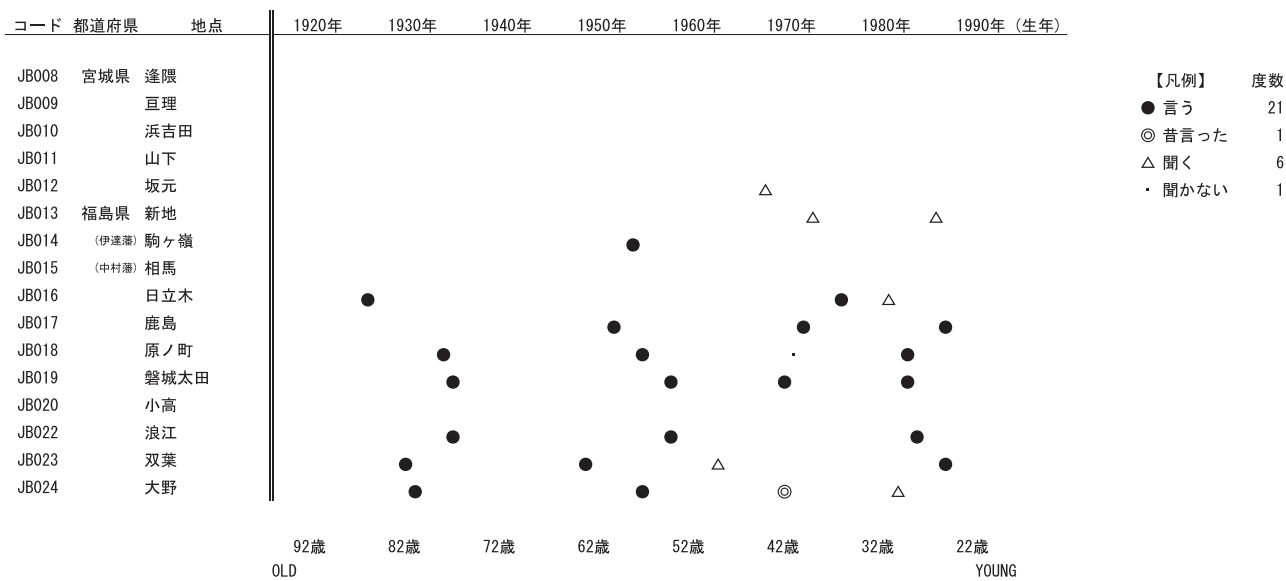


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 230. 取ッシャ

「ものを取りに行ってくる」と言うときの「取りに」の部分を取ッシャ行ってくるのように言いますか？

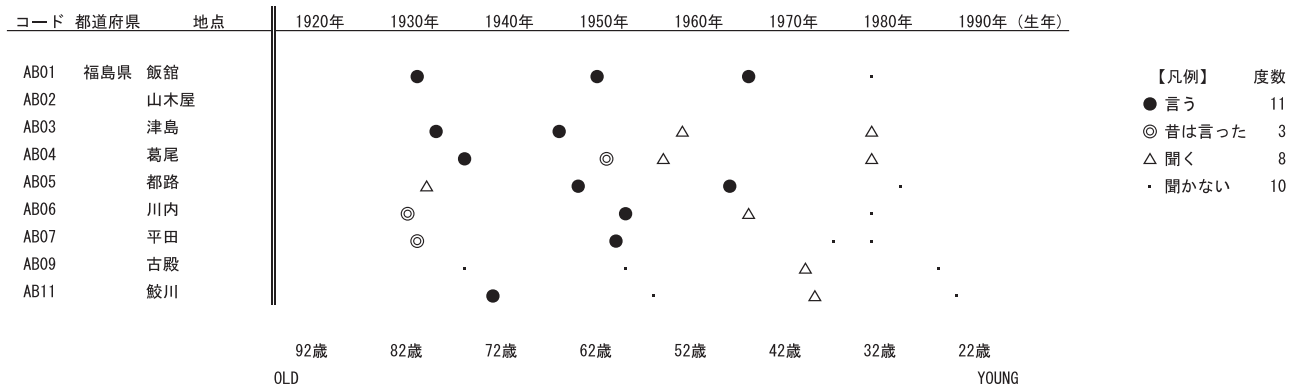


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 235. 千円ガナ

「お米を千円分ください」の「千円分」の部分で「千円ガナ」とは言いませんか？

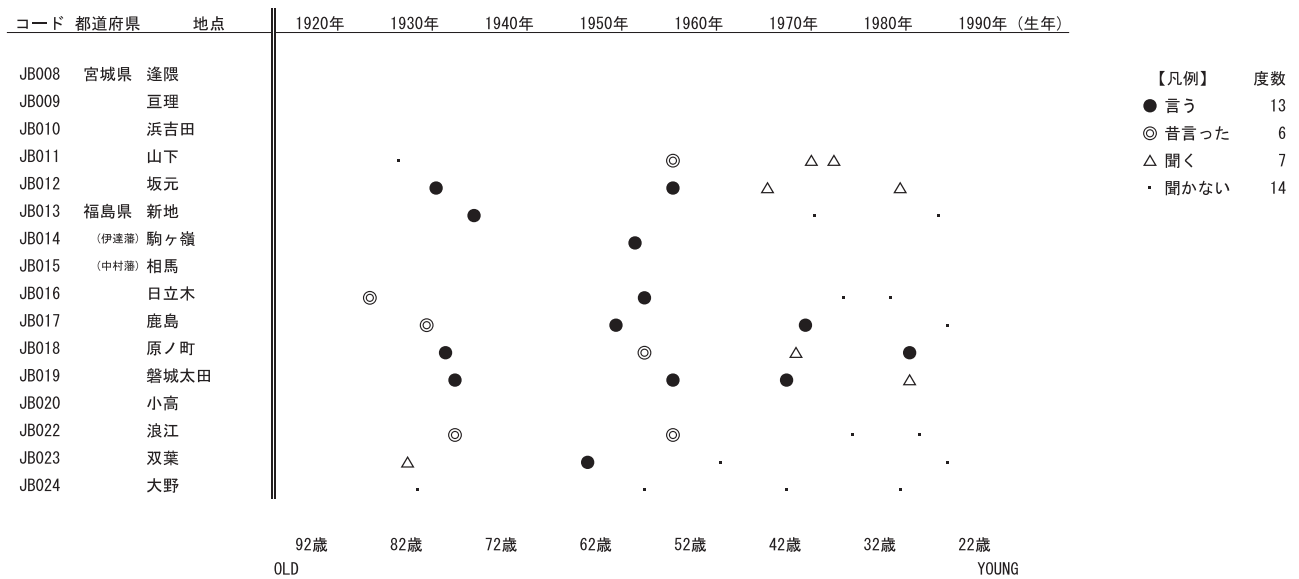


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 231. 千円ガナ

「お米を千円分ください」の「千円分」の部分で「千円ガナ」とは言いませんか？

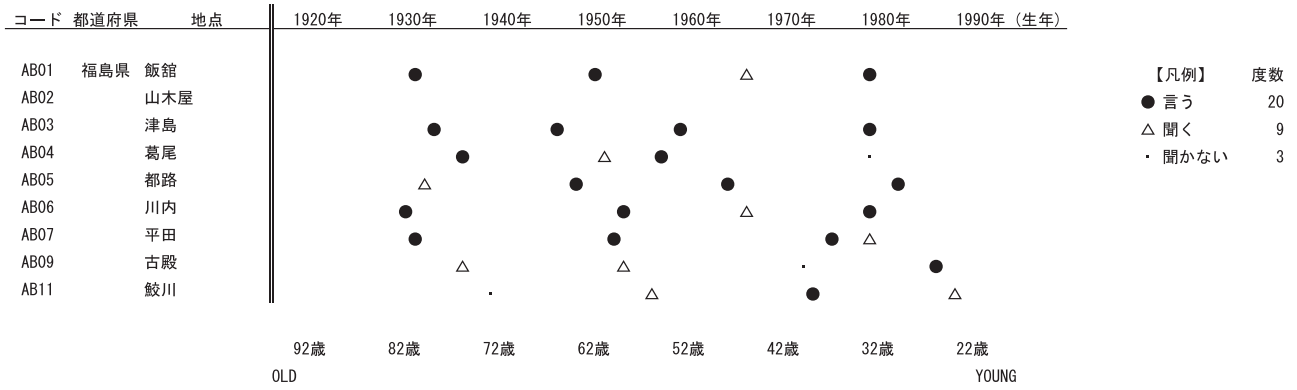


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 238. いたッケ

「〇〇さん、どこ？」と聞かれて、「〇〇さんなら今朝は役場にいた」と人に教える場合「今朝、〇〇さん役場にいたッケよ」と言うことはありますか？

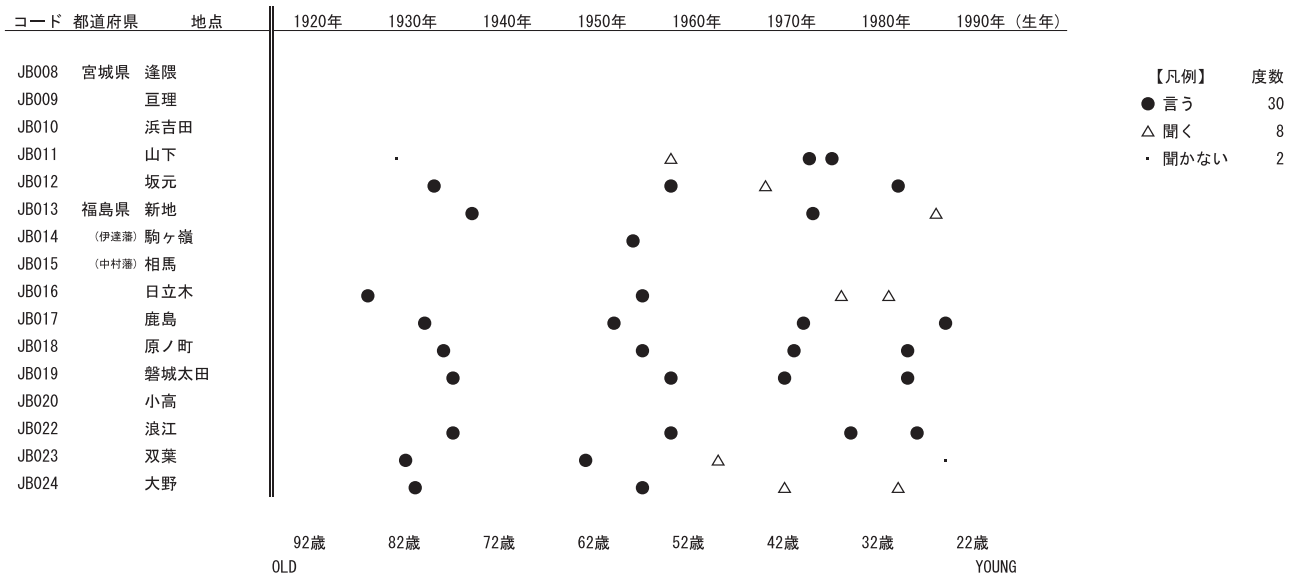


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 233. いたッケ

「〇〇さん、どこ？」と聞かれて、「〇〇さんなら今朝は役場にいた」と人に教える場合「今朝、〇〇さん役場にいたッケよ」と言うことはありますか？

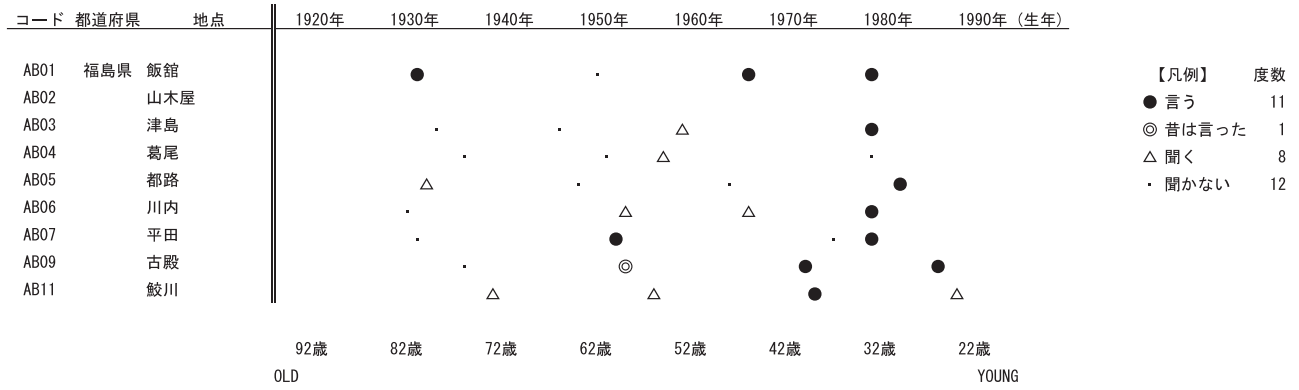


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 239. ダッケ（一人称）

「私は昨日、東京へ行ったんだよ」と相手に伝える場合に「昨日、東京行ったんダッケ」という言い方をすることがありますか？

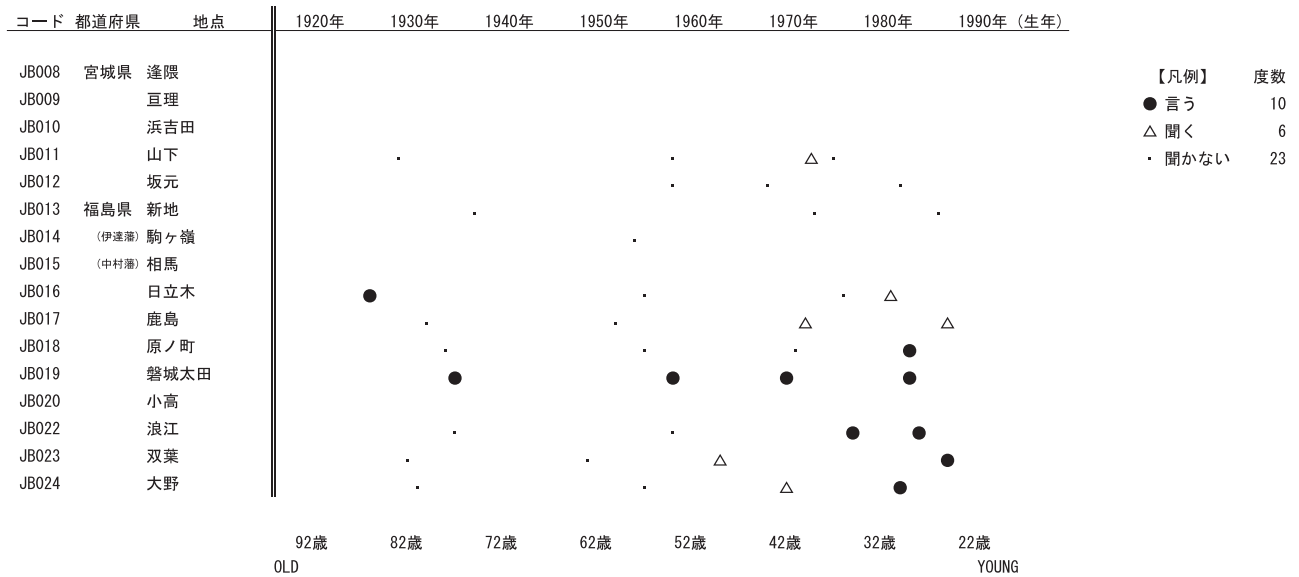


阿武隈高地グロットグラム(2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 234. ダッケ（一人称）

「私は昨日、東京へ行ったんだよ」と相手に伝える場合に「昨日、東京行ったんダッケ」という言い方をすることがありますか？

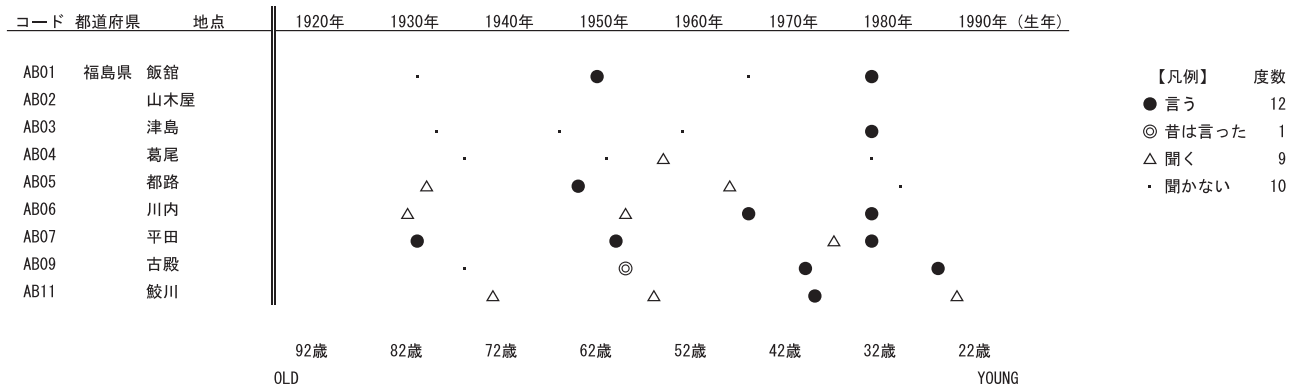


方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム(第2次・2010年)

(2013. 03作成)

■ 240. ダッケ (三人称)

では「〇〇さんは昨日、東京へ行ったんだよ」と相手に伝える場合に「〇〇さん、昨日、東京行ったんだッケ」という言い方はどうでしょうか？

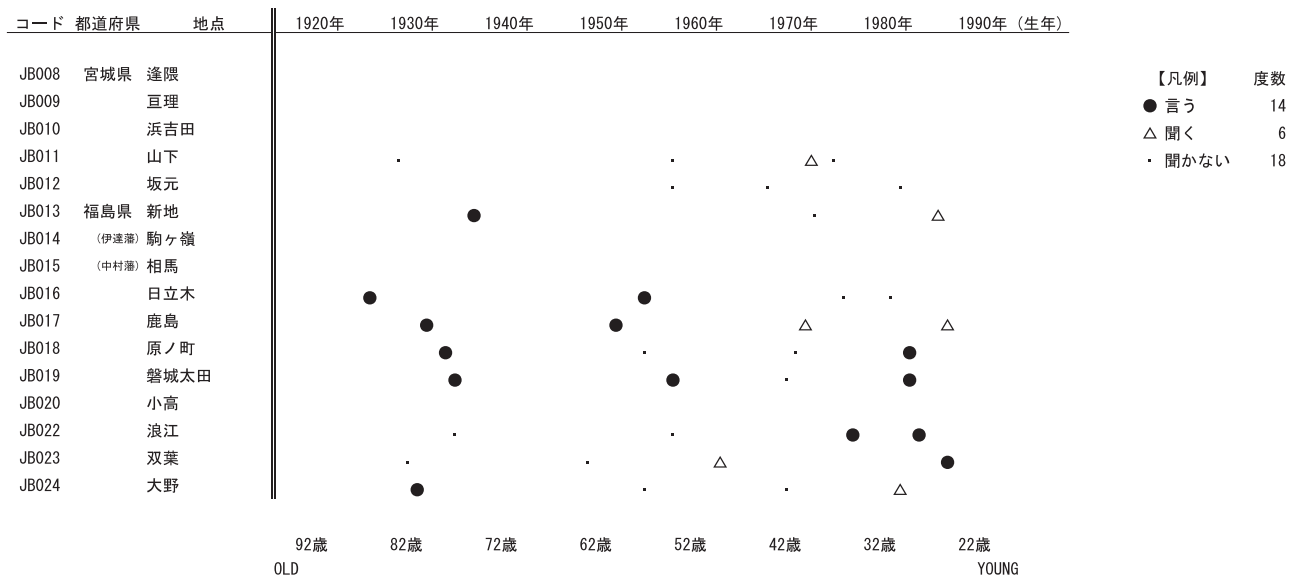


阿武隈高地グロットグラム (2008-09年)

(2013. 03作成)

■ 235. ダッケ (三人称)

では「〇〇さんは昨日、東京へ行ったんだよ」と相手に伝える場合に「〇〇さん、昨日、東京行ったんだッケ」という言い方はどうでしょうか？



方言調査法の信頼性検討を目的とした調査研究
常磐線グロットグラム (第2次・2010年)

(2013. 03作成)

《 阿武隈高地グロットグラム・常磐線グロットグラム 索引 》

項目名	ページ	項目名	ページ	項目名	ページ
あざができる	69	くれた	104	玉蜀黍	54
アルッテ	123	くれない	105	トカゲとの区別	58
イキナリ(意外性)	113	けれども	90	取りたい	93
イキナリ(程度性)	112	公民館サ行く	128	泥はね	71
イズイ	120	家サいる	129	仲間はずれ	73
いたッケ	134	ここサある	130	怠け者	74
イタマシー	119	駅前サある	131	犬に(追いかけられた)	96
言った(だろう)	85	里芋	55	ノーサイ	116
今川焼き	81	取ッシャ	132	ノームサイ	117
インガミル	107	ジャス	121	飲みたい	95
ウラオモテ	115	知らない	92	飲もう	84
(犬に)追いかけられた	97	ずんだ餅	82	ハー(帰れ)	125
オダツ	111	葬式	80	(帰れ)ハー	126
おたまじゃくし	56	そうだ(ろう)	88	額	67
お手玉	62	タダクリ	122	まむし	59
おなもみ	60	ダッケ(一人称)	135	眉毛	66
おもしろい	75	ダッケ(三人称)	136	鳩尾	68
肩車	64	頼んでおいた	102	見たい	94
カタス	108	騙されていた	101	見ていた	99
カッターイ	109	(言った)だろう	86	見よう	83
カッターイ(意味)	110	(寒かった)だろう	87	明々後日	78
千円ガナ	133	(そう)だろう	89	明々後日の翌日	79
かなへび	57	唾	65	めんこ	61
カンカチ	118	氷柱	72	ものもらい	70
グーパ	114	連れて	98	やる	76
来ることができない	91	デー	124	よそう	77
くれ	106	手ぬぐい	63	読んでしまった	103
				(帰れ)ワ	127
				忘れていた	100

[付録]

調査票

『面接調査票(被災された方)』	・ ・ ・ ・ ・	139
『面接調査票(自治体職員)』	・ ・ ・ ・ ・	146
『自記式調査票(被災された方・大分県版)』	・ ・ ・ ・ ・	153
『自記式調査票(支援学生)』	・ ・ ・ ・ ・	155

調査票番号[]

【東日本大震災をめぐる方言問題の意識調査】

面 接 調 査 票 （ 被 災 さ れ た 方 ）

■調査年月日	2012年 月 日 ()	
■調査実施地点	都道府県名	01.青森 02.岩手 03.宮城 04.福島 05.茨城 99.その他[]
	市町村名	[]市・町・村
■インフォーマント	年齢	80代 70代 60代 50代 40代 30代 20代 10代
	性別	男性 女性
	本来の居住地	01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町 07.富岡町 08.楡葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯舘村 13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 99.その他 []
■調査員	面接担当	
	録音・補助	

《 調査の注意点 》

1. 本調査票を用い、インフォーマントへインタビューを行う。
2. インタビューは「半構造的インタビュー」とする。各ページ冒頭の観点 A～D について、●◇（◇は枝質問）に示した手がかりを適宜活用しながら、インフォーマントの意識、意見等を自由に語ってもらう。調査員はそこからインフォーマントの方言意識、方言復興ニーズ等を汲み取る。
3. 構造的・指示的なインタビューではないので、必ずしも●◇の内容すべてを確認する必要はない。インフォーマントの自由な談話を妨げないようにする。
4. 末尾のフェイス項目についても、可能な範囲のみ記録すればよい。
5. 言うまでもないが、インフォーマントの被災状況に十分に留意して適切に質問等を選択すること。

調査開始時刻：2012 年 月 日（ ） [：]（24 時間制で記録）

F01. インフォーマントのお名前：[]

F02. 本来の居住地：

- 01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町
07.富岡町 08.檜葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯舘村
13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 99.その他[]

市・町・村]

F03. インフォーマントのご出身地：

- 01.本来の居住地 02.県内の他地域[] 市・町・村]
03.県外[] 都・道・府・県 市・町・村]

F04. インフォーマントの年齢：[] 歳

※以上の情報は必ずしも調査開始直後に聞く必要はない。調査中の雑談等で確認してもよい。確認後は適宜本欄および表紙、末尾のフェイス項目欄へそれぞれ忘れずに転記すること。

[A. 方言使用の状況] ※震災・避難による方言使用量の変化とその評価を聞く。

- 震災前とくらべて、お子さんやお孫さん/ご両親やおじいさん、おばあさん と方言を使ってお話しされる機会はとなりましたか？【増えた/減った/変わらない】
 - 顔見知りのご親戚やご近隣の方とはどうですか？【増えた/減った/変わらない】
 - そうした状況についてどのように感じますか？【さびしい/ストレスだ/方言で話したい】
 - 震災前とくらべて、顔見知りではない方とお話しされる機会はとなりましたか？【増えた/減った/変わらない】
- ◇その場合、方言と共通語のどちらで話すことが多いですか？【方言/共通語/両方】

[B. 方言の問題・効用] ※支援者等との間の方言摩擦, 方言使用の効用について聞く。

●震災後, 言葉や方言のことでなにか困ったり, 嫌な思いをしたりといったことはありませんでしたか?

【方言が通じなかった/方言を馬鹿にされた】

●支援者向けに地域の方言を解説したパンフレットも作られています(画像例)。こうした取組みは必要でしょうか?

【必要だ/不要だ/どちらとも】

●震災後, 各地の方言を使ったかけ声が聞かれました(画像例)。こうした方言によるかけ声は皆さんの力になりましたか?

【親しみがもてる/励まされた/特に感じない/馬鹿にされているようだ】

◇「がんばろう東北」のように共通語で表現されたものに比べてどうですか?

【親しみがもてる/より励まされる気がする/特に感じない/馬鹿にされているようだ】

◇「がんばってや東北」とか「ちばりよー福島」など他地域の方言を使ったかけ声(画像例)についてはいかがですか?

【親しみがもてる/より励まされる気がする/特に感じない/馬鹿にされているようだ/意図が不明/見たことがない】

[C. 方言への愛着・評価] ※方言保存, 継承に対する評価を聞く(以下***市・町・村はインフォーマントの本来の居住地名を補う)。

- 被災・避難地域の地域文化やお祭りを復興させたり, 文化財を保護したりという取組みも盛んです(画像例)。こうした取組みについてはどう思いますか?【必要だ/心の支えになる/不要だ/優先順位が違う】
 - 私たちは, ふるさととのつながりを考える上で「方言」は大変重要なものだと考えています。この点についてはどう思いますか?【必要だ/心の支えになる/不要だ/優先順位が違う】
 - 今回の災害で***市・町・村の方言が失われることのないよう, 国の機関である文化庁が保存, 継承への取組みを支援したいと考えています。こうした取組みについてはどう思いますか?【必要だ/心の支えになる/不要だ/優先順位が違う】
 - ***市・町・村の方言は好きですか? 愛着を感じますか?【好き/嫌い/どちらとも/愛着ある/愛着ない】
 - ご自分の子どもさんやお孫さんに, ***市・町・村の方言を受け継いでいってほしいと思いますか?【思う/思わない/どちらとも】
- ◇「思わない」のはなぜですか?【方言が嫌い/都会に出たら困る/福島出身と知られないように】

[D. その他・自由回答]

●***市・町・村の方言の興味深いことば, 方言にまつわるエピソードなどがあったら教えてください。

【フェイス項目】

F01. インフォーマントのお名前 : []

F02-2. 本来の居住地住所（分かる範囲まで記入）

〒 -
福島県 []

F03-2. インフォーマントのご出身地住所（分かる範囲まで記入。F02-2 と同じ場合は省略。）

〒 -
[]

F04. 年 齢 : [] 歳

F05. 調査場所 :

仮設住宅[住宅名 :] / その他 []

※長い間ご協力いただきましてありがとうございました。

調査終了時刻 [:] (24 時間制で記録)

調査票番号[]

【東日本大震災をめぐる方言問題の意識調査】

面 接 調 査 票 (自 治 体 職 員)

■調査年月日	2012年 月 日 ()	
■調査実施地点	都道府県名	01.青森 02.岩手 03.宮城 04.福島 05.茨城 99.その他[]
	市町村名	[]市・町・村
■インフォーマント	年齢	80代 70代 60代 50代 40代 30代 20代 10代
	性別	男性 女性
	勤務している 役場の所在地	01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町 07.富岡町 08.檜葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯舘村 13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 99.その他 []
■調査員	面接担当	
	録音・補助	

《 調査の注意点 》

1. 本調査票を用い、自治体職員（文化財等の担当部署職員が望ましい）へインタビューを行う。
2. インタビューは「半構造的インタビュー」とする。各ページ冒頭の観点 A～C について、●◇（◇は枝質問）に示した手がかりを適宜活用しながら、自治体の対応、意見等を自由に語ってもらう。調査員はそこから当該自治体の方言復興ニーズ等を汲み取る。
3. 構造的・指示的なインタビューではないので、必ずしも●◇の内容すべてを確認する必要はない。インフォーマントの自由な談話を妨げないようにする。
4. 言うまでもないが、インフォーマントの被災状況に十分に留意して適切に質問等を選択すること。

調査開始時刻：2012 年 月 日（ ） [：]（24 時間制で記録）

[A. 方言・地域文化復興への取り組み] ※自治体の方言復興等への取り組み状況, 計画等を聞く(以下***市・町・村はインフォーマントの本来の居住地名を補う)。

●被災・避難地域の地域文化やお祭りを復興させたり, 文化財を保護したりという取り組みも盛んです(画像例)。貴自治体では, こうした取り組みの計画等がありますか? 【すでに取り組んでいる/必要性はあるが具体化していない/検討されていない/必要性を感じない/他に優先すべき問題がある】

◇担当部署, 組織, 人員確保, 外部団体(大学, 学会, NPO など)との協力関係などはどのようになっていますか。

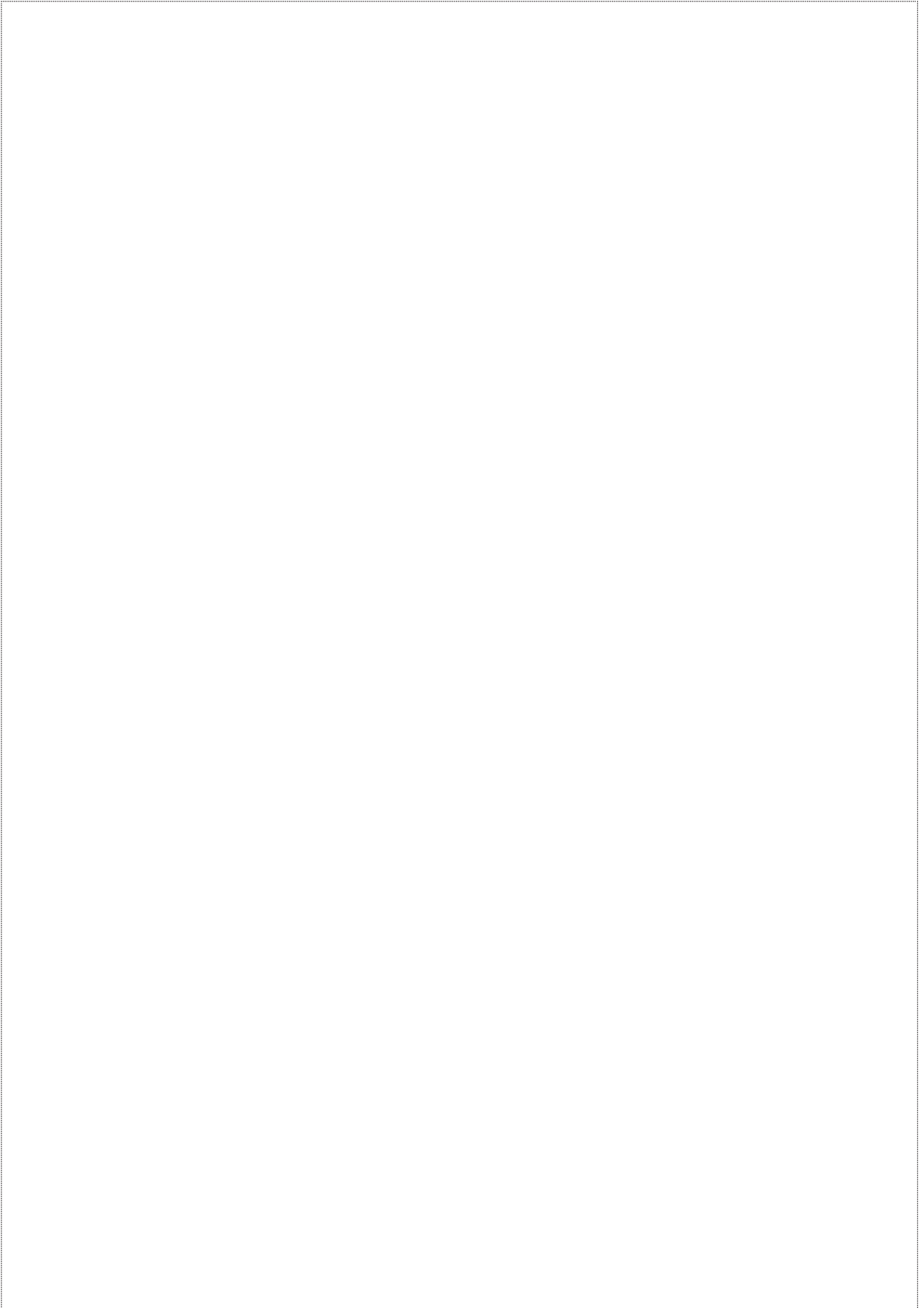
●新聞報道によると, 県外避難者からは, 慣れない土地でのストレスの多い生活の中「ふるさととのつながり」を求める声も多く聞かれるようです(画像例)。こうした声についてどのような取り組みをされていますか? 【すでに取り組んでいる/必要性はあるが具体化していない/検討されていない/必要性を感じない/他に優先すべき問題がある】

◇「方言による被災者の心理的な支援」の計画はありますか。我々が協力する余地はありますか。

●私たちは, ふるさととのつながりを考える上で「方言」は大変重要なものだと考えています。この点についてはどう思いますか? 【必要だ/心の支えになる/年配者には重要だ/不要だ/優先順位が違う】

●今回の災害で***市・町・村の方言が失われることのないよう, 文化庁は保存, 継承への取り組みを支援したいと考えています。こうした取り組みについてはどのようにお感じになりますか? 【必要なことだ/心の支えになる/特に必要とは思わない/優先順位が違う】

●***市・町・村の方言はお好きですか? 愛着を感じますか? 【好き/嫌い/どちらとも/愛着ある/愛着ない】



[B. 方言の問題・効用] ※支援者等との間の方言摩擦, 方言使用の効用について聞く。

●震災後, 支援者と被災された方々の間で, 方言が通じなくて困ったというような事例も報告されています。***市・町・村ではこうした事例をお聞きになったことはありませんでしたか？

●支援者向けに地域の方言を解説したパンフレットも作られています(画像例)。こうした取組みは必要でしょうか？

【必要だ/不要だ/どちらとも】

●震災後, 各地の方言を使ったかけ声が聞かれました(画像例)。こうした方言によるかけ声は地域の方々の力になりましたか？

【親しみがもてる/励まされた/特に感じない/馬鹿にされているようだ】

◇「がんばろう東北」のように共通語で表現されたものに比べてどうですか？

【親しみがもてる/より励まされる気がする/特に感じない/馬鹿にされているようだ】

◇「がんばってや東北」とか「ちばりよー福島」など他地域の方言を使ったかけ声(画像例)についてはいかがですか？

【親しみがもてる/より励まされる気がする/特に感じない/馬鹿にされているようだ/意図が不明/見たことがない】

[C. その他・自由回答]

●***市・町・村の方言に関する取組み, 方言にまつわるエピソードなどがあつたら教えてください。

【フェイス項目】

F01. インフォーマントのお名前 : []

F02. 勤務している役場の所在地 :

01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町
07.富岡町 08.檜葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯舘村
13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 99.その他[]

市・町・村]

F02-2. 勤務部署の名称 : []

F03. インフォーマントのご出身地 :

01.勤務先役場の所在地 02.県内の他地域[] 市・町・村]
03.県外[] 都・道・府・県 市・町・村]

F04. インフォーマントの年齢 : [] 歳

F05. 調査場所 :

当該役場内[現在の所在地 :] / その他[]

※長い間ご協力いただきましてありがとうございました。

調査終了時刻 [:] (24 時間制で記録)

方言に関するお考えを教えてください

お手数ですが、以下について率直なお考えをお聞かせください。ほとんどが選択肢を○で囲むだけの簡単なもので、所要時間は 5 分程度かと思います。個人名が特定されたり、他の目的に使用されたりということは一切ありません。

記入が終わりましたら、本用紙のみを同封の返信用封筒にて、2 月 10 日頃までにご返信ください。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

A01. 避難生活の中で、言葉や方言のことでなにか困ったり、嫌な思いをしたりといったことはありませんでしたか。

01.あった 02.なかった



A01-2. (A01 で「01.あった」という方にうかがいます) それはどのようなことでしたか。ご記憶のことがあれば教えてください。

A02. 避難生活の中で、ご家族と福島の方言をお話する機会は、震災前とくらべてどうなりましたか。

01.減った 02.変わらない 03.増えた



A02-2. (A02-1 または A02-2 で「01.減った」という方にうかがいます) そのような状況についてどのようにお感じでしょうか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

01.さびしい思いがする 02.ストレスを感じている 03.残念な気がする

04.よいことだと思う 05.特に感じない

99.その他 ()

B01. 震災後、「負けねど！飯舘」「がんばっぺ いわき」などのように福島県内各地の方言を使ったかけ声が聞かれました。こうした方言によるかけ声についてはどのようにお感じになりますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

01.親しみがもてる 02.励まされる 03.馬鹿にされた気がした 04.特に感じない

99.その他 ()

(裏へ続きます)

C01. 福島の方言に愛着を感じますか。

01.愛着を感じる 02.愛着を感じない 03.どちらともいえない

99.その他 ()

C02. 私たちは、ふるさととのつながりを考える上で「方言」は大変重要なものだと考えています。今後、被災地の方言が失われることのないよう、国の機関である文化庁は保存、継承への取組みを支援したいと考えています。こうした取組みについてはどう思いますか。

01.必要だと思う 02.必要だとは思わない 03.分からない

99.その他 ()

C03. ご自分の子どもさんやお孫さんに、福島の方言を受け継いでいってほしいと思いますか。

01.受け継いでほしい 02.受け継いでほしいとは思わない 03.どちらともいえない

99.その他 ()

最後にあなたご自身のことについて、分析の参考のために少しおうかがいします。

F01. 年齢と性別を教えてください。 []歳 男性・女性

F02. 出身地（生まれてから中学卒業までの間にもっとも長く住んだところ）はどちらですか。

[]都・道・府・県 []市・町・村

F03. 震災前はどちらにお住まいでしたか。

[]都・道・府・県 []市・町・村

※ご協力いただきありがとうございました。教えていただいたことはすべて無駄にすることなく、今後の支援活動に役立てて行きたいと思います。

なお今回おうかがいしたことに加え、今後は私どもが大分県へ出向いて差し支えのない範囲で方言などについて直接お話をうかがいできればと考えております。**そちらへもご協力をいただけます場合は、下記へお名前とご連絡先をご記入ください。**追ってご連絡をさせていただきます。お伺いするのは2月中旬を予定しております。

お 名 前 []

ご 住 所 [大分県]

お電話番号 [— —]

メールアドレス(あれば) [@]

「被災地での方言に関わるコミュニケーション問題」調査へのご協力をお願い

東日本大震災の被災地支援に関わっている皆さんへ敬意を表します。

さて、今回の震災では東北地方の広い地域が被害にあったため、支援に入ったお医者さんやボランティアの方々などが、被災された高年層のことば(方言)が理解できず、治療や活動に支障が生じたという問題が伝えられています。私たち方言研究者は、こうした問題を可能な限り少なくするよう、被災地の方言理解のためのパンフレットなどを作成してきました。

長期化が懸念される今後の被災地支援のため、また将来同様の災害が起きた場合への備えのため、私たちが見落としている問題がないか、実際に支援にあたられた皆さんに被災地での方言にまつわるコミュニケーションについて、実体験、意見等を教えていただきたく、このアンケートをお願いします。

回答はほとんどが選択肢を○で囲むだけのもので、所要時間は 10 分程度かと思います。個人名が特定されたり、他の目的に使用されたりということは一切ありませんので率直にお答えください。なにとぞ協力をお願い申し上げます。

福島大学人文学類・教授・半沢 康

〒960-1296 福島市金谷川 1

024-548-8124(TEL/FAX)

yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

A. はじめに、支援活動中の被災・避難された方々とのコミュニケーションの状況についてうかがいます。

A01. これまでの支援活動中、被災・避難された方と会話をする機会がありましたか。

01.あった 02.なかった



A01-2. (A01 で「01.あった」と答えた方にうかがいます) 会話を交わしたのはどちらの方でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町
07.富岡町 08.檜葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯舘村
13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 99.その他 (市・町・村)

A01-3. (A01 で「01.あった」と答えた方にうかがいます) 会話を交わしたのは何歳ぐらいの方でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

01.高年層 (おおよそ 60 歳代以上) 02.中年層 (おおよそ 40～50 歳代)
03.若年層 (おおよそ 20～30 歳代) 04.高校生 05.中学生 06.小学生
07.小学生未満の子ども

A02. 会話の中で、相手の方の方言が分からなくて困ったり、戸惑ったりしたことはありましたか。

01.あった 02.なかった



A02-2. (A02 で「01.あった」と答えた方にうかがいます) それはなんということばでしたか。またお話ししたのはどのような状況でしたか。覚えている範囲で教えてください。

A02-3. (A02.で「01.あった」と答えた方にうかがいます) 相手の方の方言が分からなかった時、どのように対処しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

01.相手の方に聞き返した 02.他の人に教えてもらった(通訳してもらった)

03.分からないまま会話を続けた 04.会話を止めた

99.その他 ()

B. 次に福島県の方言の印象についてうかがいます。以下、B01～B04 の質問は、**福島県以外**の出身の方のみお答えください。**福島県**の出身の方は、**次ページのC**の質問へお進みください。

B01. (福島県以外出身の方にうかがいます) 福島県の方言には目立った特徴があると感じますか。

01.感じる 02.感じない 03.分からない 04.その他 ()

B02. (福島県以外出身の方にうかがいます) 方言以外の話し方全体について、自分の地元の人と福島の人との話し方で、なにか違いを感じることはありますか。

01.感じる 02.感じない 03.分からない 04.その他 ()

B03. (福島県以外出身の方にうかがいます) 福島県の方言は難しいことばだと思いますか。

01.難しい 02.難しくない 03.どちらともいえない

B04. (福島県以外出身の方にうかがいます) 被災地の方には、できるだけ共通語で話しかけてもらいたいですか。

01.共通語で話しかけてほしい 02.方言で話しかけてほしい 03.どちらでもよい

99.その他 ()

C. 次に被災地の方言に関するパンフレットについてうかがいます。

C01. 東日本大震災の被災地へ支援に来たボランティアや医療関係者等のために、被災地の方言を簡単に説明した下図のようなパンフレットが作られています。被災地の支援活動を行う上で、こうしたパンフレットは必要なものだと思いますか。

01.必要だ 02.必要ではない 03.どちらともいえない



C02. あなた自身の支援活動にとっては、こうした方言のパンフレットは必要だったでしょうか。

01.必要だった 02.必要ではなかった 03.どちらともいえない

C03. これからも東日本大震災で被災された方々の支援活動が続けていく予定ですか。

01.続ける予定だ 02.続ける予定はない 03.分からない

C03-2. (C03 で「01.続ける予定だ」と答えた方にうかがいます) 今後支援活動が続けるにあたって、ある程度は被災地域の方言を学んだほうがよいと思いますか。

01.学んだほうがよい 02.学ぶ必要はない 03.分からない

D. 次に方言に関するあなた自身のご意見を教えてください。

D01. あなたは福島県の方言が好きですか。

01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

D02. (福島県以外の出身の方にうかがいます) あなたは自分の地元の方言が好きですか。

01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

D03. 津波被害や原発避難のために地域コミュニティが消滅し、その地域の方言も同時に消えてしまうのではないかと懸念があります。こうした被災地の方言を保護し、継承していくべきだという意見をどう思いますか。

01.保護, 継承すべきだ 02.保護, 継承する必要はない 03.どちらともいえない

最後にあなたご自身のことについて、分析の参考のために少しおうかがいします。

F01. 現在通っている大学・短期大学・専門学校名と学部・学類・学科などの名称を教えてください。

[]大学・短大・専門学校 []学部・学類・学科

F02. 学年と性別を教えてください。

[]年生 男性・女性

F03. 出身地（生まれてから高校卒業までの間にもっとも長く住んだところ）はどちらですか。市町村名まで教えてください。

[]都・道・府・県 []市・町・村

F04. 支援の際は主にどのような活動を行ないましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

01.子どもの学習支援 02.子どもの遊び支援 03.傾聴支援 04.保育・託児支援 05.健康づくり
06.イベント・レクリエーション企画 07.買い物支援 08.調理支援 09.コミュニティづくり
99.その他（ ）

F05. 支援活動に携わったのはおおよそどのくらいの期間でしょうか。

おおよそ []ヶ月程度

※ご協力いただきありがとうございました。教えていただいたことはすべて無駄にすることなく、今後の被災地支援に役立てて行きたいと思います。なお、上記の質問以外に、方言に関する問題で支援活動中に経験したり感じたりしたことがあれば以下に自由に記入してください。

2012 年度文化庁委託事業報告書

東日本大震災において危機的状況が危惧される
方言の実態に関する調査研究事業(福島県)

〒960-1296 福島市金谷川 1
福島大学 人間発達文化学類 国語学研究室
Tel/Fax 024-548-8124
e-mail yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

印刷:2013 年 3 月 15 日

発行:2013 年 3 月 15 日
